最近、職場や彼女との関係、膠着していませんか？

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成13年2月8日発行（毎月第2・第4木曜日発行）第3巻・3号・通算39号

SRS DX

No.39
2001
2・8
毎月第2・4木曜発売
定価680YEN

21世紀のテーマ
ノーモアデッドロック！
《行き詰まり》
＝
膠着

やる側の地獄、見る側の贅沢

膠着
NO MORE DEADLOCK!
とは何か？

発売所・(株)扶桑社 〒105 8070 東京都港区

特集☆ NO MORE DEADLOCK! 格闘技界よ、膠着を打破せよ!

巻頭座談会

ガラにもなく膠着の技術論しちゃいましたっ!

シュポーッ！　こんな感情的な技術論で本当に膠着は解明できるのか？

出席者◎ターザン山本
サダハルンバ谷川
"Show"大谷泰顕
司会◎柳沢忠之（本誌発行人）

島田、太ってるぞー
何やってんだレフェリー
俺のせいじゃないんだけど・・・
レフェリーブレイクさせろー
ブターッ
面白くねえぞー

（編集部注）島田レフェリーの名誉のために書いておきますが、決して寝ているわけではありません（眠そうだけど……）

谷川　山本さん、今日は新世紀最初の巻頭座談会ということで、テーマはズバリ、「膠着」です！

山本　……………ネガティブだねぇ。

谷川　昨日、家に帰ったらテレビで『UFC―J』やってたんですよ。注意深く実況を聞いていたら、膠着って「キープセーム　ポジション」とかシチュエーションって言うんですよね、英語で。あんまりいい言葉じゃなかったんだよなぁ。で、辞書で調べたら膠着って「デッドロック」って出ているんですよ。

――それは、いい言葉だなぁ（笑）。

山本　それはいい！　デッドロックは「行き詰まり」という意味なんだよなぁ。

谷川　なんかその響きがカッコ良かったんで、なんとなくその「デッドロック」について熱く語り合いたいと思います。

山本　お前は存在がデフレ野郎だから、永遠のデッドロック知らずですよぉ。

谷川　あ、ありがとうございます。誉められてるの？

――ぷぷぷぷぷっ！

谷川　で、昨年末から、格闘技界のテーマとして「膠着」が再び浮上してきたわけですけど、山本さんは膠着について何か考えられてますか？

山本　考えてないよぉ。シュポーですよぉ。

谷川　んあ〜（笑）。膠着の話は何かないんですか？

山本　ないねぇ。

――Show、じゃあお前が膠着を語れ。

大谷　俺は前フリ係ですよ。そんな難しい話はできませんっ！

――じゃあ「ワンダフル！」で共演してるキャバクラ嬢たちの話でも披露しろよ。

大谷　キャバクラ嬢じゃないって！「その他大勢」と言われている「ワンギャル」ですよぉ。失礼だなあ。

――なんでもいいけど、読者の皆様が喜ぶワンギャルの裏話でもないのか？　○○が楽屋で○○してたとか。

大谷　ちょ、ちょっとちょっと、勘弁してくれよぉ。マズイって！　番組の人たちにも怒られちゃうし、今、僕はプライベートでも微妙な時期なんですから。

山本　もう彼女に逃げられたんか？

大谷　違う違う違う！　うまくいってます。子供も可愛いし。

――なんかお前、ワンギャルを盗撮したらしいじゃないか？

大谷　ヒャッ!?　そういう根も葉もないこと言って！　僕は熟女フェチかもしれないけど盗撮フェチじゃありませんっ！

俺が選手だったら絶対に膠着はないよ
完全に間合いを取って密着しないからですよぉ！

――ガッハハハハ！　どうでもいいけど早く膠着を熱く語れよ。

大谷　い、いやいや、結局、選手に膠着させないような発想をさせるしかないんだから。こっちはお手上げですよ、リング上のことに関しては。そうやって投げちゃったほうがいいですよ、楽で。へへへへへ。

谷川　また、そういうネガティブな発言を……。

――さあ山本さん、そろそろ出番です。

山本　俺？　いや、俺が選手だった場合、俺が選手だったら絶対に膠着はないんだけどねぇ。

――はあ〜？　選手だったら？（笑）。

谷川　それはなぜですか？

山本　え？　あの〜、密着することはないもん、俺は。

――俺は（笑）。何者？

谷川　ど、どういうことですか？

山本　間合いを取るから。完全に。間合いをとるから密着することはあり得ないんですよ。うん。

――相変わらず今日もイカした妄想をしますね（笑）。

谷川　ど、どんなモチベーションがそうさせるんですか？

山本　うん。それは……、桜庭の勝利の方程式を解説することになるんだけどね。

――ぷぷぷぷぷっ！　桜庭と同じことをしようとしてるの？

山本　そうそう。ちょっと説明すると……。剣の闘いを考えたら分かるわけ。こうやって2人が闘うでしょ。そうした場合に、こういう間合いがあるわけですよ。ひとり一人の間合いがね。で、一番重要なのは、この間合いと間合いの境界線があるんだけど、その境界線で、よ〜するに勝負するわけですよ。

谷川　はいはいはい。

山本　なぜかと言うと、相手の間合いの圏内に入っていったとするでしょ。相手の間合いに入ったということは、もの凄い不利なわけですよ。だから、勝利の一番の鉄則は、「間合いの外で闘う」ということなんだよねぇ。相手の間合いの外で勝負を決めるという。だから、一番重要なのは敵の間合いの外にいて闘うというのが、最大の、なんて言うかさぁ、重要なところなんだねぇ。

谷川　はいはいはい。

山本　桜庭は何をやっているかというと、常に、絶対的に、間合いの外にしかいないんですよぉ。で、ヒクソンなんかは、自分の周りにクモの巣をはっているわけ。クモの巣をはって、真ん中にいて、獲物がくるのをじっと待っているわけ。で、蝶が飛び込んできたら、捕らえるわけですよぉ。で、桜庭がどういう闘い方をするかというと、この制空圏というか、境界線の外にいて、出たり入ったりするだけなんですよ。で、なんかあったらちょっと入って、パッと間合いの外に出るわけですよ。だから、絶対に膠着にならないんだよぉ。これはよ〜するに、間合いの境界線で闘う桜庭の、勝負の鉄則なんだよねぇ。で、相手の間合いの中に入っていくことがあるでしょ。桜庭が相手の間合いの中に入った時にどうなるかというと、桜庭が入っていって、相手の間合いと自分の間合いが重なるわけですよ。重なった時に、どちらが速く敵の間合いに覆い被さって相手の間合いを消すか。消した時にグチャグチャっと絡むんだけど、そこで桜庭は勝てるわけですよぉ。そういうことを原理的に、本能的に桜庭はやっているわけ。

特集 NO MORE DEADLOCK! 格闘技界よ、膠着を打破せよ!

巻頭座談会

大谷 ふ～ん。

――なんかガラにもなく技術論をぶってるぞ（笑）。新キャラか?

山本 だからぁ、桜庭は間合いの外で闘ってるわけよぉ。だからいつでもそう、相手が寝ていても彼は入っていかないでしょ。チョロチョロっと、外から蹴って、ポンとすぐに出るわけ、外に。だから絶対にこれは安全だし、膠着はあり得ないわけ。でも、中に入ってグルグルっとなって絡んだ時には、桜庭のほうが上になって相手の間合いを消しているから、極めることができるわけですよぉ。でも、下になって闘うヤツは、密着した場合はもう自分の間合いは消されているわけだよね。消されて、上になっているヤツの間合いが覆い被さっているから勝てないわけよぉ。だから、タックルしていく闘いは、よ～するにタックルしていくと間合いを消すので、俺たちは間合いと間合いの緊張感を見ているわけですよ。で、桜庭は間合いの境界線を出たり入ったりして、いつも敵の間合いの外にいて闘うから膠着もしないし、それが勝利の鉄則なんですよ。これが彼の今までにない、バーリ・トゥードの中で最大の勝利の鉄則ですよぉ。柳沢氏、どう?

――俺はね、ちょっと違うんですよ、考え方が。間合いの外っていうのは、肉体的に言えば闘ってないわけでしょ。で、やっぱり桜庭の最終的な勝利の方程式っていうのは、間合いの圏内にあると僕は思っているんですよ。間合いの外っていうのは精神の闘いでしょ。

山本 そうそう、メチャメチャ緊張感があるわけよぉ。

――もちろんそれが俺らには面白いんだけど、本当に面白いのは、お互いの間合いが重なった時の勝負だと思うんですけどね。桜庭の闘いというのは確かに間合いの外が面白いんだけど、桜庭の強さっていうのは間合いが重なった時の強さじゃないかなあと思って。

山本 ………でも、なかなか間合いは重ならないんだよね、桜庭の場合は。ほんの少ししか重ならないから、桜庭のほうが有利に蹴ったりできるわけ。相手が受け身になって桜庭が攻撃的になっている。だから、もの凄く巧妙なんだよね、ヤツの闘い方は。谷川はどう思うん?

谷川 僕は桜庭の戦法が他の人とどういう差があるかと言えば、やっぱり、モチベーションの差だと思うんですよね。

山本 どういうモチベーション?

谷川 僕はですねぇ、彼のモチベーションは格闘芸術だと思うんですけど。

山本 芸術?

――つまり間合いが重ならない時、間合いの外の闘いが格闘芸術だってことじゃないの?

谷川 そうそうそう。そういうことそういうこと。

山本 あぁぁ……。

――でもモチベーションという意味では、桜庭の凄さは、間合いが重なった時のワンチャンスを活かすモチベーションじゃない?

山本 そうそう。そのワンチャンスに桜庭というのは、もの凄くさぁ、攻撃的になるんだよねぇ。

谷川 だから、桜庭とよく似ているのは、アンディ・フグだと思うんですよ。

山本 あぁぁ……。

谷川 アンディも格闘芸術タイプなんですよ。間合いの外では、カカト落としやったりとかバックキックやったりとか、あれは遊んでいるみたいなもんなんですけど、ここだという時は、ホントにあいつは決めましたからね。

山本 あぁぁ……。ワンチャンスがくるかどうかだけ、頭にインプットしていて、後は遊んでいるわけかぁ。

――最終的にそのワンチャンスがものにできなくても、間合いの外で盛り上げようという、そういう余裕もあるからこそ、そのワンチャンスが生きるんですよね。

谷川 僕が思ったのは、桜庭っていうのは、格闘芸術って言い方したんだけど、間合いの外で遊ぶっていうモチベーションがまずあるんですよ。だから、相手とくっつかないんですよ。

山本 間合いの外で闘っているのが90何パーセントでありながら、1パーセントの勝機の時に突っ込んでいくわけよね。その時に決められる男なんですよぉ、桜庭は。

――そうそうそう。

山本 彼の場合は、パッといった時には、勝利のパターンが読めているわけだよね、相手に対して。計算できるわけですよ。だから勝てるんですよぉ。それが普通の選手にはできない。そこがよ～するに他の人間との戦術的ポイントの差だよなぁ。

――それが桜庭の技術でしょう。

谷川 アンディは桜庭ほどできなかったと思うんですよ。立ち技だからもっと難しいから。でも、アンディはその発想があったから試合が見れちゃうんですよ。桜庭はアンディ・フグがもの凄く好きらしいんですけど、その理由がよく分かりますよね。

山本 それは面白い発想だなぁ。

谷川 桜庭の闘い方って、発想が同じですもんね、アンディ・フグと。

――間合いの外で魅せるっていうね。間っていうのは要するに精神の闘いで、昔の達人たちがずっと1時間近くも睨み合って、肌も合わせずに「勝負あり。オマエの勝ちだ」みたいな（笑）。でも、それは今の時代に我々が見たら膠着でしょう、結局。

桜庭は90％以上を間合いの外で闘ってるでしょ でも1％の勝機に突っ込んで決められるわけよぉ

山本　でも、その睨み合っている時は異常な緊張感を磁場として発しているからねぇ。

――そうそう。グレイシーが密着していても見れるのと一緒ですよ。

谷川　だから、膠着する人と膠着しない人と膠着を巧く見せられる人の差があると思うんですよね。

――体が密着していても、そこに離れている時のような精神の闘いが見えれば、それは膠着じゃないからね。

谷川　だから、フィリォとホイスは、膠着するのを見せることができる人なんですよ。

――そうそう。だから、間の緊張感を見せるか、間の外で見せるか、そのどっちかしかないよな。どっちもできないのが"膠着ファイター"なんだ。

山本　そういうことだよぉ。

谷川　極真の松井館長も桜庭に似ているんですよね。松井館長に前に聞いたことがあるんですけど、松井館長の空手を始めた時の発想というのは、回し蹴りを蹴ったりとかカカト落とし蹴ったりとか、子供の頃からそういう発想があるんですって。格闘芸術って発想があるからああなるんですよ。で、松井館長の同期で、ライバルの増田章とか黒澤浩樹とかいたんですけど、彼らの空手のイメージというのは、「破壊する」というイメージなんですよ。で、彼らも膠着しないんですよ。それはなぜ膠着しないかというと、ボブチャンチン型なんですよ。

山本　あぁぁ……。

谷川　ボブチャンチンとかシウバみたいに「破壊する」というタイプなんですよね。だから彼らの、一般的に膠着しないという理由は、破壊型で、格闘芸術とはちょっと違うんですよね。

――でもね、『プライド』史上で立ち技の膠着を2試合連続でやったのはボブチャンチンなんだよね。小路戦とカーロス・バヘット戦。お互いに立ち技で膠着したわけですよ。その原因はボブチャンチンのモチベーションなんですよね。1週間後にK－1に出るから無理をしないで安全策を取ろうとかね。だからそのワンチャンスをものにしようとしないから、膠着したんですよね。

ホーストはK-1の膠着男ですよぉ
あの闘い方は巧妙で一番セコイんだよなぁ

山本　あぁぁ……。

谷川　破壊型っていうのは、たぶんそういうタイプだと思うんですよ。シウバでもそうだしアイブルなんかも典型的にそうだと思うんですけど、モチベーションによって破壊型っていうのは、膠着する可能性があると思うんですよね。

山本　そうやって考えると、膠着にもいろんなパターンがあるなぁ。

谷川　僕の言いたいモチベーションというのはね、競技っていうのはそもそも、まず安全なポジションを取ることが第一前提だと考えちゃうんですよ、普通の人は。で、安全なところに行ったところで、いかに効率良く何かをすれば、試合では勝利が得られると考える。そういう意味で典型的な膠着男はトーナメントでのホーストだと思うんだよね。

――そうだね、うん。

谷川　KOを狙わないホーストは、もの凄く安全な位置にいるんですよ。安全な位置にいって、無理をしないんですよ。ムエタイの選手が典型的なんですけど、そこからいかにポイントを取るか、それを考えるからキックボクシングとか面白くないんですよ。

山本　ホーストは巧妙だよぉ。一番セコいですよぉ、あれは。

大谷　え～？　でも、ミスターパーフェクトですよ。

――プロとしては全然パーフェクトじゃないんだよ。

谷川　アマチュア的な競技者としてのパーフェクトなんだよね。

――ホーストがミスターパーフェクトだったら、それこそ、ケアーとかが『プライド』のミスターパーフェクトってことになるよ。

谷川　ホント、ケアーとホーストってもの凄く似ているんだよ。安全なところにいて、凄く安心しているんだよ。

山本　でも、あのトーナメント方式には一番いい、ベストの方法なんだなぁ。

谷川　そう、ベストな方法なんですよ。でもあれがベストって言ったら……。

山本　ノーですよぉ、俺たちにとっては。

谷川　僕もノーだし、違うと思うんですよ。山本さんが書いた原稿でなるほどなって思ったのは、フィリォの「S」と「M」の問題だと思うんですよ。今の格闘家にはSがないんですよ、みんなに。格闘技ってほとんどMでいいと思うんですけど、みんな一瞬のSの磨きをかけてないのが、一番の膠着の原因だと思うんですけどね。

――そうそう。だからワンチャンスの決め手に磨きをかけてないから、膠着が起きるんだよ。

谷川　うん。それとシリル・アビディ型の膠着のなさっていうのは、モチベーションじゃなくて、ホントに本能なんですよ。ボブチャンチンみたいに人工的に破壊しようという意識のもとで訓練してきたんじゃなくて、アビディとか『プライド』のアイブルとかは、どっちかと言うとそういう本能タイプだと思うんです。型になっていない、まったく。でも、そういう選手は一番ホーストみたいになる可能性があると思うんですよ。モチベーション次第で。

山本　だから、あまり学習すると、モチベーションって薄くなるんだよなぁ。学習しながらモチベーションを高めるのは

巻頭座談会

天才だけどさぁ、それはできないでしょ。

谷川 できないです。そこが問題だと思うんですよね。

山本 勝つために学習するでしょ、訓練して。そしたらどんどん保守的になるしさぁ、膠着するんだよ、頭も。でも、そこをギアチェンジして新しい自己を創造できるようなSの作用というかさぁ……。

谷川 Sの発想がなかったら、例えばアビディみたいなタイプっていうのは、相手がホーストみたいになっちゃうと、何もできない壁にぶつかって、壁にぶつかるとホーストみたいになろうと思っちゃうんですよ。アイブルもそういうタイプだと思うんですよ。シウバはまだボブチャンチン型の「俺はこいつを徹底的に痛めつけるんだ」というSの発想があるからまだ、救われるんですけど、アイブルとかアビディとかは凄く危険なタイプだと思うんですよね。Sの発想を持てというのは凄く大切だと思うんですよね。

——だから、いかにルールの問題じゃないかってことですよ。

山本 ルールなんか屁なんだよぉ。

谷川 Sの精神というか、一撃というのは凄く大切ですよ。グレイシーもSがあるから……。

山本 決め手でしょ。

谷川 はい。決め手があるから見られるんですよね。

山本 ハチのひと刺しですよぉ。それがあるかないか。

谷川 ほとんどがホーストみたいになっちゃうんですよね。

山本 それは、ハチのひと刺しを自分の想像の中に描いていて、技術の読み合いみたいのがあって、必ずなければいけないわけですよ、想像の中に。それを描いている人間はできるんだよなぁ。それがなかったらさぁ、何もできないよ。

谷川 格闘家が目指す方向として、ボブチャンチンタイプっていうのは結構難しいと思うんですよ。性格的なことがあるから。だから、桜庭の方向に行く一つの道というのは、僕はノゲーラだと思いますよ。

——誰？

谷川 修斗のアレクサンドレ・フランサ・ノゲーラ。

山本 ああ、フロントチョークで必ず極める小さいヤツだな。

谷川 相手がどんなタイプだろうが、フロントチョークで必ず失神させちゃうという。修斗の選手で俺はアイツが一番好きなんだよな。

山本 あれは凄いよ、ホントに。

大谷 まさに"伝家の宝刀"。

谷川 相手がどんな選手で、何をしようが、必ずみんな落とされているんだよね。

大谷 あれはいいですねぇ。

谷川 ホントに、力道山の空手チョップくらい気持ちいいんだ。ホント（笑）。相手が誰だろうと、百発百中。

——いいねぇ。

山本 あいつは凄いよぉ。

谷川 そういう発想を選手が持てば、味も出てくるし、プロとして見えちゃうんですよね。

——だから、トータル的な浅く広い練習しちゃダメなんですよ。

谷川 そう思いますよ、僕も。

——何か一つ偏ったことを突き進むヤツがやっぱり魅力的なんでしょうね。

山本 それは相撲で言ったら、突っ張りだけとかね、押しだけとか、右上手を取ればとか、魅力的だよなぁ。

——だからバーリ・トゥーダーになればなるほど、トータル的なスキルアップを目指そうっていう方向になるでしょ。そこをどう打破していくかですよね。トータルでなんとかマイナスを埋めようという作業をしている選手はダメだよね。

谷川 それはねぇ、結局、勝てないよ。フィリオがいい例だと思うよ。キックボクサーになろうとして変なガードして、変なパンチだしてさぁ。

勝つために学習したら保守的になって頭が膠着する ハチのひと刺しがあるかどうかなんだよぉ

——そんなマイナス思考にならないで、フィリォなんかはもともと強烈なSを持ってるんだから、そのSの部分に磨きをかければいいんだよなぁ。それが磯部さんの真骨頂なんだから（笑）。

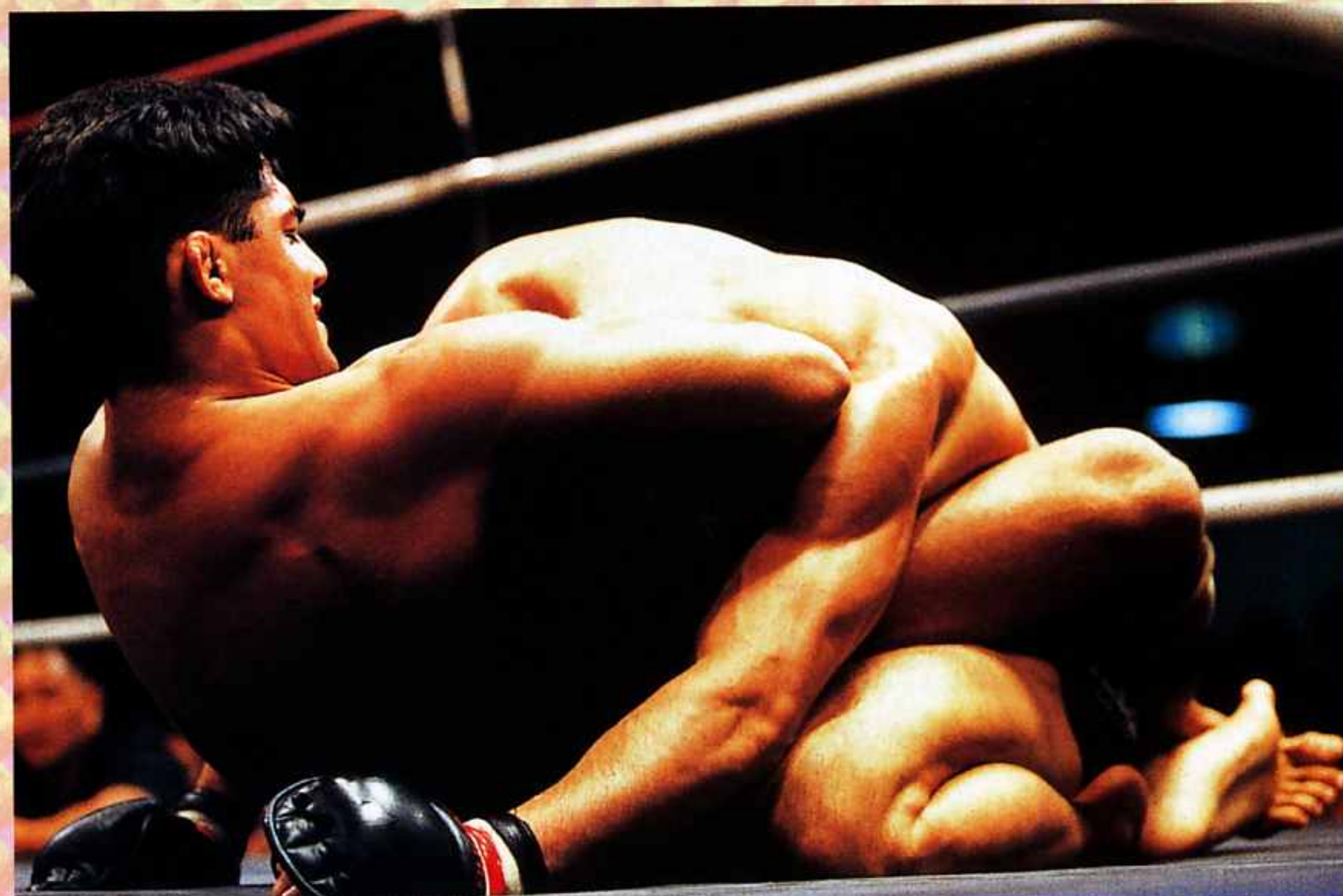
谷川 結局、気持ちの問題だと思いますよ、モチベーションっていうか。

——新しい競技に挑戦する上で、新しい技術を習得しなきゃいけないのは分かるけど、とりあえず全てを網羅しようっていう考え方はダメだよね。何かに突き抜けないと。

谷川 結局、桜庭も関節のスパーリングを突き抜けてやることで、ハチのひと刺しを磨いてるんだからね。打撃なんか練習してないもんね。

——そうそう。密着した時の練習とか、間合い圏外の時に何をすべきかってことをひたすら考えたりとか、周りからそれなりのハードルを作られたら、それなりのことをちゃんと自分の中でやろうとしてますよね。

山本 偉いっ！　それは、偉いよぉ。う～ん、それにしてもハードルが高いなぁ。格闘戦術は。芸術と言うより戦術だよぉ。

谷川 だって、アンディなんて、格闘芸術という発想がなかったらカカト落としなんて絶対に生まれないですよ。ああいう必殺技なんて。あんな難しくて余計な

▲修斗ライト級チャンピオンのアレクサンドレ・フランサ・ノゲーラ。"伝家の宝刀"フロントチョークは威力抜群で、この技を食らった選手は必ず落とされている

技はないですもん。それを必殺技にしようとすること自体これは凄いことですよ。

山本　膠着をどう解決したらいいかというのは、新しい時代のテーマみたいなもんだよなぁ。

谷川　そう思いますよ。

山本　それが選手に問われているというかさぁ、『プライド』が成功するとかしないとか、膠着を止めさせるとかなんとかいうんじゃなしに、そういう膠着を超えたファイターの出現が時代の要請として、俺たちは見たいというかさぁ、そういう高い要求まで来ているということだよねぇ。だから、単なる膠着がテーマじゃないよぉ、これは。

大谷　でも桜庭和志がいるからもういいじゃないですか。オーちゃんもいるし。

山本　そういえば小川はどう分類されるんだ？

――小川も膠着しませんねえ。

谷川　メチャメチャ身体能力が高いからでしょ。相手との差がありすぎるからじゃない？

――まあ小川は柔道っていう突き抜けたものを持ってるんだけど、まだそれを見せつけるほどの闘いをしたことがないからね。

山本　じゃあハチのひと刺しはまだ温存してあって、今は遊んでるだけかぁ。

谷川　まあ、そうでしょうね。

山本　身体能力が高ければ遊べるよねぇ。

谷川　遊べるんですよ。でも、それだけの話なんですよ。

山本　うん。その上にプラスアルファした創造性というのをクリエイティブできるかというと、それはまた壁だよぉ。この壁がまた大きいんだよぉ。

谷川　ええ。そういう意味で小川が突き抜けているのは、今のところやっぱり身体能力なんですよね。

――いや、でもね、俺は小川はね、凄くいい意味で、やっぱりアマチュアとして一流なんだと思うよ。小川が突き抜けてるのは身体能力というよりも、アマチュアイズムのような気がしてきたね、最近。

谷川　なるほどなぁ。

――だって佐竹戦を見てても、打撃をあそこまでできないって、普通。技術云々じゃないよ。巧いヘタは別として、本当に真面目に打撃に取り組んできたっていう感じがするじゃない。試合もしないでパフォーマンスばっかりが目立ってるけど、なんだかんだ言って本当にクソ真面目に打撃を練習してたんだろうなぁっていう気がするもんね。

谷川　うん。あれは絶対にアマチュアの凄味だよね。

――天才って言われてるから、センスだけであれくらいできるみたいに思われてるかもしれないけど、練習を見た人に言わせるともの凄い練習量らしいもんね。

谷川　本当に練習好きらしいよ。好きじゃないのかもしれないけど、メチャメチャ練習するらしいからね。

――その練習へのモチベーションって、生半可なプロじゃできないレベルだと思うんですよ。技術のレベルが高いというんじゃなくて、モチベーションとして、さすがアマチュアの超一流だなって気がするんですよね。

谷川　うん。確かに小川の練習量は突き抜けてるだろうね。それは純粋にアマチュアとしての素晴らしさだろうなぁ。

――だから、佐竹戦で打撃で打ち合ったことで「あれこそプロだ」みたいな言い方をされてるけど、あそこまで打撃で持ちこたえた姿に、俺は逆にアマチュアの凄味を感じたけどね。

スケートで高度なフリー演技をしてるのが桜庭
型にはまった凄い規定演技をしてるのが小川ですよぉ

山本　小川を見ていると、スケートなんかで、規定演技とフリー演技ってあるでしょ。その規定演技を見ているような気がするんだよなぁ。フリー演技っていうのはもの凄く自由にやるでしょ。桜庭は高度なフリー演技だけど、型にはまった凄い規定演技で高得点を出してるのが小川なんだよなぁ。

――そうですよね。でも小川の見せるべきことってホント、そっちですよ。

谷川　ホントにレベル高いよ、小川に関しては。でも、確かに規定演技ですよね。

――俺はねぇ、そこを評価すべきだと思うんだよね。プロレスラーとしてどうだとか、猪木イズムはどうだとか、そういうところで見ているとやっぱりもの足りなくって、小川の良さを見失うんじゃないかって気がする。

谷川　小川はリング外でプロレスラーらしさとかを見せようとしているじゃない。それがGKのようにカンに触ったり、逆に言うと、変なふうに見えるんですよ。そこを感心しているヤツもいるじゃないですか。でもあの身体能力の高さは日本人ではピカイチですよ。

——身体能力っていう言い方も良くないと思うんだよね。アマチュアでの実績を残しているから身体能力が高いみたいに定義づけちゃうんじゃなくて、あれはアマチュアの精神の中でのすさまじい努力だと。プロとして見ても、考えられないような努力をしてるんだけど、超一流のアマチュアだから、それを普通だと思ってやっている。そういうふうに考えればもっとスケールのデカイ小川の魅力になると思うんだけどなぁ。

谷川 あのヒール的なキャラクターはいいと思うんだけど、プロレスラーっていうことにこだわりすぎて、逆にスケールを小さくしちゃってる気はするよね。

——だから俺はオーちゃんがプロレスラーとかなんとかいうのを捨てて、柔道衣着て、講道館何段の選手として、柔道界を背負って『プライド』とかにガンガン出てきたとしたら、そんなにスゲエことはないと思うんだよね。ある意味で桜庭を超えちゃうでしょ。あれだけの柔道家がキックボクシング練習して、バーリ・トゥードに出てきちゃったらさぁ……。

谷川 それはムチャクチャ凄いスーパースターになるよ。

——とてつもないスケールのスターになる可能性を秘めてるよね。そこを封じ込めているのは、時代性の中での「プロレス」の陰部というか、やたらとインディ臭くて狭い閉鎖されたパフォーマンス手法ばっかりが目立つでしょ。それじゃ生き様として小さく見えちゃう。それはかなりマイナス要素だと思うんだよね。

山本 昔からプロレスはもの凄く面倒くさいもので、非合理的でさぁ、余計なことをやっているわけでしょ。それが今となっては説得力やリアリティのあるものとしての土壌を失ったわけよぉ。小川がそこにアイデンティティを求めるっていうのは、もはやなんの説得力もリアリティもないんだよねぇ。

——だから、やっぱり時代を解くカギは小川なんだよね。いい意味でも悪い意味でも。小川をプロレスの中に封じ込めているというか、小川が自らプロレスっていう殻に閉じこもっていることが、業界全体として惜しいんですよね。

山本 小川は、時代が固まっていないから、プロレスでも格闘技でもない第3のポジションにいるんだよね。宙ぶらりんのポジションというか、それがどうなるのという運命を小川は問われているわけよぉ。いやぁ、でも時代が何を要請しているか分かったよぉ、今までの話で。

谷川 その次のステージはそれですよ、たぶん。

山本 うん。20世紀はアントニオ猪木という巨大な影響力を持ったスーパースターがいたけれども、時代はそれに変わる新しいタイプのスターを求めているんだよねぇ。その一発目を桜庭が証明しているわけなんだけど、もっとスケールが大きい桜庭を期待しているんだなぁ、ハッキリ言うと。

時代は猪木的な概念を超えるモノを要求している
闘う人間は勝つことより創造性が重要なんだよぉ

大谷 スケールの大きい桜庭？

山本 スケール感がある桜庭というかさぁ。スケールの大きい桜庭が出てきた時に、20世紀と猪木を超えるというかさぁ、そういうことだよねぇ。

谷川 それはもの凄いスーパースターですよ、そんな選手が出てきたら。

山本 それは猪木に匹敵するというか、猪木を超えるくらいのモノが要求されるよねぇ。一つの時代が終わったんだから、別のハードルの高いモノが要求されるのは当然だよなぁ。それで、猪木的な概念を超えるモノが要求されているわけですよぉ。でも、桜庭的なフォルムを一つ生み出したんだから、凄いことだよぉ。道を拓いたんだよぉ。

——ということで山本さん、膠着論の結論は？

山本 やっぱりあれだなぁ、最後はやっぱり創造性だねぇ。闘う人間には勝つということよりも創造性が一番重要だということだよぉ。クリエイティブな精神と情熱、その戦争ですよぉ。うん。

——そうですね。でも、勝つという部分で一つの突き抜けたものを持っていないと、ほとんどのファイターは創造性まで行き着かないでしょうね。

谷川 僕も今日の結論が出ました。「ひと刺しの精神の中に膠着打破のヒントはある」ということ。桜庭はそのひと刺しのためにギミックを使ってたんだよ。

大谷 へぇ〜。

谷川 Showは今日の話、分かった？

大谷 分かったかどうかなんて……、俺が分かるわけないじゃん。

谷川 あっそうか（笑）。で、Showの結論は？

大谷 結論？ え〜っと、俺は21世紀も戦略なしでいくということを、今日改めて決意しました。

——ダッハハハハハ！

山本 足で稼げ！

大谷 ノーガード戦法ですよ、いつでも。がんばってパンチドランカーになろう！

谷川 頼むから時代性のあるパンチドランカーになってね。

大谷 いやあ、でも山本さんみたいなリアル・パンチドランカーになれるかどうか自信がないなあ。

山本 シュポ、シュポ、シュポーッ ■

はみだし髙田道場 髙田道場のEZ Webサイトがオープンした。内容は次のとおりなので、どんどん利用してみよう。◎HPアドレス：http://www.takada-dojo.com/ez/、◎利用方法の順番：①EZインターネット②趣味③スポーツ④The髙田道場、◎月額料金：315円、◎内容：①必見情報・最新情報・テレビ＆イベント等の出演情報・試合日程・試合結果・

膠着・徹底研究！

「膠着」が起こるのは、ルールのせいではない！ 全て、ファイターのモチベーションが問題なのだ

座談会でもあったように、21世紀の格闘技界のテーマは、いかに膠着を打破するかにある。膠着は決して「ブレイク」がないルールが悪いのではない。全て、選手のモチベーションに原因があるのである。その証拠に、どんなルールでも膠着する人と、膠着しない人がいる。では、どんなタイプのファイターが膠着したり、しなかったりするのか？ 膠着について、さらに徹底解明したい。

文◎谷川貞治

膠着する人 1

アーネスト・ホースト型

"ミスター・パーフェクト"とは、実は完璧に膠着試合を作って勝てる人のことを言うのだ

◉特徴

アーネスト・ホーストが膠着試合の名手と言うと、一瞬「えっ!? そうなの?」と思う人も多いだろう。だけど、うまい人がKOを狙わない試合は、ほとんど膠着と言える。GPでホーストの試合が大衆ウケしないのは、膠着しているからだ。というよりも、ホーストの強さは、この膠着をうまく作り出し、自分は傷つかず、相手により多くのダメージを与えようと考えているからである。ホースト・タイプのファイターは、まずその競技のルールを完璧に頭に叩き込んでいる。そして、そのルールの中でいかに効率よく勝つか、それが勝利への近道と考えているのだ。よく足が特別に速かったり、パワーが特別あるわけではないが、ある特定の競技がうまい人がいる。「あいつは、俺より特別に運動能力が優れているわけじゃないけど、サッカーだけはうまいんだよなぁ」というタイプ。その典型がホーストだ。つまり、ホーストはK—1をやらせたら、誰よりもうまい人なのである。ほとんどの選手は、競技を熟知した勝ち方をするホースト・タイプに憧れるが、ホーストほどの完璧さはないので、キックの試合でも、空手の試合でも余計に膠着した試合に見えてしまうのである。

➡超高度な技術戦。しかし、倒す気持ちがなくなると、膠着になる

⬆"ミスター・パーフェクト"と呼ばれるアーネスト・ホーストも実は膠着タイプだ

◉モチベーション

ホーストに、「K—1で勝つには？」と質問すると「手と足を使ったトータル・バランスが大切」と答える。つまり、ホーストにとってK—1で勝つことは、ルールで認められている手足の攻撃をいかにバランスよく使うかだと考えているのだ。ホーストは、まず自分が有利な間合いを作り、手足を使ったコンビネーションで撹乱しながら、相手により多くの攻撃を与える。そうすれば、少しずつダメージを与えて最低でも判定勝ちできる。そして、チャンスがあればKOも狙う。しかし、トーナメントのような1日に何試合も闘わなければならない場合は、決して無理をしないという勝利の鉄則を貫いている。

◉同類のタイプ

はっきり言えば、ファイターの80％はこのタイプだ。というより、やる側としては、ホーストのような競技内での勝ち方を身につけようとする人がほとんどなのである。また、指導者やトレーナーといった教える側のほとんどは、ホーストのような強さを要求する。だから、80％以上の選手が個性のない、その競技独特の闘いになるのである。たとえば、ムエタイを見てほしい。ムエタイこそ、ホーストのような闘いの典型である。ムエタイは決してKOを狙わない。相手よりローキックやミドルキックを、よりたくさん蹴ったほうが勝ちというゲーム。これは、自分が賭けながら試合を見ていたら面白いだろう。しかし、そうでもしない限り、そういう試合は、はっきり言ってつまらないのだ！ でも、キックの試合や空手の試合ってほとんどがそういう試合なのである。

「トーナメントでは、いかに自分が傷つかずに勝つかということが大切だ。もちろん、チャンスがあればKOを狙うよ」（ホースト）

もう一丁っ！ ムエタイのこんな試合って、全て膠着なのだ！

❸ 打ちかえされたら、さらに打ち返す

❷ 打たれたら、すぐ打ち返す

❶ 相手がローキックを打つ

相手 ⇄ ホースト

基本的には、お互いに打撃技が当たる距離で、フェイントを使ったり、コンビネーションを使って技を交換し合う。もちろん、多少の出入りや、左右に回ったりする攻防もある

膠着する人 2

マーク・ケアー型

自分でいいポジションをつかみながら、あとは適当に休んで判定勝ちを狙う

これが、マーク・ケアー現象だ

◉特徴

グレイシー柔術が登場して以来、バーリ・トゥード（総合格闘技）の闘いは、ポジショニングの重要性が叫ばれるようになった。ポジショニングとは、いかに自分が有利なポジションとなり、相手を不利なポジションにするかということだ。それがつまり、一番安全な状態なのである。その典型が、相手をテイクダウンさせ、寝技で上になること。しかし、マウントポジションのような絶対的に有利なポジションを奪えればいいのだが、最近はディフェンス面の成長も著しく、ほとんどの場合下の選手がガードポジションをとって密着する。これが総合格闘技の典型的な膠着だ。

◉モチベーション

選手のモチベーションは、まず「勝つこと」にある。しかも、自分が傷つかずに勝ちたいという気持ちが第一。だから、自分が上になって、あとは適当にパンチを出したり、関節技を狙うふりをしていれば判定勝ちできると考えている。相手の得意なポジションで闘うのは、まっぴらゴメン。本当は極める力や技はあまり持っていない。

ケアー / 相手

ケアーはタックルして上になり、相手は下から密着することで、両者は一体化し、まったく間合いのなくなる状態

❶『プライドGP』覇者コールマンも、藤田和之もこの体勢に陥りやすい

◉同類のタイプ

マーク・コールマン、ティト・オーティズなどのレスリング系の選手。特に タックルのうまい大型選手に多い。また、『プライド12』での藤田和之も、ギルバート・アイブルにそういう試合をしてしまい、不評を買ってしまった。

〈ケアーの基本的戦法〉

よ〜し、あとは休むぞ!

1 タックル
2 テイクダウン
3 上になる
4 休む

◉対策

選手が関節技などの一本技をマスターし、試合中も一本極めるモチベーションを持てればいいが、そうでない限りは、こういうタイプの選手を生かすには頭突きなどの禁じ手を減らすしかない。ルールで「ブレイク」を入れればいいと考える傾向もあるが、それは真の解決にまったくなっていないのだ。

膠着する人 3

ガイ・メッツアー型

安全なポジションをとるのではなく、相手の技を封じ、光を消すタイプ

◉特徴

これは安全なポジションをとるというよりも、相手の得意技を封じることから起こる膠着。つまり、相手の光を消すタイプだ。たとえば、タックルの得意な選手に対しては、そのタックルを受けとめて潰し、潰したままの状態で膠着する。あるいは、打撃の得意な選手に対しては、打ち合うのではなく、立ち技で密着して打撃を封じる。このように、抜群にディフェンスがうまいタイプだから、ホースト型と同様タチが悪い。しかも、密着してから、反撃に出るかと思いきや、それほどの攻撃力もない。メッツアーが4コーナー全てを使って立ったまま膠着しているのは、全て相手の攻撃を封じ、反撃の力がないことから起こるものなのだ。

◉モチベーション

常に相手の得意技をいかに封じてやろうかと考えている。それが勝利への鉄則というわけだ。この手のタイプは、自分からアグレッシブに攻めようという意志はなく、「待ちの体勢」で相手の攻撃を迎えようとしている。あの桜庭さえも、このメッツアーの戦法で光を消されてしまった。

❷ボブチャンチンを失速させたカーロス・バヘットのうまさ。この手のタイプはなかなか崩れない

PRIDEでオセロ・ゲームをする男

❶小路も、あの桜庭もメッツアーに良さを殺されてしまった。とにかく、メッツアーはオセロ・ゲームの定石のように必ず4コーナーで押さえて膠着する

◉対策

これは膠着の中でも、一番対策の立てにくいタイプ。ファイターのモチベーションが変わらない限り、レフェリーが「ブレイク」させたり、観客がブーイングするしか手がない。

◉同類のタイプ

代表的なのは、かつての小路晃がこのタイプだった。こういうタイプの選手は、なかなか崩れにくく、ボブチャンチンのようなアグレッシブなファイターをしても、いったいどうやって攻めていいか迷わせる。ボブチャンチンがこれまでインパクトのない試合をしてしまったのは、小路とカーロス・バヘットだけ。つまり、ボブチャンチンのようなファイターのモチベーションさえ下げてしまう、一般ウケしないタイプなのだ。また、K―1での同類タイプは、ジャビット・バイラミが有名である。

❷K―1のガイ・メッツアー、ジャビット・バイラミ

❷この状態で4コーナーで膠着を見せてくれるガイ・メッツアー

メッツアー / 相手

メッツアーは立っていても、寝ていても、限りなく相手と同一化した膠着をする。それがガイ・メッツアー現象。こうなると、もう手のつけようがない

膠着・徹底研究！

膠着しない人 1

桜庭和志型

「格闘芸術」という発想を持ちながら、最終的にはギミックを使ってでも一本を狙う

◉モチベーション

「試合に勝ちたい」と思うのはもちろんだが、観客を喜ばせるためにも、必ず「一本勝ち」しようとしている。しかも、自分が安全なポジションの時でさえも休まず、観客を楽しませようと遊び技を見せる。これらの遊び技や一本勝ち技を成功させるために使うのが、ギミックである。つまり、桜庭は状況に応じてフェイント技やギミック技を使って、相手選手ばかりでなく、観客さえも驚かせようとしているのである。

◉同類のタイプ

桜庭と最も近いタイプが、意外にもアンディ・フグだ。アンディもまた、相手の攻撃を受けない遠い間合いを取り、そこでカカト落としやバックキックのような派手な技を出して、相手を驚かし、観客を楽しませる。また、接近戦になったら、必ず倒そうというローキックやアッパー、フックを地味だけど必ず決めていく。アンディもまた、試合を格闘芸術と捉えているタイプだ。また、「空手とは華麗な足技」だと思って始めた極真の松井章圭館長も、格闘芸術タイプの一人。極め技という点で説得力はないが、カーロス・ニュートンや平直行もそんなモチベーションで試合をしていることがよく分かる。

◉格闘芸術型には、先生がいない！

桜庭やアンディ、松井館長といった格闘芸術型に共通していることは、しっかりとした師がいないことだ。もちろん、何人かの先生に技術を学んでいるが、それを自分の中で昇華させる独学タイプが多い。結局、一人の先生に技術を学ぼうとすると、どうしても教科書どおりのホーストタイプをめざすことになる。つまり、これは師弟関係が膠着しているということである。膠着をさせているのは、意外にも指導者のモチベーションに、大きな原因がありそうだ。

⬆いつも楽しく、飽きさせない試合をする桜庭

◉特徴

桜庭の試合にはほとんど膠着がない。それはなぜかというと、桜庭は常に相手の攻撃が当たらない圏外にいるからである。立ち技では遠い間合い。あるいは相手がガードポジションで下から誘っても乗らない。また、密着する場合でも、常に相手の横で密着したり、後ろに回ったりする。わざと自分が後ろ向きになってバックを取らせることもある。このように、正面と正面で密着することが少ないため、動きが止まらず、技を極め合うことができるのである。しかも、桜庭は圏外にいる時に思いっきり遊ぼうとする。それが、炎のコマであり、側転パスガードであり、ジャンピング・フットスタンプ、さらにはアイ～ンチョップやモンゴリアンチョップなのである。最終的には必ず一本を狙っているのだが、闘いを「格闘芸術」と捉えていると、桜庭のような闘いになる。

⬇まんぐり返し　⬇ジャンピング・フットスタンプ　⬇炎のコマ　⬇幸せチョップ

圏外にいるからこそできる格闘芸術の数々

「僕、ウソつきなんです」（桜庭和志）

「K―1で勝つには、いかに相手を驚かせるかだ。私は毎ラウンド、違う技を出して相手を驚かせようとしている」（アンディ・フグ）

⬇膠着するくらいなら、わざとバックをとらせる桜庭

遠い間合いでも遊び技で楽しませる（アンディの場合は、カカト落としなどの見せ技）

相手 ←間合いが遠い→ 桜庭

相手 桜庭 ―目線→

桜庭 ―目線→
相手

密着した場合でも、常に桜庭は相手の横や後ろを取ろうとする。ここでのギミックは完全に一本を狙おうとして使っている

➡アンディも遠間ではカカト落としやバックキックのようなハデな技を使う格闘芸術タイプだったから、試合が面白かった

「増田君や黒澤君は、きっと空手とは破壊するものだというイメージがあるんでしょうね。でも、私が今のような組手をするのは、空手とは華麗な蹴り技というイメージがあるからです」（松井章圭）

膠着しない人2

ボブチャンチン型

格闘技とは、すなわち相手を破壊することにある!

バーリ・トゥードのルールで立ち技で殴って、殴って、殴りまくって人気を呼ぶボブチャンチン

K—1の破壊型の代表ジェロム・レ・バンナ

「俺は今、まさに野獣だね。凄く狂暴だ。もしリング上で今日みたいな殺気を発揮すれば、ボーリングのボールを当てられたピンのように、全員弾け飛ぶだろう。目の前のヤツらを全員ブッ殺してやる」(バンナ)

◉特徴

ボブチャンチンのように、「格闘技とは相手を破壊することにある!」と考えるファイターも、決して自ら膠着することはない。このタイプは主に打撃系のファイターに多いのだが、とにかく殴って、殴って、殴りまくる。自分の攻撃力に絶対の自信を持ち、相手を破壊するために立ち向かっていくという人気の出やすいタイプである。普段の練習から、そういうモチベーションで、人工的に破壊力を増す技術に磨きをかけていく。

◉モチベーション

相手を破壊する。相手の心を折る。完全燃焼したいと思うのが、このタイプの典型的なモチベーション。

◉同類のタイプ

ジェロム・レ・バンナが代表的な例だが、グレイシー柔術スタイルから大和魂をキャッチフレーズに、殴り合いのファイトに変わったエンセン井上も同じタイプと言える。極真では増田章や黒澤浩樹がこのタイプだった。また、佐藤ルミナや鈴木みのる、パトリック・スミスといった秒殺型も、ある意味では破壊型のタイプと言えるだろう。

◉破壊型はモチベーションに左右される

破壊型の特徴は、モチベーションに左右されることだ。たとえば、ボブチャンチンの場合は、モチベーションの持久力はあるが、相手が小路やカーロス・バヘットのような光を消すタイプとなると、途端にモチベーションが下がり、攻め手を欠いて膠着する。バンナがホーストと闘った時もそうだ。序盤こそ、ワーッとラッシュするのだが、ホーストがなかなか崩れないとなるとやはり攻め手を欠いてモチベーションが下がる。また、ルミナやパトリック・スミスのような秒殺タイプ(もちろん、両者には技量の差があるが)は、モチベーションの持久力がないため、いつも殺るか、殺られるかの試合となり、観客を楽しませることができる。

「アゴの骨を折って、顔の骨を全部折って、心を潰してやりたい」(エンセン井上)

ボブチャンチン → 破壊 → 相手

常に破壊をイメージし、自分が相手にダメージを与えやすい体勢で攻撃を仕掛け続ける

エンセン井上はベースにブラジリアン柔術がありながら、まるでそれを感じさせないケンカ・ファイトをし、我慢強くタップもしない

「殺るか、殺られるか」の秒殺ファイトをするルミナも、ある意味で関節技で一本を狙う破壊型のタイプだ

「秒殺」は破壊型に生まれやすい!

膠着しない人3

シリル・アビディ型

生来、気が強く、一番の武器は技術ではなく「本能」としているタイプ

◉特徴

シリル・アビディを代表とする「本能型」のファイターもまた、膠着しにくいタイプだ。膠着とはそもそも格闘技の技術。したがって、「本能」が先行するタイプは、無意識に膠着を避けて、相手をKOするなり、関節技で一本取るなりして倒そうとする気持ちが強い。また、「本能型」は生来、気が強いタイプが多く、どんな乱打戦になろうと決して引かない。その気の強さで相手が音を上げ、大番狂わせにつながる場合も多い。

◉モチベーション

アビディがアーツを初めて倒した時、「相手は自分より強いヤツなので、先に手を出さないと勝てないと思った。喧嘩は先手必勝だからね」と言っていた。このように、「本能型」のタイプは、格闘技をルールの枠にとらわれず、生の喧嘩と認識している者が多い。ボブチャンチンやバンナのような破壊型との違いは、破壊型は後天的に破壊力を身に付けようとしているのに対し、本能型は先天的なモチベーションが格闘技イコール喧嘩と捉えているところである。

◉同類のタイプ

「本能型」の典型的な代表例が辰吉丈一郎である。辰吉の場合は、技術的にもいろんなボクシング技術を完璧にできるのだが、いざ試合となると面倒臭くなって、全てやめて本能のままに闘ってしまう。普通、アビディのようなタイプは、うまい選手と闘って壁にブチ当たると、周囲のトレーナーたちに「ホーストのようになれ!」と言われ、自らの魅力を失していくケースが非常に多い。その点、辰吉の場合は、あくまでも本能のままに闘っているから偉い! また、修斗の桜井マッハ速人やギルバート・アイブルもこのタイプだ。

「アーツが喧嘩の相手に見えた。だから先に手を出さないと勝てないと思った」(アビディ)

❶アビディと同じ本能型である、桜井マッハ速人、辰吉丈一郎、ギルバート・アイブル

「本能型」は相手と膠着することなく、かといって相手との間合いを開けることなく、常に接近して技を繰り出している

アビディ　相手

膠着しない人4

小川直也型

身体能力が優れ、相手との差があるため、膠着が起こらない!

◉特徴

小川のようにモチベーションや格闘スタイルに特別な特徴のないファイターでありながら、膠着があまり見られないタイプが希にいる。これはどういうことかというと、身体能力が高く、対戦相手と差があるからだ。たとえば、小川はこれまでグッドリッジと佐竹雅昭の2試合の『プライド』マッチを体験しているが、その2試合とも特別なことをしているわけではない。それでも、小川の試合はまったくといっていいほど、膠着していないのである。その理由は、極めて単純。小川は普通のことをやっても、強いからである。

◉モチベーション

俺は強い。以上!

◉同類のタイプ

小川のように身体能力が高くて、膠着しないタイプの代表は、ピーター・アーツである。アーツの場合も、特別トリッキーな技があるわけでもなければ、得意技があるわけでもない。しかし、全てにおいて必殺技と思えるほどの破壊力があるのである。アーツもまた身体能力が高くて、膠着しない典型だろう。また、ヒクソン・グレイシーもこのタイプだ。しかし、ヒクソンの場合は、自分の身体能力を見せつけられる相手を選んで闘っているという陰口を叩かれることもある。本質的に膠着を得意とするグレイシーの中でも、ヒクソンは膠着しないので、余計に最強の幻想を膨らませているのだ。また、パンクラスの近藤有己や美濃輪育久がよく見えるのも、この身体能力の高さだろう。

「K—1のチャンピオンに立ち技で勝とうというバカな考えをしました」(小川)

❶圧倒的な強さを見せつけるヒクソン

❶ほとんど練習もしないで、K—1のチャンピオンになったアーツ

❶佐竹と打撃で真っ向勝負を挑んだ小川

「最強」のイメージを抱かせやすい男たち

「今日、見せたのは柔術のベーシック技だ」(ヒクソン)

「K—1で2連覇していた時は、もう毎日メチャクチャ飲んで、女の子と遊んでいたよ。練習はほとんどしてなかった」(アーツ)

小川のような身体能力が高いタイプは、膠着していても、攻め幅が広いのだ

小川　相手

❶以前はガードは空いていたが、真剣でブッた切るような殺気を漂わせて

膠着を見せられる人

ホイス、フィリオ型

看板を背負った負けられない魂が膠着に色気を漂わせている!

◉モチベーション

彼らが膠着してても緊迫感があるのは、「必ず一本取る!」という気持ちが強いことだ。しかも、両者には共通して「負けられない」というバックボーンが見える。それが、グレイシーの不敗神話であったり、極真幻想というもの。負けイコール死さえ思わせる、看板を背負ったモチベーションがファンにも見えるため、膠着が緊迫感に見えるのである。

◉同類のタイプ

グレイシー一族、極真ファイター、新日本プロレス所属レスラーなど、看板を背負った選手一般。特に極真・世界大会で、カラテ母国日本を守ろうとする数見肇の闘いぶりは素晴らしかった!

➊フィリォの構えからは、武道の試合を見ているような緊迫感がヒシヒシと伝わってくる

➊相手に上になられながら、必死にガードポジションを取るホイスは、母性を刺激する

◉ホイスとフィリォの違いは?

同じカウンタータイプと言っても、両者には競技の性質上もあって、その技術に大きな違いがある。ホイスは膠着しながら、ジワリジワリと相手のミスを誘ったり、ワナを仕掛けて待つタイプ。それに対し、フィリォの場合は、一撃必殺の武器を身につけながら、五感を研ぎすまし、相手が出てきたところを本能的に叩いて倒すタイプだ。これが、フィリォがK—1デビュー以来の一撃伝説を築いた頃の倒し方だった。フィリォは、己の本能と五感で闘っていたため、アンディやグレコが倒れた時は、自分でも驚いた表情さえしている。

◉なぜフィリォは膠着するようになったのか?

フィリォの試合は、デビュー当時は"間合い地獄"と呼ばれていたが、最近では明らかに膠着そのものになっている。それは、フィリォのモチベーションが、ホーストのようなキックボクサーになろうとしているからだ。昔は、本能で闘っていたフィリォが、キックの技術を覚え、ホーストと同様、K—1ルールでいかに効率よく勝つにはどうしたらいいかと考え始めた。しかも、トーナメントのためか、それともバンナにKO負けした後遺症のためかディフェンス中心に試合を組み立てている。だから、試合も膠着に見えるのである。今のフィリォはうまくなっているが、弱くなっているようにさえ見えるのだ。

◉膠着を幻想に見せるスポークスマン

ホイスの膠着が幻想に見えるのは、もちろんグレイシー不敗神話を背負っているからだが、さらにそれに輪を掛けるように膠着を幻想に変える言葉を持ったスポークスマンがいるからである。それが、長兄ホリオン・グレイシーである。たとえば、レフェリーストップやブレイクなどの第三者の介入を拒否する理由として、いきなり「もし、2人が砂漠の中にいたとしよう」という絶妙の例え話を持ち出す。こういったホリオンのような言葉のマジシャンがいれば、見る側にとっても膠着は十分楽しめるのだ。

◉特徴

膠着はする。しかし、その膠着から凄い緊迫感が伝わったり、幻想が膨らんだりするファイターがいる。それが、ホイス・グレイシーやフランシスコ・フィリォのようなタイプだ。彼ら2人に共通しているのは、カウンターの一撃を持っていることだ。フィリォは、"間合い地獄"から文字どおりの一撃カウンターパンチを持っているし、ホイスはガードポジションからの多彩な関節技で一本取ることができる。このように、序盤戦は押されているように見えても、逆転のできる一撃必殺の技を持っているファイターは、膠着にも、緊迫感が伝わってくるのである。

「我々のバーリ・トゥードは、ゲームではなく、決闘である。例えば、2人が砂漠の中にいたとしよう……」(ホリオン)

➊このグレイシー一族の理屈のおかげで、我々は膠着を楽しむことができるようになった

➊極真の世界大会では、フィリォ以上に緊迫した間合い地獄を見せてくれた数見

「K—1の闘いがよく分からなかったので、五感を研ぎすまして、来る者を叩いていた。そしたら、アンディが足元で倒れていた」(フィリォ)

構えが変わっただけじゃない

モチベーションが変わったのだ

➊以前はガードは空いていたが、真剣でブッた切るような殺気を漂わせていたフィリォ。しかし、今はガードを上げて、必死にキックボクサーに適応しようとしている。これはモチベーションが変わったのだ

キラー・サクラバ見参！
ターザン自ら膠着地獄にハマる！

砂漠だったらお前はすでに死んでいる……？

本誌初顔合わせ

桜庭和志VSターザン山本 膠着対談！

膠着問題が格闘技界で浮上する中、“膠着しない男”の代表格とも言えるのが桜庭和志である。では、桜庭はなぜ試合中に膠着しないのか？　その秘密を探るべくターザン山本が桜庭を直撃！　ところが、桜庭のギミックでターザンはまさかの膠着地獄にハマっていった……

撮影◎山口比佐夫

レスラーになりたいと思ったけど身長が伸びて ホーガンみたいな奴と試合をしたくないなぁと思った

山本 桜庭さ～んっ！ うれしいっ！ うれしいよぉぉぉ！ ようやく桜庭さんにインタビューすることができるよぉ！ 最高ですよぉ！

桜庭 お、お願いします。

山本 よろしくお願いしま～すっ！

桜庭 何年か前に『ファイト』で（取材を）やりましたよね。

山本 そうそうそうっ！ キングダムの時に1回インタビューしたことがあるんですよぉ。覚えてた？

桜庭 はい。その時初めてですね。

山本 さすがIQレスラーですよぉ！

桜庭 は？

山本 あのぉ～、僕は頭がイカレているのでぇ、いろんな質問しますので。

桜庭 は、はい……。

山本 まずあのぉ、僕は桜庭選手のことを昨日考えてきたんですけども、非常に20世紀の終わりの2000年にブレイクされたんですけど、それを一言で言っちゃうと、次の言葉で表せると思うんですっ！ リーダーとかリーダーシップを背負う必要のないスターというか、ヒーローというか、あるいはアイドルというか、あるいはシンデレラボーイというか、桜庭さんは去年から今年にかけて、上昇されたんですけど、自分のことを「ヒーロー」「スター」「アイドル」「シンデレラボーイ」ともし4つの言い方をされたら、自分はどれだと思いますかっ？

桜庭 アイドルかシンデレラ？（笑）。いやぁ……分からないですねぇ（笑）。

山本 うむむむむっ。スターっ？

桜庭 スターじゃないですねぇ。

山本 ヒーローっ？

桜庭 ヒーローじゃないですねぇ。

山本 ヒーローじゃないっ！ アイドル？

桜庭 アイドルじゃないですねぇ（ニヤニヤ）。

山本 じゃあ、あのぉシンデレラボーイ？

桜庭 ………シンデレラボーイって……ポッと出てきた感じですか？

山本 そうそう、偶然的にパッとね、強運でねっ！

桜庭 ……じゃあ……シンデレラボーイじゃないですかね……。

山本 シンデレラボーイですよねっ！ そうっ！ それっ！ 僕もその4番目だと思ってたっ！

桜庭 はあ、4番目（笑）。

山本 で、シンデレラボーイにお聞きしたいんですけどもぉ、あのぉ、僕が言ったリーダーとかリーダーシップを背負う必要のないシンデレラボーイの桜庭さんは、リーダーとかリーダーシップというイメージはどんな感じを持ちますかっ？

桜庭 ………いやぁ、もう自分から進んで人を引っ張っていく……感じ？

山本 うむむむむっ。それは桜庭さんの体質に合ってますかっ？

桜庭 合ってないです（笑）。

山本 そうそうっ！ 合ってないよね、全然！ そこであのぉ、桜庭さんの成功形態を考えてみると、リーダーとかリーダーシップの必要のないヒーローになった人が、桜庭さんの前に一人だけいるんですよね。それはぁ、初代タイガーマスクだと思うんですっ！

桜庭 はい。

山本 そのタイガーマスクの成功の仕方というのは、それまでの世界とはまったく違った動きというか、ファイトをしたわけですけど、桜庭さんは初代タイガーマスクがデビューした時は、歳はいくつでしたかっ？

桜庭 デビューしたのは………分かんないですね。

山本 うむむむむっ。デビューしたのは見たっ？

桜庭 見てないですね。中学1年の時に初めて見たんですよ。

山本 中学1年生の時に桜庭さんが見て、タイガーマスクのイメージはっ？

桜庭 イメージですか？ いやあ、凄いなぁって……。本物がいると。

山本 本物がいるっ！

桜庭 ええ。

山本 うむむむむっ。じゃあ、タイガーマスクみたいになりたいとかぁ、凄いと思った時に近づきたいとか、あるいはその瞬間にレスラーになろうとか、そういう気持ちはありましたかっ？

桜庭 瞬間はないですね。ずっと何回か見てて1年、2年くらいたってなりたいなぁと。タイガーマスクを見てて。

山本 やっぱりタイガーマスクが原点になったわけですか、モチベーションの。

桜庭 はい。

山本 はぁぁぁ……。それは他のレスラーと比べてどこが違うの？

桜庭 レスラーになりたいと思ったんですけど、身長が伸びてハルク・ホーガンみたいな奴と試合をしたくないなぁと思って、このまま身長止まってくれと思って。で、タイガーマスクくらいの体重でやりたいなぁと。

山本 あっっっっっ！ 普通だったらぁ、橋本さんだったら、もう少し俺が10センチ背丈があったら大スターになれるんだというようなことを、新人時代に言ってたんですけど、背が伸びないほうがいいと思ったわけですかっ！

桜庭 はい。……伸びるとブロディとかハンセンとかああいう人とやらないといけないじゃないですか。それが嫌でしたね（笑）。

山本 うむむむむっ。じゃあ！ ブロディとかハンセンとかそのホーガンというのは、僕らから見たら憧れの超人みたいなスーパーヘビー級ですよね。それに対しては一目置いていたわけですかっ？

桜庭 いやぁ、二目も三目もってことはないですけど（笑）。僕とはまったく違う世界の人ですよね。

山本 別世界！ じゃ、じゃあ、ジュニアヘビーの佐山さんの闘い方というのは、非常に回り込みが早いというか、動きが早いというかクルクルクルクル回るわけですよね。あるいはもう一つ、すぐに組まないというか、間合いをおいて、こうなんていうかさぁ、ダイナマイト・キッドだったらキッドの周りをグゥ～っと円を回りながらステップを踏みますよねっ！

桜庭 はい。

山本 あれって、あのぉ、バーリ・トゥードのよ～するにグレイシーを相手にした時の桜庭さんスタイルに似てると思いませんかっ？

桜庭 ………いやぁ、分からないです。

山本 に、似てるでしょぉぉぉ！ 佐山さんがステップ踏みながらぁ、なんていうかさぁ、回り込むじゃないですか。様子を見るというか。

桜庭 ………そう言われてみればそうですけど……。

山本 うむむむむっ！ 僕は似てると思うんだよねぇ。で、もう一つのタイガ

KAZUSHI SAKURABA VS TARZAN YAMAMOTO

（グレイシーは）誘ってくるから付き合う気になれないんですよね

KAZUSHI SAKURABA VS TARZAN YAMAMOTO

―マスクの特徴を言うとぉ、佐山さんというのは凄く頭が良かったのか、シャープだったのか、それまでのプロレス、猪木さんが新日本プロレスでやっていたフォルムというか世界が、なんか彼から見ると、つまらないというか、膠着していると。だから、ああいうキックを取り入れて、ステップを取り入れて、よ〜するに新しいいわゆる4次元殺法というものをやったんですけども、それまでのプロレスは3次元で膠着していたことを彼は認識していたから、キックを取り入れたというイメージがあるんですけども、この意見に対してはどうですかっ！　桜庭さん！

桜庭　…………そう言われてみればそうですけど……分からないです（笑）。

山本　うむむむむっ！　い、いやっ！　例えばホイスとの試合を見て、ホイスたちはグレイシーという戦略が勝利の方程式がきちんとあるから、逆に言うと、彼らがその勝利の方程式に束縛されてぇ、縛られて、膠着していくと。そういう方程式がない桜庭さんのほうが、自由なファイトをして、膠着しているグレイシーと闘った時に、桜庭さんのまんぐり返しとか、ああいうのが出たと。その辺が僕たちは凄く面白いんですけど、彼らは膠着してると思いませんかっ？

桜庭　あっ、それは思います。

山本　お、思いますぅっ!?　やったぁ〜！　やっぱりグレイシーは膠着してますかぁぁぁぁ！

桜庭　し、してますね（笑）。

山本　どの程度膠着してます？

桜庭　…………………。

山本　その闘い方というか、気持ちというかぁ、ファイトというかぁ、ホイスなんかで言うと。

桜庭　…………難しい質問ですね（笑）。……ただ単に動かないという意味で、膠着してる……。

山本　うむむむむっ！　だからぁ、つまんないでしょ、やっててもっ！

桜庭　いや、つまんなくはないですよ。

山本　つ、つまんなくないっ？

桜庭　つまんなくないです。その膠着するのを……。

山本　いじめてるんでしょっ！

桜庭　いじめるというか……。

山本　つついているんでしょっ！

桜庭　はい。そういうのは面白いです。

山本　桜庭さんはグレイシーに対して適当に遊んでいるということですねっ？

桜庭　……いやぁ、遊んではいないですけどね。付き合わないというか、付き合おうとは思わないので。向こうが誘ってる分、誘わなければ一緒に付き合うかもしれないですけど、誘うから付き合う気になれないんですよね。

山本　焦らしてやろうとするわけですねっ！

桜庭　ええ。

山本　持久戦に持ち込むわけですねっ！

桜庭　そうですね。

山本　そうすると、向こうは凄く苛立ってくるでしょ？

桜庭　はいはい。苛立ってきてもらえば、考える力がなくなるんで。イライラしてきて、いろんな方向から見られなくなるじゃないですか、相手が。だから、そういう意味で……そういうやり方がいいのかなぁと思ってやってるんですけど。

山本　その相手のイライラは闘ってる最中に見えてきますかっ？

桜庭　微妙に分かりますね、顔の表情とかで。

山本　ああ〜っ！　顔の表情とか目を見てるわけですかっ！

桜庭　は、はい。なんかイライラしてるなぁとか、なんとなく分かりますね。

山本　はぁぁぁ。パターンとしてホイスとホイラーとか性格は違いますかっ？

桜庭　…………ホイスのほうが感情が入っていたというか、顔が怒ってましたね。

山本　もう出てくるわけですねっ！

桜庭　はい。ホイラーはなんかガタガタ震えてましたよ。

山本　震えてたっ！

桜庭　どういう意味で震えてたのか分からないですけど、バチバチ蹴ってたら、なんかこの辺がガタガタガタって震えてましたよ。

山本　アゴのところがっ！

桜庭　もっと、肩とか……で、なんで震えてるんだろう……まさか怖いわけじゃないだろうなぁって。でも、自分の体より大きい、僕のほうが大きかったじゃないですか。もしかして本人はやりたくなかったけど、無理矢理やらされてるのかなぁとは思いましたね。

山本　桜庭さんが立ってて、向こうが座ってて、チョロチョロって蹴りますよね。あれは相手をやっぱり心理的に揺さぶろうとしてるんですかっ？　それともダメージを与えようとしてるんですかっ？

桜庭　あれはダメージを与えようとしてますね。

山本　ダメージっ！　狙ってるわけですかっ？

桜庭　はい。もう僕は何もされない状況だから、向こうが勝手に蹴ってくれって感じで寝てるから（笑）。

山本　完全に相手の間合いの圏外から蹴ってますもんねっ。

桜庭　はい。それで……ダメージを与えて。

山本　う〜ん、謎は解けたっっっっ！

桜庭　い、いきなりですか？（笑）。

山本　うんっ！　いやぁ、よ〜するにぃ、それはね、僕は桜庭さんは初代タイガーマスクが生まれ変わったVTファイターだと定義してるんですね。うん。………………で、桜庭さんから見て、自分の人生を振り返ってほしいんですけど。

桜庭　い、いきなりですか？（笑）。

山本　うんっ！　自分の人生の中で膠着した時代というか、そういうのはありましたかっ？

桜庭　こ、膠着ですか……？

山本　例えば僕だったら、大学を中退し

これは、ゆりかもめです

4、4カ所極まってますよぉぉぉ！

僕は指立てて殴ったりしますよ（ニコニコ）

て、ブラブラしていた20～30代までの7、8年間は、何も就職つかないでやっていたので、これはもうホントに膠着してたわけですよ。人生が。

桜庭 ああ、ありましたよ。

山本 ど、ど、どんな時代っ？ 膠着してました？ 俺はそれを聞きたかったんですよぉ、今日はぁぁぁぁ！

桜庭 大学の時に。高校でアマレスを始めてそれで高校を卒業する頃にもっとアマレスをやりたくなって、大学に入ったんですけど、練習のやり方が僕に合わなくて……。

山本 どこが合わなかったんですかっ？

桜庭 長い距離走らされること。1時間も2時間もずっと走ったりしてるんですよ。なんか効率悪いなぁと思って。

山本 ああ、効率悪いねっ！

桜庭 はい。腹筋も何百回もやらされて。それで、タックルの打ち込みも基本のタックルだって言って、棒立ちの人に1、2、3って数を数えながら入るんですよ。そんな初心者がやることだろうって（笑）。そういうことをやらされてて、だんだん練習が面白くなくなってきて。

山本 レスリングが面白くなくなったら、大学生活もつまんないよねっ！

桜庭 ……いやぁ、大学生活は普通にパチンコ行ったりとか、酒飲んだりとかして面白かったですけど（笑）。

山本 うむむむむっ。でも、本命のレスリングが合わなくて膠着したわけですね、人生が！

桜庭 はい。適当にウソを付いて練習を休むようになったりして。

山本 その膠着をどうやって突破しようとしたんですか？

桜庭 …………しようとは思わなかったですけど……。

山本 うむむむむむっ！

桜庭 まぁ、どうにかなるだろうって（笑）。

山本 さ、さっぱり分からんなあ、そっちは………で、その後にプロレスの世界に入って、Uインターはいい時もあって悪い時もあるし、キングダムもいい時もあって悪い時もある。やっぱし人生が膠着したでしょ！

桜庭 いや、してないですねぇ。

山本 うむむむむむっ！

桜庭 初めのうちはわけ分からず練習とか、使いっ走りをやってましたけど。何年かして、僕の下が入ってきて練習するようになって、だんだんまた面白くなってきましたね。

山本 でも、Uインターが潰れて、キングダムをやりましたよね。会社が潰れたりした時に、挫折感を感じたでしょう？

桜庭 …………いやぁ、どうにかなるんじゃないかなぁと思ってたので……。

山本 うむむむむっ！ 全然膠着しないね、人生がっ！

桜庭 いやぁ、その……レスリングできてればいいんですよね。レスリングやれてればいい。

山本 ………で、どうなんですかっ！

桜庭 はい？（笑）。

山本 その、膠着してないと言ったんだけども、もの凄くお金持ちになったでしょ！

桜庭 な、なんの話ですか？（笑）。

山本 いやぁ、僕らが見てても、桜庭さんをよく見るわけですよ。コマーシャルだとかさ、新聞の一面とかいろんな雑誌にも桜庭さん、桜庭さんってさあ、取材も多いと思うんですよ。僕らから見たらいっぺんに大金持ちになったと思うんだけども、大金持ちになって人生が膠着しませんでしたかっ？

桜庭 いやっ、してないですね。僕、べつにそんな物を買ったりするわけでもないし。

山本 うむむむむっ！ じゃあ、じゃあ、その去年の劇的なドラマチックなヒーロー誕生みたいに言われて、21世紀を迎えてさぁ、このまま自分の人生どうなるのかなぁって考えることはありますかっ？

桜庭 …………いやぁ、ないですねぇ。

山本 な、な、ないっ！

桜庭 いつか落ちるだろうなぁとは思いますけどね（笑）。年齢も年齢だし。

山本 そ、そっちはとらえどころがないねぇ……。

桜庭 …………（ニコニコ）。

山本 こっちの頭が膠着してしまうよぉぉぉ！

桜庭 …………（ニコニコ）。

山本 い、いやっ、桜庭さんというのは、存在が膠着しないわけですよぉ。だから、よ～するにぃ、VTだったらVTの闘い方が、自然に進んでくると膠着してくるわけね。その外にいるわけですよ、桜庭さんはいつも。だから勝ち続けられるんですよぉ。よ～するに何が膠着かよく分かってるというかさぁ、間合いがとれるというかぁ、スタンスがとれるというか……うん。ねっ！

桜庭 …………僕は頭悪いので……（ニヤニヤ）。

山本 うむむむむっ！ 悪いことないよぉ。もの凄く頭いいよぉ。良すぎるよぉ！ あ、あのっ、試合数が少ないとか、こう少ないんだけど多いような感じで、飽きたとか嫌だなぁとかさぁ、もっと試合したいなぁという感情はどちらにあるんですかっ？ 現時点では。

桜庭 あのぉ………1年前はもっと試合をしたいと思ったんですけど……、今は試合をするために取材とかするのが、それが面倒くさくて。試合自体はやりたいんですけど、それについてくるものが面倒くさいんですよ（笑）。

山本 でも、本来は試合をたくさんしたいんだよねっ！

桜庭 試合はしたいです。

山本 いろんなタイプの人としたいでしょ。

桜庭 はい。1、2カ月に1回は。

山本 やらないと逆にフラストレーションが溜まるでしょう？

桜庭 そうですね。もう、試合でストレ

ターザンの幸せを祈りながら“幸せチョップ”！

KAZUSHI SAKURABA VS TARZAN YAMAMOTO

…………たとえ話が凄い うまいですよね（ニコニコ）

スを発散している部分もあるので。

山本　1秒でも長くリングにいたいという感じはありますかっ？　試合中に。

桜庭　少しありますね。試合になると本気で人を殴れるから、それが一番ですね……（ニコニコ）。練習だと本気で殴れないじゃないですか。でも試合だと思い切り100％の力で殴れるから（笑）、それでストレス発散できますよ。サンドバッグとかミットとか蹴ったり殴ったりするのは今いちなんか……。

山本　凄い「S」だねぇ。たいてい顔面殴れなくて、みんなその瞬間に相手にやられちゃうんだよねぇ。

桜庭　ええ。僕は指立てて殴ったりしますよ（ニコニコ）。

山本　ゆ、ゆ、指立ててぇぇぇ？

桜庭　こういう感じで（実演中）。グローブはこうついてますよね。拳で殴っても今いち効かないから、親指だけ出てるんで、親指立ててこの間のハイアンの時もこの辺（こめかみあたり）をバッチバチ思いっきり叩いてました（笑）。

山本　「S」だねぇぇぇぇ。普通、格闘家は「M」からスタートしてさ、「S」になれるかどうかがテーマなんだよねぇ。で、桜庭さんは、例えば今まで外人と闘っているけど、日本人が挑戦してきたらどうしますかっ？

桜庭　日本人ですか？　いやぁ～、やらないです。

山本　やらないっ？

桜庭　日本人はやらないです。

山本　ほぉ～ん………。

桜庭　なんか、日本人にはホントにこう痛いところを叩くとかやれないですね。

山本　「S」になりきれないわけですねっ？

桜庭　ええ。なんか分かんないけど外人にはできるんですよ。なんか痛くなさそうだから。

山本　い、痛くなさそうっ！

桜庭　外人は言葉が分からないから何を言ってるのか分からないじゃないですか。日本人はこうやって「イテテテ」とかって言ったら、ちょっと引いちゃいますね。でも、やってみないと分からないですけどね。やってみて「イテテテ」って言ったら、もっとやるかもしれないし。

山本　いやぁ、強い人だねぇ。典型的な「S」だねぇ。

桜庭　結構、嫌なところ攻撃するの好きですからね（笑）。脇腹のところ殴ったりとか。あとはアゴ使ってグリグリやったりとか。好きですね。

山本　粘着質だねぇ。

桜庭　はい。結構、僕、しつこくいきますから（ニヤニヤ）。

山本　しつこそうだねぇ。

桜庭　はい。相手が動いたら絶対その動きが止まる時は自分がいいポジションでないと絶対に止まらないですから。止まらないようにしてるんです。しつこくしつこく……。

山本　は、は～ん。それは必勝法になるねぇ。

桜庭　あとはたまにあるのは、もう腕を思い切りしつこく取りにいくとか。どこにもちらばすとかじゃなくて、ずっと腕を取りに。右腕だったら右腕をずっとしつこく、しつこく取りにいったりすると、最終的には諦めて（笑）。

山本　向こうが？

桜庭　ええ。とかはありますけど。練習の時ですけどね。

山本　………非常にあれだね、練習形態が試合に直結してるんだねぇ。もの凄くシミュレーションが何パターンもあって。でもあのぉ、桜庭さんは、猪木祭りではとまどってたね。

桜庭　試合ですか？　そうですねぇ、休むタイミングが分からないというか……。

山本　逆になんかVTに比べて早く息が上がりそうな感じで。

桜庭　そうですね。どこで休めばいいのかなぁって考えてましたね。休むタイミングが分からなかったです。ああいうプロレスは初めてやりましたから。

山本　そうだよねぇ。あっちのほうがややこしいでしょ。

桜庭　……いやぁ、あれはあれで面白いですけど。

山本　面白い？

桜庭　普段できない技ができるから。それでワァ～って盛り上がると面白いですね。

山本　新日本で大谷選手とやったでしょ。あれはもの凄くうまかったね。回り込みというか、動きが素早いというか、小回りが利くというか、次から次へ技がクルクル来るというか。

桜庭　そうですね。大谷さんは合いましたね、あの時。

山本　完全にスイングしてたねっ！

桜庭　はい。

山本　きりきり舞いさせるの好きだねぇ！

桜庭　は、はい？　試合でですか？

山本　もう、動きが一歩先手を打って、こう動いているというか、相手に対して。

桜庭　………そういうの考えたことないです。自分で分析したことないから分からないですね。

山本　うむむむむっ！　技が凄くちっちゃいんだよね。ちっちゃくて、こう回るロータリーエンジンみたいな感じだか

桜庭さんはよ～するにぃ、何が膠着かよく分かっているというかさぁ、間合いがとれるというかぁ、スタンスがとれるというかぁ……

俺はホイスが負けた原因がもの凄く分かりましたよぉぉぉぉ（ターザン）

らさぁ。他のレスラーの人たちは、1、2、3みたいなピストン運動をするわけですよぉ。桜庭選手はロータリーエンジンみたいな回り方するでしょう。もう、フォルムが違うんだよね。うん。そりゃ、ロータリーエンジンのほうが勝ちますよぉ。ガチャンガチャンとピストン運動する前に、パッて回り込んだら終わりだもん。早いよねっ!

桜庭 ………。

山本 うむむむむむっ!

桜庭 ……まあ、言われてみればそうだなぁと……。

山本 そうでしょっ! ロータリーエンジンでしょ? ロータリーエンジンは、もの凄い燃料を食うわけですよぉ。燃料を食うという欠点があるわけですよぉ。でも、桜庭選手はもの凄く少ないエネルギーで効率のいい、もの凄くちっちゃなエネルギーで試合をするんだよねぇ。うん。ロータリーエンジンの一番重要なテーマを桜庭選手はクリアしてるわけですよぉ。ブワ～っと燃料を使うのではなしに、燃料を小さくしてやるんですよねっ!

桜庭 ……たとえ話が凄いうまいですよね（ニコニコ）。

山本 うまい～っ? 嬉しいよぉぉぉぉ。ホリオンよりうまいですかっ?

桜庭 いや、ホリオンはイマイチですから（笑）。

山本 お、俺はホリオンより上かぁぁぁぁぁ! いやぁ、今日は桜庭さんに完敗だぁ。さっぱりそっちのことが分からんよぉ。

桜庭 ………（ニヤニヤ）。

山本 もうこれ以上、聞くことがないもんなぁ。こっちが疲れちゃったよぉ。

桜庭 ………（ニヤニヤ）。

山本 俺、分かったぁぁぁ! よ～く分かった。ホイスがなぜ負けたか。絶対に負ける、ホイスは。ホイスと俺は同じですよぉ。この戦法で闘われたら、もういやっていう形で負けちゃうよぉ。「アイ・クイット」って言いたくなりますよぉぉぉ!

桜庭 ………（ニヤニヤ）。

山本 もうこれはダメだって思ってさぁ、ホイスが90分でどうやって負けたかっていう心理状態は、今こうやってしゃべってて、ホントによく分かりましたよぉ。これは試合したくないよ、桜庭選手とは。俺は今日、下から「来い、来い、来い」って誘ってるんだけど、来ないんだもんなぁ。いろんな言葉を発してるんだけど、全部無駄なんだよぉ。付き合わないと言うかぁ、そういう感じになるんですよぉ。普通だったら、一つの言葉を発すれば何か返ってくるとかあるんでしょ? ないからさぁ、更に言葉を発しても、更に無駄になっていくというさぁ。

桜庭 ………（ニヤニヤ）。

山本 ホイスが負けた原因がもの凄くよく分かったっ! もう、分かったぁぁぁ! 分かりましたよぉ、ホイラーの気持ちがぁぁぁぁ!

桜庭 ………（ニヤニヤ）。

山本 普通だったら、力と力でグッといったらさ、ガチャっとからむじゃない。ガチっと入るけど、入らないわけですよぉ。そうでしょっ?

桜庭 そうですね。もう、そういう感じでやってます。

山本 あちゃ～っ! やってるでしょ? そういう感じで。

桜庭 だいたい何かこうやろうとしたら、それをやらせないように、前に出てきたら、そのままスッと後ろに引いたりとか。

山本 ガ～ッと前に出たらクッと逃げる。で、なんかあったらちょっとつつくという。でもなんかイライラしてきても、パッと避けるという。そしたら、相手は嫌だもんなぁ。

桜庭 それで、嫌になった時にポッと突っ込んでいくと（笑）。

山本 それでもう、パニックになったりとかさぁ、もう限界に来た時にズボっと一気にくるわけですよぉ。そしたらもう、バランス崩れてるから、こちらは。パッとやられちゃうんだよなぁ。うん。

桜庭 はい。反応できないというか。

山本 そうそうそう。これがサク戦法だったんだなぁ……。俺は実体験したよぉ。あの90分間を! ホイスの90分間を。その原因が分かったよぉ、会話の中で。一生懸命誘導したり、一生懸命仕掛けたりして、それで時々「S」で来られたら嫌だよなぁ。

桜庭 ………（ニヤニヤ）。

山本 分かったよ、俺はもうあれだ! スフィンクスの謎で、勝手に俺が考えて書きまくるしかないねっ! 取材しないで! 桜庭像というのを自分で勝手に作るわけですよぉ。ねっ! いいっ? 作って!

桜庭 そ、それも困りますね（笑）。

山本 いやぁ、いいように書くんだからぁ。過剰に書くんですよぉ。「スーパースターだ!」「凄い」とかさぁ、いっぱい書くわけですよぉ。

桜庭 あの～、この原稿チェックさせてもらえますよね?

山本 なにぃ～? チェックぅ～? そっちはほとんどしゃべってませんよぉぉぉ!

桜庭 いや、ちゃんと親指が立ってるかどうか心配なんで（ニコニコ）。

山本 シュポ、シュポ、シュポーッ! ■

分からませんっ!

KAZUSHI SAKURABA VS TARZAN YAMAMOTO

最近、自信満々で入場するメッツアー。ガイ・メッツアー現象に対する答えを、本人はすでに持っていた

膠着大王ガイ・メッツアーの懺悔

気付きか？　目覚めか？　改心か？

この衝撃的告白を読めぇぇぇぇぇ！

膠着する男の代表例は、言わずと知れたガイ・メッツアー。では、メッツアーの試合はなぜ膠着するのか、それにはまずモチベーションを探ってみるのが一番いい。本当はメッツアーに日本のファンがどう思っているか知ってもらおうと思ったが、すでにメッツアーはそのことを知っていた。そして、メッツアーの心は……

格闘website「Sherdog.com」よりインタビュー◎Brian Piepenbrink

もう俺は金のためだけに闘わない。自分自身の尊厳のために闘うと決めたんだ。

今回の特集をやるにあたり、〝ガイ・メッツアー現象〟という流行語（本誌だけが言ってるのだが）まで生み出した「膠着大王」ガイ・メッツアーに、どうしても話を聞きたかった。メッツアーは、いったいどういうモチベーションで試合をしているのか、またメッツアーの膠着試合に日本のファンが不満に思っていることをどの程度感じとっているのか。ぜひそのあたりを聞いてみたかったのだ。

そこで、メッツアーに連絡をとってみると「自分のファイト・スタイルについては、ホームページのインタビューですでに語っている」という答えが返ってきた。「国際電話ではなんなので、それを掲載してくれ」というわけだ。

それは、格闘技ウェブサイトの「Sherdog.com」というホームページに英語で掲載してあった。それを翻訳してみると、なるほどメッツアーの本音がズバズバ語られていて非常に興味深い。詳しくは、インターネットでそのアドレスを検索してみてほしい。そのインタビューはちょうど、『プライド12』のアレクサンダー大塚戦の前に行われたもの。本誌では、そのインタビューの中で、メッツアーが自分のファイト・スタイルについて語っている部分を取り出し、分かりやすいように若干アレンジしてモノローグ形式でここで掲載したいと思う。

『プライド』での試合をするのは好きだよ。みんなが言うのとは違って、彼らは俺によくしてくれる。『プライド』で闘うのが好きなのは、彼らが言ったとおりのことをしてくれるからだ。試合を組んでほしいと言えば組んでくれる。ファイトマネーを支払ってくれと言えば、すぐに支払ってくれる。だから『プライド』で闘いたくなるんだよ。

でも、俺は正直に言うと、勝ちにいくというより、これまで負けない試合をしてきた。必要ならば判定勝ちを狙う。特にパンクラスではそうしてきたよ。

パンクラスのルールは、俺のファイト・スタイルに不利だったからね。パンクラスではロープに近いと「ブレイク」がかかり、立たされる。でも、これは俺の印象なんだが、日本人がロープ際で関節技をかけている時は、あまりブレイクにならないんだ。これはほんの一部の例だが、そういう意識が重なったから、ある種ディフェンシブになっていったんだと思うよ。

自分でも分かっているよ。ファンを失望させてしまったと思っている。俺はもう2年間もノックアウト勝ちしていないからね。

俺は腎臓を痛めていて、去年（99年）はそれが悪化していた。ティトや小路に負けたことは別にしても、ひどい1年間だったよ。いや、小路には負けたとは思っていないが、判定ではそうなっているからな。本当にひどい1年だったよ。

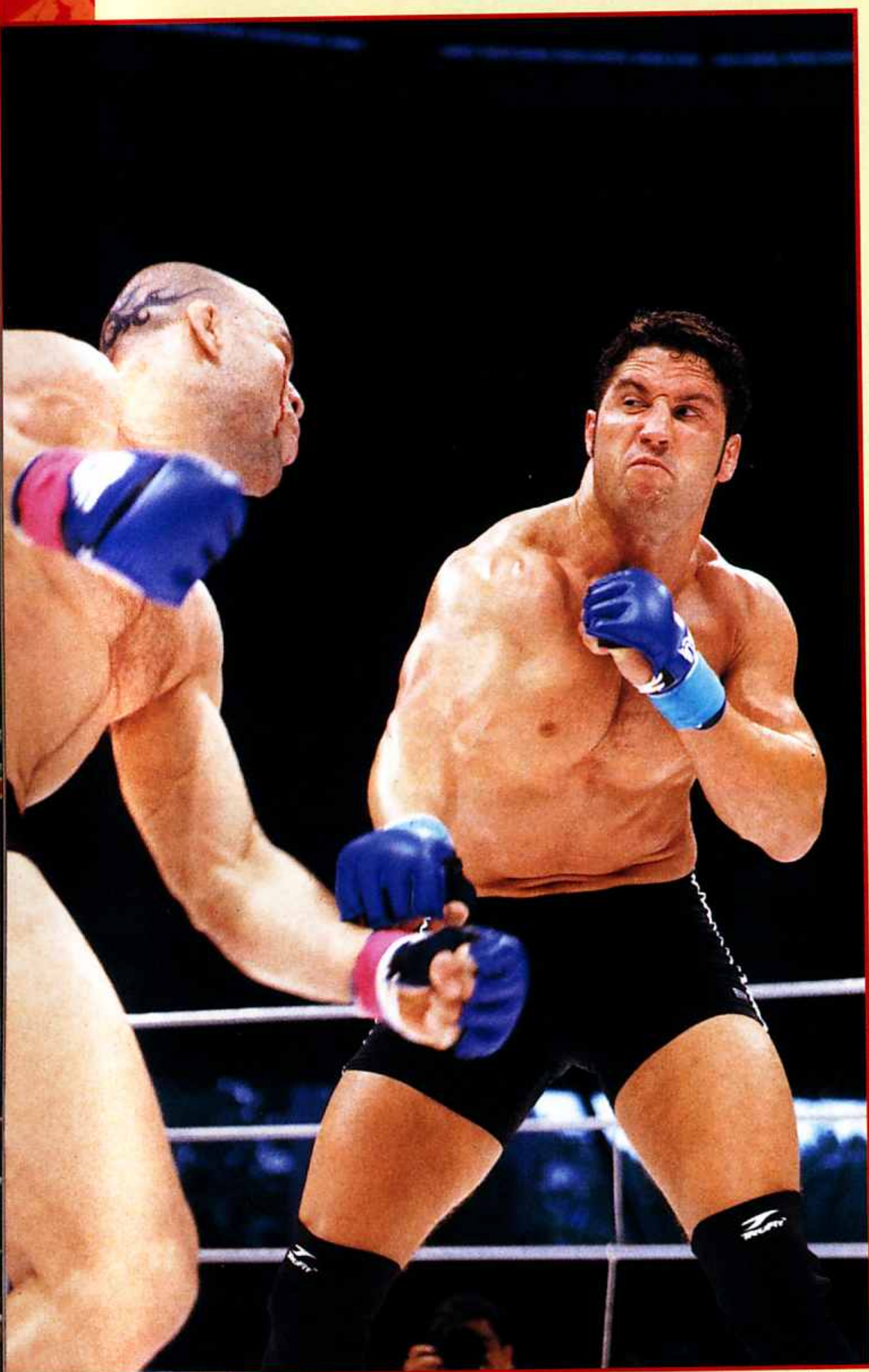
だけど、俺はもう金のために闘わない。自分の尊厳のために闘うって決めたんだ。これは俺自身の尊厳だ。そうじゃないと、ファンの尊敬は得られないことも分かったんだ。特にそれは日本のファンから学んだよ。

アメリカのファンは、選手を直前の1試合だけで判断するのが大きな問題だ。桜庭を圧倒した時は俺はいい選手で、ヴァンダレイ・シウバに負けた時はダメな選手。俺にはどうすることもできないよ。アメリカのファンってのは、いつもこうなんだ。

でも、そんなことは気にしない。俺が気にするのは、俺自身の尊厳なんだ。シウバ戦では、アウトレスリングに徹することも、もちろんできた。シウバに勝った他の選手のように、テイクダウンさせて抑え込む。あいつは、抑え込めば勝てるからね。

でも、俺がやりたかったことはそういう試合じゃない。ちょっと極端だったかもしれないけど、殴り合いをしてノックアウトで勝てると思ったんだよ。ティトは、そんなに強く叩かずにシウバに勝った。ティトにできたんだから、俺にもできると思ったんだ。ちょっと注意が足りなかったかもしれないけどね。

でも、俺は後悔してないよ。俺はあの試合で、勝ちにいった。そして、うまくいかなかっただけだよ。俺は世界中のどのファイターも思ってるように、負けることが嫌だ。でも、俺自身の中では、シウバ戦はある種の闘いに勝ったんだ。

俺は選択した。シウバをテイクダウンして抑え込む安全な試合をするか、キラーモードで倒しにいくか、だ。そして、俺はキラーモードのほうを選んだ。俺は

▲ノックアウト負けしながら、日本では評価が高かったヴァンダレイ・シウバ戦。このあたりからメッツアーのモチベーションは変わってきた

ゲーリーがなぜ『プライド』に出れるか？ ライオンのような凄ェ心を持ってるからだ

そんな自分自身に誇りを持つよ。うまくいかなかったけど、意気消沈はしていない。

俺はもう何年も闘ってきた。ライオンズ・デンの中では誰よりも多い。タイトルだって山ほど取った。だから、もうタイトルなんてつまらないよ。だって格闘技界なんて、誰も彼もが世界チャンピオンじゃないか。そんなもんはもうどうだっていい。俺がめざす試合は、ベストを尽くすことだ。去年の試合やパンクラスで闘っている頃の俺は、ただ勝つのみで心ここにあらずって感じだった。

でも、『プライド』のファンの前で闘うことで俺は変わってきた。『プライド』もそれに対して報いてくれる。そこが『プライド』のいいところだ。俺はシウバに負けたけど、彼らはみんな「いい試合だった」と言ってくれた。アメリカのファンは「負けた」という結果しか見てくれないけど、『プライド』は俺のそういう努力に報いてくれるのが嬉しい。

俺だけじゃない。ゲーリー・グッドリッジを見てくれ。俺は、アメリカのファンが彼に対してファックな批判をするのが耐えられない。

ゲーリーはいいヤツだ。あいつは心を出して闘う。彼はたしかにあまり勝ち星に恵まれていない。でも、最高のファイターじゃないからって、それがどうしたと言うんだ。彼はマザコン野郎たちなら、見ただけで震えあがるような選手を相手に、リングに上がって闘っている。マザコン野郎どもは、「なんで『プライド』にゲーリー・グッドリッジが出れるんだ」って批判しやがる。

そんなヤツらに俺が教えてやるよ。ヤツはライオンのように凄ェ心を持っているんだ。自分が負けると分かっていても、リングに上がって心を出して誰とでも闘う。『プライド』のファンはそういうところに感動しているんだよ。

それに対して、俺なんか安全な試合をして、クソ判定をモノにする選手として知られているんだぜ。ひでぇもんだよ、ホント（笑）。もう正直になるよ。俺は自分の今までの試合・過去の試合については罪悪感でいっぱいだよ。

でも、そんな俺の闘い方もバカにはならないもんだよ。アメリカではみんな、俺と桜庭の闘いを話題にする。なんでドローだったかって。それは俺が、桜庭が望んだ闘い方で闘わなかったからだよ。桜庭に勝つには、俺のような戦法で闘うのが一番いい。桜庭のゲーム・プランをはずしてやるんだ。

桜庭は動き回り、転げ回って速い試合をしようとする。それに乗せられたら負けだ。これが俺の意見だ。試合展開を遅くさせてペースを保持する。桜庭をスロー・ダウンさせるんだ。

桜庭は決して強く打ってこないから、ノックアウトの心配はいらない。アゴにいいのをもらっても、じっと待てばいいのさ。俺には、桜庭よりいいパンチがある。もし、桜庭があと2インチほど近づいていたら、ノックアウトできたか、かなりのダメージを与えることができただろう。

それでも、桜庭は俺のいいパンチをいくつかもらってたと思う。彼はタフだよ。桜庭はニコニコして惑わすから、どれだけダメージを受けたのか分からない。だから、彼と闘う時は頭を使わないといけない。でも、そういう試合はエキサイティングだとは思われないんだけどね（笑）。

桜庭との試合は結局、引き分けとなり、リングに上がってきたケン・シャムロックによって、俺は失格となった。あの試合のどっちが勝っていたなんて議論をするつもりはない。それは、皆さんが自分自身で考えてくれ。俺はまあ、フィフティ・フィフティだったと思っているけどね。

桜庭はたしかにイカしたヤツだ。でも他の誰がなんと言おうとも、俺は思うぜ。「桜庭はニコニコ小僧かもしれないが、みんなが思ってるほど強いわけじゃない」と。

俺は自分の思いどおりに試合を進められた。俺は桜庭に一度も頭を殴られていないが、俺のパンチは何発かヒットしている。桜庭のキックは全部ブロックした。だから、本当に打撃を決めたのは俺のほうだったと思っている。

でも、俺は勝っても負けても言い訳はしたくないんだが、あの桜庭戦の時はインフルエンザにかかっていたんだ。ケンの子供から移されたんだよ。

医者に行って、日本に発つ前日には4リットルも点滴をした。吐き気が続いてずっと薬も飲んでいたんだ。

それでも試合はうまくいったと思っている。不思議に疲れもしなかった。ケンはたぶん、俺のそんな体調を気遣って試合を止めてくれたんだろう。

桜庭戦は試合の2週間前に知らされ、実質1週間しか練習ができなかった。その間にインフルエンザにかかり、足の骨折や腎臓病も治ったばかりだった。そんな俺をケンは心配したんだろう。でも、あの試合で、俺は桜庭攻略法を十分見せつけられたと思っているよ。桜庭に勝つには、あれが一番いいんだ。

でも、そういう悪条件も、選手が勝つ運命か負ける運命かのほんの一部なんだ

▲桜庭が最も苦戦したメッツアー戦。しかし、メッツアーに言わせてみれば、あれが一番の桜庭攻略法だという

桜庭に勝つにはあの方法が一番いい。でも、俺の心は変わったよ!

よ。ヴァンダレイ・シウバとの闘いだってそうだ。逆にあの試合は、俺は絶好調に仕上がっていたんだぜ。桜庭との試合では、桜庭以外のものが俺の敵だったのに、シウバの時は絶好調で負けた。だから、あの時は勝てない運命だったんだ。

なぜ、シウバに負けたのかと聞かれたら、俺は「何も問題はなかった。ただああなっただけだ」と答えるしかない。勝負というのは、そういうものだ。だから、俺は闘いについての考え方を変えることにしたんだよ。

次の対戦相手はアレクサンダー（大塚）だ。あいつはタフなヤツだよ。本当に大変な試合になるだろう。彼がいい試合をさせてくれることを願うよ。

俺はもうタックルされて寝かされて、ヤツが仰向けに倒れ落ちて、俺が立ち上がってなんて感じで試合をシミュレーションしたくない。もう、ディフェンシブな勝ちに徹した試合もしたくないんだ。

アレクサンダーには、驚くべき潜在能力が眠っている。肉体的にとても強いし、レスリング能力もある。パンチも荒っぽいが、パンチ力はある。サブミッションもいいよ。だけどまだ、俺が逃げられないようなサブミッションを持っているとは思ってないけどね。

この試合がどういう試合になるか予測するのは難しいね。彼は多くの試合で違ったスタイルを見せてきた。彼が凄く有利なところは、予測不能な闘いができることだ。だから、実際に試合をしてみなければどうなるか分からないね。でも、彼がスタンドできたら、きっと意識を失うことになるだろうな（笑）。

たしかに、彼はボブチャンチンと闘ったことがある。ボブチャンチンは最強の打撃屋だ。そのボブチャンチンにアレクサンダーは打ち込まれたし、カットもしたが、ひどいダメージは受けなかった。俺はボブチャンチンほどの脅威の打撃屋じゃないことも十分知ってるよ。

でも、俺は自分のルーツに戻った。もう一度ボクシング・ジムに行き、打撃に専念した。もし、アレクサンダーがスタンドでくれば、ノックアウトできるだろう。だから、俺の予測は、ヤツが俺の右拳に向かって走ってきて、次の瞬間、自分のケツの上にへたり込むってことだ。もし、倒れなくても、この一撃が効かなくても、彼はいっぺんにディフェンス・モードになるだろう。

俺はもう今までのような試合はしない。俺自身の試合、つまりスタンドをやるんだ。テイクダウンを防ぐことができれば、誰でも破壊してやるよ。

今、ライオンズ・デンでは、グラウンドで膠着したら、すぐに立たせてスタンドで勝負させる練習をしている。そうやって、プロのオフェンシブな練習をしているんだよ。これは俺自身の考え方が変わったからだ。俺はもうタイトルとか、勝ち負けとか、ファイトマネーのために闘うことをやめた。これからは、俺自身の尊厳のためだけに闘う。俺のプライドをリング上でぜひ見てほしい。

いかがだろうか。これは、アレクサンダー大塚戦の前に行ったインタビューだが、メッツアーはこのインタビューどおり、アレクを秒殺しているではないか。これは全て、メッツアーのモチベーションが変わったからだったのだ。

メッツアーは、西武ドームでのヴァンダレイ・シウバ戦から、明らかにモチベーションが変わってきた。今や"ガイ・メッツアー現象"と呼ぶほど、膠着がひとつの味になるようなイメージになってきたメッツアーだが、『プライド』のファンによって、その意識を変えられたのである。

もう、メッツアーのことを「膠着大王」と呼べなくなる日は近い。モチベーションが変わったことで、ファイターの闘いがどう変わるのか? その意味でも、今後メッツアーの試合を見るのが楽しみになってきた。■

▲アレクを秒殺KOしたメッツアー。これは偶然ではない。メッツアーの気持ちが変わったからこうなったのだ

▲もう「膠着大王」なんて呼ばせない。今後のメッツアーの闘いに注目だっ!

エンセン井上の座右の銘。エンセンは現役選手として、それを100％全うできたと言う

エンセン井上のモチベーションは是か非か？

「もしお兄さんが誰かに殺されたらワタシ、すぐに復帰するヨ！」

男で生きたい
男で死にたい
男になりたい
大和魂
エンセン 井上

デビュー当時は完璧に柔術スタイルだったエンセンは、その後、殺るか殺られるかの野蛮人ファイターに変身した。そして、『プライド12』での引退を匂わす発言。まったく膠着とは無縁の、この男のモチベーションを探る。

聞き手◎谷川貞治
撮影◎山口比佐夫

ケアーと闘って心が折れてるウゴを見て、ワタシ、心の勝負をしてみたくなった

――今日はエンセンさんのファイトスタイルについてのお話を聞きに来ました。

エンセン ハイ。

――今、格闘技界で、膠着する試合が非常に問題になってるじゃないですか。『プライド12』でもそうだったんですけど、せっかく人気が出てきているのに、これはもったいないと思うんですよ。

エンセン そうネ。そういう試合になる理由は2つしかないと思うネ。一つは「怖い」。選手はケガしたくないから、自分の強いところしか出さない。あともう一つは「勝ちたい」だけ。でも、頭良いと思うヨ。私も「勝ちたい」試合をしたいんだけど、ゴング鳴ったら、気持ちが入っちゃうから。ホントは格闘技の目的は、相手を倒すことでしょ。でも、みんなは試合する時、まず「怖い」と「勝ちたい」を考えちゃうんだろうネ。

――それは選手の気持ち次第ですよね。

エンセン そうと思うネ。

――今言ったように「勝ちたい」という気持ちの選手と、エンセンさんのような「相手を破壊したい」というモチベーションの差というか。バンナやボブチャンチンもそういうタイプだけど。

エンセン 自分も総合だから、寝技、立ち技、組み技全部できる。立ち技はあまり良くないけど、0%じゃないから、そういう闘いになっても、その日の自分の100%出したい気持ちネ。そういう考えをワタシはしてる。もし立ち技なったら、立ち技怖いから、ヘタだからといって「勝つだけ」の寝技にいきたくない。それ、男らしくないと思う。そういうギャンブルになっても、ワタシやりたいね。

――でも、僕はずっとエンセンさんの試合を見てきたんだけど、エンセンさんは最初、100%のグレイシー柔術スタイルでしたよね。

エンセン うん、完璧そう。ゆっくり安全な試合をしてたネ。

――あれはあれで僕は凄いと思ったんですよ。当時、日本人で柔術できる人なんていなかったから、この選手は強いなぁと思ってたんですよ。

エンセン 時代のタイミングは、たしかに良かったネ。でも、その時は、自分を抑えてたネ。あと、自信もなかったヨ。立ち技やりたくないし、今で言えばアイブルの逆の状態だった。

――そんなエンセンさんが今はムチャクチャというか、急に〝野蛮人ファイター〟みたいになっちゃったじゃないですか(笑)。それは、なんでなんですか?

エンセン そうね、だからテクニシャンと野蛮人の間で止めておけば良かったネ(笑)。

――あれは「大和魂」って言葉を使うようになってからですか?

エンセン いや、ワタシね、技術に関しては、ランディー・クートゥアーの腕を取って勝った時に、世界のトップと認めたネ、自分でも。でも、それからマーク・ケアーとウゴの試合を見て、ウゴみたいなホントのケンカ屋でバケモノみたいな感じの人が、ケアーに対して怖くて逃げてたでしょ?

――ああ、心が折られてましたよね。

エンセン そうそう。たとえば、ハスキー犬がいるでしょ。あれを洗っちゃうとフサフサの毛が全部ペチャンコになる。ウゴもそんな感じだった。それを見た時、ケアーとやりたいと思った。どんなに怖いんだろうって試したいと思ったヨ。人間的に、怖さをたくさん知ったらまた勉強になるじゃない。そんな怖いこと知ったら、これから、奥さんも子供も、怖い状況になっても守れると思う。それから、怖い人とばっかりやりたくなった。だから、ケアー戦とボブチャンチン戦と連続して体験しても全然平気だったヨ。

――怖い気持ちを格闘技で体験したい、試したいと。

エンセン そうネ。心の勝負をしたかった。

――でも、その心の勝負をする場合、その怖さを、技術を上げることでなんとかしようと思わなかったんですか?

エンセン 技術的にはワタシ、極められる力あると思うよ。でも、怖くても殴り合うほうが、リスクがあるし、ギャンブルじゃない。男みたいに勝ってもいいし、負けてもいいし。だから、サラリーマンで、給料も決まってて安定したらいいよね。でも、ワタシはゼロとか、マイナスになってもリスクのある闘いがしたい。そのほうが勝った時に、もっとたくさん儲かるでしょ?

――グレイシーが負けないのは、やっぱりリスクをできるだけ少なくしようとしているからですよね。

エンセン そうネ、それあまり意味ないと思うヨ、ワタシ。闘う時に、「勝つ」こと大事。だから、どういう手段でも、相手を選んでても、桜庭から逃げても勝とうとする。目的はグレイシー柔術を守ること。でも、ワタシはそういう生き方選びたくないヨ。負けないことというのは、心の勝負とか、人間的に強くなるとは関係ないと思う。

――エンセンさんには、グレイシーのように、何かを守ろうという意識はないんですか?

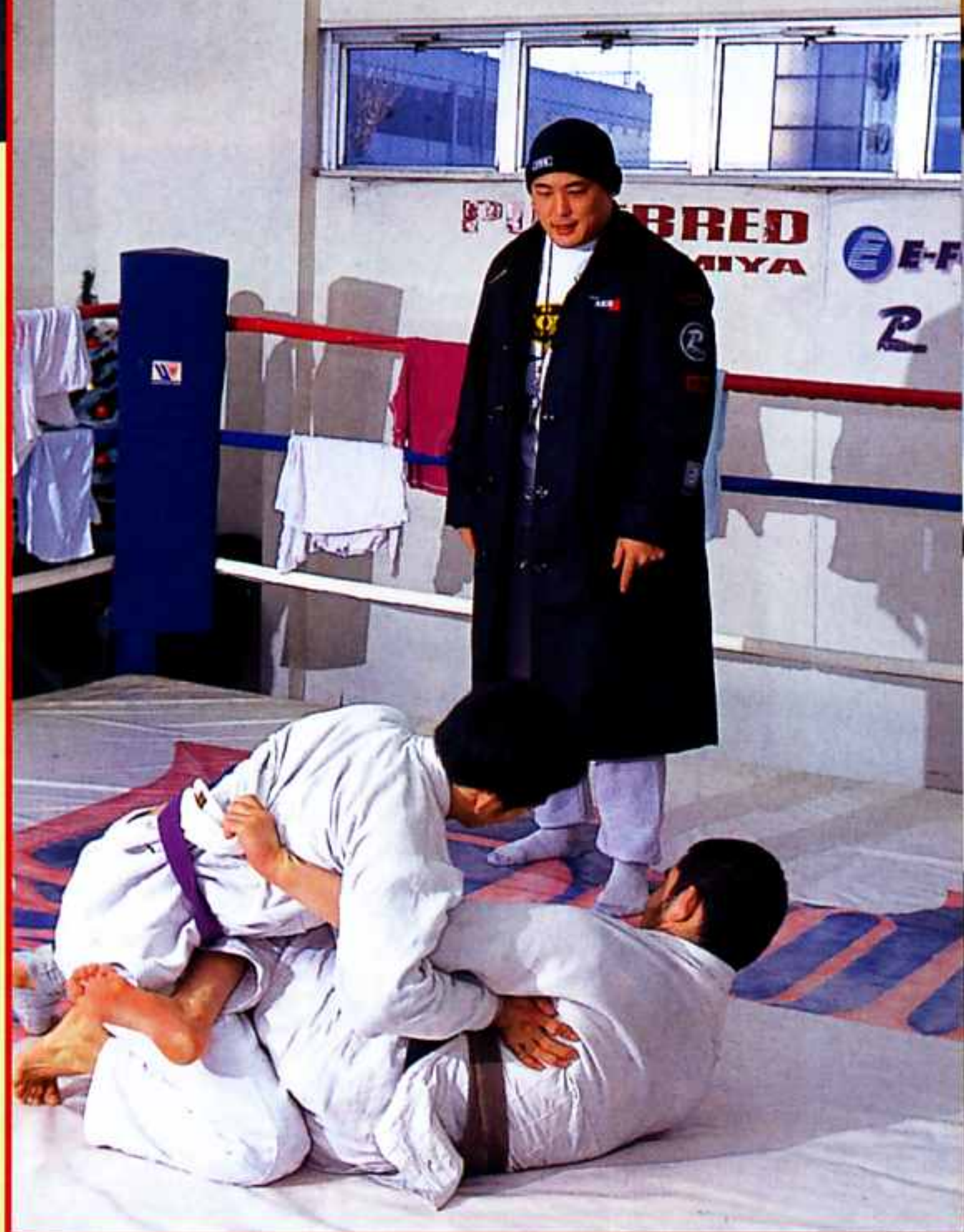
エンセン 心の強さ。試合の中で、自分の心の強さを守れなかったら、家族も友人も守れないヨ。だからワタシ、ボブチャンチン戦のあと、怖いもの何もないヨ。

――へぇ～。あの試合は正直、怖かったんじゃないですか?

エンセン いや全然! みんなは「大和魂ってスゲエなぁ」と言うけど、ワタシそこまでも考えてなかった。「あ、パンチ当たったな、また当たっちゃった。効いた。これは気を付けなくちゃ」ばかりだった。「やめよかな～、どうしよう、コワイコワイ」はまったくなかったヨ。

――あの最初の殴り合いは凄かったですねぇ、何度、見ても。あんなの見たこともないですよ(笑)。

▲エンセンにとってポイントだったボブチャンチン戦。約10分間にわたって、下になって殴られ続けたが、その心は最後まで「まいった」を言わせなかった

身体の問題じゃない。ワタシまだできる
でも、自分は心で闘うタイプだから

エンセン ホントもう、恥ずかしいネ、ちょっと（笑）。自分でも「技術ねぇ！」と思うもん。

——でも、ボブチャンチンもエンセンさんと同じ気持ちでパンチを振り回したでしょ。

エンセン そう！ いいね！ スゴイ嬉しかった。犬が新しいオモチャ噛んでるような感じで「ウワーッ」って（笑）。夢のような闘いだったヨ。ワタシ、それがやりたかった。ケアーとはできなかったけど、ボブチャンチンならできるなって。

——普通はジャブ打ったりとか、ローキック打ちながら打撃をし合うのが立ち技ってもんでしょ。でも、エンセンさんの場合は、スタスタスターと歩いていって、いきなり殴るじゃないですか（笑）。

エンセン そう。チョコチョコやるんじゃなくて、「殺スヨー」みたいな感じで。相手も用意できなくて、ビックリする。

——そんなことする選手いないですからね、世界中見渡しても（笑）。

エンセン 自分でもエンセンと闘ったら困ると思うヨ。「どうするのこの人？」って（笑）。でも、いいんじゃない？ それがワタシの自然だもの。

——なるほど、でもそもそもエンセンさんは自分のこと気が強いと思います？ それとも、本当は気が弱いからそうなろうとしているんですか？

エンセン 全体的に？ 普通と思うヨ。格闘技だけ見ると、みんなは強いと思っているけど、みんな普段のエンセンを見てないから。車運転しながらヒドイことされると、もうケンカしたいと思うし、食事の前にポテトチップとかチョコ食べるのは良くないのに、家にあると我慢できずに食べちゃう（笑）。それも弱い。あと、パチンコやってても、2千円と決めてても、5千円やっちゃうヨ（笑）。そういうところは、心弱いネ。だから、ワタシより大和魂持ってる人はたくさんいると思うヨ。

——僕は凄く失礼なんですけど、エンセンさんはどこか気持ちの弱い部分を持ってて、それに立ち向かおうとして、ああいうファイティング・スタイルになってるんじゃないかなと思ったんですけど。

エンセン あっ！ そんなことないなぁ。

——そうかぁ。でも、エンセンさんの闘いを見ていると、そういう試合をすることがファンを喜ばせていると思うんですよ。でも、それは大変だなぁ～という気がするんですね。だって、毎回命を削りながら闘わないといけないじゃないですかぁ。

エンセン あ～、でももこれがワタシの自然だから。ファンからそうやらなくちゃと期待されてるから、やってるんじゃないネ。自分が自然にやってたら、それをファンが認めてくれた。もう、それは素晴らしいと思う。ホントは、もっとケアーとワタシ殴り合いたかったヨ。でも、ケアーはファンを喜ばせるためにそれはできない。それがケアーの自然だから。ケアーとの試合、ワタシは少し残念だったけど、ワタシの自然とケアーの自然がちょっと違ったネ。でも、ボブチャンチンとはそれができたってことです。ケアーとボブチャンチンがやった時も、ファンはもっとケアーに殴り合ってほしかったと思う。それはケアーにとっては、プレッシャーになっただろうネ。でも、ワタシにはそんな気持ちは全然ないヨ。ワタシはボブチャンチンと、自分がそういう試合をしたかったんだから。で、ワタシはいつもその日の100％出せてると思う。

——でも、それを続けることっていうのは、命を削ることになりますよね。それを見せ続けるのはシンドイでしょ。

エンセン うん、だからみんなに分かってほしいのは、こういう選手はあんまりいないと思うけど、長く続けられないと思うヨ。

——ああ。

エンセン だからワタシも、リング上で「引退」って言葉は使ってないけど、とりあえずヒーリング戦がラストファイトだと思うヨ。今の気持ちは、ちょっと使い切っちゃったな～って感じ。だから休憩したい。

——それは、リング上で死んでもいいという気持ちが持てなくなったってことですか？

エンセン そうネ。みんなに分かってほしいのは、ワタシ気持ちの選手だから、気持ちで闘ってる。みんなに入場がカッコイイって言われても、入場なんか全然カッコよくしてない。アレクサンダー大塚のように面白くしようともしてない。ワタシはもう自然。試合の当日だけじゃないヨ。その2カ月前の練習から、もうずっと命賭けて練習する。だから、こういう選手は長くできないと思うヨ。

——あの～、引退ではないんですか？

エンセン まったくもう絶対出ないという引退じゃないけど、いつまた出るともまったく言えない。でも2、3年休憩したらもう終わりじゃない？

——今、33歳ですよね？

エンセン そう、でもトレーニングも続けてやってるし、1年で出てくる可能性もある。だから、全然分かんないネ。ワタシ、ファンや『プライド』の人をだまして出ることできない。ヒクソン・グレイシーみたいに、一年間延ばして延ばして、グダグダも言わない。だから、みんなエンセンの言葉聞いてほしいネ。負けたからの引退じゃない。気持ち、100％満足したから、今はもうできない。終わりです。

▲「自分が闘わなくても、弟子がチャンピオンになれば、自分のことのように嬉しい」と語っていたエンセン

▲これでもう本当にリングには上がらないのか？

スペーヒーは上になって何もしなかった そんなの意味ないヨ。オナニーと一緒！

——ヒーリング戦の時に、目にバイ菌が入って腫れてたのもあったんですけど、僕は最初からエンセンさんのモチベーションが下がってたような気がしたんですけど？

エンセン そんなことないと思うヨ。あっそうそう、目もタイでなったんじゃないよ。テレビで言ってたじゃん？　あれ、タイから帰ってきて、1週間後に感染しちゃった。だから、変な病気じゃないヨ（笑）。

——あ、そうなんですか？　スミマセン（笑）。

エンセン でも、目のことはたしかに大変だった。もう目が開かないし、涙どんどん出るし、汗入ったらもう大変。入場のあとに、ライトがバーンと光ったら、少ししか見えなくなっちゃった。練習も、最後の1週間くらい、凄い辛かったヨ。目を閉じて練習してたからネ。

——目を閉じたまま！

エンセン でも、感動したこともあるネ。病院に行ったら試合もやめたほうがいいと言われて、無視したけど、伝染するから誰ともスパーリングできなくなっちゃって。試合の前に、いつもキックの練習している渡辺ジムの渡辺先生に電話したんだよ、困ってて。「今、ものもらいできて、人と練習できないヨ」と言ったら、渡辺先生「来い！　オマエ」って言ってくれた。「でも移りますよ」って言ったら「関係ねぇよ！　試合4日前でしょ、いいから来いよ、オマエ！」って言われて、その時、ホント凄い涙出たよ。電話してて。それで、凄くいい練習できたんですけど、試合前日にも電話がきたの。6年間付き合ってて、初めてネ。

——えっ？　なんて言ってたんですか？

エンセン 「目、大丈夫か？」って。ワタシ「大丈夫です。闘う時は相手も近くだから大丈夫です」って言ったんだけど、試合後、渡辺先生に電話したら「オマエの気持ちがいつもと違ったから電話したんだ」と言ってた。渡辺先生は最後だって、分かってたんだなぁ〜と思ったヨ。

——いい話ですね。

エンセン でも、お正月にも練習行ってきました。引退の気持ちがあっても、自分は練習しながら弟子を教えたいからネ。そうしたら、渡辺先生の目、ものもらいできてた（笑）。

——ああ、エンセンさんのが移っちゃったんだ（笑）。

エンセン そうそう（笑）。それで、「オマエに移されたんだぞ！　いや〜、コレかなり痛いぞ！」って言われて。あとからマネージャーの酒井さんが渡辺先生に呼ばれたんだけど、「あれじゃ、距離感もつかめないし、リングに上げさせるべきじゃなかった」と言ってたみたい。厳しい先生なんだけど、「直接言えないけど、見直した」って言われて、嬉しかったヨ。

——はぁ〜、今度エンセンさんがリングに上がるのも、やっぱりモチベーション次第ですか？

エンセン そうネ、いろんなきっかけがあると思うけど、でも今もちっちゃい火は燃えているヨ。安定してるネ。

——それは誰かそういう相手が現れたら、もっと燃えるってことですか？

エンセン それはいないネ。べつにやらなくてもいいし。ボブチャンチンやシャムロックと再戦してもいいけど、もうやらなくてもいい。でも、みんなに分かってほしいのはワタシいつでも闘える状態。まだ、2、3年は闘えるよ。身体の問題じゃないヨ。気持ちの問題。

——エンセンさんは膠着するような、自分のスタイルを変えた闘いは好きじゃないですよね。

エンセン やだねぇ〜。自分の中で一番辛かったのは、マリオ・スペーヒーとやったアブダビでの試合。

——あ〜、あれ。

エンセン 抑えるのがうまくて、でも何もしない。できるのに、やらない。ワタシより重かったし、技術もうまかったし。そういう試合なら余裕でできるヨ。だから、ワタシ試合中に話したもん。「アンタ、何もしないの？」って。そしたら「エンセンは危険だから、気を付けます」って言われたヨ。「このままじゃなくて、極めに動けよ！」って、ワタシ言ったヨ。でも、「危ないからヤダ」って言う（笑）。もうビックリしたよ！

——ハハハハハハハ！

エンセン カーウソン・グレイシーも、そうやって闘わない選手のことを「オナニーしてる」みたいに言ってたヨ。だからワタシ、試合場の近くで見ていたカーウソンに手でオナニーのマネして、「コレか？」って合図したネ（笑）。もう、ワタシ抑え込まれながら、笑っちゃったヨ（笑）。

——（笑）。まさに本当の膠着ですよね。

エンセン そういう試合、なんの意味あるの？　スペーヒーはアブソリュートで優勝してるから技合わせたいと思ったけど、やってみたらつまらなかった。

——そういう格闘技は絶対にやりたくない、と。

エンセン 今はそうネ。だからワタシ、モチベーション凄く上がるのは、お兄さんが誰かと闘って殺されたら、完璧に出る。もう仇討ちするネ。そいつ殺すヨ。

——んあ〜、エンセンさんらしい（笑）。

エンセン そうね、だから全て心の問題。ワタシ、心で闘うし、心で友達作りたいし、心で家族を守りたい。Hも心でしたいヨ、アハハハハハ（笑）。■

▲膠着問題を考える時、エンセンのような生き方は是か非かを考えることは重要である

膠着しないボクサーの特徴は、殺傷本能を持っていることだ

ボクシングにおける“膠着”とは何か？

文◎宮崎正博
（ボクシング・ライター）

「膠着」って、ボクシングではどういう状態を言うのだろう。両選手がともに間合いを測るだけで、パンチが出ないって感じなのかな。となると、一言で片づけられる。要するに**能力が低い**のである。対戦相手の攻め手をシミュレートできない。仮に読めたとしても、**ウスノロ**だったり、**非力**だったりで対処できない。と、そういうことになる。

　もっとも、さまざまなテキストブックの詳細まで貯蓄でき、トレーナーから与えられる情報も完璧に処理できるボクサーが、対戦相手を弄ぶって、平坦な展開のまま操ってしまう状況まで含めて膠着と呼ぶのなら、はて、困る。ボクシングを学ぶと言うことは、そういう状況を手軽に作る技術を養成することなのだ。闘う相手がやりたいことを何食わぬ風でやり過ごし、攻防の手だてをもぎ取ってしまう。それから、パンチを集めて、そそくさと自分が勝つための要件をすませてしまう。つまり、対戦者を**『だるま』**にすることなのだ。

　ただし、だ。われわれボクシングウォッチャーは、彼ら優秀な技術者を単に**『いいボクサー』**と呼ぶ。決してスーパーとは言わない。『いいボクサー』を見てその修練を確認するのは、熱心なマニアだけかもしれない。もっと上、スーパーボクサーというべき存在は、われらの理解をそうそうは許さない者たちだ。彼らは手練れの技術で対戦相手を真っ白な『だるま』にした後は、超常の知謀と能力をもって好き放題に『へのへのもへじ』と書けるのである。

　優秀な技術者からスーパーボクサーへ。その間には昔の城塞のような重くて厚い扉がある。そこをノックし、なおかつ開け放たせたいとしても、方法は残念ながら天分にしかない。その第一のキーワードは、**キラーインスティンクト**である。日本語にすると、**殺傷本能**とまことに物騒な言葉になる。すでに足かけ2世紀になる近代ボクシング史の中で、「偉大な」とまず先に呼びかけられるボクサーたちには、みんなこれがあったのだ。

　適切なモデルと言うなら、**マーベラス・マービン・ハグラー**だろうか。1980年代に無敵を誇った、この左利きの世界ミドル級チャンピオンについて、**あのヒクソン・グレイシーがかつて「自分以外にもっとも完璧に近い格闘技者」とコメント**したこともある。ハグラーはそれほど完成度の高い技巧の持ち主だった。どんな相手に対しても軽くあしらい、コントロールできた。だが、それだけではマーベラス（最高級の）ということにはならない。ハグラーが凄かったのは、一瞬にして**キレる**ことができるところだ。

　たとえば、1984年のムスタファ・ハムショ戦だ。シリアからやってきたハムショは、反則すれすれのダーティ・テクニックを得意とし、しかも無類のタフガイときている。3年前の対戦でも、ハグラーは手ひどいバッティングの洗礼を受け、試合後も怒りまくっていたもの。そこで今度は最初から本気だ。一目散にラッシュを仕掛け、たったの3Rでハムショをノックアウトした。

　翌年のトーマス・ヒットマン・ハーンズはもっと危険な相手だった。『暗殺者』とともに『マシンガンを持った哲学者』というニックネームもあったハーンズは、徹頭徹尾攻撃的な長身のハードヒッターだ。しかも初回からハーンズは、スタミナ無視の殴り合いに出てきた。ハグラーはすかさず危険な立場にあることを悟った。テクニックをかなぐり捨てて、ハーンズと真正面から対峙した。まさしく**『塹壕の打撃戦』**と評されたとおり、猛烈なパンチの応酬の末、ハグラーは無慈悲な右フックでハーンズを失神させる。これも3Rの早業だった。

　本能のおもむくままと言ったら、**辰吉丈一郎**もそうなのだろう。彼は日本ボクシング界の生んだ最大の天才だった。技術の吸収量が常識外れだった。どんな優れた技巧も、見よう見まねで一夜のうちに自分のものにできた。だからたった8戦で世界一にもなれたのだ。ただ、辰吉の場合は気性が真っ直ぐに過ぎたのだ。あざとい知略に走るより、正面切ってぶちのめすことを好んだ。彼が世界の頂上に長くとどまれなかったのには、不運な目の負傷以外にもそういう事情もあるのだろう。もっとも、その正直さ、**一本気のエモーション**によって、ファンの熱烈な支持を取り付けることができたのだ。熱に浮かされるように攻めだけにはやる辰吉の試合に、一切の膠着はなかった。

　キラーインスティンクトをあからさまにしないクチなら、やはり**モハメド・アリ**である。彼こそは**ボクシングの神**である。自分の中にある才能の泉が、どれほど豊かに水をたたえているのか、アリはよく知っていた。しかも、相手を打ちのめすだけに使い果たすのでなく、そのこぼれ出る水で観客にア

ピールするコツを編み出した。

両手をダラリと下げる。おどけたように両足をシャッフルする。相手のパンチを鼻先三寸でヒョイヒョイとかわし、鋭いカウンターを突き立てる。まさしく「蝶のように舞い、蜂のように刺す」である。その上、試合前から予告KOされる。試合中にもアリのお喋りはやまない。戸惑った相手が手を休めると「おーい、ノロマくん。もっとガンバレー」。たまにパンチがかすめると「いいぞ、その調子。もっとだ。1・2、1・2」。最後には「**オレは美しい。キミは醜い**。どうだ、おれは偉大だろう」とくる。

やられた相手はかなわない。徹底的にやりこめられ、劣等感の塊になる。桜庭に『恥ずかしいポーズ攻め』や『パンツ見せ見せ』をやられたホイスと同じような心境だろう。マイナスの発想からプラスは決して生まれないのだ。それでもファンにはこれがたまらない。ちょうど演壇に立つ弁士の社会の窓が、パックリと開いていたと考えてほしい。聴衆は大喜びでも（違った意味で）、当の弁士は二度と立ち直れまい。

そのアリも徴兵拒否による3年間のブランク後にカムバックしたときには、超人的なタレントもあらかた枯れていた。その後は、**知恵とひらめき**だけに頼った。1974年、推定300キロ、牛をも倒すと呼ばれたジョージ・フォアマンの豪打に耐え抜き、逆転KOを飾った一戦などがその典型だ。99％、アリの勝ちはないと言われた。一発でもフォアマンのパンチを受けたらそれで終わり、とも言われた。アリはそれでもフォアマンのパンチを受け続けた。緩いロープの反動と両手のブロック、極小のボディワークで極限まで耐え、フォアマンのスタミナがなくなるのをじっと待ったのだった。

あのザイールの奇跡以来、アリの試合に膠着はない。どんなに平々凡々の展開でも人々は考える。「アリには何かの考えがあるはず」。もはや神となったアリは、何もしなくても万人にそう信じ込ませた。こういう形で膠着を幻想とさせる手だてもある。ただ、言うまでもなく、誰でもできるというものではない。

いわゆるボクシングの技術体系は、基本の積み重ねである。弁護士と同じように判例を知っていれば知っているほど有能と言うことになる。そんな常識をぶった切っているのが、現役の人気者**ナジーム・ハメッド**（英国＝フェザー級）である。一見しただけでは、ハメッドはむちゃくちゃだ。**基本はまるでゼロ**。手打ち、大振り、ノーガード。それでも大抵はもの凄い一発KOで対戦者を仕留めてみせる。ベリーダンスに身をくねらせ、ときには空飛ぶ絨毯でやってくる入場シーンも人を食っているが、だけど人気は凄まじい。彼はリングの中だけで年15億円は稼いでいる。人々はハメッドのアクロバット・ボクシングに、日々の生活にない夢を見ているのだ。

さて、天才ばかりを紹介しても仕方ない。プロボクシングが、それなりの選手でも試合を見せられるように、どう膠着問題を解決してきたか。これは試合を短いテンポに区切ることに尽きる。19世紀、まだ素手で闘っていたころ、勝負は無制限一本勝負だった。ルールも現在と違い、投げ、絞めありの、言うなれば打撃ありのグレコローマン・レスリングというふうだ。試合時間2時間、3時間当たり前で、流血、残酷シーンも続出だった。これではならずとグローブ着用、3分間1Rという制度になったわけだが、最初のころはタイトルマッチで45回戦、ときには75回戦、普通の試合でも20回戦というマラソンファイトである。そういうことでは、早い勝負には決して出られない。その後、安全性向上の意図を込めて世界戦も15回戦、12回戦と短縮され、スピーディな攻防を可能にしたのである。今や海外のそこそこのレベルならコンビネーションパンチの応酬で、思い入れさえ重要視しなければ、どんな試合でも楽しめるようになった。もっとも、これはマニアに限っての発想だけど。■

©ユニフォト・プレス

MIYAZAKI'S NO MORE

格闘家のまだ誰も答えを出していない難問！
膠着打破の答えは、古武道にあり！

文◎山田英司
（『格闘Kマガジン』編集長）

やる側の理論家は"膠着"をどう分析する？

膠着状態をどうすれば打破できるか？　こんなテーマを特集するなんて、『SRS・DX』とはなんという雑誌だ。いや、非難しているのではない。実はこのテーマは格闘技業界で最も難しいテーマであり、誰も解答を得られていない**最後の難関**なのだ。

むしろ、この問題が解けないからこそ、武道・格闘技業界は活況を呈してきた。

この難解なテーマをもう一度整理してみよう。まず、格闘競技で2人の選手が見合ったり、動きが止まったりする膠着状態になるには、大きく分けて2つの理由が考えられる。

①スタミナ切れ。パワー不足、攻め手のパターン不足などの理由で、体が動かなくなる。キックの3回戦などでの膠着状態は、ほとんどこの1番目の理由だ。**おおむね練習不足**が最大の原因。

かつては、プロのボクサーやキックボクサーは怪物のような人間たちが闘う異次元の世界だったが、今では、誰でも簡単にリングに上がれてしまう。

競技者の層は拡大しても、ピラミッドの頂点が下がっているため、今日のプロ格闘技の膠着状態の最も大きな原因が、このスタミナ不足だ。

②カウンター狙い。先に手を出したほうが不利になる状況下。カウンターが得意なテクニシャン同士の緊張した見合いなどはこのパターンだが、あまり長く続くと、レフェリーから「ファイト！」と声をかけられてしまう状況だ。タイトルマッチなどの大事な試合で、互いに負けられないと思って闘ったりすると、この状況が続き、**凡戦の判定**となる。これもよくあるパターンだ。

総合系で、マウントに近い状況で動きが止まってしまうのも同じだ。ホイラーなどは下になり、相手のミスをじっと待つカウンター式のグラウンド技が得意だった。

さて、以上説明してきた膠着状態は、いわゆるプロのリング格闘技をモデルに解説してきたが、実はこの構造は、**武道の発展段階**にも比定される。

武道や格闘技の理論も、いかに相手との膠着状態を有利に突破するか？　それを先人たちは、必死に考えてきたのだ。我々が考える前に先人たちが出した答えをここで少し紹介してみよう。

まず、近年になって格闘技理論が発達したきっかけは、**南郷継正**という空手家が「武道の理論」を30年ほど前に発表してからだろう。

弁証法という手法を用いての科学的理論は、当時、空手界に大きな衝撃をもたらしたのだ。南郷氏は多くの著作があるが、その概要は複雑ではない。**基本技をしっかりと身に付ける。**この一言に尽きる。なあ〜んだと思われるだろう。しかし、当時は、この簡単な事も理論化されていなかったのだ。剣道などの武道は、最初から人を斬れる道具があるが、空手や柔道など、素手の格闘技は、まず、無から武器を作らなくてはならない。それが技であり、基本の反復により、良質転化が起こり、人を倒せる武器、すなわち技が身に付くという理論。空手が基本の技を何千、何万と繰り返すのは、**手足の武器化**を行っているのであり、この武器を手にする前に自由に闘っては、ゴリラのダンスやシャモのケンカになってしまうという。

そう、まさに3回戦のキックボクサーの膠着状態は、この武器を持たない両者が闘っているため、いくら殴っても蹴っても相手が倒れず、結果、スタミナ切れしてしまうのだ。

これは何もキック界に限ったことではない。正道会館などは、早くから組手を行うことで、多くのテクニシャンを育てきたが、逆に南郷氏の言うように、武器を持たない空手家を数多く作る弊害も生み出した。

キックのリングサイドで、ジムの会長たちがよくこんな言葉を口にする。「今の選手はうまいけど、**昔の選手のほうが強かったね**」。そう、理論など知らなくとも、ジムの会長たちは、経験で南郷理論を理解している。昔はキックもムエタイも知らなくとも、空手の有段者や猛者たちが腕自慢でキックのリングに上がった。その打ち合いは迫力満点で、KOも続出。当然、膠着も少なかった。今で言えば、バンナとベルナルドのような選手同士がぶつかり合っていたのだ。

さて、しかし両者とも武器を持っていた場合、ここで初めて技の使用法が問題となる。いつ打つかという問題である。

ここで、2番目のカウンター狙いの問題が出てくるのであり、この分野で理論化を進めたのが、**富樫宜資**という空手家だ。『空手バカ一代』にも登場する富樫氏は、自分の空手理論を伝える無門会という組織を作り、現在活動している。

富樫氏は、**カウンターこそ最強**であり、そのためには、攻撃力を養った後に、完璧な受けを作らなくてはい

DEADLOCK!

けないと説く。

そのため、相手にパンチを打たせ、これを受け、殴り返す稽古を徹底して回数行うことにより、反射的にカウンターを打てるようにした。この境地を「受即攻」と呼んでいる。

空手界は、現在ここまで理論化が進んでいるが、実は膠着状態の2の段階まで進んだだけで、本テーマの解決には至っていない。そこで、3番目の理論は何か？　ということに焦点が絞られる。

現在の注目の格闘技界の理論家の筆頭としては、**高岡英夫**が挙げられるが、氏の理論は身体意識という、個人の内面に向かってしまったため、対人の理論としては停滞中である。

というより、第3ステージを、格闘技界は模索中であり、このスペースでとうてい解答が出せる内容ではない。べつな言い方をすれば、**第3の理論**は百花繚乱であり、珍説、奇説まで出回っている。

しかし、それではこの原稿の収拾がつかないので、少し整理して紹介しよう。

まず一つは、膠着の原因は、おのおの格闘技ルールによって決まるので、その解決法も一様ではないということ。打撃格闘技ならば、つかんでいいのか？　首相撲はいいのか？　投げはいいのか？　グラウンドの攻撃はいいのか？　そのルールの採用法により変わってくるので、答えようがない。ここは、むしろ、格闘競技のワクをとっぱらって、格闘技界の興味の対象がどちらの方向に向かっているかをチェックし、その解決の糸口にしたい。

現在の格闘技界、特にやる側の人間たちの興味は、**伝統武道への復帰**傾向が見られる。具体的に言えば、合気道や中国武術などの、これまで神秘系と見られていた武道の見直しだ。それらの古武道には、現代格闘技で失われつつある、**崩しの理論**がある。俗に合気、と言われたり、化勁と呼ばれたりする技術である。

具体的には、相手と手などを接触して、それを媒体にして、相手の体勢を崩せば、自分の攻撃を入れやすい。すなわち、膠着状態を打破できるのではないか。

実は、個人的なことになるが、私が池袋で中国武術の指導と理論公開を始めたのも、この第3のステージの模索のためだ。その研究は、一言で言えば、**「接触してからの崩し」**に要約されるのだが、私は、この方向こそが、今後の格闘技界自体の膠着を打破する理論だと確信している。なぜなら、その理論を実際に体現し、成功を収めた人物がいるからである。

日本で最初にムエタイを打倒した男、**藤原敏男**である。先日、ジークンドーのダン・イノサント氏と藤原敏男氏のジムを訪れたが、そこでまったく関係のないと思われていた両者が、極めて技術的接点があることが判明した。

ジークンドーはトラッピングという相手の手をはたいて封じる動作が得意だが、実は藤原氏の打倒ムエタイの秘策も、両手を接触して相手を崩してから攻めたため、リーチの長いタイ人を捕らえ得たのだ。

伝統武術を追求することによって、明かされた藤原敏男氏の強さの秘密。第3のステージの扉を開ける鍵は、我々が普段見落としがちな、**古武道の中にその秘密**が隠されている気がしてならない。■

YAMADA'S NO MORE

「膠着」は今や時代と21世紀のテーマ。それを打破できるのは〝異能の人〟なのだ！

文◎ターザン山本
（真のクリエイティブ・ファイター）

最も膠着に縁のない人が、膠着について総括する！

まったくの余談だが先日、映画『ダンサー・イン・ザ・ダーク』を見た。この映画はストーリーを言ってはいけないという暗黙の了解みたいなものがあるので、書きにくいところがある。

女性が見たら多くの人は、ラストシーン近くになるとすすり泣きをしてしまう。まあ、そういう映画というしかない。

でも、お涙頂戴ではない。この映画には作家精神およびプロとしてのテクニックが有り過ぎるほどある。作品としての完成度は、とにかく限りなく高い。

もっと具体的に説明したいのだが、それを言ってしまうと、肝心のストーリーが分かってしまうのだ。

結論を言うと、この映画のテーマはずばり〝膠着〟である。いま世界が、人類がどうしようもなく膠着している。そのため一人の社会的に弱い女性の真実の姿が、誰にも見えなくて、彼女を救うことができなかった。

それどころか逆に彼女を死に至らしめる最悪の結果になってしまう。ここまで言うともう、ストーリーを言っているようなものだが、それを許してほしい。

主人公の女性は視力が弱い。だが目が見えている人たちは、それゆえに何も世界が見えていない。この不幸な現実が我々の生きている現代なのだ。

私は『ダンサー・イン・ザ・ダーク』という映画を見る2、3日前に『ＳＲＳ・ＤＸ』の座談会で〝膠着〟をテーマに意見を交換しあった。

総合格闘技では、なぜ試合は膠着状態になってしまうのか？　その問題点について、解決方法はどこにあるのか、みんなで知恵を出し合ったのだ。

はっきりした答えは見つからなかった。それ以来、私は「膠着とは何か？」を考え続けるようになった。そしたら偶然にも『ダンサー・イン・ザ・ダーク』という映画の中心テーマが、私には膠着だと分かったのだ。

21世紀という時代そのものが、どこかで膠着してしまっている。我々はその膠着した時代の中で、何が人間にとって真実であるかが、分からなくなってしまった。膠着は現代そのものなのだ。

そこから私は人生のキーワード、時代のキーワードが膠着という二文字にあることに気が付いた。

仕事は膠着していないか？

組織や会社は膠着していないか？

恋人同士は膠着していないか？

夫婦は膠着していないか？

家族は膠着していないか？

友人関係は膠着していないか？

学校は膠着していないか？

経済や文化は膠着していないか？

政治や教育は膠着していないか？

脳（思考）は膠着していないか？

以上のように全ての面で膠着という概念は、リトマス試験紙のような機能を果たしている。その答えは膠着していないものは、ほとんどない。あらゆるものが、膠着した状態にある。

仕事も組織もネガティブな状況にあるということである。この場合、膠着はマイナスな意味として使われている。

現代においては離婚は、ほとんどが妻からの申し出で起きている。これは女性が膠着した夫婦関係から脱出し、自由と解放を求めた結果である。

私の2度の離婚もそうだった。昔の人は離婚するケースは少なく、これは別れたら女性が一人で生きていく仕事がなかったからだ。今ならいくらでも働く仕事はある。それともう一つ言えることはあきらめか、そうでなければ昔の女性は膠着を上手に生きていく知恵を持っていたという見方もできる。

離婚は例として極端すぎたが、要するに膠着を定義すると「自由でクリエイティブな発想がなくなった状況」ということができる。ということは膠着の根底にあるのは〝守りの思想〟である。

何を守ろうとするのか？　現状維持の発想である。そこにはどういう形にしろ守るものがあると考えているのだ。

膠着にも膠着の言い分があると思ったほうが分かりやすい。膠着も彼らからすると、一つの思想なのだ。

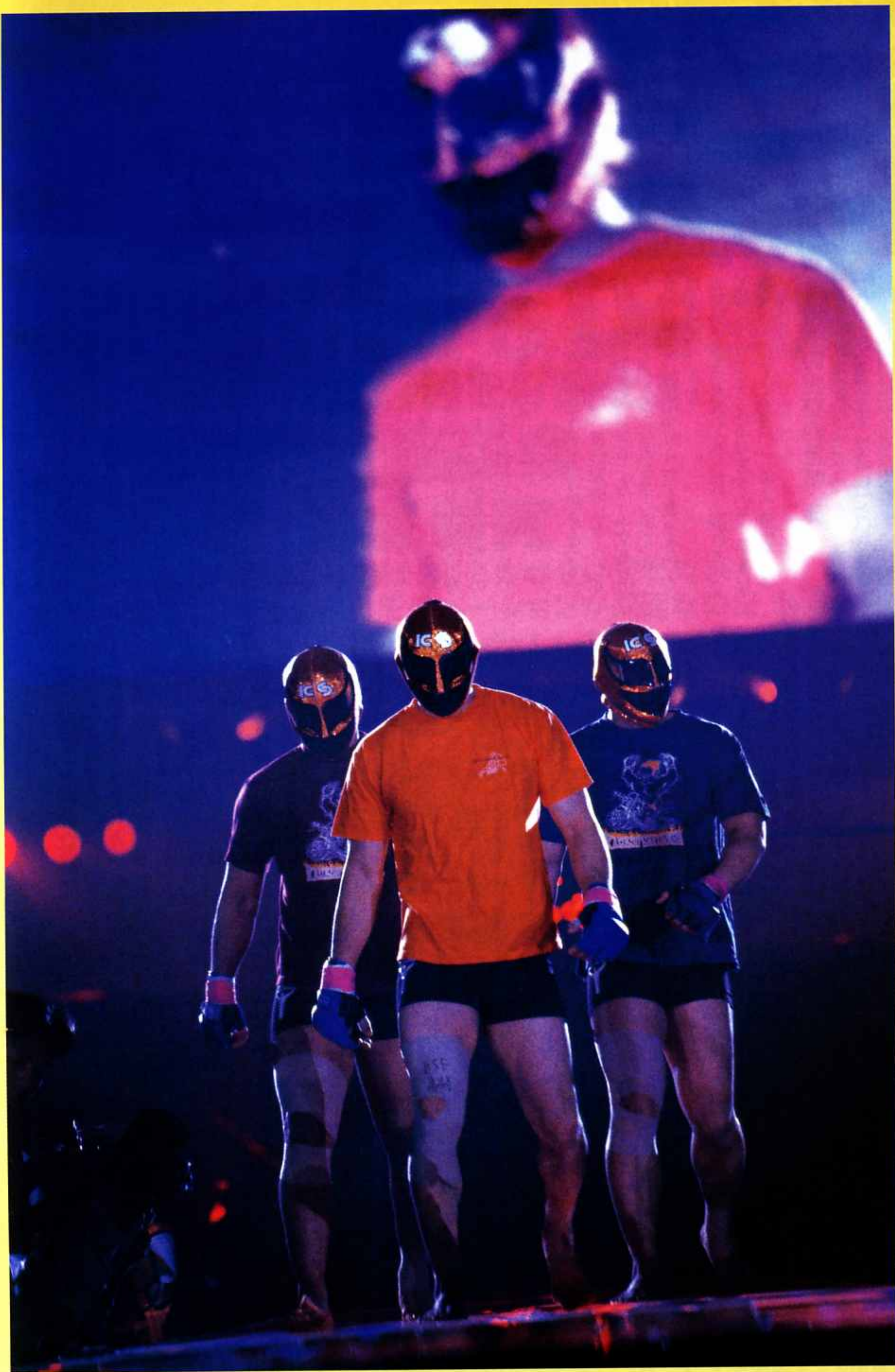
改革、変革、革命を目指す者たちは膠着した状況を、破壊してそれに変わる新しい価値観を確立しようとする。

そうした人たちは膠着した世界を〝つまらない〟とか〝面白くない〟と思ってしまう感性の持ち主なのだ。

この〝つまらない〟〝面白くない〟と思う心が、私からすると最も反社会的で反体制と見ているのだ。変革や革命の原点は、そうした感性の中にしかない。

総合系の格闘技の試合は膠着状態になりがちだが、それを観客が〝つまらない〟と思うのは、正常で極めて健康的な反応と言わざるを得ない。

観客は〝面白いもの〟を〝見せろ〟と言っているのだ。お前たち（選手、やる側）は見せる立場にあるんだろう？

だったら面白いものを見せろというわけである。選手が観客という存在を設定した時点で、この観客の側からのプレッ

シャーと要求を、避けて通ることは誰もできない。

それがイヤなら観客のいない所で試合をすればいいのだ。選手は〝勝つこと〟〝負けないこと〟の勝負論を第一に考えるが、観客がいたら、それにプラス〝見せること〟も要求される。

これは人は他者（第三者）によって評価されるものという思想に照らし合わしても、正しい論理である。

やる側（選手）にも二つのタイプ（人種）がいて、一つは観客不要論。やる側同士だけで生きていく人たち。観客を設定することは、自らが汚れてしまうという考えである。

もう一つは観客を視界に入れて、勝負と同様に観客との緊張関係を、己の存在理由にしようとする人たち。ほとんどの選手は後者に所属している。

私は後者を支持する。彼らのほうが好きなのだ。前者の人たちは「勝手にやってくれ！」と言うしかない。

そうなると試合での勝者は、選手にとって〝敗北の思想〟になる。これは勝負以外での新たな敗北である。

そのことを意識かつ自覚し、なおかつ自力で膠着を突破できる選手が、21世紀の選ばれたスターなのだ。

選手の技術が向上すればお互いの手の内が分かって、試合は膠着しがちになるという意見がある。たしかにそのとおりなのだが、それゆえにスターのハードルがそれだけ高くなっているのだ。

膠着とはつまり高いハードルのことでもあるのだ。ある部分ではそこが限界でもあり、頂上でもあるという考え。

膠着が高いハードル、頂上と考えたらそれを打破しようとしたら〝異能の人〟の出現を待つしかない。

〝異能の人〟にとっては膠着は、高いハードルでもなくて、単にそれは〝つまらなく〟て〝面白くない〟ものにしか思えない。

桜庭選手が『プライド』のリングで膠着シーンが少ないのは、たぶん彼が〝異能の人〟だからだ。面白いことをやりたい、つまらないことはしたくない。

そういう自由でクリエイティブな心を持っていて、それを実際に試合で実戦して見せることができる。しかも、彼は試合ではずっと勝利者でもあるのだ。

桜庭選手は〝IQレスラー〟と呼ばれているが、本当はクリエイティブ・ファイターなのだ。プロレスは時代精神を先取りするとか、時代の合わせ鏡という言い方を、私はしてきたが、総合系格闘技の勝者と、時代の勝者はリンクしている。

それを打ち崩そうとしたら普通の才能やクリエイターでは、もう不可能。〝異能の人〟に頼るしかないのだ。

才能とは面白いことをしてくれる人のことを言う。それが彼らのプライドでもある。真に〝異能の人〟は膠着という外的状況はもちろんのこと、自らにも積極的にチャレンジ（挑戦）していく。

己の心が膠着したら、それは死を意味する。〝異能の人〟はそれを最高のプライドとして生きているのだ。■

いつでも戦闘態勢

神奈川美容外科クリニックの男の自信を手に入れる本
神奈川美容外科クリニックのよくわかる医療レーザー脱毛

プロだからできる「自然にムケた感じ」

■包茎治療といえば、神奈川美容外科クリニック

●私たちは「自然にムケた感じ」に仕上がることがベストだと考えています。そして、神奈川美容外科クリニックでは、これを実践していると胸を張って宣言できます。

■仮性包茎

●勃起時、非勃起時にかかわらず、包皮の先端部分が十分に広くなっているために、まったく抵抗なくムケる場合です。

●普段亀頭が包皮に覆われているので、不衛生になりやすく、包皮炎など泌尿器科系の病気の原因になるうえ、外部からの刺激に弱く早漏になりやすいなど、衛生面以外のデメリットも多くあります。

■真性包茎

●包皮の先端部分が非常に狭くなっていて、勃起時、非勃起時にかかわらず、まったくムケない場合です。

●包皮口が非常に狭く、亀頭の部分の正常な発育が妨げられ、いわゆる先細りのペニスになってしまうばかりか、セックスが困難な場合もあります。

■カントン包茎

●包皮の先端部分が少しだけ狭くなっているタイプの包茎で、非勃起時になんとかムケるが、勃起時にはまったくムケなかったり途中で止まってしまいます。また、狭くなった部分に締めつけられて痛みを伴う場合です。

●勃起時に包皮が戻らなくなり、腫れあがってしまうことさえありますので、早急に手術を受けてください。（以上、目次より）

包茎治療の画期的発明

■『神奈川式亀頭直下埋没法』

●『神奈川式亀頭直下埋没法』という独自に考案した画期的な方法で行っています。これは、縫合線をカリ首（亀頭冠）のすぐ下にとることで、縫合線が目立たなくなります。

（以上、目次より）

ひとりひとりのペニスに合わせた丁寧な手術

■自然で美しい仕上がりを可能にした手術

●手術時間は約60分と一般より少し長めです。逆に私たちからみれば、このくらいの時間をかけなければ十分な手術はできないと考えています。ミリ単位でメスを扱いますし、縫い合わせも普通ならば1針のところを2針、それも傷が少しでも目立たないように浅く縫い合わせているのですから。

（以上、目次より）

痛みを感じない最高の麻酔技術

■無痛手術の実現

●手術前の麻酔には、針を使わない画期的な麻酔方法もあります。（以上、目次より）

24時間のカウンセリング体制

■安心と信頼のサービスシステム

（以上、目次より）

手術に関する素朴な疑問

Q包茎の手術費用を知りたいのですが？

A手術費用はすべてで15万円（学割12万円）です。包茎の種類は関係ありません。クレジットは患者さんの秘密厳守を第一に考えた医療クレジットを用意しています。

（以上、目次より）

その他の泌尿器科系の手術について

■さまざまなペニスの悩みも解消

●亀頭冠にできたペニスのイボ状のブツブツも手術で除去できます。

●亀頭強化術とは亀頭周辺に医療用のコラーゲンを注入することにより、亀頭の硬さをアップします。

■ペニスを長くする長茎術

●ペニスの根元は身体の中に埋没していて、恥骨にくっついている靱帯に支えられています。手術は、その靱帯の一部を解剖学的に修正し、埋まっている部分を引き出して露出させます。

（以上、目次より）

自信と行動力と喜びを手に入れました／体験談

●包茎コンプレックスを解消。女性に積極的になれました。（24歳・銀行マン）

（以上、目次より）

スーパーアッパークラスの神奈川美容外科クリニック

■世界的規模の医療設備

■国内外も認める包茎手術症例数

●神奈川美容外科クリニックは日本国内はもとより諸外国からも、その包茎手術症例数だけでなく、信頼のおける形成外科としても認められています。

（以上、目次より）

今や医療レーザー脱毛は常識。そのワケは？

■世界標準（グローバルスタンダード）の医療レーザー脱毛

●神奈川美容外科クリニックでは、アレキサンドライトレーザーとダイオード（半導体）レーザーの2種類のFDA（アメリカ食品医薬品局）公認の医療脱毛専用レーザーを併用しています。

●神奈川美容外科クリニックの医療レーザー脱毛は、痛みはほとんどありません。

●医療レーザー脱毛は脱毛後の生活制限がないので、他人に気づかれずに脱毛することができます。

●医療レーザー脱毛なら、短時間に広い範囲の脱毛が可能です。

（以上、目次より）

ツルツル、スベスベの男性が女性にもてる！

■医療レーザー脱毛なら全身のほとんどの部分が脱毛可能

●ヒゲ剃り後の青いポツポツにも悩むことはありません。

●モジャモジャとした胸毛もスッキリ、サッパリします。

（以上、目次より）

神奈川美容外科クリニックだからできる医療レーザー脱毛

■常に世界の最先端技術を導入できる神奈川美容外科クリニック

■「早くて安全、しかも低料金」の脱毛革命プラン

●例えば、口周りのヒゲでしたら1回のレーザー照射時間はわずか5～10分。2週間以上のインターバルを守って、平均10回行えば、満足のいく脱毛効果を得ることができます。お支払い方法は、1年間フリーパスの「脱毛革命フリープラン」、または1回ごとの「脱毛革命クイックプラン」のいずれかをお選びいただくことができます。

（以上、目次より）

神奈川美容外科クリニックの男の自信を手に入れる本

新書判・124頁
定価¥840（税込）＋送料¥200
著者／山子大助・伊沢克巳・吉種克之・宗本尚志・角谷正樹

発行／株式会社 ぶんか社
〒102-8405 東京都千代田区一番町29-6
Tel.03-3222-5115（出版営業部）

神奈川美容外科クリニックのよくわかる医療レーザー脱毛

新書判・160頁
定価¥840（税込）＋送料¥240
著者／山子大助・伊沢克巳・吉種克之・田中亜希子・宗本尚志

発行／株式会社 ぶんか社
〒102-8405 東京都千代田区一番町29-6
Tel.03-3222-5115（出版営業部）

上記の書籍を購入ご希望の方は書籍名を明記し、書籍代プラス送料を現金書留で、神奈川美容外科クリニックまでお送りください。

KANA CLI 美容外科・形成外科・ヒフ科 神奈川美容外科クリニック Beauty forever

包茎専用チャンネル式情報提供フリーダイヤル 0120-013929

医療レーザー脱毛専用チャンネル式情報提供フリーダイヤル 0120-730929

※24時間受けつけております。携帯・PHSからもご利用になれます。

24時間オンラインで相談や予約もできます　ホームページ ▶http://www.k-c.co.jp　メール相談 ▶soudan@k-c.co.jp　i-mode用 ▶http://www.k-c.co.jp/i_mode

目黒：東京都目黒区目黒1-2-6　神奈川美容外科クリニックビル　TEL.03-5321-8690

目黒・銀座・渋谷・新宿・横浜・札幌・盛岡・仙台・郡山・新潟・高崎・宇都宮・水戸・大宮・柏・千葉
池袋・立川・町田・静岡・名古屋・金沢・京都・大阪・神戸・岡山・広島・北九州・福岡・熊本・鹿児島

●診療時間/朝9時～夜9時 ●年中無休 ●完全予約制
●秘密厳守の医療クレジット（ボーナス併用払いあり）●学割あり

フランス『KARATE・BUSHIDO』誌提携
SRS DX
スペシャル・リング・サイド
No.39 2・8号

CONTENTS

表紙デザイン◎梅村あゆみ

UFCが身売り!!

総合格闘技界に激震走る!

新組織はPRIDE全米進出と敵対か? それとも協調か?

21世紀早々、総合格闘技界に異変が起こった。バーリ・トゥードというなんでも有りのリアルファイト大会の元祖である、UFC(アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップ)がなんと、身売りに出たというのだ。

UFCは、ブラジルで行われていたバーリ・トゥードの試合を世に広めようと、ホリオン・グレイシーが、プロモーターのアート・デービー氏と組んで、93年11月13日にアメリカのコロラド州デンバーで開催したもの。

金網オクタゴンという斬新な試合場、そして、①目突き、②噛みつき、③金的攻撃、④髪の毛を引っぱる行為以外は全ての技が有効で、しかもリアルファイトで行うという試合形式は、瞬く間に世界の格闘技界を震撼させた。

なにせ、格闘家同士の生の喧嘩である。パンクラチオンの時代ならともかく、そんな格闘技の技術を持った強者たちが、ルールなしで、顔面血だらけになっても「ギブアップ!」するまで攻撃し合う闘いは、背筋が寒くなるほどの衝撃的な闘いに見えた。

そんな闘いを果たしてやってもいいのか。しかし、その闘いこそ、究極の最強格闘技決定戦ではないかと、それ以来UFCに対する論議が沸き起こっていく。

しかも、そんな過激な大会で、まったくの無傷で優勝し続けるホイス・グレイシーにより、グレイシー柔術は一気に最強格闘技という幻想を作り上げていっ

た。まさにホリオンが仕組んだグレイシーが世に出る野望。60年前の誕生以来、ほとんど知られていなかったブラジルの格闘技グレイシー柔術の名が一夜にして世界中に広まったのである。

　そのＵＦＣの母体となっていたのが、衛星放送の番組供給会社であるＳＥＧ（セメフォア・エンターテイメント・グループ）である。

　ＳＥＧの社長は、もはやすっかり有名になったボブ・メロウィッツ氏。メロウィッツ氏は、そのＵＦＣをディレクＴＶやデッシュ・ネットワークといった衛星放送のＰＰＶとケーブルテレビで全米に広めた人である。95年前後の全盛期には、全米で3千万世帯が視聴可能だったというから、ＵＦＣはある意味で社会現象にまで広まった。世界中にＵＦＣが知られたのも、メロウィッツ氏がこうしたメディア戦略に長けていたからだ。

　ところが、ＵＦＣがそれだけの社会現象となれば、ルールなしのリアルファイトに、野蛮過ぎるんじゃないかという反対運動が起こる。また、各州で格闘技興行を開催する際に力を持つボクシング・コミッションの反対にも遭い、ＵＦＣはすぐにいたる州で開催ができない方向になっていった。

　そうした状況で、野蛮なイメージを回避しようと、ＵＦＣでは時間制限やルールの制限がどんどん行われるようになった。しかし「それは、真の決闘ではない」とホリオンらグレイシー一派が撤退。その後、ＵＦＣは総合格闘技のスポーツとしての方向へと向かっていた。その何年か後には、プロモーターのアート・デービー氏も離れ、ＵＦＣはスポーツライクな総合格闘技に変貌を遂げていく。

　初期の頃のＵＦＣには、それこそ忍者やカポエラ、あるいは誰も聞いたことのない格闘技から、ただの喧嘩自慢まで参加していた。しかし、最近ではほとんどのファイターがＵＦＣにおける闘い方を研究している。技術が進化していくに連れて、ＵＦＣも普通の格闘技スポーツに見えるようになったのである。

　それでも、20回以上の大会を開催し、ＵＦＣを最後まで盛り立てていったのが、メロウィッツ氏である。そんなメロウィッツ氏が、ＵＦＣを身売りに出した。噂では２００万ドルとも４００万ドル（2億円〜4億円）とも言われる額で買収したのは、ロレンゾ・フェティータ氏という人物である。

▼ＳＥＧ社長のボブ・メロウィッツ氏。93年からＵＦＣを運営してきた最大の立役者だ

新しいオーナーはアスレティック・コミッションの役員の一人。ＵＦＣがラスベガスに進出する可能性も大！

　この新オーナーのフェティータ氏は弱冠31歳で「ズッファ・エンターテイメント」という新会社を設立。〝ズッファ〟とはイタリア語で「闘い」という意味で、イタリア系のフェティータ氏は、弟のフランク・フェティータ氏、同じく身内のブレイク・サーティン氏の3人で今後「ズッファ・エンターテイメント」を運営していく。

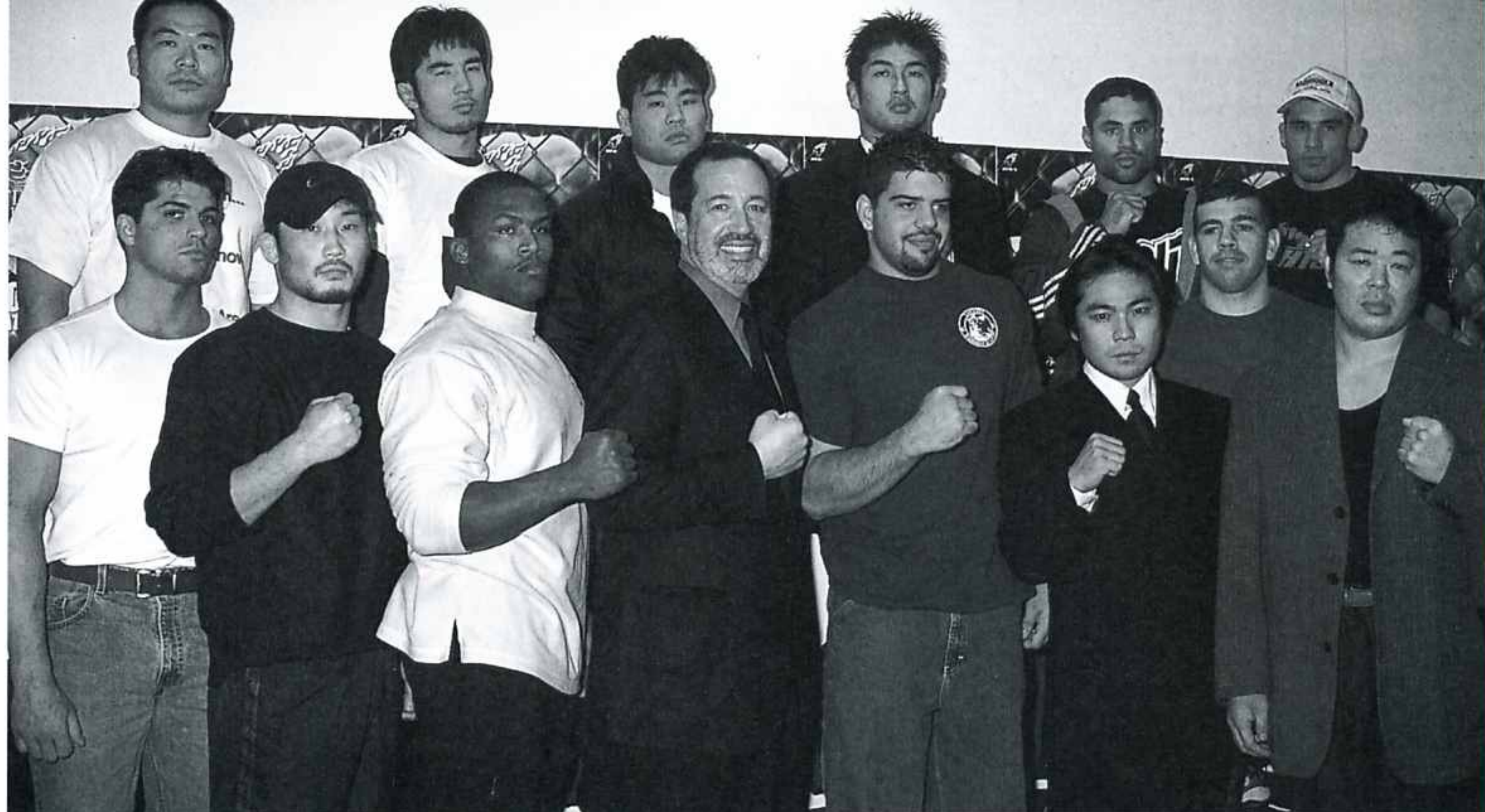
　新社長には、ティト・オーティズやジョン・ルイス、チャック・ソィデルといったＵＦＣのスター選手をマネージメントしていたダナ・ホワイト氏が就任した。ホワイト氏はボクシング業界でマネージメントしていた人だが、ＵＦＣが広まるとともに、この分野まで進出してきた人だ。

　オーナーのフェティータ氏は、ラスベガスに3〜4件のステーション・カジノを持ったり、ビール会社も経営する青年実業家である。しかも、ネバダ州のアスレティック・コミッションの元役員も務めており、スポーツに対する造詣も深い人である。

　このアスレティック・コミッションは、ボクシングなどの、スポーツイベント開催を認可する官公庁で、フェティータ氏は若くして5人の役員のうちの1人だったというからかなりの大物である。ボクシング・コミッションはボクシングの興行を開くプロモーターの集まりだが、彼らもこのアスレティック・コミッションの認可が下りなければ興行が打てないのである。

　実を言うと、ＵＦＣがアスレティック・コミッションになかなか認可されなかったのも、このボクシング・コミッションの影響があったからである。ボクシング・コミッションは、興行を打つたびに収益の何パーセントかをアスレティック・コミッションに収めていた。そこで、ビジネス的な脅威となるＵＦＣの進出に危機感を募らせ、アスレティック・コミッションに圧力をかけてＵＦＣ開催を認めさせなかったのである。

　そんなフェティータ氏が、ＵＦＣに興味を持ったのは、ＵＦＣがラスベガスで興行を開きたいと考え、プロモーションテープを送ってきたからだった。そのテープを見て、興味を持ったフェティータ

▲金網オクタゴンでバーリ・トゥードの大会を開き、世界を震撼させたＵＦＣは、今後『プライド』のようなエンターテインメント化をめざす

氏は、地元で総合格闘技のジムを開いているジョン・ルイスと接触。フェティータ氏が見たテープには、たまたまルイスの試合が映っていたからだった。

ルイスといえば、日本でもバリ・ジャパで佐藤ルミナと名勝負を展開した馴染みのある選手。ラスベガスで道場を出すルイスのジムを訪れたフェティータ氏は、そのまま格闘技を習い出すほどのめり込んでしまったというのが、格闘技界に参入してきたいきさつのようだ。

しかも、フェティータ氏も、社長のホワイト氏も、インターネットの通販で桜庭のTシャツを4枚も購入したというほどの大の『プライド』ファン。新会社のネーミングどおり、今後は選手をスーパースターに育て上げ、UFCを『プライド』のようなエンターテインメントに昇華していく方針だという。もちろん、ラスベガスで開催する際は、ギャンブルの対象となるスポーツにしていくつもりだ。

ここで、まず気になるのが、日本の総合格闘技界に新UFCがどういう影響をもたらすかということだ。

SEGのメロウィッツ社長時代には、日本のUFC—J（坂田晶代表）とガッチリ手を結んで、やっと軌道に乗ってきたばかりのところだったUFC。しかし、現在のところ、今後の具体的な方向性はまったくの白紙状態で、とりあえず2月23日にアトランティック・シティで開催される「UFC24」は旧来のスタッフで運営し、それ以降に新組織を作って、偶数月にイベントを定期開催していく見通しである。

もちろん、UFC—J次第で、今後も日本との友好関係は結ばれていくだろう。しかし、気になるのは『プライド』的世界をめざしている点だ。『プライド』もアメリカでの認可が下り次第、アメリカ進出を年内にも予定しており、新UFCと『プライド』が対立概念を生んでいくのか、それとも協調路線を歩むのかは目が離せないところだ。

▲UFCとUFC－Jの関係は、今後どうなるのか？

『プライド』も認可が下り次第、全米進出へ。日本人の若手の登竜門となる「キング・オブ・ザ・ケージ」

当然、UFCと『プライド』が協調路線をとったり、対立構造を生むことによって、日本の総合格闘技界の勢力図も大きく変わる。UFC—Jも必然的に仕切り直しとなるが、UFCとの協力態勢に新たな展開は生まれるのだろうか。

UFCと『プライド』は共に現在、ディレクTV900万世帯、ディシュ・ネットワーク400万世帯でPPV放送を行っている。視聴者の実数もほぼ同じだと言われているが、新UFCと『プライド』の企業戦争は、ファイターにも大きな影響を与えるはずだ。

しかし、オーナーがフェティータ氏に代わったことで、UFCにとっての明るい材料は、まずアスレティック・コミッションの認可を取りやすくなったことだ。

これまで、UFCはそのアスレティック・コミッションのないミシシッピー州やコロラド州、アリゾナ州といった片田舎でしか興行が開催できなかった。リングスのKOKアメリカ大会も同様である。しかし、フェティータ氏がオーナーになったことで、まずネバダ州ラスベガスの認可が下りる可能性は非常に高くなったと言えよう。

そういう都市での開催は、イベントの内容をガラリとメジャー感あふれるものに変えることは十分可能。ラスベガス大会の開催で、一気に他の州でも認可が下りる可能性も出てきた。これは総合格闘技界にとっても大きなチャンスである。

ところで、アメリカのなんでも有りの大会で、もうひとつ気になるのが、同じ金網オクタゴンで試合を行う「キング・オブ・ザ・ケージ」だ。

「キング・オブ・ザ・ケージ」は昨年、高田道場の松井大二郎がトッド・メディーナと闘ったことでも知られる闘いの場。つまり、『プライド』とは、非常に友好関係にあるリングである。

プロモーターは、元プロゴルファーのテリー・トレビルコック・ジュニア氏。トレビルコック氏は現在スポーツジムを経営している人である。プロデューサーは、ビデオ・テレビ番組のコンテンツ会社を経営するバド・ブラックマン氏が務めている。

この2人も、大の『プライド』ファンとして、『プライド』のファイターをゲストに呼んだりして、ロス郊外でこれまで6回の興行を行ってきた。しかし、まだUFCの十分な対抗馬となっていないのは、PPV放送を行っていないからである。

その「UFC24」が行われる2月23日の翌日の24日、カリフォルニア州で今年最初の

◀UFCの顔となっているティト・オーティズのマネージャーが、新UFCの社長となった

興行を開催する。

そのメインイベントには、なんとアレクサンダー大塚VSガイ・メッツアーの再戦が実現するというから、これは目が離せない。

アレクVSメッツアーの試合は、昨年末に行われた『プライド12』で実現した一戦。最近はモチベーションが変わってきたと言われるメッツアーだが、もともと相手の光を消す膠着男として有名である。そんなメッツアーに対し、プロレスラーのアレクはいかに試合を面白くさせるかがテーマだと思われていた。

しかし、いざ蓋を開けてみると、メッツアーの出合い頭の右ストレートでアレクがダウン。そのままマウントパンチを浴びて、アレクが秒殺TKO負けを食らってしまった。

このままでは引き下がれないアレクは、すぐに再戦をアピール。『プライド』を運営するDSE（ドリーム・ステージ・エンターテインメント）の助言もあって、早くもアメリカで実現することになった。アレクにとっても、真価の問われる一戦になるだろう。

また、同大会では2人の期待のルーキーがデビュー戦を果たす。まず1人は、髙田道場の今村雄介だ。今村は日体大レスリング部のOBで、アジア選手権4位、全日本選手権準優勝という実績を引っ提げて髙田道場に入門。今回は「チーム・サクラバ」として、アメリカでデビュー戦を行う。

そしてもう1人が、サンボの全日本大会で4連覇し、全日本アマ修斗優勝、アブダビ・コンバットや世界サンボ選手権にも日本代表で出場するという輝かしい実績を持つ大山利幸のプロデビュー戦である。

このように、今後「キング・オブ・ザ・ケージ」は、日本の若手の登竜門になる可能性を秘めている。その意味では、注目の大会と言えるだろう。

総合の時代が熱を帯びている今、本場アメリカ格闘技界の動向は、日本にも大きな影響を及ぼす。総合系には、やはりアメリカに多くの人材がいるし、また格闘技のエンターテインメント化においても重要な国だ。

それらを踏まえて、DSEでは現在、ロスに『プライド』用の格闘技道場を作ろうという計画もある。ロスといえば、猪木も『L・Aボクシング・ジム』と提携するだけでなく、プロレス用の道場設立を目論んでいる。その『プライド』用の道場と猪木が作る道場が、どういう関わりを持つのか。そんなところも気になるところだ。■

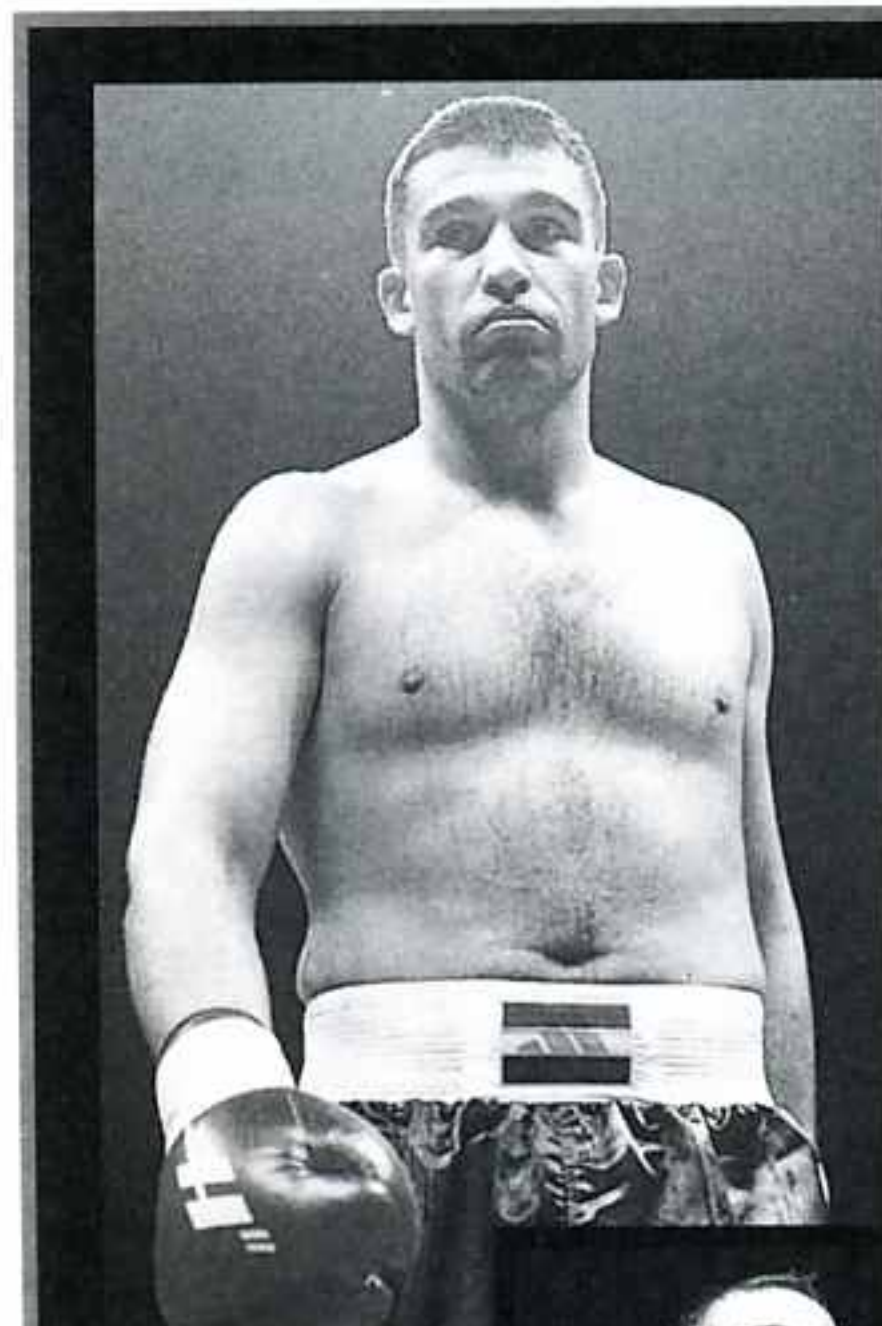
アメリカでアレクVSメッツアー再戦！

▲『プライド12』では、秒殺KO負けしたアレクサンダー大塚が、2・24「キング・オブ・ザ・ケージ」でガイ・メッツアーと再戦することが決定した

◀「キング・オブ・ザ・ケージ」には過去、髙田道場の松井大二郎が参戦している

2・4 オランダでアーツが4年ぶりの試合「ランバージャック・リターンズ」開催

今年は世界20カ国以上で予選が開催される予定のK—1だが、2月4日、オランダのアムステルダムで、ピーター・アーツが約4年ぶりの国内試合を行うことが決定した。大会のタイトルはその名も「ランバージャック・リターンズ」。アーツは10代の頃からオランダ・キック界の〝怪童〟と呼ばれ、ヘビー級の頂点についていたが、93年のK—1グランプリ誕生以降、主戦場を日本に移してきた。日本に比べて、キックの興行がマイナーなオランダでは、もはやアーツのファイトマネーを払えるプロモーターが誰もいなくなってしまったからである。しかし、K—1で3度も王者になったアーツに対し、地元のテレビ局がドキュメンタリー番組をゴールデンタイムで放送。それを見た、オランダのファンから、ぜひ地元が生んだチャンピオンの凱旋試合が見たいという声が高まり、今回の開催に漕ぎ着けたそうだ。

そのアーツは、イギリスのスティアート・グリーンと対決。昨年、腰痛に悩まされて一年間を棒に振ったアーツだけに、この地元での復帰戦で完全復活をアピールしたいところだ。また、この興行では、注目のカードとしてステファン・レコ（ドイツ）VSアレクセイ・イグナショフ（ベラルーシ）の一戦が実現する。イグナショフはオランダでも、ロブ・カーマンの引退試合の相手を務めたり、〝チャクリキの不沈艦〟ロイド・ヴァン・ダムをKOして人気のあるイグナショフ。ステファン・レコに勝って、昨年のシリル・アビディのような新風を巻き起こすか、期待がかかる。この一戦は、今年のK—1を占う重要な試合となるのは間違いない！■

▲原点である地元オランダで復活を狙うピーター・アーツ

▲アレクセイ・イグナショフVSステファン・レコという興味深いカードも実現。イグナショフは、第二のアビディになれるか？

炎上コラム

なぜ新日本はマット界のブランドでなくなったのか、それが問題だ！

文◎ターザン山本

ついに21世紀の幕が切って落とされた。

さあ、プロレスはどうなるのだろうか？　かなり厳しいことになるのは、予想していたし覚悟もしていた。

1月4日、東京ドームで新日本プロレスの興行があり、注目の一戦、長州VS橋本の試合は思い切り不評だった。

今までならそれでも不評は不評なりに次のドラマにつながっていったものだが、今回は、もうそんな楽観的な見方はとても通用しそうにない。

ファンのほうが、〝三くだり半〟を突きつけた気が、しないでもないからだ。だが、新日本には反省の色は余りない。まだ高をくくっているところがある。

私の感じでは長州VS橋本戦で起きたブーイングは、今後、ボディブローとなって、効いてくるような気がする。

あれで新日本はかなり信用を落とした。プロレス界ではメジャー団体としてシェア率7割を誇っていた新日本も、このままいくと、ブランドとしての価値はおそらくなくなっていくだろう。

全日本プロレスは昨年6月の分裂騒動で、築きあげてきたブランド性を完全に失い、残念ながらそのブランドとしての輝きは、もうどこにもない。

それと同じことが今度は、新日本に起こってくるだろう。ブランド感がなくなると、グッズの売り上げに途端に響いてくる。その方面での数字を見れば、結果はおのずと分かってくるのだ。

昔からファンとは現金なもの。2、3年前までは街には〝NWO〟のTシャツを着ている若者が、非常に多かったが最近はそれにかわって、桜庭のTシャツを着ている者が急増している。

時代は〝NWO〟から〝桜庭〟へと大きく転回していったのだ。NWOは海の向こうのWCWという団体で、人気をとった悪のグループのこと。

それをそのまま日本に輸入して成功を収めたのが新日本の蝶野。彼は率いる軍団を黒一色のコスチュームで統一。それがファッショナブルな印象を与えて、NWOのグッズはバカ売れした。

しかしそのNWO人気も『プライド』のリアルファイトが支持されてくると、急激に色あせたものになっていった。

この変化がすなわち時代の移り変わりを示している。NWOは所詮、実体のないファンタジー。ムードを売りものにして、若者の支持を得たがそれは〝強い〟こととは別次元の世界だった。

その証拠にNWOは入場シーンが抜群に良くて、それが彼らの最高の見せ場でもあったが、いざカーンとゴングが鳴って試合が始まると、逆にテンションは一気に落ちた。試合では見せられなかったからだ。こうなると飽きられるのは早い。

やはりプロレスラーは〝強さ〟が基本にないと、説得力に欠ける。それがNWOの決定的欠陥でもあった。

NWOのボス、蝶野だけは格好良さで今もスターの座を守っているが、NWO自体はすでに過去のものとなっている。

UFCや『プライド』の出現によって人々が、ファンタジーよりもリアルファイトを求めるようになった時、NWOは最後のファンタジープロレスだった。

まるでそれは太陽が西に沈んでいく時一瞬、最後の輝きを放つのと似ている。日本においてはもはや銭のとれるファンタジープロレスは、もうNWOで終わったような気がする。

そうなった時、プロレスは終わる。馬場さんはシューティング（リアルファイト）を超えたものがプロレスと言った。

これは裏を返せばプロレスは、リアルファイトではないと言っているのだ。超えているのであれば、それでいいじゃないか？　馬場さんはそれだけプロレスに自信を持っていたのだ。

価値観の違いを横に置いとけば、プロレスというジャンルは、リアルファイトと対等もしくはそれ以上の存在であると、馬場さんは信じ切っていた。

その馬場さんの考えは、猪木さんがよく言うところの〝格闘芸術〟と同義語である。馬場さんと猪木さんはこの点で2人とも、見事なプロレスラーであり、立派なプロレスラーだった。

要するにプロレスはリアルファイトを超えたもの（格闘芸術）になれるかどうかが、全てなのだ。それがすでにできなくなってしまった。

できないどころかリアルファイトのほうが、プロレスより上位概念として、ファンの間にも定着したため、ますますプロレスは危機的状況になっている。

21世紀におけるプロレス界のテーマはここにある。一度、下位概念に転落して

しまったプロレスを、もう一度、リアルファイトに対して上位概念に戻すのはもはや不可能に近い。

どうすればこのプロレスが上位概念にカムバックできるかは、レスラーがリアルファイトの場に積極的に出て行って、そこで勝ち続けるしかないのだ。

今のところ方法はそれしかない。その場を提供しているのが実は『プライド』なのだ。だから『プライド』はプロレスとプロレスラーを上位概念にする救済装置の役割を果たしてきた。

『プライド』が今から4年前、東京ドームで初めて興行した時、ヒクソン・グレイシーがプロレスラーの髙田延彦を破ったことでプロレスのイメージは著しく暴落した。

このように『プライド』はプロレスの価値観をシュートしておとしめる作用を持っている。その意味ではプロレスにとって『プライド』は、天敵でありまた害虫のような存在なのだ。

だがその『プライド』のリングで髙田の弟子にあたる桜庭は、グレイシー一族に勝ったことで、プロレスの威信を回復することに大きな貢献を果たした。

『プライド』はプロレスをシュートして、プロレスを崩壊させようとする力と、もう一つは、桜庭のようにプロレスを救済する力にもなっているのだ。

プロレスにとってまったく相反するものが、同居している存在。『プライド』が何であるか？　これではっきりと分かったはずである。

少なくとも桜庭個人は『プライド』のリングで勝ち続けたことにより、上位概念としてのプロレスを証明した。

そのことで桜庭は堂々とプロレスラーを名乗ることができた。こうして今、桜庭の存在は"ブランド"となった。プロレスがブランドとなるには、もうリアルファイトに挑戦するしかない。

それをやらないから新日本プロレスはブランドとしての価値を、どんどん下げている。私の読みでは上がる見込みはない。ファンタジーでもなければ、リアルファイトでもないという、極めて中途半端な存在になっていく。

UFC、『プライド』など押し寄せるリアルファイトの波を避けて通ってきたツケが、新日本帝国にヒビを入れていく。非常ベルはとっくの昔に鳴っていたのだが、誰もそれに対処しなかった。

さらに追い撃ちをかけるようなことが1月13日に起こった。この日、ノアが大阪府立体育会館で試合をし、三沢は橋本を再びリングに上げた。

バトラーツのアレクサンダー大塚とのコンビで橋本は、その三沢・小川組と激突。このカードによって大阪大会はいっぱいのファンで埋まった。

つまり全日本と新日本の交流戦よりも橋本ひとりとノアの試合のほうが、交流戦らしさが出た。これは老舗の看板をバックにしている団体が、完全に求心力を失ったことを示している。

大手企業の銀行、生命保険、建設会社が、力を失ったり倒産していく姿と、非常によく似ている。

もしかすると新日本を離れて個人となった橋本のほうが、あの新日本という大組織よりも、輝く存在になっているのかもしれない。すでに団体の時代は終わり完全に個人の時代になっているのだ。

橋本個人対ノアという対立のほうが、健介対川田より上位の概念になっているのかも。いずれにしても新日本はあらゆる点で、団体存亡の危機にある。■

SHOOTO OFFICIAL BOOK

修斗2001 VOL.1

特集 桜井"マッハ"速人

真剣勝負!

マッハとルミナ、斗う男たちの咆哮

1月20日発売

修斗オフィシャルブック 修斗2001 VOL.1(ボリュームワン)

桜井"マッハ"速人特集号

体裁 A4 112ページ(4色32p、2色32p、1色48p)
定価 1800円(本体)

- 総力特集→桜井"マッハ"速人
  マッハの全試合をマッハ自身が解説
  マッハのプライベートを初公開!
  野生児・マッハのプライベートを初公開!
  野生児・マッハの故郷、マッハを育んだ風景と人々
  マッハの故郷、マッハを育んだ風景と人々
- 対論! 佐藤ルミナ・桜井"マッハ"速人
- 2000年後半、修斗全試合の記録
- 五味、三島、マモル、ノゲーラ、郷野、バレット…
  21世紀の注目選手インタビュー
- 驚愕の"12月17日・NK決戦"詳報
- 2001年シューター名鑑

マッハが好きだ!

修斗
2000 SUMMER
RUMINA
佐藤ルミナ
100%
ルミナのすべて、2000年の修斗が一冊に!
初公開ルミナ・テクニック
ルミナ独占インタビュー
宇野薫・桜井"マッハ"速人インタビュー
ルミナ's ルーム&アイテム
ルミナ・生い立ち物語
ルミナ過去の対戦レビュー
修斗2000年上半期全記録
修斗2000年下半期スケジュール

ルミナのすべてを知りたい!

既刊

修斗2000 SUMMER
佐藤ルミナ 100%

定価 1800円(本体)
体裁 A4 112ページ
内容 初公開!ルミナ・テクニック
ルミナ・独占インタビュー
ルミナのプライベートルーム&アイテム
ルミナ・生い立ちストーリー
ルミナ・過去の全対戦レビュー
宇野薫、桜井マッハ速人・インタビュー
和道、秋本、巽・同期トークバトル
修斗2000年上半期プロ・アマ全記録

『修斗2001 VOL.1(ボリュームワン)桜井"マッハ"速人特集号』と『修斗2000 SUMMER 佐藤ルミナ100%』は、書店にてお買い求めください。なお売り切れの場合、小社でみなさまからのご注文をお受けいたします。お申し込みは、電話かファックスで(住所、氏名、電話番号を明記)。お振り込みは本が届いてからでけっこうです。なお、送料無料にてお届けします。

株式会社メディアレブ
〒107-0052 東京都港区赤坂2-16-21-201
TEL 03-3505-4555 FAX 03-3505-4556

1/25THU～2/8THU
CALENDAR

1/25 THU	★『SRS・DX』39号発売日
1/26 FRI	■ニュージャパンキック連盟/東京・後楽園ホール（17:30～）⬅p49 ●フジテレビ系『SRS』（26:15～26:45）放送⬅p69
1/27 SAT	■J-NETWORK/東京・北沢タウンホール（18:00～）⬅p47 ■MA日本キック連盟/東京・後楽園ホール（17:15～）⬅p48 ■CLUB FIGHT～ROUND2～/大阪・MOTHER HALL（22:30～）⬅p50
1/28 SUN	■全日本キック連盟/TOKYO FMホール（18:00～）⬅p48 ◆PANCRASE 2001 PROOF TOUR/チケット一般発売⬅p47 ◆PRIDE.13/チケット特別先行電話予約⬅p46
1/29 MON	
1/30 TUE	■K-1 RISING 2001/愛媛・松山市総合コミュニティーセンター（18:30～）⬅p46
1/31 WED	
2/1 THU	◆THE CRUSADE-聖戦-/チケット発売⬅p47
2/2 FRI	●フジテレビ系『SRS』（26:15～26:45）放送⬅p69
2/3 SAT	
2/4 SUN	■パンクラス/東京・後楽園ホール（19:00～）⬅p47
2/5 MON	
2/6 TUE	
2/7 WED	
2/8 THU	★『SRS・DX』40号発売日

格闘技パーフェクトガイド
Perfect Guide

GUIDE & TICKET
大会ガイド&チケット情報

修斗

浪速のシューター、池本、楠らが関東勢を迎え撃つ！

SHOOTO GIG WEST
2月18日（日）大阪・NGKスタジオ

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/全席3,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、STG大阪、KEEL、e-ticket（http://www.e-ticket.net/）
◆会場アクセス/地下鉄御堂筋線難波駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

決定対戦カード

池本誠知 vs 大河内貴之
（ライルーツコナン）（パレストラ東京）
楠勇次 vs ザ・ばばんば
（クラブJ）（パレストラ東京）
中山 巧 vs 三宅力
（パレストラ東京）（直心会格闘技道場）
梅村寛 vs 亀田雅史
（アライブ）（格闘サークルコブラ会）
井上正也 vs 辻嘉一
（パレストラ加古川）（G-FREE）
椎木努 vs 杉江大介
（直心会格闘技道場）（アライブ）

PRIDE

見やすさ抜群のさいたまアリーナ、グランプリではないらしい……？

『プライド』シリーズの2001年最初の大会は、さいたまスーパーアリーナでの開催。この会場は、アリーナ席が少なくすり鉢状になっているため、どこからも見やすく、まさに格闘技イベント向けなのだ。今大会は、DSE・森下社長によると、ワンマッチかグランプリになるのかはまだ未定とのことだったが、どうやらグランプリではないらしい……。カードが発表され次第、本誌で紹介していくのでお楽しみに！

PRIDE.13
3月25日（日）さいたまスーパーアリーナ

◆開場/15:00　試合開始/17:00
◆入場料/VIP席100,000円（専用入場ゲート、グッズの特典付き）　RRS席23,000円　スタンドS席13.000円　スタンドA席7,000円　※桜庭応援シート（スタンドS席13,000円、応援グッズ付き）をDSE、PRIDEオフィシャルサイトにて販売
◆チケット発売/1月28日（日）特別電話先行予約☎052-961-6341　2月11日（日）一斉発売
◆チケット発売所/ドリームステージエンターテインメント他
◆会場アクセス/JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅より徒歩3分、JR埼京線北与野駅から徒歩7分
◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

掣圏道

アルティメットボクシング定期戦
2月12日（月・祝）東京・ディファ有明

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席9,500円　S席6,500円　A席4,500円　B席2,500円　※当日は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、ディファ有明
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車、徒歩3分
◆お問い合わせ/掣圏道協会東京事務所☎03-5456-7333

Topic! 1・14 アルティメットボクシング定期大会
《全試合結果》

★第8試合（3分3R）
○桜木裕司（日本／掣圏道）
（2R1分30秒、KO勝ち）
チラギシビリ・ギア（グルジア）●

★第7試合（3分3R）
△ケベドフ・ミカイル（ロシア）
（3R判定1-0、ドロー）
シュリジン・ワレンチン（ベラルーシ）△

★第6試合（3分3R）
○鈴木佳（日本／掣圏道）
（1R2分32秒、KO勝ち）
ウィリアム"THE"ANIMAL（ブラジル／截空道）●

★第5試合（3分3R）
○ダビダシビリ・ダビド（グルジア）
（3R判定3-0）
シャパワラウ・ビャチェスラフ（ベラルーシ）●

★第4試合（3分3R）
○ステパノフ・ミハイル（ロシア）
（3R判定3-0）
ゴキチャイシビリ・ダビド（グルジア）●

★第3試合（3分3R）
●村山光宏（日本／習志野ジム）
（3R判定0-3）
ロマノフ・デニス（ロシア）○

★第2試合（3分3R）
○シャルドチャンカワ・アリクサンドル（ベラルーシ）
（3R1分35秒、TKO勝ち）
田中圭一郎（日本／I.M.N.）●

★第1試合（3分3R）
○リッキー・バウンサー（ブラジル／截空道）
（2R48秒、TKO勝ち）
ブハベツ・ジニアス（ベラルーシ）●

バトラーツ

グラップリング-B
2月18日（日）埼玉・バトラーツジム［B-CLUB］

STILL LIFE
3月1日（木）　東京・後楽園ホール

越谷市赤山町6-13-43 〜ひな祭りスペシャル〜
3月3日（土）　越谷桂スタジオ

〜バトラーツ旗揚げ5周年記念〜特別興行
3月25日（日）小田原・川東タウンセンター［マロニエ］ホール

◆お問い合わせ/バトラーツ☎0489-63-0005

K-1 ジャパン・シリーズ

村上竜司が黒澤戦で復活！「最後の花道を地元で飾りたい」

去年の『サムライ』で引退を表明した空手界の大御所・村上が、1・30『K-1 RISING 2001』の黒澤戦で復活することが決定した。村上は開催地の愛媛県出身ということもあり、「黒澤浩樹選手との対戦だけはどうしてもやらせてほしい。最後の花道を地元で飾りたい」との強い申し出により実現した。村上といえば、その凄まじいほどの闘いぶりで、今まで数々の死闘を繰り広げてきた空手界の大御所。その村上が、同じく空手界で数々の伝説を持つ、"格闘マシーン"黒澤と激突する！初上陸の地で勝利を飾れるのはどっちだ!?

K-1 RISING 2001 〜四国初上陸〜
1月30日（火）愛媛・松山市総合コミュニティーセンター

◆開場/17:00　試合開始/18:30
◆入場料/SRS席20,000円　S席13,000円　A席6,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ローソンチケット（Lコード36071）、ホームページ先行予約http://www.k-1.co.jp/（予定）
◆会場アクセス/JR内子線、予讃線松山駅より徒歩15分
◆お問い合わせ/株式会社K-1☎03-3796-2977、南海放送チケットセンター☎089-933-5155

決定対戦カード

天田ヒロミ vs マイク・ベルナルド
（フリー）（南アフリカ）
富平辰文 vs ミルコ・クロコップ
（フリー）（クロアチア）
グレート草津 vs ノブ・ハヤシ
（正道会館）（ドージョー・チャクリキ）
中迫剛 vs 大石亨
（正道会館）（日進会館）
黒澤浩樹 vs 村上竜司
（黒澤道場）（士道館）
角田信朗 vs 柳澤龍志
（正道会館）（チームドラゴン）

J-NETWORK

MAKING THE ROAD
1月27日（土）東京・北沢タウンホール

◆開場/17:30　試合開始/18:00
◆入場料/A席6,000円（当日は7,000円）　B席4,000円（当日は5,000円）　当日券4,500円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、J-NETWORK、アクティブJジム、サバーイ町田ジム、ソーチタラダ渋谷ジム
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/J-NETWORK☎03-3419-0536

決定対戦カード

—5回戦—
蔵満誠 vs ヨーチンチャイ・アカデ
（JMTC）（タイ）

—3回戦—
稲葉潤 vs 亀倉孝夫
（サバーイ町田）（習志野ジム）
黒田英雄 vs ステルス牧野
（アクティブJ）（MA・山木ジム）
坂野正和 vs 泉ユーサク
（アクティブJ）（MA・山木ジム）
佐野貴宏 vs 井上純一
（アクティブJ）（習志野ジム）
黒田通鷹 vs 大高一郎
（アクティブJ）（MA・山木ジム）
村松三之 vs 橋本博典
（アクティブJ）（JMTC）
太郎 vs 倉田一貴
（アクティブJ）（習志野ジム）

MAKING THE ROAD-Ⅱ
2月26日（月）東京・北沢タウンホール

◆開場/17:30　試合開始/18:00
◆入場料/A席6,000円（当日は7,000円）　B席4,000円（当日は5,000円）　当日券4,500円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、J-NETWORK、アクティブJジム、サバーイ町田ジム、ソーチタラダ渋谷ジム
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/J-NETWORK☎03-3419-0536

決定対戦カード

—5回戦—
西山誠人 vs 井上哲
（ソーチタラダ）（MA・山木ジム）
長谷川康也 vs サンダーシンジ
（アクティブJ）（MA・マイウェイ）
隼人 vs 犬走健治
（フェニックス）（MA・白龍ジム）

—3回戦—
喜入衆 vs 内田秀樹
（アクティブJ）（サバーイ町田ジム）

THE CRUSADE —聖戦—
3月23日（金）東京・北沢タウンホール

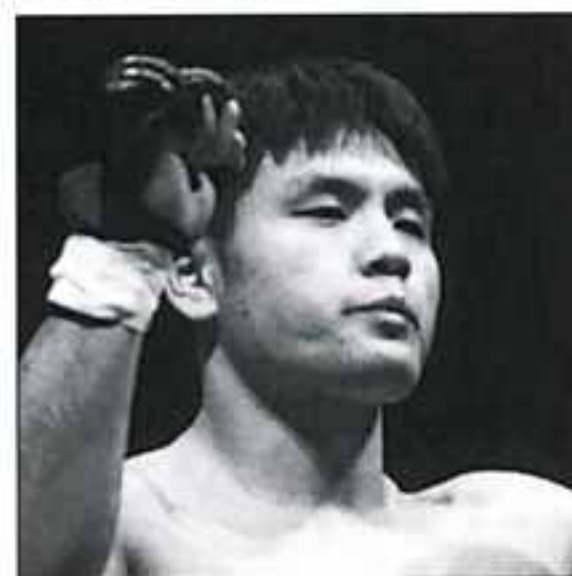
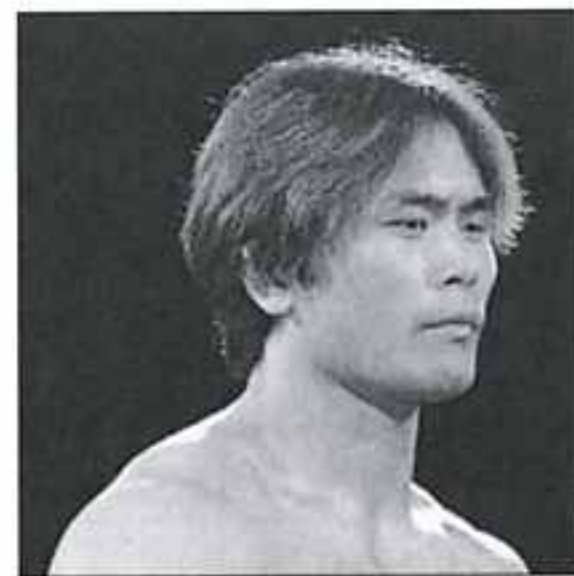
◆開場/17:30　試合開始/18:00
◆入場料/S席8,000（当日は9,000円）　A席6,000円（当日は7,000円）　B席4,000円（当日は5,000円）
◆チケット発売/2月1日（木）
◆チケット発売所/チケットぴあ、J-NETWORK、アクティブJジム、サバーイ町田ジム、ソーチタラダ渋谷ジム
◆会場アクセス/小田急線、京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分
◆お問い合わせ/J-NETWORK☎03-3419-0536

決定対戦カード

—5回戦—
増田博正（ソーチタラダジム）
vs
タイ国オムノイスタジアム現役チャンピオン

パンクラス

近藤が早くも2・4後楽園大会で復活！菊田に渋谷、佐々木、髙橋も出場！

2・4後楽園大会のカードが発表された。出場するのは、菊田、渋谷、近藤、佐々木、髙橋といった豪華な顔ぶれ。メインには、相手は未定だが菊田が登場。渋谷vsフリーマン戦では、渋谷のグラウンドテクニックがフリーマンの打撃をどう迎え撃つかが必見。また12・16『UFC-J』でのミドル級タイトルマッチでティトに敗れて、しばらく休養すると思われていた近藤有己が、本人の強い意志により早くも復帰する。対戦相手はGRABAKAの若手、石川英司だ。また、12・4日本武道館大会で、菊田に敗れた髙橋も、GRABAKAの若手・佐藤と対戦する。先日パンクラスに入団発表し、今回の渡辺戦がパンクラスでのデビュー戦となる佐々木は、どのような闘いを魅せるのか？　役者が揃った後楽園大会、ルールも大幅変更されて、よりアグレッシブなファイトが見られそうだ！

▲メインで出場するのは、GRABAKAを率いる菊田早苗

▲イアン・フリーマンと対戦する渋谷

▲ティト戦での敗北以来、早くも復帰戦となる近藤有己

▲GRABAKAの佐藤と対戦する、髙橋義生

PANCRASE 2001 PROOF TOUR
2月4日（日）東京・後楽園ホール

◆開場/18:15　試合開始/19:00
◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　B席6,500円　C席4,500円　※当日は500円増し　立見（当日のみ）3,500円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、e＋（イープラス）http://eee.eplus.co.jp、後楽園ホール、書泉ブックマート、大山アメリカン、レッスル渋谷、レッスル池袋、ビデオショップチャンピオン、フィットネスショップ水道橋、チケット&トラベルT-1、プロレスマニア館、アイドール新宿、ファイター、パンクラス
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

決定対戦カード

菊田早苗 vs X
（パンクラス・GRABAKA）
渋谷修身 vs イアン・フリーマン
（パンクラス・横浜）（イギリス/サンダーランド柔術クラブ）
近藤有己 vs 石川英司
（パンクラス・東京）（パンクラス・GRABAKA）
渡辺大介 vs 佐々木有生
（パンクラス・横浜）（パンクラス・GRABAKA）
髙橋義生 vs 佐藤光芳
（パンクラス・東京）（パンクラス・GRABAKA）
伊藤崇文 vs 河崎義範
（パンクラス・横浜）（RJW/CENTRAL）
菊池一仁 vs 中台宣
（パンクラス・横浜）（パンクラス・東京）
鈴木みのる vs ジェイソン・デルーシア
（パンクラス・横浜）（パンクラス・ハイブリッド・ブドーカン）

PANCRASE 2001 PROOF TOUR
3月31日（土）大阪・なみはやドーム サブアリーナ

◆開場/17:30　試合開始/18:30
◆入場料/SS席15,000円　RS-A席7,500円　RS-B席5,500円　2F-A席7,000円　2F-B席4,000円　※当日券は500円増し
◆チケット発売/1月28日（日）
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、e＋（イープラス）、チャンピオン大阪、バディ・スラム、エース、神戸ステーキ桜井ポートアイランド、神戸住吉・富方、パンクラス
◆会場アクセス/地下鉄長堀鶴見緑地線門真南駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

Topic! パンクラス公式ルールが大幅に変更！

パンクラスのオフィシャルルールが、この度大幅に変更されることとなった。これは現在の総合/MMAの趨勢の中で、様々な大会に対応していくため。2月4日の後楽園大会より実施される新ルールによって、パンクラスはよりVTに近づき、スリリングな攻防が増えることが予想される。主な変更点は以下のとおり。

①試合時間は5分2Rもしくは3R
※これまでは10分～20分一本勝負だったが、今回からラウンド制を採用。試合展開はよりスピーディーでアグレッシブになるはず。

②全ての試合がランキングの選考基準になる
※今までは指定された『ランキング戦』を闘うことでしかランキング入りできなかったため、普段の試合では"番狂わせ"の意味合いが薄かったが、今回のルール変更により、その問題が解消。

③ヒールホールドの解禁
※5年半ぶりの解禁。修斗や『プライド』では当たり前に使われているが、パンクラスではかつてこの技でケガ人が続出し、一度は禁止技となっていた。選手の技術の向上が解禁の理由の一つとされている。

④レガース、ニーパット、シューズの着用を問わず蹴り技の攻撃を解禁
※爪先、カカトなどで蹴ると裸足よりダメージが大きく、シューズを履いての蹴りは禁止している大会も多いが、足関節の攻防での不利（足をホールドされやすい）を考慮し、有効とされた。

⑤ドントムーブの採用、アウトサイドブレイクの廃止
※ロープエスケープは廃止されたものの、選手の体が場外に出そうになるとブレイクとなっていた（事実上のエスケープと言える）パンクラス。寝技系の選手にとってはやりにくいルールだったが、ついにドントムーブが採用された。

⑥全てのポジションでの蹴り技の解禁
※いわゆる"4ポイント"での蹴りもOK。下になっている選手の顔面を踏み潰すような蹴りもできるわけだが、現在の総合系の技術からして、危険な事態にはなりにくいとの判断から解禁された。つまり「ルールに守られるのではなく、自分で防御できるはず」ということ。寝技の攻防で、相手の顔を蹴ってディフェンスもできる。よって足関節技が極まりにくくなり、同時にヒールホールド解禁にもつながった。

Topic! 元・修斗ライトヘビー級6位の佐々木有生が、パンクラス入団！

パンクラスでは1月12日の会見で、修斗のライトヘビー級で活躍していた佐々木有生が、パンクラスGRABAKAへ入団すると発表した。佐々木は会見で「寝技が強いという印象を与えたい。パンクラスには強い選手がたくさんいるので、そういう選手とどんどん闘っていきたい。修斗は、どうしてもライトヘビー級の層が薄いので」と語った。闘ってみたい相手は、「美濃輪選手」とのことだ。GRABAKAを率いる菊田のスパーリングパートナーを5年間務めているだけあって、寝技はもちろん、特に足関節が得意だという。2・4の渡辺戦では、判定じゃなく、KO勝ちを狙っていくという佐々木に、大いに期待しよう！

◀P'sLAB東京での会見にて。右から尾崎社長、佐々木、菊田

MA日本キックボクシング連盟

士道館・後藤龍治が、ジェリー・モーリスに挑戦！

1・27後楽園ホール大会で、後藤龍治vsジェリー・モーリス戦が決まった。ジェリー・モーリスは、去年の10・22『サムライ』でTOGANEタイソンに勝利しているほか、ヨーロッパでは数々の強豪を下していて、バーリ・トゥードでの経験も豊富だ。強敵との対戦を前に、モチベーションも上がっているであろう後藤は、このモーリス戦に勝利し、世界への足がかりとしたいところだろう。

MAキック新春正月興行
1月27日（土）東京・後楽園ホール

◆開場/16:45　試合開始/17:15
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　S席10,000円　指定A席7,000円　指定B席5,000円　立見3,000円（当日のみ）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、チャンピオン、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンケイプロモーション☎03-5971-2165

決定対戦カード

—5回戦—

〈ウェルター級王座決定戦〉
佐藤堅一（士道館）vs 上原大助（山木ジム）

〈スーパーフェザー級タイトルマッチ〉
天野哲成（マイウェイ）vs カズ工藤（士道館・新座）

後藤龍治（士道館）vs ジェリー・モーリス（カリビアン士道館）
マグナム酒井（士道館）vs X
大谷則之（士道館）vs アラビアン長谷川（タイ）
ラビット関（山木ジム）vs 阿部泰彦（東金ジム）
ヌンサヤーム・ヤマキ（タイ）vs 伊達皇輝（新潟山木ジム）

—4回戦—

きんぞ〜（新潟山木ジム）vs 斎藤晴満（東金ジム）

—3回戦—

金井裕一郎（士道館）vs 中西一覚（谷山ジム）
岩楯知篤（士道館）vs 森田貴博（八街ジム）
松本俊太郎（士道館）vs 平井善丸（山木ジム）
滝沢直樹（士道館）vs 中村玄志（山木ジム）
センシー・サンテ（士道館）vs 結城央司（ビクトリージム）

全日本キックボクシング連盟

2・16後楽園大会、"ランバー"ソムデートvsダ・シルバ戦決定！

全日本キックの2・16後楽園大会のカードが発表された。今大会で注目したいのは、"ランバー"ソムデートvsダ・シルバ戦。"ランバー"ソムデートは、11・1『K-1 J・MAX』でも大宮司を相手にスピードとテクニックで圧倒して判定勝ちを収めている、ムエタイのトップファイター。一方のダ・シルバは、10・22後楽園大会の安川戦で、壮絶なまでの打撃でTKO勝ちを奪い、安川の連勝をストップさせている。安川の顔面を流血させるほどの切れ味のあるヒジ打ちが持ち味だ。この両者の対決、激しい打撃戦になることは必至だ！

2001 YOUNG GUN-Ⅰ
1月28日（日）TOKYO FMホール

◆開場/17:00　試合開始/18:00
◆入場料/RS席5,000円　S席3,000円　※当日は500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック電話予約
◆会場アクセス/地下鉄半蔵門線半蔵門駅から徒歩3分、地下鉄有楽町線麹町駅から徒歩6分
◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171

決定対戦カード

—3回戦—

DEION（REX JAPAN）vs 山中政信（フリー）
加藤啓明（TEAM-1）vs 北川雄一（正道会館）
畑尾龍宏（REX JAPAN）vs 高山昌光（TEAM-1）
稗田健晴（REX JAPAN）vs 栗原毅（作真会館）
熊谷敦（TEAM-1）vs 西郡大介（作真会館）

BE WILD
2月16日（金）東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:15
◆入場料/RS席12,000円　S席8,000円　A席6,000円　B席4,000円　※当日は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック電話予約
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171

決定対戦カード

—5回戦—

内田康弘（SVG）vs メルヴィン・マーリー（カナダ）
"ランバー"ソムデート・M16（タイ）vs フィリップ・ダ・シルバ（フランス）
遠藤慎介（不動館）vs 杉上直之（朝久道場）
三上洋一郎（SVG）vs 濱崎一輝（正道会館）
池田好治（藤原ジム）vs 江口真吾（作真会館）
YUTAKA（月心会）vs 割澤誠（作真会館）

—3回戦—

小林サトル（勇心館）vs 森下知之（月心会）
西田和嗣（SVG）vs 阿部重男（藤原ジム）

2001年度3、4月度興行予定

3月16日（金）東京・後楽園ホール
4月6日（金）東京・後楽園ホール

Topic! 全日本キックが、クルーザー級とライトヘビー級を新設！

全日本キックボクシング連盟では、1月28日（日）の『2001 YOUNG GUN-Ⅰ』TOKYO FMホール大会から、クルーザー級（-86.18kg）とライトヘビー級（-79.38kg）を新たに設定した。重量級選手の育成を促すのを目的としていて、1月28日の大会ではそれぞれの階級で1試合ずつが予定されている。今後は全日本キックのリングでも、K-1級のダイナミックなファイトが見られるだろう。

3・30後楽園大会に超個性的キャラが光る、梅下が出場！

1・12シルバーウルフ興行に出場し、その超個性的なキャラで他の「オシャレ系」ファイター達を圧倒してしまった梅下。大宮寺との闘いはドローに終わったが、そのファイトスタイルには独特のものがあった。試合中に、「自分に気合いを入れる」ため絶叫（奇声で？）したかと思ったら、試合後のインタビューでは、妙に丁寧な言葉遣いで記者団に対応。このキックボクサーらしいようでらしくないキャラの梅下に、3・30後楽園大会で会える！

ODYSSEY-1
3月30日（金）東京・後楽園ホール

◆開場/17:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　S席10,000円　指定A席7,000円　指定B席5,000円　立見3,000円（当日のみ）
◆チケット発売/1月27日（土）
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、チャンピオン、後楽園ホール
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンケイプロモーション☎03-5971-2165

決定対戦カード

—5回戦—

〈MAフライ級タイトルマッチ〉
森岡卓司（武勇会）vs 長瀬悟（習志野ジム）

グライガンワーン（タイ）vs 木村允（土浦ジム）
きんぞ〜（新潟山木ジム）vs 梅下湧暉（谷山ジム）

出場予定選手

ラビット関（山木ジム）
ヌンサヤーム・ヤマキ（タイ）
内田ノボル（ビクトリージム）
チャンデット（タイ）
TOGANEタイソン（東金ジム）

新日本キックボクシング協会

新日本キックボクシング協会
2月25日（日）神奈川・トーエル横浜ジム

◆開場/15:30　試合開始/16:00
◆入場料/SRS席10,000円　RS席7,000円　A席5,000円　立見3,000円（当日若干数）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/トーエルジム、協会各ジム、協会公式ホームページ（http://www1.neweb.ne.jp/wa/kick/）
◆会場アクセス/東急東横線綱島駅より徒歩15分
◆お問い合わせ/小林プロモーション☎045-590-3942

決定対戦カード

—5回戦—
頼信 vs 鈴木祐作
（トーエルジム）（伊原ジム）
清水政和 vs マサル
（治政館ジム）（トーエルジム）
江森禎紀 vs 大野信一郎
（治政館ジム）（藤本ジム）
鈴木敦 vs 今村歩
（尚武会）（トーエルジム）
—4回戦—
倉島敏光 vs 福元祐一
（尾田ジム）（治政館ジム）
—3回戦—
森田亮二郎 vs 北野正一
（藤本ジム）（誠真ジム）
新宅大介 vs 良平
（伊原ジム）（トーエルジム）
石川隼 vs 関直人
（宮川道場）（尾田ジム）
今野裕太 vs 孫創基
（伊原ジム）（トーエルジム）
小出晋吾 vs 新井因果勝珠
（大分ジム）（野本ジム）
大山吉隆 vs 岡本和美
（藤本ジム）（大賀ジム）
田谷俊之 vs 青木貴尚
（ホワイトタイガー）（大賀ジム）

ニュージャパンキックボクシング連盟

CHALLENGE TO MUAYTHAI 1
1月26日（金）東京・後楽園ホール

◆開場/15:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席12,000円　RS席10,000円　特別指定席7,000円　A席5,000円　B席4,000円　C席3,000円　立ち見3,000（当日のみ）　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、書泉ブックマート、ファイター、チャンピオン、フィットネスショップ水道橋店、渋谷センタースポーツ☎03-3400-3308、格闘館MAX☎03-5212-7897、マーシャルワールド東京店、コンクリート☎03-5272-4152、ニュージャパンキックボクシング連盟
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング連盟☎03-5625-2371

決定対戦カード

—5回戦—
ソッド・ルークノンヤントーイ vs 桜井洋平
（タイ）（岩瀬スポーツ）
ラフレイ・ソアワッチャラ vs 楠本勝也
（タイ）（東京北星ジム）
山本恭太 vs 川津真一
（大和ジム）（町田金子ジム）
野崎勇治 vs 孫悟空丸山
（東京北星ジム）（小国ジム）
小野寺亮 vs 広川靖之
（神武館）（小国ジム）
—3回戦—
AVIS01 vs 飯田誠一
（小国ジム）（町田金子ジム）
發田隆治 vs 中川裕也
（ウィラサクレックジム）（日本キック連盟／渡辺ジム）
中村保成 vs 藤原国崇
（ウィラサクレックジム）（拳之会）
獅子丸修平 vs 長塚崇
（小国ジム）（パシフィック）

CHALLENGE TO MUAYTHAI 2 ～CHALLENGE MATCH PART 2～
2月12日（月・休）愛知・名古屋市公会堂4Fホール

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/SS席15,000円　S席8,000円　A席6,000円　自由席4,000　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、名古屋JKF、大和ジム、ニュージャパンキックボクシング連盟
◆会場アクセス/JR中央本線、名古屋市営鶴舞線鶴舞駅より徒歩4分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング連盟☎03-5625-2371　名古屋JKF☎052-911-6800

決定対戦カード

—5回戦—
ボーデンシット・ピサム vs 佐藤孝也
（タイ）（名古屋JKF）
デッカロン・ソー・サムアリー vs 中島稔倫
（タイ）（大和ジム）
チョーアーンタイ・キャートチャンシン vs 佐藤嘉洋
（タイ）（名古屋JKF）
チャンノーン・ソーワニット vs 笛吹丈太郎
（タイ）（大和ジム）
弘中史樹 vs 新美友恒
（ウィラサクレックジム）（大和ジム）
稲葉直樹 vs 松本竜大
（早川）（名古屋JKF）
中岡秀夫 vs 竹村健二
（大阪真門）（名古屋JKF）
—3回戦—
松田圭央 vs 宮本勲
（截空道）（大和ジム）
大山和也 vs にしだ☆マン
（闘真）（大和ジム）

ニュージャパンキックボクシング連盟・日本キックボクシング連盟合同興行

2・17後楽園大会、小野瀬がムエタイのランカーと対戦！

ニュージャパンキックと日本キック連盟の合同興行となる2・17後楽園大会で、小野瀬がムエタイのランカーに挑戦することが決定した。小野瀬は昨年9・24後楽園大会で、やはりムエタイのランカー・オーローノーと対戦し、壮絶な打撃戦を繰り広げている。結果は小野瀬の判定負けだったが、ハードパンチャーのオーローノー相手に、反則覚悟のケンカファイトで立ち向かっていった。そんな男っぷりも最高の小野瀬に注目だ！

またライト級チャンピオンの小野瀬が、2000年を区切りにライト級チャンピオンを返上し、ウェルター級で活動することについて、日本キックボクシング連盟では12月の定例理事会で検討した結果、ウェルター級チャンピオンと認定することを決定した。これは、小野瀬が2000年度、65kg～67kgのウェイトで対戦してきて、その対戦相手と戦績を加味した上での決定とのこと。

▶2・17で、ムエタイのランカーに挑戦する小野瀬

CHALLENGE TO MUAYTHAI 3／2001激動シリーズ
2月17日（土）東京・後楽園ホール

◆開場/15:00　試合開始/17:30
◆入場料/SRS席12,000円　RS席10,000円　特別指定席7,000円　A席5,000円　B席4,000円　C席3,000円　立ち見3,000（当日のみ）　※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、書泉ブックマート、ファイター、チャンピオン、フィットネスショップ水道橋店、渋谷センタースポーツ☎03-3400-3308、格闘館MAX☎03-5212-7897、マーシャルワールド東京店、コンクリート☎03-5272-4152、ニュージャパンキックボクシング連盟
◆会場アクセス/JR総武線、都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング連盟☎03-5625-2371

決定対戦カード

—5回戦—
タイ国強豪選手 vs 小野瀬邦英
（渡辺ジム）
コンパファピー・ソー・サムアリー vs 松浦信次
（タイ）（東京北星ジム）
尾崎英樹 vs 唐沢たくみ
（ピコイ・錦ジム）（八王子FSG）
中村篤史 vs チャイナロン・ゲオサムリット
（北流会君津）（タイ）
ソムチャーイ高津 vs 神島雄一
（小国ジム）（杉並ジム）
—3回戦—
宮園泰人 vs 本山大
（ウィラサクレックジム）
平吹貴仁 vs 児玉正暁
（金子町田ジム）（ピコイ・錦ジム）
山本雅美 vs 山田大輔
（北流会君津）（杉並ジム）
渡辺秀策 vs 武笠則康
（小国ジム）（渡辺ジム）
名取宏泰 vs 松本隆史
（東京北星ジム）（村越ジム）
篠根理孝 vs 鈴木裕一
（拳友会）（光ジム）

選手育成シリーズ第1弾
3月20日（火・祝）愛知・名古屋市公会堂4Fホール

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/SS席10,000円　S席7,000円　A席5,000円　自由席3,000円　※当日は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、名古屋JKF、大和ジム、ニュージャパンキックボクシング連盟
◆会場アクセス/JR中央本線、名古屋市営舞線鶴舞駅より徒歩4分
◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング連盟☎03-5625-2371　名古屋JKF☎052-911-6800

T.A.M.A.
（トータル・アスレチック・マーシャル・アーツ）

格闘技サミット・トーナメント
1月28日（日）東京・ニューシティーホール国立特設コート

◆開場/11:00　試合開始/11:30
◆入場料/2,000円（当日3,000円）
◆会場アクセス/JR中央線国立駅南口より徒歩2分
◆お問い合わせ/T.A.M.A.☎042-572-6795　☎090-4829-3773

決定対戦カード

＜SSSアカデミー提供特別試合＞
"ランバー"ソムデート・M16 vs タノムサク鳥羽
（タイ）（二瓶組）
＜フルコンタクト空手＞
舘智行 vs 寺尾新
（フリー）（寺尾道場）

シュートボクシング

第1回全日本ライトアマチュアシュートボクシング選手権神奈川大会
2月11日（日）神奈川・大和スポーツセンター

◆開場/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/相鉄本線急行、小田急江ノ島線大和駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3843-1212

アマチュア

極真会館

第7回全日本青少年空手道選手権大会

5月3日（木・祝）、4日（金・祝）
埼玉・戸田市スポーツセンター

◆開場/未定
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR埼京線戸田駅より徒歩7分
◆お問い合わせ/大会事務局　極真会館埼玉支部盧山道場☎048-256-8255

GCM COMMUNICATION

CCC.ver.1.1 (class-C Contenders Cross-link)

3月18日（日）神奈川・TIGER PLACE

◆開場/10:00　試合開始/11:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR南武線尻手駅より徒歩8分
◆お問い合わせ/GCM COMMUNICATION☎03-5200-3511

C.F.C.

第18回アマチュア・コンプリート・ファイティング ～ワンマッチ大会～

3月11日（日）神奈川・TIGER PLACE

◆開場/10:00　試合開始/12:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR南武線尻手駅より徒歩8分
◆お問い合わせ/C.F.C.事務局☎0564-55-9070（16:00まで）☎0120-00-4524（17:00以降）

空手

日本グローブ空手道連盟

第10回グローブ空手オープン選手権大会

3月31日（土）　東京武道館

◆試合開始/未定
◆入場料/無料
◆会場アクセス/地下鉄千代田線綾瀬駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/日本グローブ空手道連盟☎03-5625-2371

勇志会空手道

第12回東都空手道選手権大会

4月8日（日）川崎市とどろきアリーナ・メインアリーナ

◆選手集合/9:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/JR南武線・東横線武蔵小杉駅より徒歩25分、またはバス7分
◆お問い合わせ/勇志会空手道　大会事務局☎03-3990-9270

正道会館

第13回オープントーナメント 西日本新人戦空手道選手権大会

2月25日（日）大阪府立体育会館　地下2階　柔道場

◆開場/9:00　試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/南海難波駅、地下鉄なんば駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/正道会館総本部☎06-6357-1654

その他

ヴァーサス・エンターテイメント

CLUB FIGHT～ROUND 2～

1月27日（土）大阪・MOTHER HALL

◆OPEN/21:00　FIGHT GONG/22:30
◆入場料/4,000円（当日500円増し）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ
◆会場アクセス/地下鉄御堂筋線難波駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/ヴァーサス・エンターテインメント☎03-5775-1668

決定対戦カード

山本喧一 vs 秋山賢治
（パワーオブドリーム）　（総合格闘技空手道禅道会総本部）

高橋洋子 vs 石原美和子
（J'd）　（総合格闘技空手道禅道会総本部）

梁正基 vs 藤井敏也
（パワーオブドリーム）　（剛道館）

CLUB FIGHT～ROUND 3～

3月4日（日）名古屋・Club OZON

◆OPEN/21:00　FIGHT GONG/22:30
◆入場料/4,000円（当日500円増し）
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ
◆会場アクセス/地下鉄名城線矢場町駅より徒歩5分
◆お問い合わせ/ヴァーサス・エンターテインメント☎03-5775-1668

※お詫びと訂正　前号に掲載したヴァーサス・エンターテイメントのCLUB FIGHT～ROUND 2～の日にちが1月20日とありましたが、1月27日の誤りです。またCLUB FIGHT～ROUND 3～の会場は名古屋・Club OZONとなります。読者および関係者の皆様にお詫びするとともに、訂正いたします

プロ団体連絡リスト

K－1事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22S＆T神宮前ビル3F
☎03-3796-2977

修斗コミッション
〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8若山ビル201
☎03-5824-1324

リングス
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町13-1サトウビル2階202号
☎03-3461-0257

ワールドパンクラスクリエイト
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 2F
☎03-5792-0815

格闘探偵団バトラーツ
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
☎0489-63-0005

高田道場
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山1F＆B1
☎03-5749-5030

UFO
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5OK白金台ビル7F
☎03-5447-2121

ドリームステージエンターテインメント
〒107-0052 港区赤坂8-5-4ルーメリ赤坂103
☎03-5775-5700

掣圏道協会(SA)事務局
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14恵比寿スカイハイツ607
☎03-5456-7333

マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟
〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-6-5
☎03-3485-7060

全日本キックボクシング連盟
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-6-21
☎03-3365-1171

日本キックボクシング連盟
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩5-2-7江戸屋ビル4F
☎03-3691-4536

新日本キックボクシング協会
〒150-0034 東京都渋谷区代官山町7-8
☎03-3718-8696

ニュージャパンキックボクシング連盟
〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-14-1サガノビル2F
☎03-5625-2371

J－NETWORK
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-12三元ビル5F
☎03-3419-0536

K－U(キック・ユニオン)
〒144-0052 東京都大田区蒲田4-40-10グレースワン603
☎03-5713-8061

シュートボクシング協会
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8ワコー花川戸ハイツ1,2F
☎03-3843-1212

NEXT ISSUE 次号予告

スクープ？総合格闘技に新たな動き この時代のスピードにキミはついてこれるか!?

次号も本誌ならではの企画モノ＆情報がタップリ！

速報！ 2・4『パンクラス』後楽園ホール

詳報！ 1・30『K-1 RISING 2001　松山大会』
チャンスをものにできる男なのか？
富平辰文 VS ミルコ・クロコップ

2/8(木)発売！

SRS-DX

2001年2月8日発売 40号 定価680円（税込）　毎月第2・第4木曜日発売

BACK NUMBER INFORMATION
バックナンバー インフォメーション

2号・11号・12号・20号・22号・23号・25号・26号・30号・32号・33号・36号は完売しました。

売り切れ続出につき、お買い求めはお早めに！

《7・8　創刊号》
●大会情報/6・20『K-1 BRAVES'99福岡大会』
●インタビュー/髙田延彦、桜庭和志、エンセン井上
●SRS・DX特集★第1弾/お台場格闘チャンネル「SRS」どう～なってるの？

《8・12　創刊3号》
●完全速報/7・18『K-1 DREAM'99名古屋大会』
●インタビュー/フランク・シャムロック、マーク・ケアー、小川直也インタビュー
●SRS・DX特集★第3弾/佐山聡の掣圏道とは何か？

《8・26　4号》
●インタビュー/ホイス・グレイシー、佐竹雅昭、桜庭和志、田村潔司、ビル・ロビンソン
●極真カラテ（松井派）世界大会へのカウントダウン
●SRS・DX特集★第4弾/沖縄の夏　美女と達人に出会う旅

《9・9　5号》
●完全速報/8・22『K-1 SPIRITS有明コロシアム大会』
●インタビュー/石井和義、髙田延彦、アレクサンダー大塚、魔裟斗、郷田勇三、田中健太郎
●SRS・DX特集★第5弾/最強！　俺の格闘お宝アイテム

《9・23　6号》
●インタビュー/髙田延彦、前田日明、エンセン井上、佐山聡、髙阪剛、武蔵、ノブ・ハヤシ
●SRS・DX特集★第6弾/大山倍達を悩ませた最後の格闘技『中国拳法の謎』
●着メロ/武蔵『KICK START MY HEART』

《10・14＆28　合併号　7号》
●本誌独走スクープ！/猪木＆小川　闘魂師弟、モンゴル相撲に殴り込み！！
●完全詳報/9・12『PRIDE.7』
●SRS・DX特集★第7弾/桜庭和志の『バーリ・トゥードはプロレス技で勝て！』

《11・11　臨時増刊号　8号》
●完全速報/10・3『K-1 GRAND PRIX'99開幕戦』大阪ドーム大会
●現地徹底取材/9・24『UFC-22』
●大特集/格闘王国オランダの強さに迫る

《11・11　9号》
●第7回極真世界大会直前大特集/大山倍達のカラテ道人生、ブラジル怪物育成の秘密に迫る
●歴史的対談実現！　石井和義VS松井章圭
●SRS・DX特集★第8弾/微笑みの国タイの国技ムエタイとは何か？

《11・25　10号》
●完全速報/11・5～7『第7回極真世界大会』
●詳報/10・28『リングスKOK』代々木大会
●11・21『プライド8』有明大会直前情報/髙田、ゴエス インタビュー
●着メロ/『空手バカ一代』

《1・13　13号》
●インタビュー/佐竹雅昭、桜庭和志、フランシスコ・フィリォ、アーネスト・ホースト、アレクサンダー大塚×ターザン山本対談
●『SRS・DX』が選んだ1999年格闘技界10大ニュース
●詳報/バーリ・トゥード・ジャパン'99
●着メロ/桜井"マッハ"速人『不死身のエレキマン』

《1・27　14号》
●1・30東京ドーム『PRIDE GP 2000』大会情報 髙田、桜庭、エンセン井上、大刀光インタビュー、佐竹雅昭×ターザン山本対談
●本誌初登場！　船木誠勝インタビュー
●SRS・DX特集★第9弾/まだある大山倍達　世界ケンカ旅行の謎
●着メロ/グレイシー一族『FORT BATTLE』

《2・10＆24　15号》
●PRIDE GP 2000直前大特集/佐竹＆藤田のシアトル衝撃スパーをレポート◎佐竹のシアトル絵日記◎藤田インタビュー◎ホイス＆ホリオンインタビュー
●熱烈応援！　2・26リングスKOK/田村潔司インタビュー、アイブル　インタビュー
●1999『SRS・DX』読者選定ベストバウト！ 桜庭、ダントツでMVP＆ベストバウト2冠王に輝く
●着メロ/桜庭和志『SPEED TK REMIX』

《3・9　臨時増刊号　16号》
●完全速報/1・30東京ドーム『PRIDE GP 2000開幕戦』
●詳報/1・25『K-1 RISING 2000』長崎大会
●熱烈応援！2・26『リングスKOK』★編集長インタビュー/前田日明、ヘンゾ・グレイシーインタビュー
●着メロ/辰吉丈一郎『GAME OF DEATH～辰吉丈一郎のテーマ～』

《3・9　17号》
●5・1東京ドームへ『PRIDE GP 2000』その波紋の行方/藤波辰爾、永田裕志、桜庭和志、佐竹雅昭、エンセン井上インタビュー、ボブチャンチン×ターザン対談、アレク×ターザン対談
●熱烈応援！　2・26『リングスKOK』★編集長インタビュー/前田日明　ほか
●着メロ/藤田和之『STAR CYCLE』

《3・23　18号》
●徹底検証＆完全詳報『リングスKOK』/KOK緊急大総括、田村、ヘンゾ、ヘンダーソン、ハンインタビュー、試合レポート
●佐竹、掣圏道に弟子入り
●緊急レポート/船木の高知合宿、アブダビ速報
●着メロ/アントニオ猪木『炎のファイター』

《4・13　19号》
●大会速報/3・19横浜アリーナ『K-1 BURNING 2000』
●5・1『PRIDE GP 2000決勝戦』情報/藤田パラオでA.猪木と猛特訓！、ホイス・グレイシーインタビュー＆緊急会見、桜庭和志大激怒の反論会見
●着メロ/パンクラス『HYBRID CONSCIOUS』

《5・11　21号》
●完全詳報/4・23大阪ドーム『K-1 THE MILLENNIUM』
●5・1『PRIDE GP 2000』直前情報/エリオインタビュー、佐山聡VSターザン山本対談
●詳報！4・14『UFC-J』代々木第二体育館大会
●大会速報/4・20リングス代々木第二体育館大会

《6・22　24号》
●完全速報！　6・4『プライド9』
●海外速報　6・3『K-1 FIGHT NIGHT』スイス大会
●大会詳報　5・28『K-1 SURVIVAL 2000』札幌大会
●その後の『コロシアム2000』/近藤有己＆吉村直明プロデューサーインタビュー
●6・17～18極真カラテ全日本ウェイト制大会プレビュー/田中健太郎インタビュー
●編集部の注目！/6・11『アルティメット・ボクシング』横浜アリーナ大会
●大会レポート/5・21SB後楽園大会、5・24全日本キック後楽園大会、5・26MAキック後楽園大会
●着メロ/天田ヒロミ『PRETTY FLY』

《8・10　27号》
●スペシャル対談/アントニオ猪木VSターザン山本、桜庭和志VS中井美穂（後編）
●8・27『プライド10』特集/桜庭和志、ヘンゾ＆ハイアン・グレイシー、藤原喜明、ケン・シャムロック、エンセン井上インタビュー、藤田和之アメリカ修行レポート
●7・30『K-1 WORLD GP 2000 in 名古屋』直前情報/ニコラス・ペタス、金泰泳インタビュー
●編集部の注目！/アレクサンダー・カレリン、『新生パンクラスの男たち第1回』近藤有己
●大会レポート/7・7NJKF後楽園大会、7・16修斗後楽園大会、7・20MAキック後楽園大会、7・22修斗北沢大会、7・23パンクラス後楽園大会
●着メロ/植松直哉『ワルキューレの騎行』

《8・24＆9・14　合併号　28号》
●8・20『K-1 WORLD GP 2000 in 横浜』直前情報/緊急座談会、盧山初雄、シリル・アビディ、中迫剛インタビュー
●大会詳報/7・30『K-1 WORLD GP 2000 in 名古屋』
●8・27『プライド10』直前情報/猪木が石澤＆藤田を従えPRIDE出陣記者会見、新間寿VSターザン山本対談、ハイアン・グレイシーインタビュー
●大会レポート/7・26WOLF REVOLUTIONヴェルファーレ大会、7・29新日本キック後楽園大会、7・30全日本キック後楽園大会　新世界王者・小林聡VSビートたかし対談、8・4修斗大阪大会
●着メロ/長州力『パワーホール』

《9・28　臨時増刊号　29号》
●緊急追悼特集/8・24アンディ・フグ逝く
●大会速報/8・27『プライド10』
●大会詳報/8・20『K-1 WORLD GP 2000 in 横浜』、フランシスコ・フィリォ＆シリル・アビディ インタビュー
●海外レポート/桜庭戦後のホイス・グレイシーをロスの自宅でキャッチ
●大会レポート/女子ボクシング世界戦in韓国、極真全関東大会
●噂の三面記事/パンクラス・近藤がUFCに挑戦！　10・22『サムライ』有明大会で柳澤龍志が掣圏道と激突！　ほか

《10・12＆26　合併号　31号》
●巻頭ストーク特集・第2弾！ 検証・まだまだ続く石澤問題!!/山本小鉄、辻義就インタビュー
●海外レポート/9・22『UFC 29』パンクラス・近藤、UFC初見参！
●石井館長と語ろう！ 10・9『K-1 WORLD GP 2000』福岡大会の見どころ！
●10・31『プライド11』特集/髙田延彦、藤田和之、桜庭和志（後編）インタビュー
●『SRS・DX』の注目！/10・22『サムライ』有明大会、どうなる極真・全日本！
●大会速報/9・24パンクラス横浜文化体育館大会、新星パンクラス・須藤元気
●大会レポート/9・10正道会館全日本大会、9・13全日本キック後楽園大会、9・15修斗後楽園大会、9・20SB後楽園大会、9・21女子ボクシング下北大会

《11・23　34号》
●完全詳報＆特別企画/10・31『プライド11』大阪城ホール大会、緊急『プライド』座談会
●完全詳報/11・1『K-1 J・MAX』後楽園ホール大会/魔裟斗＆小比類巻、メジャーリーガーの証明
●『SRS・DX』の注目！/大仁田厚が『プライド』森下社長に猪木戦直訴！、10・27修斗NKホール大会で宇野薫VS佐藤ルミナ戦 決定！、11・26『バトラーツ駒沢大会』直前情報
●大会レポート/10・31『パンクラス』後楽園ホール大会、10・29『アルティメット・ボクシング』有明大会、11・4～5 極真全日本空手道選手権 大会速報、10・21ニュージャパンキック名古屋大会、10・28 新日本キック後楽園大会
●ついに発売！！サクラバマシンフィギュア＆アントンTシャツ情報！

《12・14　35号》
●世紀末大特集・20世紀と格闘技/プロレス＆格闘技年表、力道山、新日本プロレス、極真、UWF、K-1、UFC、『プライド』、平成のデルフィン、東スポ伝説、私の選んだ名勝負BEST.5
●インタビュー大特集/バンナ、武蔵、谷津嘉章、髙橋義生、アレク、魔裟斗、武田幸三、12・3ラジャ興行に出場する新日本キック王者たち
●ターザン座談会/2000年のMVPは誰だ！
●大会レポート/11・12『クラブファイト』、11・12修斗後楽園大会、11・11MAキック後楽園大会
●噂の三面記事/12・31、猪木イベントの正体はワンナイト・タッグトーナメント！　新イベント『DEEP 2001』に未知のグレイシー来襲か！？　打倒ムエタイのロマンとは何か？　ほか

《1・11　37号》
●大会速報！　12・23『プライド12』さいたまスーパーアリーナ大会
●大会詳報/12・16『UFC-J』ディファ有明大会、12・17修斗NKホール大会
●噂の三面記事拡大版/12・12桜庭とヒクソンがフジテレビのトーク番組で夢の顔合わせ　ほか
●SRS・DXの注目/12・31『猪木ボンバイエ』最新情報！　ヘンゾ・グレイシーインタビュー、アンディ・フグ納骨式、髙田道場、未来のファイターにレスリングを指導、リングス12・22大阪大会　ターザン山本潜入観戦記、1・4全日本キック後楽園決戦へ！
●大会レポート/12・9パンクラス青森大会、12・17アルティメット・ボクシング有明大会、12・9日本キック後楽園大会、12・12女子ボクシング下北大会

《1・25　38号》
●徹底検証！　12・31『猪木ボンバイエ』大阪ドーム大会
●新春スペシャル対談　3連発！/髙田延彦vsターザン山本（前編）、アントニオ猪木VSシュガー・レイ・レナード、シリル・アビディVSはせキョー
●本誌スタッフより格闘家の皆様へ21世紀の大提言！
●『プライド12』徹底検証インタビュー/桜庭和志、藤田和之、12・26猪木成田会見
●新春フライング天国座談会「21世紀のエンターテインメント」
●祝ラジャダムナンスタジアム Jr.ミドル級タイトル奪取/伊原信一＆小笠原仁インタビュー
●大会レポート/12・22全日本キック後楽園ホール大会

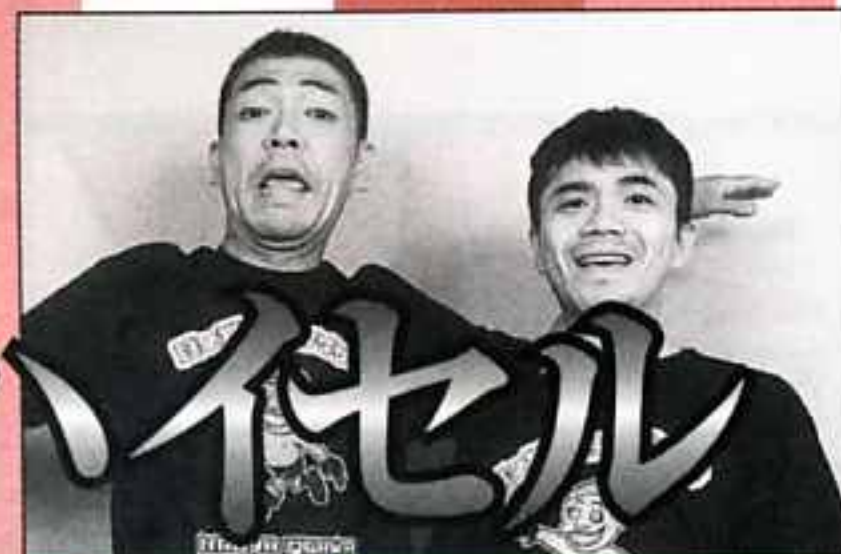
バックナンバー　通信販売方法

定価／各680円　送料／1冊＝310円、2冊＝340円、3冊以上＝500円。希望冊数×680円と冊数分の送料を、現金書留にて下記までお送りください。
住所、氏名、希望号数の明記をお忘れなく。発送まで1～2週間ほどかかりますのでご了承ください。

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F　『SRS・DX　バックナンバー係』まで　お問い合わせは ☎03-3295-4445

浅草キッドの底抜けアントンハイセル

12.31「猪木祭」の余波か？
ディズニーが「108発寛ちゃん」制作開始！？

◎浅草キッドHP『キッドリターン』
http://www.kidchan.com

博士　前号はこのコラムは休載で失礼しました。

玉袋　浅草キッドも『SRS・DX』に対して取材拒否をしていたもので……。

博士　年末年始の過密スケジュールでお休みもらっただけだよ！　ちょっと遅くなったが、21世紀一発目の底抜けアントンはやはり「猪木祭ーINOKIーBOMーBAーYE」からいこう！

玉袋　20世紀の最後を飾るイベントとしては「阿含の星祭り」の盛り上がりを超えた「アゴの猪木祭」だったですよ！

博士　あんなイベントだったら毎月開催されてほしいよ。

玉袋　長州とGKは認めてないですけどね。

博士　いい気分なのに水を差すな！

玉袋　ゴージャスというか滅茶苦茶というか、凄いマッチメイクでしたよ！

博士　猪木様じゃないとできないマッチメイクだよ！

玉袋　常人じゃ信じられない食い合わせです。

博士　天ぷらとアイスクリーム、ウナギに梅干しを超えてるよな。

玉袋　でも、『プライド』の選手がプロレスをした、その食い合わせでアレルギー反応を起こしたファンもいましたよ。

博士　宇野&小路はプロレスしちゃってたもんな。

玉袋　是非とも小島&天山組との対決が見たいです。

博士　やるわけないだろ！

玉袋　橋本と闘ったグッドリッジは大阪ドームが本拠地のバッファローズの中村を見習って思いっきりパンチを振り抜いてほしかったって声もあった。

博士　試合後に橋本はプロレスの怖さが分かっただろ！　って言ってた。

玉袋　本当にプロレスは怖いですよ！　でもグッドリッジに勝った橋本は谷津よりも大刀光よりも強いってことですよ！

博士　無理な三段論法を持ち出すなよ！

玉袋　あの試合を見た藤波社長が「殺し合いじゃない」と言って止めに入って会場中ブーイングですよ！

博士　そりゃ惨憺たる結果になった今年の1・4の新日本プロレス東京ドームの長州VS橋本だよ。

玉袋　あの試合は「負けたら頼むからどっちか本当に引退してくれスペシャル」ですよ！

博士　そんなサブタイトル付いてないよ！　でも、あまりの消化不良の試合に会場の観客が騒然となった。

玉袋　織田裕二の「ロケット・ボーイズ」より消化不良の結末だったもん。

博士　あれは織田の腰痛で以降延期なだけだ！　しかし新日の会場で「金返せコール」が吹き荒れるなんて珍しいよ。

玉袋　それだけじゃないですよ！　2階からは「長いぞ！」と罵声が飛んだ後に「帰れコール」が起こり、怒った橋本が「静かにしろ！　出て行け！」と一喝する一幕もありました。

博士　それは成人式で騒いでいた新成人を怒鳴った橋本大二郎高知県知事だろ！

玉袋　高松のクラッカー噴射5人衆がいたら絶対乱入して大騒ぎしてましたよ。

博士　またパクられるからやらないよ！

玉袋　でも、1・4の長州VS橋本の暴動寸前の騒ぎは中途半端な試合内容だけじゃないんですよ！

博士　他の原因はなんなんだ？

玉袋　あの日の試合に、食用を禁じられている橋本を入れたことに怒ったイスラム教徒のインドネシア人の客が激怒したんですよ！

博士　それはインドネシアの味の素に入っていた「豚酵素」の話だろ！

玉袋　橋本真也の体には猪木によって確実に豚酵素が注入されてるんですよ！

博士　何注入されてるんだよ！　猪木に闘魂を注入してもらえよ！　まあ「猪木祭」はいろいろ試合は揚げ足取れたけど、最初から「遺恨凄惨」なんて銘打たないで「猪木祭」って銘打ってるんだからいいんだよ！

玉袋　世紀末と猪木祭を心から楽しむ猪木信者はアレルギーに対する耐性を持ってなくちゃ。あくまでもオールスター戦ですもんね。

博士　プロ野球のオールスターでピッチャーに起用したイチローに怒るようなもんだよ。

玉袋　面白けりゃいいじゃねぇか！　元巨人杉山の顔面凶器攻撃！

博士　それはシャレになってないよ！　面白ついでに、あのメンバーでバトルロイヤルも見たかったな。

玉袋　R―15指定でね。

博士　いちいちしなくていいよ！　108発の煩悩を張り飛ばした猪木様の「除夜の気合い入れ」も良かった～。

玉袋　あれは本当のシャクティーパットですよ！

博士　その除夜のシャクティーパットを受けた人から俺たちのHPにかなりメールが来たんだよ。

玉袋　苦情のメールですか？

博士　いや、そこは、あの猪木様の張り手を受けた瞬間に直撃した自分の宗教的な目覚めの手記が書かれて来てるんだよ！

玉袋　本格的に宗教色が強まってきましたよ！

博士　「永年苦しんできた病気が治った」なんてメールまで来てたよ。

玉袋　あの映像が世界に流れたら「日本はどんな国なんだ？」って思われますよ！

博士　でも、米ディズニー社が早くも映画「108発、寛ちゃん」の制作に入ったという情報もあるぞ。

玉袋　どこの情報だよ！　猪木の話になると博士おかしいよ！

博士　だってお前、あのビンタ見ていて涙が出てこなかったか？

玉袋　いや僕もターザンと髙田延彦選手の対談読んで涙出てきましたよ。

博士　その話じゃないだろ！　だけどあの対談も良かったから、ターザンが顔を合わせられない人たちと対談するコーナーを是非シリーズにしてほしいね。ターザン山本試練の十番勝負。

玉袋　コーナータイトルは昭和初期のディック・ミネ&星玲子が歌った名曲「二人は若い」ならね「二人は和解」に決定だ！

博士　歌もあるからな！

玉袋　♪「あなた」と呼べば～

博士　♪「あなた」と答える～

玉袋　♪山のこだまの嬉しさよ～

博士　♪「あなた」～

玉袋　♪「なあんだい」～
　空は青空　二人は和解～

博士　単なるダジャレだけども、このコーナーでターザンは前田日明、天龍源一郎、長州力と和解する。

玉袋　それだけじゃないですよ、鈴木健まで和解です。もちろん元Uインターのチビ社長じゃないですよ。

博士　それに前のカミさん、そして娘、その前のカミさんとその娘。

玉袋　全て和解するんですが、パンクラスの尾崎社長だけはしなくてイイです。

博士　やかましい！

玉袋　でもターザンの野郎最低だよ。元カミさんとの初体験は「69」年型シボレーインパラの後部座席だったことを暴露しやがった。

博士　それはWWFのビンス・マクマホンJrの話だろ！　話戻して、20世紀に猪木と一緒に生きてきて喜怒哀楽の感情を大きく揺さぶられた世代にとっちゃ、ドォーっと押し寄せてくるものがあった。

玉袋　その後の21世紀のカウントダウンと違う「3・2・1」のカウントダウンなのに、癖で「1・2・3ダーッ!!」とカウントアップ。

博士　何もかも猪木イズム爆発だった一夜だ。

玉袋　もちろん信者の皆さんは教典「アントニオ猪木自伝」を読んでるんでしょうが、もう一つここで教典が増えたことをお伝えします。

博士　なんだよ？

玉袋　文芸春秋から好評発売中の「お笑い男の星座」これです！

博士　俺たちの本の宣伝だろ！　しかし、この本は、『SRS・DX』が誌面で展開していることをいち早くやろうとしてるんだからね。

玉袋　この本を読めば猪木イズムの有効利用が分かる一冊ですよ！

博士　そしてこの本の収益は全てブラジルに建設中の「いのき小学校」の建設資金に充てられます。

玉袋　おれたちゃゾマホンかよ！

博士　とにかく迷わず読めよ！　読めば分かるさ！　■

DEEP INTERNATIONAL 2001

1.8★愛知県体育館

教訓！お兄さん（ヒクソン）

皮肉じゃなく対戦相手は選びましょう！

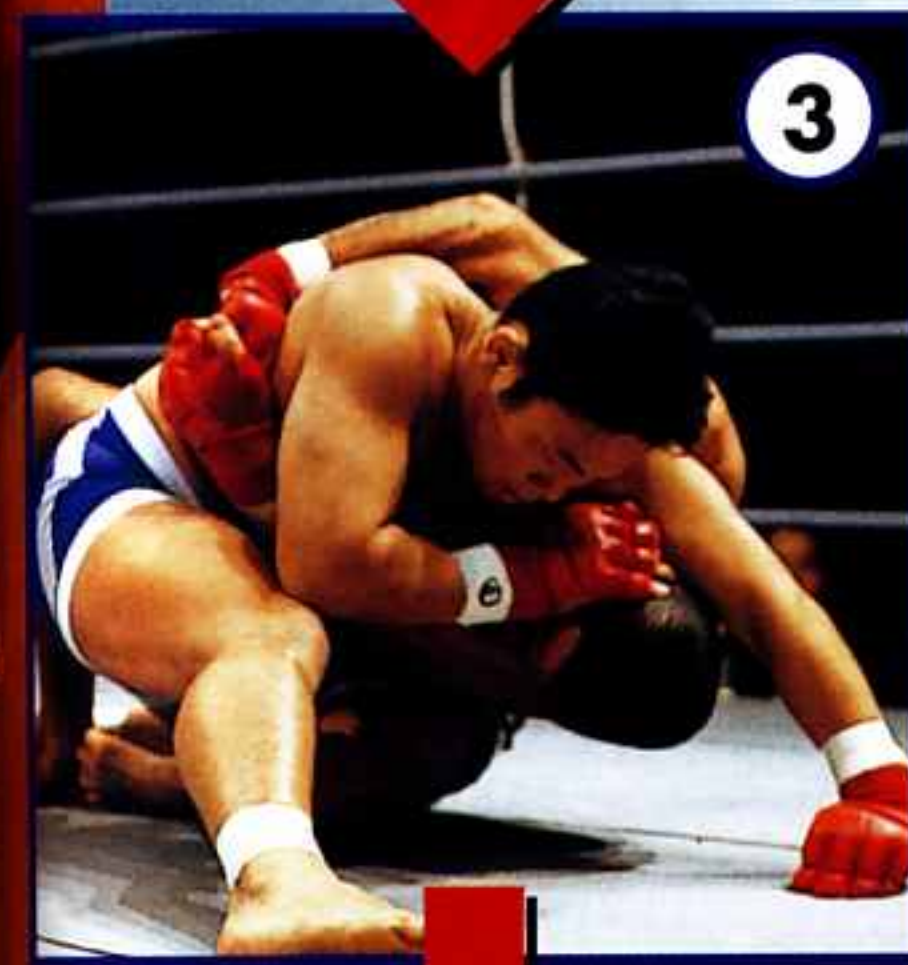
2R終了のゴングが鳴った時、ヒクソンは「アチャ～」という表情を見せた

ホイラー、村浜にまさかのドロー……

	ホイラー	村浜
モチベーション（闘志・気迫）	9	9
技術・戦略	8	7
KOスピリット	5	8
勝ちっぷり負けっぷり	0	0
全体的な印象・インパクト	8	8
合計	30	32

◀今大会は時間切れの場合は全てドローとなるルールなので、ドローとなった試合に関しては「勝ちっぷり・負けっぷり」の項目は両者とも0点とさせていただきます

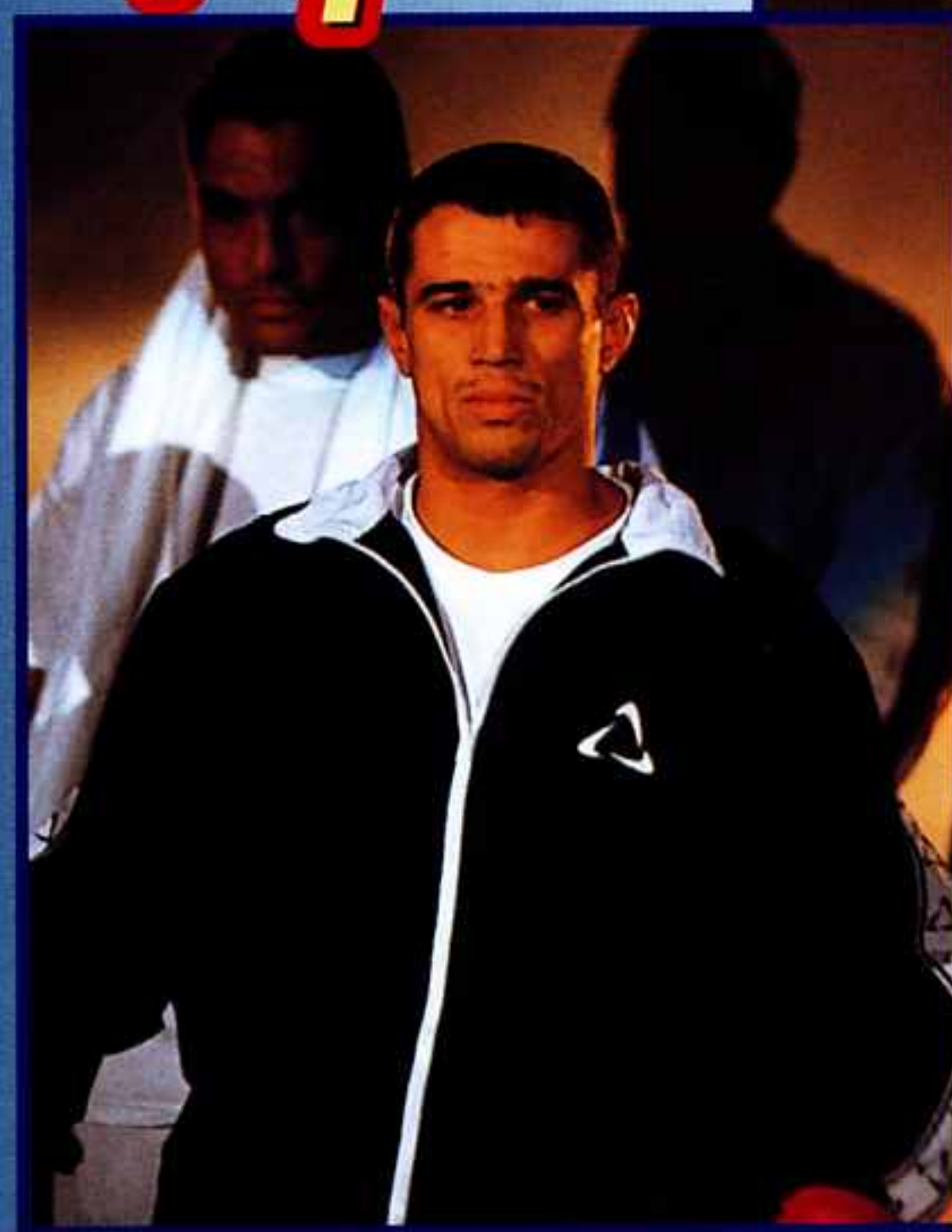
▲村浜の大善戦により、ホイラーは一本を取ることができずまさかのドロー……

おっ！ホイラーの構えが変わった！打撃の練習やってきたなっ！

◀ホイラーのタックルを潰した村浜は①、マウント状態になって殴ろうとしていたが②、村浜が殴ろうとした時にはホイラーは密着してサイドに移り③、村浜が気付いた時にはバックを取られていた④。これが「バックを取られたのはあっという間のできこと」（村浜）だったそうだ

▲これまで右構えだったホイラーだが、今回は打撃でいうところのオーソドックス（左構え）に変わっていた。だが、これが村浜にとっては大誤算。作戦がバーになってしまったのだ

▲大阪プロレスの仲間であるえべっさん、くいしんぼう仮面、怪獣Ｚマンドラが村浜の入場に華を添える。村浜自身は結構ナーバスになっていたようだ

◀一方、ホイラーはヒクソンを引き連れて入場。たとえホイラーが先を歩いていてもヒクソンのほう存在感がある

▲最初は時折笑顔も見せるなど余裕のあったヒクソン。だが、ホイラーがなかなか極められない状況になってくると、声を張り上げてアドバイスを送っていた

★第9試合/特別ルール10分2R
△村浜武洋（時間切れ引き分け）ホイラー・グレイシー△
〈大阪プロレス〉　〈グレイシー柔術アカデミー〉
※判定なし

ヒクソンにとっては青天の霹靂だったに違いない。ホイラーが、大阪プロレスの村浜武洋と時間切れドローになった瞬間に「アチャ～」という表情を一瞬見せた。

お兄さん、お気持ちお察しいたしますが、ヤバくないですか？

村浜は今、プロレスラーとして活躍しているが、元々はシュートボクシングのエースとしてK―1フェザー級の王者にもなった立ち技系の選手だ。高校時代に柔道経験があるとはいえ、寝技の練習を本格的にやったのはここ半年。しかもVTは初めてとなれば、ホイラーほどの実績のある選手が負けるわけないと思っていただろう。

それがまさかの時間切れドローだなんて……。

試合前のルールミーティングでもグレイシー側はぬかりなかった。ホイラーが桜庭と試合をした時に、桜庭に1時間もルールミーティングで粘られた経験をちゃんと学習して、話し合いをする前の時点で99％勝てる条件にしていたのだ。

そんな村浜が、1％勝てる確率の中で考えていたのはヒジによるTKOと、猪木VSアリ状態で寝てる相手の顔面を蹴ってKOする2パターンだった。

だが、それもヒクソンから「もうルールに書いてあるから」の一言で却下されたそうだ。ヒジは一切なし、2ポイントでの顔面は蹴ってはいけない。グラウンドでのヒジ、頭突き、ヒザは一切禁止。村浜には「嫌だ」と言うことも、話し合う余地もなかったという。

さらにヒクソンは「レフェリーストップ、ドクターストップはあってはならない」と念を押した。

その理由として、レフェリース

DEEP INTERNATIONAL 2001

1.8★愛知県体育館

必死の形相のホイラー、伝家の宝刀・チョークスリーパー！

えっ？ 極まらないの……？

1Rの8割方を占めていたホイラーのチョークスリーパー。渾身の力で絞め上げていたが村浜はセコンドの指示を冷静に聞いて脱出。ホイラーの大誤算はこの攻撃に尽きるだろう

その理由として、レフェリーストップは「UFC―J」の桜庭VSコナン戦で、桜庭が打撃に合わせてタックルに入ったのを、レフェリーが止めてしまったことと、ホイラーVS桜庭戦のフィニッシュのことを例え話として挙げたそうだ。

あれ？ この2つの例は共に桜庭がらみの話である。なんだかんだと言っても、ヒクソンは桜庭のことを気に掛けているではないか。

さらにドクターストップに関して村浜が「何かの弾みで流血したらどうするんだ？」と聞いたところ、ヒクソンは「試合ができないほどの流血なら俺がタオルを投げるから、絶対にドクターストップも認めない」と答えたという。

ルールミーティングの間、発言をしていたのはヒクソンばかり。闘うホイラーは何も言わずに座っていただけだったそうだ。

結果的にこの時点で村浜が勝てると考えていたシミュレーションの1％の攻撃もねじ伏せられた。そこから村浜陣営が出した戦法は「ボディを叩いて、顔につなげてKOする」という、村浜なりの精一杯の戦法だった。

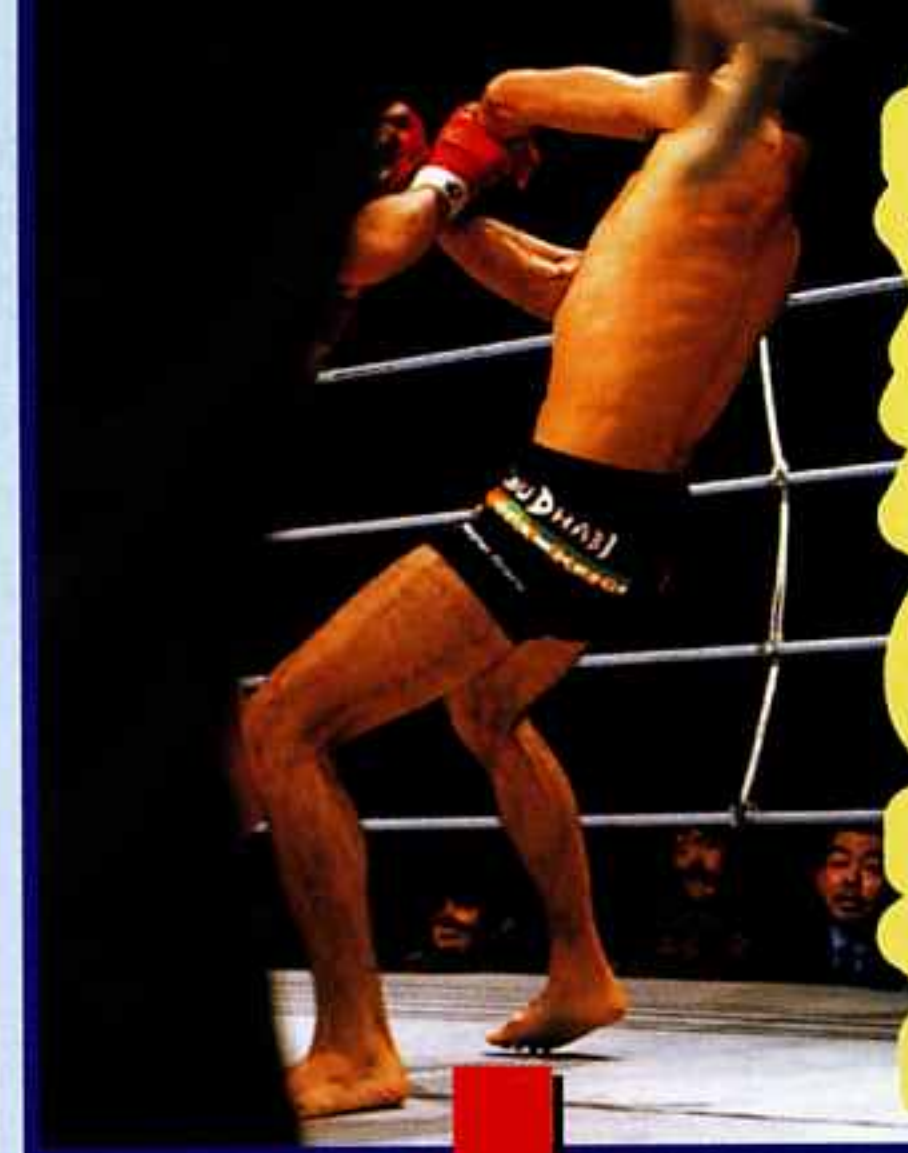
グレイシー側のお膳立てはヒクソン兄さんによって万全となった。

そして、試合早々にホイラーに絶好のチャンスが訪れる。打撃で勝負するしかない村浜は、ホイラーがタックルにいきやすいように右構えで来ると思って、攻撃を組み立てていたが、いざゴングがなるとビックリ仰天！ ホイラーが打撃で言うところのオーソドックス、左構えで立っていたのだ。

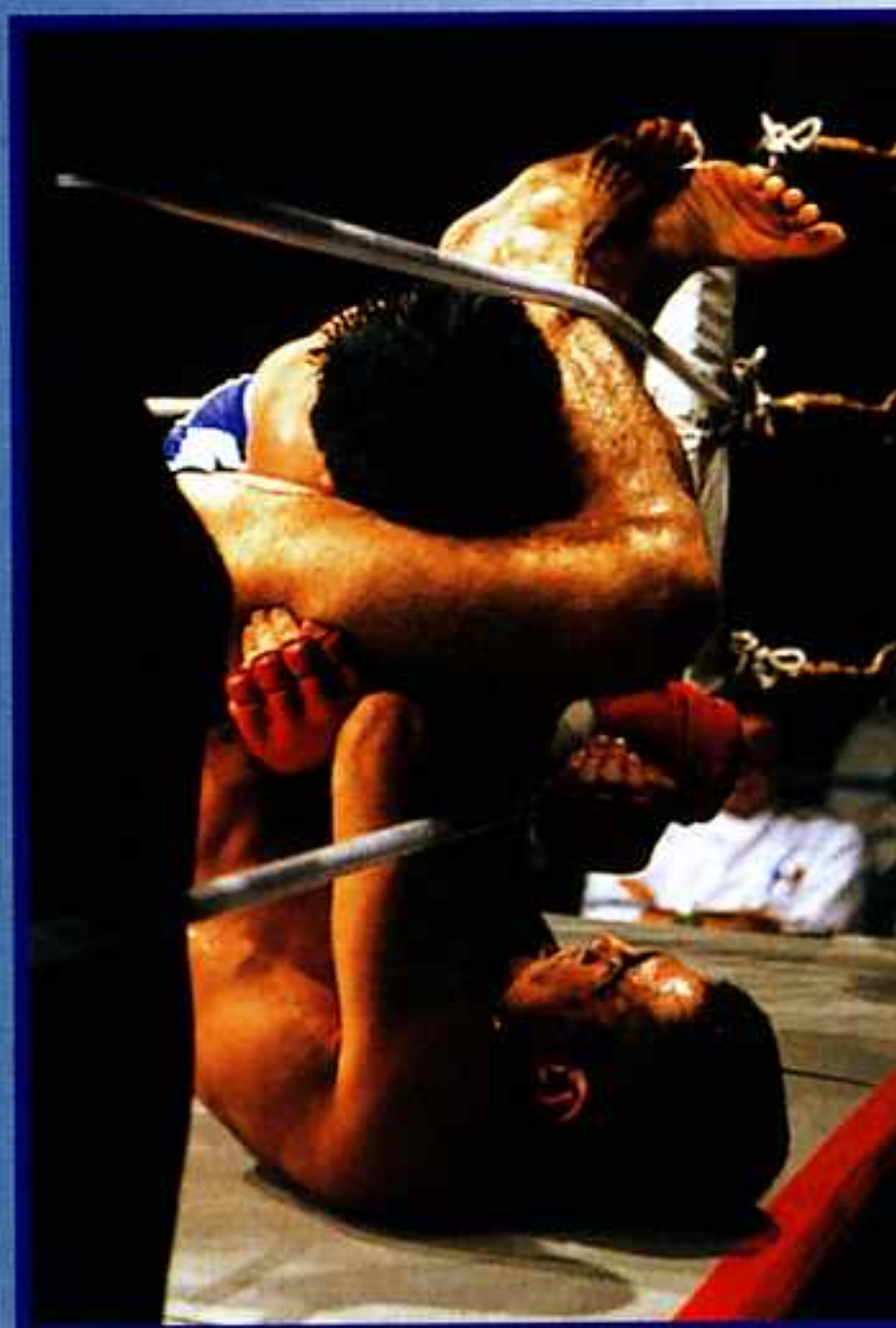
作戦が全て水の泡となった村浜は、ホイラーのタックルを切った

村浜のKO狙いは ボディからの コンビネーションだった……

制限の多いルールの中で、村浜が狙っていたのはボディから顔面へのコンビネーションでのKOだった

村浜の右フックでホイラーダウン！

▲2Rに入り村浜がホイラーのタックルにまったく付き合わない状況が続く中、遂に村浜の右フックがホイラーを捕えてダウンを奪う。打撃では終始村浜ペースだった

▶1R終了間際にホイラーが腕ひしぎ十字を狙ったが、直前までスリーパーで力を使い切ったためか、「まったく力がなかったですよ」（村浜）状態。村浜はここもなんなく乗り切って終了のゴング！　場内からは大歓声が上がった

▲2Rにホイラーがヒールホールドを狙ったが……。「極めは甘かったですよ。もう力が残ってなかったんじゃないですか」（村浜）と言うように、村浜はパワーでしのいだ

ものの、あっという間に背後に回られ、伝家の宝刀・チョークスリーパーの体勢を奪われてしまう。

これがほとんど試合開始早々のこと。ホイラーがもの凄い形相で村浜を絞めあげている。え〜っ、村浜が秒殺されちゃうの？

ところが、ホイラーが極められないのだ。刻々と時間だけが過ぎていく。村浜はセコンドの指示を冷静に聞いて、最後の一手を許さない。そして、遂にパワーで〝ホイラー地獄〟から脱出した！

昨年12月に村浜は新日本プロレスに参戦。試合前にリング上で各自ウォーミングアップしている中、村浜はケンドー・カシンこと石澤に「スパーリングしてください」と申し出たことがある。その時のことを村浜はこう語っていた。

「カシンさんはグラウンドコントロールがうまいんですよ。とにかくパワーが凄くて、僕はすぐにがぶられてアームロックを取られちゃったんですけどね。この時に技術も大事だけど、パワーも大事なんだと思ったんです」（村浜）

スリーパー大脱出は「セコンドの指示とカシンさんとのスパーリングのおかげ」と言う村浜。だが、ホイラーにとってはここで極めきれなかったのは大誤算だった。

2Rに入ると村浜は桜庭流グレイシー攻略法「相手につきあわない」攻撃で、立ち技で勝負。ホイラーはパンチでダウンを奪われるなどいいところなく終わった。

勝敗はドローだが、村浜の頑張りは内容的には勝ちに等しいものとして大いに評価されるところだ。逆にグレイシー側にとっては敗北に等しいドローと言えるのではな

DEEP INTERNATIONAL 2001

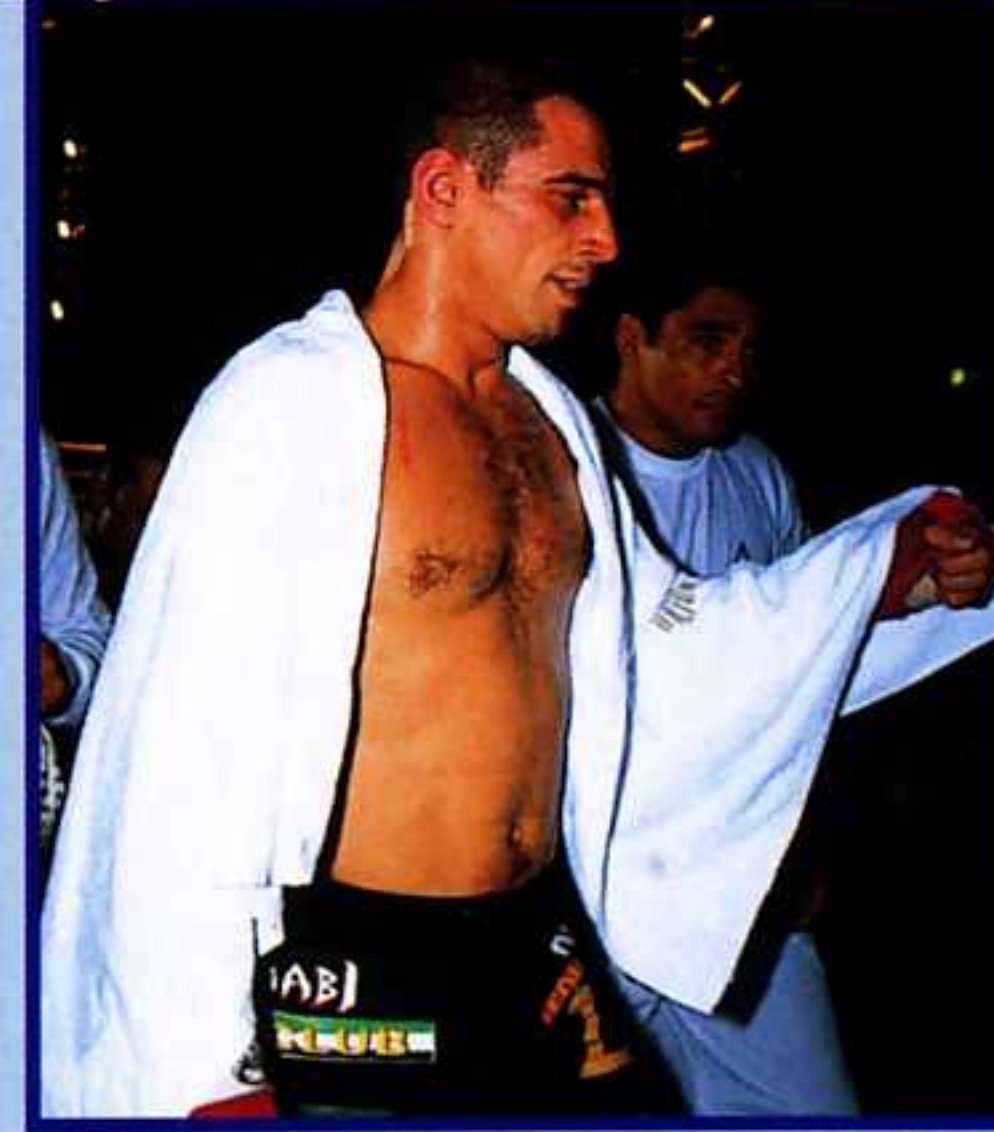
1.8★愛知県体育館

「過ぎた時間は戻ってこない。チャンスを逃してしまえば、それで終わりなんだ」（BYヒクソン）

お兄さんもそうならないようにねっ！

一本取れなかった弟に歯がゆさを感じつつも、村浜のことは誉めていたヒクソン。だが、今回の結果でいかに試合相手はきっちり選ばないとダメかということも分かったはずだが……どうする、ヒクソン！

◀2R終了のゴングが鳴った瞬間、ホイラーは満面の笑みを浮かべたがお兄さんはP53の表情。グレイシー側にとっては、痛恨のドローなのだっ！

▶冷静なセコンドがきらりと光った兄・天晴と。感極まった村浜はリング上で号泣していた

▲村浜株がグーンと上がった「DEEP2001」。村浜は「今後もできれば上がりたい」と言う。次回は6月くらいに東京で開催予定

◀閉会式にも参加せずに引き上げるグレイシーファミリーの面々

いだろうか。

「グレイシーハンター」桜庭によって現在グレイシー勢は4連敗中。今回もホイラーがドローに終わるなど、どんどんグレイシー攻略法がバレていく中で、唯一神話を保っているのがヒクソンだ。

年に1度のペースで試合をしているヒクソンは今年がラストと噂されている。これまで対戦相手を選んできたと言われるヒクソンだが、現在対戦候補として桜庭和志、小川直也、長州力の名が上がっている。だが、グレイシー最強説をもう一度、取り戻すためにヒクソンに残された道は2つしかない。

一つは桜庭と闘うことである。これだけグレイシーを追い詰めた張本人の桜庭に対して「私はサクラバと闘う」とヒクソンが自ら発言するだけで、たとえどんな結果に終わっても、ヒクソン株はグ～ンと上がるだろう。

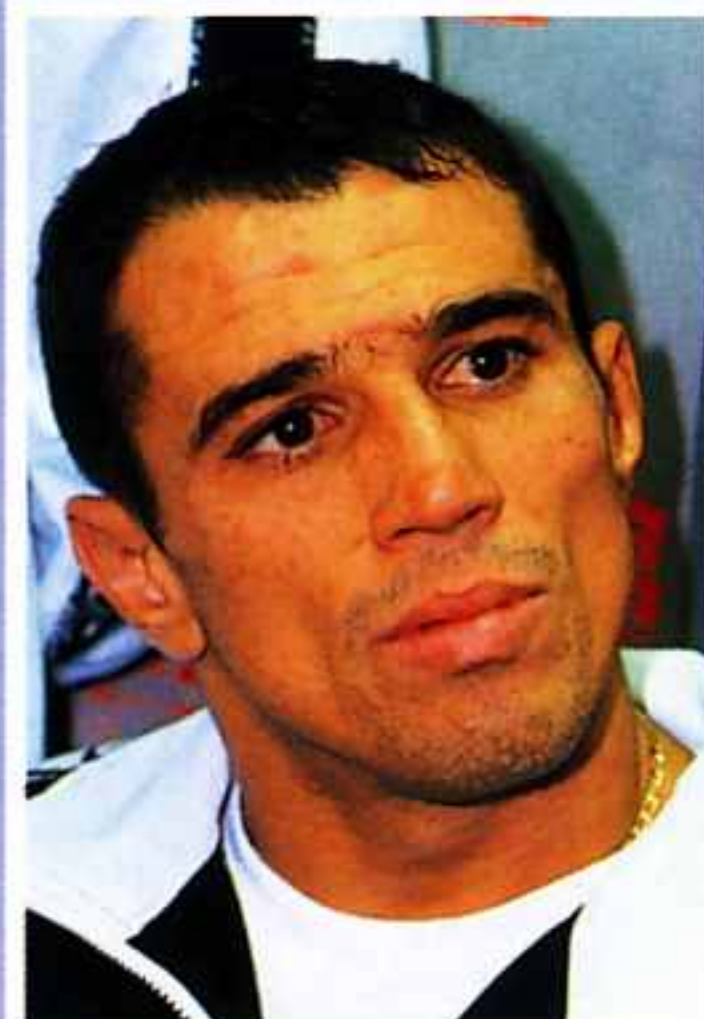
もう一つは「勝ち逃げ」、つまり現役引退だ。これなら、ヒクソン不敗神話は永遠に語り継がれる。悔しい思いをするファイターは多いだろうが、いつの日かヒクソンが評価される時は来るだろう。

ヒクソンはどちらを選択するのか。もし、違う選択をしても、ヒクソンにとっては金銭的なメリット以外は何もない。また、今回のように大きな意味のない相手と闘って不本意な結果を出し、これ以上価値を落としてほしくもない。

お兄さん、今回の弟さんの試合でいい教訓が得られたじゃないですか。これは皮肉でもなんでもないです。〝グレイシー神話を守り抜くためにも、対戦相手は選びましょうね〟。

（石黒）

ホイラーのコメント

グレイシーという名前だけで勝つとは思っていない

――村浜選手の印象は?

ホイラー 難しい相手だというのは、あらかじめ分かっていた。

――2Rに入った村浜選手の右のパンチは効きましたか?

ホイラー パンチを受けたとは思うけど、特に影響はなかった。

――チョークのチャンスが何度もあったが?

ホイラー チャンスはいっぱいあったんだが、うまくいかなかった。

――相手のディフェンスがうまかった?

ホイラー ディフェンスも良かったが、それより自分に何かが足りなかったんだろう。

――その何かというのは?

ホイラー それは、これからたくさん時間があるので考えたい。

――1R10分だったが、15分あれば極められた?

ホイラー 15分だったらとか、30分あったらとか、そういうことは考えていない。時間のことは気にしてなかった。

――村浜選手は「判定があったら僕が負けていた」と言っていたが、ホイラー選手はどう思いますか?

ホイラー 自分では負けてないと思うけど、相手も負けてないと思う。技術的にもフィフティ・フィフティだったと思う。

――試合前はホイラー選手が簡単に勝つだろうという声が圧倒的でしたが、そういう相手に対してドローになってしまったことをどう思いますか?

ホイラー みんな、グレイシーという名前だけで「勝つ」と思ってるみたいだけど、自分たちはそうは思っていない。

――彼はVTが初めてのグリーンボーイですが、それに勝てなかったというのはどう思いますか?

ホイラー VTは初めてかもしれないけど、それ以外の闘いはたくさんしている。だから経験を持っていると言えるんじゃないか。彼は立ってると強かったけど、寝てしまうと技術が足りなかったと思う。

――ヒクソン選手は今日の試合をどう思いますか?

ヒクソン とてもいい闘いだったと思う。立ち技ではムラハマのほうが良かったし、寝るとホイラーのほうが良かった。ホイラーにはチャンスがたくさんあったが、時間が足りなかった。ただ過ぎた時間は戻ってこない。チャンスを逃してしまえば、それで終わりなんだ。

――村浜選手は、もっとパンチを当てられると思っていたようだが、ホイラー選手が距離を取るのがうまくて驚いていました。立ち技の練習はかなりやってるんですか?

ホイラー ほんのちょっとだけだよ。ムラハマと闘うためにやったりはしてない。前にコーチについて、10日くらいやっただけだ。

――2Rに上になった時に、パスガードを狙ってるようには見えなかったんですが?

ホイラー そういうタイミングじゃなかったんだよ。

――もう一回村浜選手とやってみたいですか?

ホイラー いい試合だったし、チャンスがあればやってもいいと思う。でも自分から、相手を選ぶようなことはしないんだ。

――コンディションはいかがでしたか?

ホイラー とても良かった。日本の乾燥した空気はちょっと気になったけど。それと最後に一言。日本に来られて良かったと思う。日本で闘うのは簡単じゃないから。『DEEP2001』には、本当に感謝しているよ。

◀ホイラーのコメント時にはヒクソンも同席。ヒクソンの公式コメントはこの場だけだった

村浜のコメント

今度はIWGPのJrヘビーを取ります!

――どうでしたか?

村浜 いや〜、まあ、終始守りっぱなしだったんですけど。1Rはもう手も足も出なかったですけど、2R目は向こうも上になっても何もしてこないから。こっちもいろいろアクションを仕掛けたんですけど、乗ってこなくて。まあ、向こうが負けない闘いがうまいのは分かってるんで。(記者に)でもみんな、取られると思ってたでしょ、ホントは(笑)。してやったりですワ。自分はVT初めてですからね。そんでこれだけやれたらまあ、今後に期待できるというか。こんな試合して言うのもなんですけど、次からの可能性が見えてきたなぁというのはありますね。パンチはもっと入るかと思ったんですけど、全然入んなくて。警戒してたみたいで。距離取るのとかうまかったですね。

――1Rの(スリーパーをかけられた)長い8分間、何を考えてましたか?

村浜 「取られたら笑われる」と思って。アニキと矢野さんの声が聞こえたんで。「回れ」とか「指をはがせ」とか、指示どおりに。やっぱり格闘技は正直、ゲームですから。いかに自分の判断力があって、それプラスセコンドの指示が聞けたか、それにつきますから。極められなかったのは、セコンドの指示を聞けたのが大きかったです。あと、グレイシーの負けない闘い方に付き合ってしまったっていうのが、今回の結果というか、内容なんですけど。判定やったら負けてますから、なんとも言えないですけど。

――2Rにいい右が入ってましたけど……。

村浜 入ってましたっけ? 覚えてないですね。最後は大振りの一発にかけるしかなかったですからね、もう。もっと距離取るのがヘタかと思ったんですけど、思ったよりうまくて。スッスッとバックステップで。もっとプレッシャーをかけてコーナーにつめて、連打して、打って抜いて(下がって)っていうのをやれば、もっとパンチも入ったかなと思うんですけど。

――1R残り30秒になった時に、向こうが十字にくるなっていうのは分かりましたか?

村浜 分かるわけないじゃないですか、そんなもん(笑)。寝技始めて半年っスよ。

――チョークスリーパーは極まってました?

村浜 極まってたらタップしてますわ(笑)。まあ、セコンドの声がよく聞こえて、指示どおりやったら絶対に極まらんっちゅうのは分かりましたから。負けてるのはもう、寝技の技術だけやと思ってますから。スピード、パワー、スタミナ、全部勝ってると思うんで。最後の、あの状態でのチョークなんていうのはパワーですからね。インサイドワークはちょこっとで。自分も腕がパンパンでしたけど、向こうも疲れてたと思うんですわ。だから結局パワー勝負で、そしたら自分が勝つっていうのは分かりきったことですから。

――判定があったらどうでした?

村浜 僕の負けに決まってるじゃないですか。なんでそんなイヤミ言うんですか(笑)。イヤミっスねぇ。みんな僕がプロレスやってるからって白い目で見てるんでしょ。そんなん、どうでもいいんですけど。

――最後、金泰泳さんの名前が出てましたが。

村浜 プロレスを始めた時点で、やめようと思ってたんです、格闘技は。で、1年ちょっと前ですかね、大阪に引っ越して。で、金さんは、あま(=尼崎)の人なんで……(声が詰まる)。すんません、ちょっと。金さんの名前出すと涙もろくて。金さんと家が近くなったんで、「一緒にメシでも食おか」って話になって、それから練習もするようになって。僕の知らん技術とかいっぱい知ってて……。

――勇気をくれたというか……。

村浜 今日、こういう試合ができたのは、全部金さんのおかげで……。本当に感謝してます。プロレスやって、対応の仕方が変わったり、白い目で見る格闘技の関係者とか選手も大勢いたんですけど、金さんは関係なく、人間として接してくれて……。団体に関係なくいろんな技術を教えてくれて。

――これからの展開は?

村浜 今度はあの、IWGPのJrヘビーを取ります。

――(報道陣爆笑)

村浜 何笑うてんねん。冗談やないっちゅうねん。ホンマやっちゅうねん。

大会スタッフ そろそろよろしいでしょうか?

村浜 ほな、そういうことで。田中稔に勝つ! 以上。■

柔術家にパイルドライバー狙い！

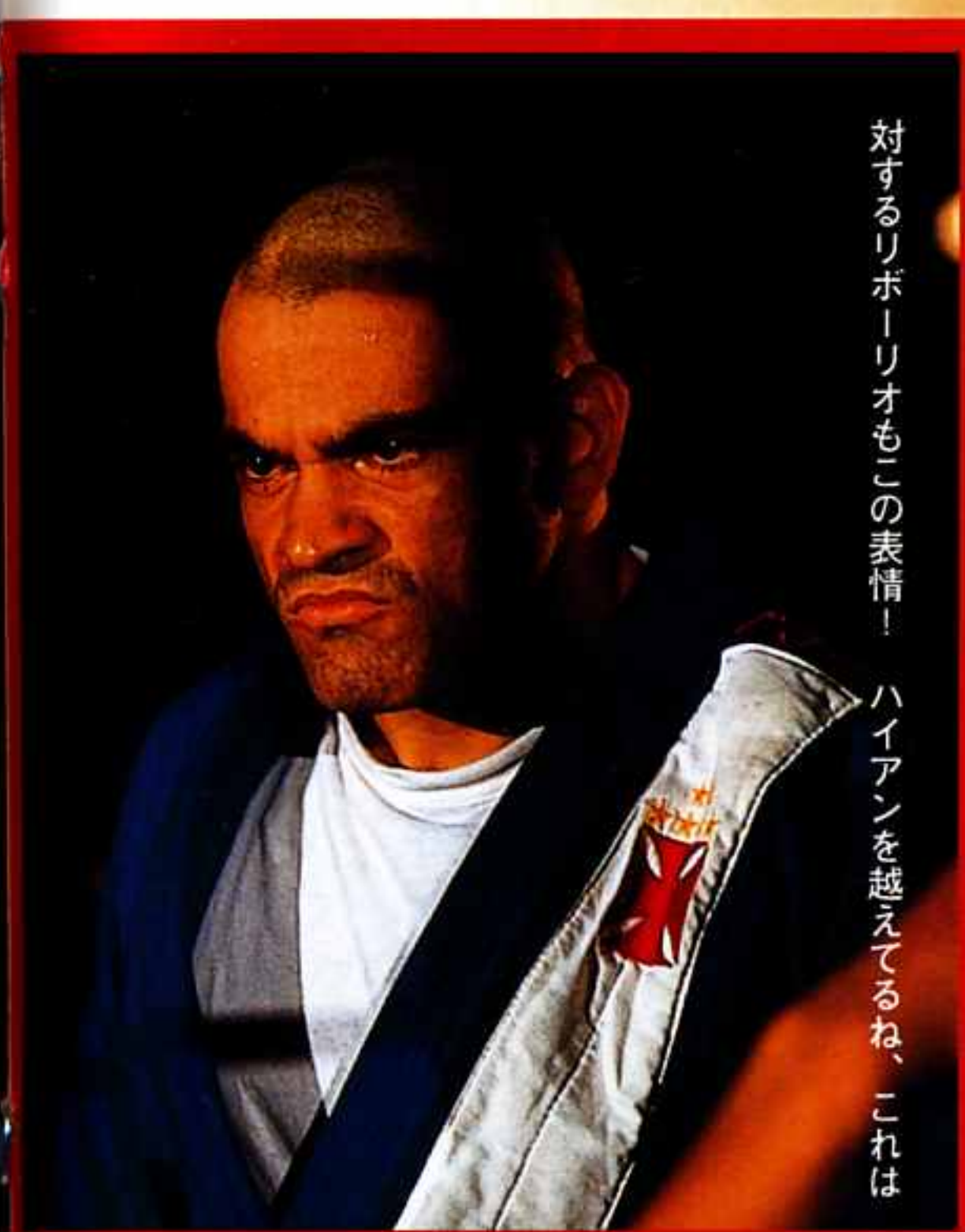
誰が相手でも無謀に攻める！美濃輪の試合に膠着なし

	美濃輪育久	リボーリオ
モチベーション（闘志・気迫）	10	10
技術・戦略	8	8
KOスピリット	10	10
勝ちっぷり負けっぷり	0	0
全体的な印象・インパクト	8	7
合　計	36	35

世界でもトップレベルの柔術家・リボーリオに、なんとパイルドライバーを狙った美濃輪。途中で失敗してしまったが、見上げた無謀っぷりである

柔術のセオリーなんて知らない

オレはオレのルールで闘ってやる！

美濃輪は全身から闘気をみなぎらせながら入場

対するリボーリオもこの表情！　ハイアンを越えてるね、これは

★第8試合/5分3R

△**美濃輪育久（時間切れ引き分け）ヒカルド・リボーリオ**△
〈パンクラス・横浜〉　〈ブラジリアン・トップ・チーム〉

※判定なし

美濃輪育久の試合は、常に退屈とは無縁だ。過剰なまでに一本、KOを狙う様は、佐藤ルミナと双璧かもしれない。相手に抑え込まれて動きが止まることもあるが、それは膠着ではなく、次に訪れるスペクタクルな瞬間への〝タメ〟に他ならない。ではなぜ、美濃輪はプロとして最大の悪である退屈や膠着に侵されないのだろうか？

理由①：柔術・VTのセオリーを無視するから。美濃輪は平然と「分かんないんスよね、スイープとか」などと言う。ポジショニングで優位に立つことなど、初手から考えていない。当然、スキだらけである。だが、スキがあるから〝相手が攻めてくる→危機を脱出して反撃〟という展開が生まれる。そして重要なのは、いくら攻め込まれても致命傷を負わないだけの身体能力とセンスがあることだ。

理由②：競技ではなく、自分の〝内なるルール〟に従うから。柔術・VTのセオリーに染まらない代わりに、美濃輪は己の中にあるプロレスラー魂で闘っている。

「最近、出稽古に行くのをやめたんッスよ」。そう言っていたのは、昨年末、船木の引退記念パーティーの時だった。理由は「プロレスラーだから」。美濃輪はパンクラスをプロレス団体として、自分をプロレスラーとして認識している。そしてこう考えたのだ。

「プロレスラーは、自分の道場で練習していることに誇りを持たなくてはいけない。自分の道場で磨いた技術で勝たなくてはいけない」

美濃輪の頭の中にあるのは、きっと昭和の新日本の道場だろう。山本小鉄が竹刀を振るって新弟子

DEEP INTERNATIONAL 2001

1.8★愛知県体育館

なに?本当はデスバレー・ボムを狙ってた!?

美濃輪のコメント

「チョークは全然大丈夫でした。もっとしつこくやってくるかと思ってたんですけど。危なくはなかったですね。思ったより『こんなもんか』っていうのはありますね。「あれっ?」ていう。抑え込みはうまかったですね。自分が狙ってたのはデスバレー・ボムです。相手を担いで、頭から落として。前の試合から狙ってたんですよ。失敗しちゃいましたけど。パンチでKOとか関節技でギブアップっていうのはありますけど、投げでKOっていうのはまだ誰もやったことないんで。足関節は相手が裸足だったんで滑ってしまって。もう時間がなかったんで何回もいったんですけど。地元ということで応援の人が100人くらい来てくれて、気合いが入りました」

▲3R、美濃輪はしつこく足関節を取りにいった。一本（KO）しか眼中にない闘い方は、見ていて清々しい限りだ

▶ここから相手を担ぎ上げ、水車落としを放つのが美濃輪の得意なパターン。今回はその発展形として、デスバレー・ボムを狙っていたらしい

▼判定なしのルールということもあってか、この日出場したブラジリアンたちは、一様にアグレッシブだった。ポジション取りだけで満足せず、次から次へと"極め"にいく。2Rまで、美濃輪はピンチの連続だった

▶タックルからコーナーに追い詰め、足を刈ってテイクダウンを狙うリボーリオ。美濃輪は相手の頭を押さえつけ、そこからパイルドライバーへ

◀下になる場面が多かった美濃輪に、鈴木みのるが檄を飛ばす。鈴木も"プロレスラーであること"へのこだわりが人一倍強い

▲何度もスリーパーの体勢に入ったリボーリオだが、美濃輪はことごとく脱出。あげくに「もっとしつこいかと思った」とコメントした

をシゴき、リングでは藤原、木戸、前田、髙田といった面々が延々と"極めっこ"をしている。いざ道場破りがくれば、ゴッチ直伝の裏技で撃退——。そんな原風景を（部屋でやみくもにスクワットしたり、「あんなのインチキだろ?」という同級生にムキになって反論したりしながら）大事に守り続けたまま美濃輪はプロになり、今もその心を忘れていない。

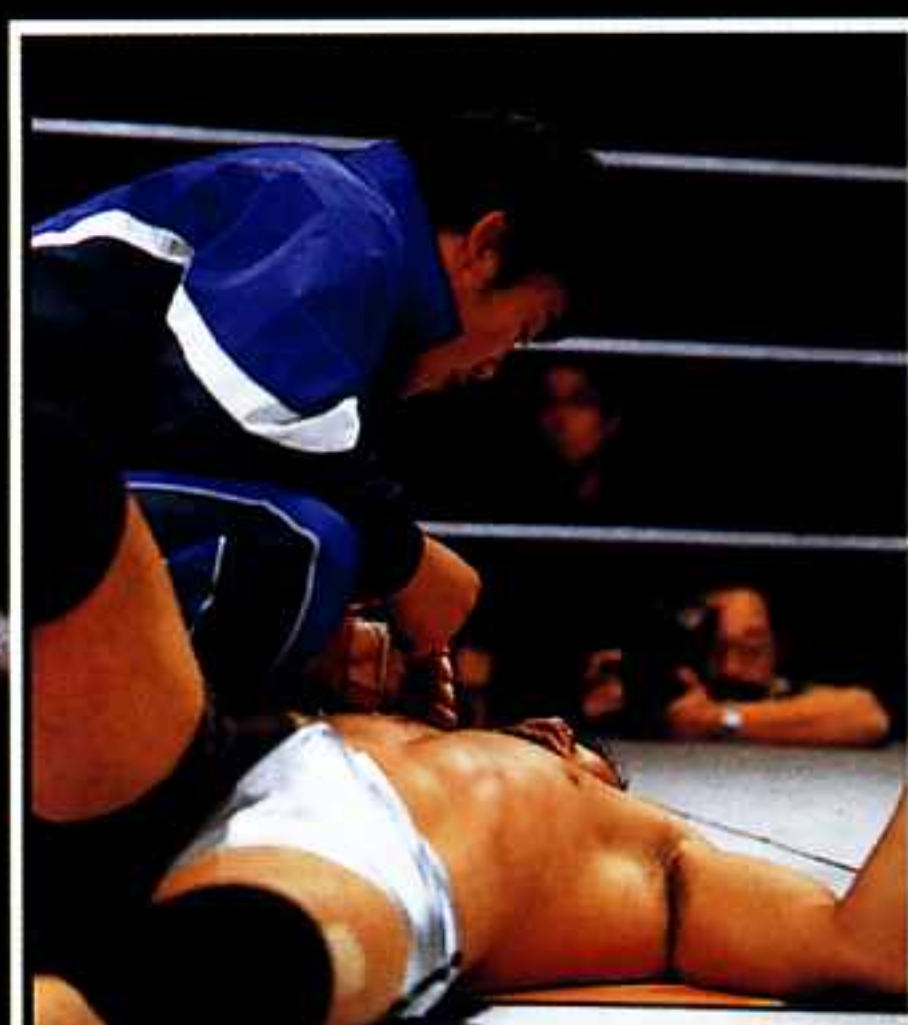
デスバレー・ボムを狙ったり、パイルドライバーを仕掛けたりしたのも、観客にウケるためではない。あくまで本気で「相手をKOできる投げ技はないか?」と考えたら、そういう結論になってしまったのだ。美濃輪はパンクラスに入団して4年だが、プロレスファンとしては"15年選手"。それがどんな舞台だろうが、どんなルールだろうが、プロレス思考で闘うのが（彼にとっては）当然なのである。加えて言うなら、プロレスとは第三者に見られることで初めて成立するジャンル。美濃輪の頭には、無意識のうちに観客論が刷り込まれているのだろう。だから、膠着という悪魔を寄せ付けないのだ。

VTという"競技"は世界的に発展し、成熟しているのだが、その行き着く先がマーク・ケアーのような試合であるならば……。技術レベルは高いが、冒険心のカケラもない輩どもが繰り広げるゲーム（もはや闘いとも呼びたくない）が蔓延する現在。美濃輪が見せる、クソ度胸を武器に一本勝ちへの最短距離を全力疾走する闘いぶりをこそ、我々は支持したい。

一生その姿勢でいけ!（橋本）

〝石澤の仇討ち宣言〟はどこへいった!?

山宮、またも他流試合でKO負け!

ブラジルの柔術家パウロ・フィリョのグラウンドパンチに、なす術なく敗れたKEI山宮。一昨年のUFC－Jに続き、外の舞台で連敗となった

▲KO負けした山宮に真っ先に駆け寄ったのは、近藤有己だった。自分も含め、他流試合でなかなか結果が出せない状況を、パンクラスのエースはどう思っているのか？

◀山宮はコメントを残さずに病院直行。脳に異常はなかったが、鼻が折れていたようだ

★第7試合/5分3R

○パウロ・フィリョ（2R0分29秒、KO勝ち）KEI山宮●

〈アカデミーア・カーウソン・グレイシー〉 〈パンクラス・東京〉

※グラウンドでのパンチ連打

	KEI山宮	フィリョ
モチベーション（闘志・気迫）	6	7
技術・戦略	2	8
KOスピリット	0	10
勝ちっぷり負けっぷり	0	8
全体的な印象・インパクト	2	7
合計	10	40

改めて言うが、PPJにおける〝負けっぷり〟とは、決して壮絶なKO負けのことを指すのではない。ケガをするような――時として命さえ失うことさえある――危険な負けをもって良しとする、そんなバカな論評があっていいワケがない。

意地なり覚悟なり、あるいは切なさでもいい。その選手の気持ち、生き様が試合から透けて見えることが〝勝ちっぷり、負けっぷり〟の高ポイントにつながるのだ。桜庭戦のホイスは、KOされても、腕を折られてもいないが素晴らしい負けっぷりだったではないか。

で、ホイスの逆パターンなのが今回の山宮である。柔術のパウロ・フィリョに顔面をボコボコにブッ叩かれ、鼻を折られてのKO負け。でも、PPJの〝負けっぷり〟は0点にさせてもらった。なぜなら、その負けから何も伝わってこなかったからだ。

この試合で何を見せたかったのか。何をやりたかったのか。どんな思いでリングに上がったのか……。それを客席に届かせることができないまま、一方的に山宮は敗れ去った。

山宮の得意とする戦法は、相手のタックルを切りまくってスタンド（ボクシング）で勝負するというもの。だがフィリョには、それがまったく通用しなかった。パンチを存分に出す暇もなく寝技に持ち込まれると、あとはガードポジションで相手の体にしがみついて、ひたすら時をやりすごすだけ。

近藤や美濃輪は、ピンチに陥ってもそこから脱出し、反撃しようとする気概を見せてくれる。だか

DEEP INTERNATIONAL 2004

1.8★愛知県体育館

大器・石井大輔にも柔術の洗礼！

▶スタンドレスリングの攻防。テイクダウンされまいとかなり粘った石井だったが……

★第5試合/5分3R
△石井大輔（時間切れ引き分け）ジョルジ・パチーノ・マカコ△
〈パンクラス・東京〉〈ゴドイ&マカコ〉
※判定なし

▲パンクラス・ライトヘビー級5位の石井大輔は、ジョルジ・パチーノ・マカコとドロー。しかし内容はというと、グラウンドで攻め込まれる場面が多く苦しいものだった

▲マカコは果敢に打撃勝負を挑む場面もあった。ストライカータイプの石井としては絶好のチャンスだったが、組まれることを警戒しすぎて思いきった攻撃ができず

	石井大輔	マカコ
モチベーション（闘志・気迫）	6	7
技術・戦略	4	7
KOスピリット	5	7
勝ちっぷり負けっぷり	0	0
全体的な印象・インパクト	4	7
合計	19	28

藤井克久は逆転のスリーパーに沈む

▲このところパンクラスを主戦場にしているフリーの藤井克久は、マルセロ・タイガーのスリーパーで一本負けを喫した

◀差し合いからボディ、顔面へヒザ蹴りを叩き込み、かなり優勢に試合を進めていた藤井だったが……。勝利を目前にした2R、まるでエアポケットにハマッたかのようにテイクダウンを許し、そこからスリーパーを極められてしまった

★第6試合/5分3R
○マルセロ・タイガー（2R2分27秒、チョークスリーパー）藤井克久●
〈チーム・タイガー・アカデミー〉〈フリー〉

ら他流試合でも期待したくなるのだ。しかし山宮は、グラウンドの攻防になると本当に何もしなかった。ただただディフェンス一辺倒。クロスガードを解こうとさえしない。つまりこの（自分にとって不利な）局面を打開することも放棄したのだと言える。

あげくにパンチを連打されてのノックアウトである。観客にエンターテインメントを提供するどころか、山宮には最低限の危機回避能力もなかった。デビューしたての若い選手じゃない。いやしくもパンクラスのライトヘビー級チャンピンが、そんなんでいいのか!?

単に力が足りなかった、これから頑張ればいいじゃないかという見方もできるが、だったらパンクラスでやってきたことはなんだったんだと言いたい。ここ数年パンクラスが培ってきたVT戦略って、ブラジルの柔術家とやったらたちどころに効力をなくしてしまう程度のもんなの？ UFCで髙橋義生がイズマイウに勝ってから、もう4年近くたっている。その分、世界のVTのレベルも上がっているんだが……。負けたっていい。せめて〝次にやったら面白くなるんじゃないか〟と予感させるような試合をしてほしかった。

昨年の9月、ライトヘビー級王者となった山宮は、リング上で「石澤さんの仇を討ちたい」と宣言したが、あれはとりあえず言ってみただけだったのか？

〝負けたら負けたで、集中砲火するのが当たり前で、勝負の世界はそんなに甘いもんじゃないと思うんだ〟――船木誠勝著『明日また生きろ。』より。

（橋本）

DEEP INTERNATIONAL 2004

1.8★愛知県体育館

はあ〜、どすこい〜い、どすこい！

決着時間は22秒！謙吾関、こんなものではまだまだ秒殺とは言えませんよ！

謙吾のコメント

「終わっちゃいましたね（笑）。大刀光選手がグッドリッジに50秒ぐらいで負けてたんで、それよりは絶対早く勝ってやろうと思ってて、まあそれは良かったですね。やっぱ『プライド』とかああいう強い連中とやってけるように、とりあえず勝ってどんどん上がっていきたいです。一気にがーッといって、いい21世紀にしたいですね」

▶謙吾関のお供にはラグビー時代の同期、鈴木健三関が………

取り組み後、両者とも土俵の中央で握手。相撲では滅多に見られないシーンだ

◀「ごっちゃん」Tシャツを着て、東の花道より大刀光関が入場

▲なかなか立ち会いの呼吸が合わなかった両力士に、行司が注意をうながす場面も。それだけ両者とも気合いが入っていた証拠だ

▼立ち会い後、け返しを放つ謙吾関。大刀光関の身体が大きく仰け反る

◀謙吾関の拳を握っての突っ張りを足一本で踏ん張ろうとするが………、ここはおっつけて、前に出てほしかった

	謙吾	大刀光
モチベーション（闘志・気迫）	10	1
技術・戦略	3	0
KOスピリット	10	0
勝ちっぷり負けっぷり	10	10
全体的な印象・インパクト	10	10
合計	43	21

★第4試合/5分3R
○謙吾（1R0分22秒、KO勝ち）大刀光●
〈パンクラス・東京〉　〈SPWF〉
※パンチ連打

このページを読む人にあらかじめ断っておきたいことがある。私は学生時代、相撲をやっていたので相撲に対してやたらと幻想を持っている。世の中全てのことを相撲に結び着けないと気が収まらない質なのだ。

だいたい私はバーリ・トゥードも相撲の一部だと思っている。所詮、リング上で行われていることは相撲の一部でしかないのだ。

そうと決まれば、この取り組みへの興味は一点。元幕内力士である大刀光が、どこまで自分の相撲を取りきるかだ。

ところが、大刀光は謙吾に自分の相撲を取らせてもらえなかった。謙吾の拳を握った突っ張りの前に、敢えなく腰砕けで敗れてしまった。しかもたったの22秒で………。

バーリ・トゥードが相撲の一部である以上、大刀光は相撲で負けてしまったことになる。それも、髷も結えないような力士に………。

今大会中最短の22秒で敗れたことは特にショックなことではない。そもそも、旗揚げ当初のパンクラスは秒殺を専売特許のようにしていたが、冗談ではない。相撲はほとんど全ての勝負が秒単位で決着が着く。相撲では22秒など秒殺の内に入らないのである。

だから、謙吾は真の秒殺を極めてみたかったら、相撲に挑戦するべきだ。実はあの勝ちっぷりこそ相撲にふさわしいのだ。

パンクラスは最近全方位外交を掲げているが、謙吾を大刀光と対戦させたことからも相撲に興味があることが窺える。

今やパンクラスも相撲の一部になりつつある。どすこい！（小松）

DEEP INTERNATIONAL 2004

1.8★愛知県体育館

勝負そのものには「水入り」でも……対抗戦には冷や水をぶっかけられた！

▶首から下のヒジによる攻撃が有効なルールで、積極的にヒジを使っていたのは上山だ

	窪田	上山
モチベーション（闘志・気迫）	3	2
技術・戦略	4	3
KOスピリット	0	0
勝ちっぷり負けっぷり	0	0
全体的な印象・インパクト	1	4
合　計	8	9

★第3試合/5分3R
△窪田幸生（時間切れ引き分け）上山龍紀△
〈パンクラス・横浜〉　〈U-FILE CAMP〉

▲上山は下からアームロックを狙ったが、土俵際で「水入り」。この後両力士とも土俵の中央に戻されたが、腕の位置を巡って田村部屋のファンからのヤジが飛び交った

パンクラスとリングスという二つの団体は、言わずと知れた犬猿の仲である。いくら上位力士同士の闘いではないとはいえ、こうもあっさりと対抗戦が行われてしまうのだから、『DEEP2001』の用意した土俵には、いったいいくらの銭が埋まっているのかと勘ぐりたくなる。

しかし、肝心な取り組みはというと、対抗戦独特のピリピリしたムードは感じられず、低調な内容に終わってしまった。

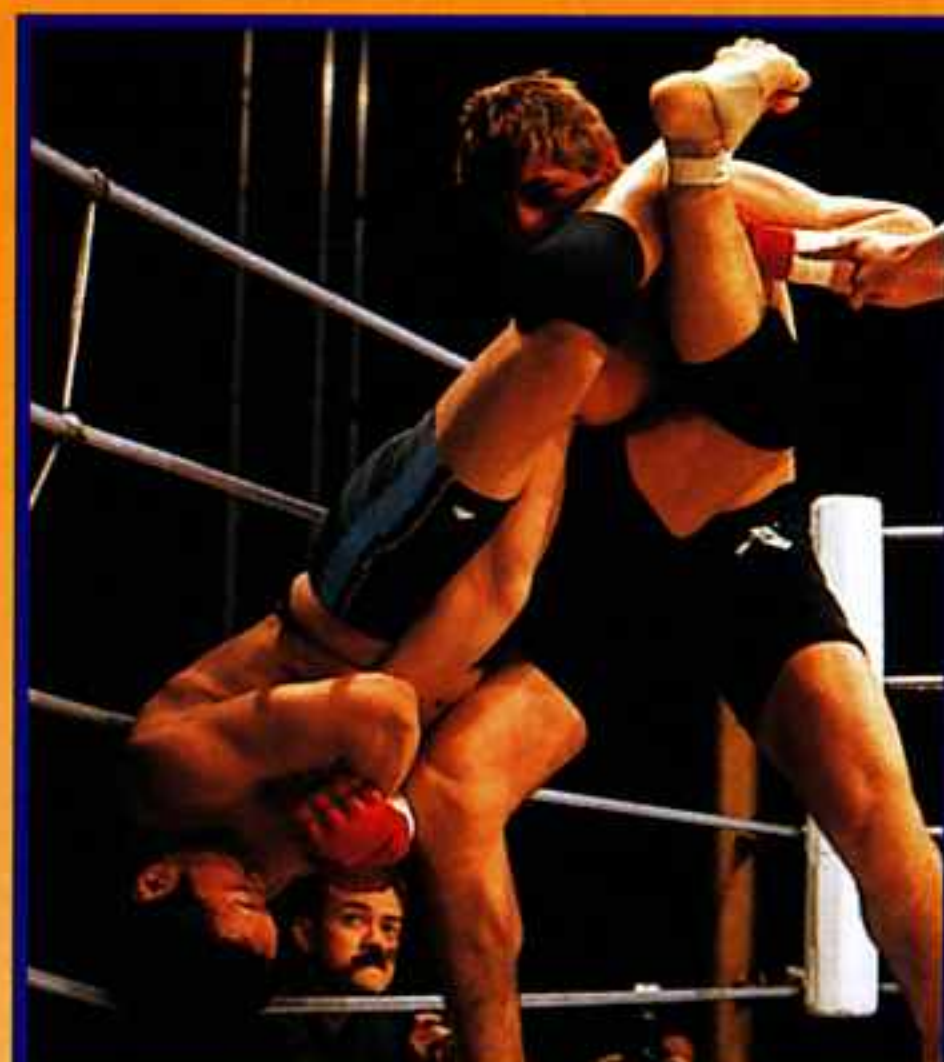
唯一対抗戦らしい雰囲気が出た場面は、1Rの「水入り」の場面で、体勢の直し方を巡って、「パンクラス汚えぞーッ！」などというヤジまで飛び出したところだ。

しかし、この取り組みでパンクラスVSリングスという図式を意識して見た人が、いったいどれだけいたのだろうか？

確かに闘ったのは若手同士ではあるが、ファンの間ではもうパンクラスVSリングスという図式は風化しつつある現状が、見て取れた。

試合の結果までもが、引き分けの「水入り」状態になってしまった。このままでは、対抗戦自体も「水入り」ということになってしまうのではないかという不安を残した結果だった。どすこい！（小松）

▶上山のセコンドには前田部屋の坂田亘関が付いた。大きな声で指示を飛ばしていたのが、とても印象的だ

安生関、ふんどし締め忘れていませんか？

▼呼び出しを受ける安生関。心なしか身体に張りがない………。心も身体も緩ふん状態といったところか

▲1R、上四方固めからフロントネックロックを狙ったが極まらず……。本人曰く、あそこで力を使いすぎてしまったとのこと

▶2R以降は一気にペースダウン。タックルは切られてしまうはで、まるでいいところがなかった。ふんどしを締めなおして出直しだ！

★第2試合/5分3R
△安生洋二（時間切れ引き分け）チラギシビリ・ギア△
〈フリー〉　〈掣圏道〉
※判定なし

その他の試合ダイジェスト

▲オープニングマッチでは、誠ジムの木村仁要と掣圏道のシュリンジン・ワレンチンが対戦。木村は開始早々顔面にパンチをもらったが、1R1分52秒、下からの腕ひしぎ十字固めで会心の勝利を飾った。しかしこのワレンチンという選手、腕を極められながら木村を持ち上げてリング外に出そうとしていたのだから、その根性には恐れ入る

▲試合前に『フューチャーファイト』として、パンクラスとU-FILE CAMPの若手同士の試合が、2試合とも決着が付かず時間切れのドローに終わった

▲～さようなら親分～、と銘打たれて山田学が菊田早苗と引退エキシビジョンマッチを行った。11年間の現役生活にピリオドを打って、引退後は名古屋を中心にセミナー等を行っていく予定で、総合格闘技の輪を広げていきたいとのこと。なお、正式な引退興行は5月に予定されているので、山田親分の最後の勇姿を見届けよう

DEEP INTERNATIONAL 2001

『DEEP2001』代表
佐伯繁氏に聞く

▲新たに旗揚げした総合系のプロモーション『DEEP2001』の代表を務める佐伯繁氏。果たして、グレイシーをリングに上げるまでにどんな苦労があったのか……？

グレイシーのギャラですか？呼んでみたら意外と安かった（笑）

——大会を終えてみて、いかがですか？

佐伯　大会自体は凄く良かったと思うし、自分自身も感動しましたね。ドキドキしちゃいました（笑）。

——最初に聞いた時にはビックリしましたよ。ホイラーの相手が村浜選手って、あんまり唐突だったんで（笑）。

佐伯　いや〜、やっぱりねぇ。村浜君が秒殺なんかされたら「ほら見ろ！」なんて言われちゃうじゃないですか。だから心配は心配だったんですけど。でも村浜君とは以前から仲が良くて、ある意味天才だっていうのも知ってますから。

——そもそも、ホイラー選手と村浜選手をやらせようというアイディアは……。

佐伯　絶対条件として、まず体重があったんですよ。向こうがどうしても「68キロじゃないと」ということで。それでいろいろ探してみたら、一番近くにいい選手がいた（笑）。

——グレイシーを出すというのは、これは最初から予定にあったんですか？

佐伯　いや、最初は呼ぶつもりじゃなかったんですよ。やっぱり、ギャラだって他の選手に比べたら高いと思ってましたし。でも、今後のことを考えたらこぢんまりやってもしょうがないんでねぇ。ドカンとビッグネームを呼んだほうがいいんじゃないかということで。

——実際、ギャラは破格なわけですよね、グレイシーともなると。

佐伯　でも、けっこう下がるもんですね。

——けっこう下がりますか（笑）。

佐伯　「ウチはこれしか出せない」って言いましたから。そしたら意外と安くなりました（笑）。ヒクソンさんも来てくれることになりましたし。周りも「グレイシーにしてはいい値段だ」って言ってましたね。

——へぇ〜。とはいえ、ご苦労も多かったんじゃないですか？

佐伯　ホイラーさんの出場の発表に関しては、ちょっと気を遣いましたね。本当は11月の時点で決まってたんですが、ドタキャンなんかがあるとマズいんで「あくまで正式な契約書をかわすまで発表は控えよう」ということになって。その分、プロモーション活動が遅れてしまったんですけども。

——ヒクソンも大変じゃないですか？取材攻勢でナーバスになってるって話もあったし。

佐伯　でも、来るっていうんだからしょうがないですもんねぇ。

——それはしょうがないですよねぇ、たしかに（笑）。

佐伯　それに来てみたら機嫌も良くって。ああいう結果だったのに2人ともパーティーにも出てくれましたしね。あ、そういえばですね……。

——なんかあったんですか？

佐伯　ホイラーさんもヒクソンさんも1人で来日したんですよ。で、予定の日にちより遅れて来たんで、こっちも対応ができなくて空港でひとりぼっちにさせちゃったんですよねぇ。

——ヒクソンが待ちぼうけ！（笑）。

佐伯　そうなんですよぉ。それであわてて空港に迎えに行って。「記者陣に囲まれてたりしたらヤバいなぁ」って思ってたら、これが誰も来てなくて（笑）。

——ホイラーVS村浜戦だけ「特別ルール」だったんですけれども、やっぱりルール交渉は大変でしたか？

佐伯　いや、というよりホイラーさんとの交渉の中で、最初にルールを作っていったというのが実際のところなんですよ。その上で、5分3Rの基本ルールができたという。だから特別ルールという名前なんですが、ホイラー戦のルールがベースなんです。それと、今後もあんまりルールは固定したくないんですよ。それによって出る選手の幅を狭めたくないんで。選手が出やすいルール、というのがあくまで基本ですから、ウチは。

——次はいつ頃になりそうですか？

佐伯　とりあえず、今年は今回も含めて年3回を予定してます。夏と暮れと。東京でやりたいと思うんですが、会場の都合次第ですね。

——今回は村浜選手が出場したわけですが、今後も純プロレスの選手でこんな人に出てほしいとかありますか。

佐伯　そうですねぇ。個人的な話ですけど、（四代目）タイガーマスクさんに興味がありますね。昔からタイガーマスクの大ファンなんで（笑）。マスクのままＶＴをやってほしいです。■

◀大会終了後のパーティーにて。ヒクソンはファンのサイン＆撮影攻めに気軽に応じるなど、かなりご機嫌だった

三代目格闘ビジュアルクイーン

長谷川京子(はせキョー)の超SRS宣言！

第10回

12・23『プライド12』さいたまスーパーアリーナ大会編

昨年末に行われた『プライド12』。面白いカード目白押しで期待が大きかっただけに、膠着する試合が多くて、はせキョーもちょっぴり不満だった様子。でも、大会前日のフォトセッションでは、選手の素顔に接して大満足だったようだ！？

エンセン選手の引退にショック！心の折れないファイト、大好きでした

12月23日、クリスマスイヴに行われた『プライド12』。クリスマス前だけあって、オープニングにサンタの格好をしたプライドガールが出てきたり、カッコイイ仕掛けに、最初から大盛り上がり!!

今回の『プライド』は、面白いカードが目白押しで、楽しかったです。ただ、お互いの強さが互角なのか、固まってしまうことが多かったのが、少し残念でした。消極的攻撃でイエローカードが出されるなんてことも初めて知ったし、お客さんのブーイングが凄い場面もあって、ビックリ!!

でも、一番ビックリというか、悲しかったことはエンセン井上選手の引退。予期せぬ出来事だっただけに、ショックは大きかったです。大会の10日くらい前にお仕事でお会いした時は、「今度は今までみたいな闘い方はしないよ。クールにいくよ」なんて、引退の「い」の字も感じさせなかったのに……。エンセン選手の大和魂、ボブチャンチン選手戦の時のような、心の折れないファイト、ホントに大好きでした。

お疲れ様でした。

大会の話をする前に、今回私は、初めて大会の前日に行われるフォトセッションに行ったんですけど、いつも私が選手に会う時って、だいたい、試合直前や直後の興奮している時が多かったので、今回のように、普通の状態（？）の時に会うのが凄く新鮮で良かったです。

ハイアン選手なんて、テレビで見ると〝悪そう〟な印象が強くて、こわ〜っ!?なんて思ってしまうけど、ホントはとっても人なつっこくて、笑うとカワイイ♥んですよ。もちろん、桜庭選手には勝ってほしいんだけど、ハイアン選手もいい人だし、気持ちが複雑になってしまいました。結局、当日はハイアン選手のケガで1Rのみの試合となってしまいましたが、あの1Rだけでも桜庭選手が、あんなに勢いのあるハイアン選手に対しても冷静に対処していて、2人の力の差が分かりました。でも、もう一度、ハイアン選手が万全の時に、試合をしてほしいですネ！

そして、もう一人驚いたのが、シウバ選手。リング上では、対戦モードになっていて怖いけど、それとはうって変わって、とても人当たりのいい人。「自分はブラジルに5人彼女がいて、クリスマスは大変だよ」なんてことまで話してくれて。やっぱり強い男の人はモテるんですネ。

そして、大会の話に戻って、今回、私がとても楽しみにしていたボブチャンチン選手VSマーク・ケアー選手。結局、延長の末、判定でボブチャンチン選手が勝ちましたが、わがままを言わせてもらうなら、もう少し激しい試合が見たかったです。それにしても、ボブチャンチン選手の勢いを止める選手はいるのでしょうか？　あの剛腕パンチは、容赦なくて、ホントに凄いですよネ。次はいったい誰と闘うのでしょうか？　私は藤田選手とぜひ対戦してほしいナ。

その他の選手で気にかかったのは、ヒース・ヒーリング選手と小路選手。ヒーリング選手は、私的には今年、とっても注目している選手です。まだ22歳と若いし、強いし、人気も出そう！　小路選手は今回、鼻血がひどくて、見るのが辛い場面もあったけど、相手の体を滑って技を掛けるところなんてホントに凄いナァって思いました。さすが、日本男児!!という感じで、小路選手の試合、大好きです。

去年は、『プライド』がホントに盛り上がった年だったけど、今年も、もっともっと盛り上がりそうで、とっても楽しみ。今年はヒクソン選手戦も実現するんでしょうかネ？　ホントに楽しみです!! ■

はみだし はせキョー　長谷川京子（はせがわ・きょうこ）1978年7月22日生まれ。22歳。千葉県出身。B型。身長166センチ。特技/水泳。趣味/ピアノ。雑誌/Cancam（小学館）専属モデル。CM/エルセーヌ、アテニア化粧品

発表！ 2000『SRS・DX』読者が選ぶベストバウト&MVP！

読者に「なんで今さら」なムード高まり、応募ハガキも……少なっ！ それが理由か、なんとMVPには、サクとアビディが同票1位に！

2000 年間MVP部門

順位	選手	票数
1	桜庭和志（髙田道場）	126
1	シリル・アビディ（フランス）	126
3	アンディ・フグ（スイス）	40
4	エンセン井上（PUREBRED大宮）	23
5	藤田和之（フリー）	21
6	イゴール・ボブチャンチン（ウクライナ）	18
7	石澤常光（新日本プロレス）	14
8	髙田延彦（髙田道場）	11
9	ヴァンダレイ・シウバ（ブラジル）	9
10	小川直也（UFO）	7

2000 年間ベストイベント部門

順位	イベント	日付・会場	票数
1	『PRIDE.10』	8・27　西武ドーム＝観客32,919人	113
2	『PRIDE.11』	10・31　大阪城ホール＝観客13,500人	69
3	『PRIDE GP 2000決勝戦』	5・1　東京ドーム＝観客38,429人	67
4	『K-1 WORLD GP 2000決勝戦』	12・10　東京ドーム＝観客70,200人	49
5	『猪木ボンバイエ』	12・31　大阪ドーム＝観客42,753人	38
6	『PRIDE GP 2000開幕戦』	1・30　東京ドーム＝観客48,316人	34
7	『コロシアム2000』	5・26　東京ドーム＝観客40,420人	16
7	『K-1 J・MAX』	11・1　後楽園ホール＝観客2,650人	16
9	『READ～2000 SHOOTO』	12・17　東京ベイNKホール＝観客36,900人	14
10	『RINGS KOK GRAND-FINAL』	2・26　日本武道館＝観客13,000人	9

2000 年間ベストバウト部門

順位	試合	日付・大会・会場	票数
1	桜庭和志 vs ホイス・グレイシー	5・1『PRIDE GP 2000決勝戦』東京ドーム	174
2	エンセン井上 vs イゴール・ボブチャンチン	8・27『PRIDE.10』西武ドーム	41
3	ジェロム・レ・バンナ vs フランシスコ・フィリォ	4・23『K-1 THE MILLENNIUM』大阪ドーム	34
4	小川直也 vs 佐竹雅昭	10・31『PRIDE.11』大阪城ホール	33
5	石澤常光 vs ハイアン・グレイシー	8・27『PRIDE.10』西武ドーム	28
6	髙田延彦 vs イゴール・ボブチャンチン	10・31『PRIDE.11』大阪城ホール	20
7	シリル・アビディ vs レイ・セフォー	8・20『K-1 WORLD GP 2000 in 横浜』横浜アリーナ	17
8	藤田和之 vs マーク・ケアー	5・1『PRIDE GP 2000決勝戦』東京ドーム	16
9	シリル・アビディ vs ピーター・アーツ	7・7『K-1 ジャパンGP 決勝・仙台大会』グランディ21	13
10	宇野薫 vs 佐藤ルミナ	12・17『READ～2000 SHOOTO～』東京ベイNKホール	7

▲読者投票により、見事MVPに輝いた桜庭＆アビディ

本誌36号で、読者の皆様に投票いただいた2000『SRS・DX』ベストバウト&MVPの集計結果がついに出た。

まず、今回の応募状況から報告させていただくと、その応募ハガキの少なさに編集部一同ビックリ。これはおそらく、「2000年の格闘技界のMVPはサク以外にいないだろ。今さらハガキ投票して選ばなくても……」というムードが読者の間に漂っていたからだと思われる。これでは「投票したい」というモチベーションも上がるわけがない。

そんなこともあり、今年のMVPはダントツ1位と思われていた桜庭だったが、奇しくもアビディと同票1位という結果になった。

「サクは当然MVPだろうから、あえて2000年のK―1を盛り上げたアビディに」（神奈川県・北嶋靖英）

というコメントを見ても分かるとおり、多くの読者が〝あえて〟アビディに投票してしまったのだ。

しかしベストバウト部門では、やはりコレ「桜庭vsホイス戦」という順当な結果が出た。

「説明の必要もない。今年はこれしかない」（岩手県・宮川浩）

と、この歴史的な一戦に、読者の意見もほぼ一致。

またベストイベント部門では、『プライド』シリーズが上位を独占した。

というわけで、意外な結果となってしまった『読者が選ぶ2000年ベストバウト&MVP』。来年の投票では、奇をてらったりせず、素直に投票していただけることに期待するっ！■

SRS
SPECIAL RING SIDE

番組インフォメーション

1/26、2/2の見どころ

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によっては放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは1月11日現在のものです。
都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

注目! SRSは金曜日26:15～に放送日変更になりました!

SRSは去年に引き続き今年も金曜深夜に放送します。もう、木曜日にチャンネルを合わせてる人はいませんよね? ところで、放送開始時間が今までより30分遅い、26時15分になりました。次の日がお休みという人達はがんばって夜更かししてくださいね! それでは金曜深夜でお待ちしてま～す。

『SRS』は金曜日深夜26時15分～26時45分(時間は変更することがあります) フジテレビ系で絶賛放映中。お見逃しなく!

1/26

武田のリベンジ、小笠原の快挙を見届けろ!

キックVSムエタイ、2大タイトルマッチ!

1/26（金）26:15～26:45

昨年の5月に武田幸三はムエタイの頂点を目指すべく、ラジャダムナンスタジアム・ウェルター級の王者チャラームダム・シットラトラガーンとタイトルマッチを行いましたが結果はドローで、武田の王座奪取はなりませんでした。あれからおよそ半年、技術と根性に磨きをかけた武田が、己の全てをかけてチャラームダムに再戦を挑みます。SRSではこの1月21日に後楽園ホールで行われる、武田とチャラームダムのタイトルマッチを大特集する予定です。また、昨年の12月3日にタイのラジャダムナンスタジアムで小笠原仁がJrミドル級のベルト奪取した歴史的な試合もあわせてお送りします。30分丸ごとキックをお楽しみに!

▲武田は昨年の5月と同じ、シットラトラガーンの持つベルトに挑戦する

2/2

2001年、SRSが一押しするファイターを大特集

注目の男達2001!

2/2（金）26:15～26:45

あなたの2001年の注目のファイターは誰? まだ見つからないとか、見当たらないとか言っている人、ご安心ください。SRSが2001年に大注目するファイターを、大々的にご紹介します! 過去のこの企画で紹介したファイターは佐藤ルミナ、木山仁、田中健太郎、魔裟斗、宇野薫、桜井“マッハ”速人など、いずれも現在格闘技界を代表する選手ばかりです。これらの選手達に続けとばかりに、2001年にブレイク間近の4選手をピックアップして、特集します。あなたが注目しているファイターや気になってるファイターが登場するかもしれませんよ。誰を紹介するかは番組を見るまでのお楽しみ! 見逃すと今年一年話題に乗り遅れちゃうぞ!

▲はせキョーの一押しのファイターはシリル・アビディ!

フジテレビ系列の番組から

フジテレビ721
◎2月3日（土）
17:00～19:00
『アンディ・フグの足跡』
昨年8月24日に亡くなったアンディ・フグの追悼番組。ビデオ『英雄伝説アンディ・フグ』からのダイジェスト保存版として放送します。いつまでもアンディの勇姿を焼き付けてください。

BSフジ
◎1月28日（日）
20:00～23:00
『週間スポーツテレビ』
BSフジでは、毎週日曜日の上記の時間に『週間スポーツテレビ』をオンエアーしています。オールジャンルのスポーツをカバーしていますので、格闘技のイベントの後はダイジェスト版で格闘技関連にスポットを当てて放送することもあります。

SRSホームページのアドレスはこちら
http://www.fujitv.co.jp/

SRSホームページでは、詳しい放送日程や最新・格闘技情報、『ロケ現場潜入日記』など内容満載です。また、人気コーナー『SRS FIGHT CLUB』では皆さんからの原稿を募集中です。あなたが書いたエッセイや観戦記、その他マニア情報、プチ情報などで作るコーナーです。あなたの熱い魂の叫びを書いて、どしどしお寄せくださ～い。それから、はせキョーのページもあるのでこちらも必見!

TV

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
1/25（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	10：00～11：30	99.2.7開催の日本キック連盟の後楽園ホール大会を再放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 23：00～25：00	2000.12.17にNKホールで開催された修斗『R.E.A.D～2000 SHOOTO～』。宇野薫vs佐藤ルミナ戦ほか
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21：00～22：00 26：00～27：00	内容未定
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22：00～23：00 25：00～26：00	さまざまな格闘技の最新情報を紹介する番組。毎回格闘家のゲストも登場し、ファイターの等身大の魅力に迫る
	日本テレビ	コロッセオ	26：25～26：55	内容未定
1/26（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	7：00～8：00 12：00～13：00 17：00～18：00	1/25を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	13：00～14：00	1/25と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	14：00～16：00	1/25と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト(再)	16：00～17：00	これまで放送分の『ワールドコンバットファイト』からの再放送シリーズ。『ケージファイトトーナメント4』(98.5.23/モスクワ）から4試合を放送
	GAORA	角田信朗の格闘魂	25：00～25：30	⬅Pick Up①
	フジテレビ	SRS	26：15～26：45	⬅P69
	Ｊスカイスポーツ2	ワールドファイティング	28：00～29：00	カルガリー・スタンピードレスリング～ブレット・ハート特集①
1/27（土）	スカイ・A	パンクラスハイブリッドアワー	19：00～21：00	2000.10.31に開催された後楽園ホール大会から
	Ｊスカイスポーツ2	ワールドファイティング	25：15～26：15	1/26と同内容
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	26：05～27：05	1.4東京ドーム大会、1.19沖縄大会を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	27：00～29：00	格闘探偵団バトラーツの1.7『RAW LIFE』後楽園ホール大会を放送
1/28（日）	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	8：00～9：00	1/25と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	9：00～11：00	1/25と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	11：00～12：00	1/25を参照
	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15：00～17：25	2000年名勝負パート３。9.16愛知県体育館～12.14大阪府立体育館まで
	Ｊスカイスポーツ3	ワールドファイティング	24：00～25：00	1/26のＪスカイスポーツ2と同内容
1/29（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト(再)	16：00～17：00	1/26を参照。『ケージファイトトーナメント4』PART2（98.5.23/モスクワ）からトーナメント1回戦ほか4試合
	Ｊスカイスポーツ2	ワールドファイティング	19：00～20：00	1/26と同内容
	GAORA	週刊格闘JAM！	23：05～23：10	毎回、K-1、PRIDEなどから活躍が期待される選手など、格闘技界の旬な話題をピックアップして放送。選手個人の特集など格闘技界の様々な話題を取り上げる
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50～24：50	毎週月曜日放送の『格闘新世紀』。
	日本テレビ	超K-1宣言	26：47～27：17	1.30 K-1JAPAN特集
	Ｊスカイスポーツ3	ワールドファイティング	27：15～28：15	1/26のＪスカイスポーツ2と同内容
1/30（火）	スカイ・A	パンクラスハイブリッドアワー	19：00～21：00	1/27と同内容
	日本テレビ	K-1JAPAN	23：37～24：45	⬅Pick Up③
1/31（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	14：00～15：30	格闘探偵団バトラーツの99.3.12TFMと3.21大阪大会を再放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト(再)	16：00～17：00	1/26を参照。『アブソリュート・ファイティング・チャンピオンシップ4』PART1（イスラエル）からトーナメント1回戦の経過と決勝・準決勝の2試合
	テレビ東京	Gパラ　コロシアム	23：55～24：35	ノア三沢光晴社長出演
2/1（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 23：00～25：00	2000.12.17、東京武道館で開催された梁山泊カラテ『第8回日本武道空手道選手権大会』の模様を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21：00～22：00 26：00～27：00	内容未定
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22：00～23：00 25：00～26：00	1/25を参照
	日本テレビ	コロッセオ	25：25～26：55	1.28全日本プロレス東京ドーム大会を放送
2/2（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	7：00～8：00 12：00～13：00 17：00～18：00	1/25を参照
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	13：00～14：00	2/1と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト(再)	16：00～17：00	1/26を参照。内容未定
	フジテレビ	SRS	26：15～26：45	⬅P69
	Ｊスカイスポーツ2	ワールドファイティング	28：00～29：00	1/26と同内容
2/3（土）	日本テレビ	K-1JAPAN完全版	13：30～14：55	1.30『K-1RISING 2001』松山大会の完全版を放送。※関東ローカル
	GAORA	角田信朗の格闘魂	16：00～16：30	ゲストは全日本プロレス、川田利明
	スカイ・A	パンクラスハイブリッドアワー	20：00～22：00	1.8愛知県体育館大会
	Ｊスカイスポーツ2	ワールドファイティング	25：15～26：15	1/26と同内容
	テレビ朝日	ワールドプロレスリング	26：35～27：35	関東地方と北海道では2.3きたえーる大会を放送。他は1.4東京ドーム大会を放送
2/4（日）	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	8：00～9：00	2/1と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	9：00～11：00	2/1と同内容
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	11：00～12：00	1/25を参照
	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	15：00～17：25	2000年IWGPタッグ特集
	BS朝日	パンクラスハイブリッドアワー	18：00～20：00	船木が語るパンクラスストーリー2～93.11.8神戸ワールド記念ホール大会＆93.12.3博多スターレーン大会
	GAORA	全日本キックボクシング	20：00～22：00	2000.12.22後楽園ホール大会を放送
	Ｊスカイスポーツ3	ワールドファイティング	24：00～25：00	カルガリー・スタンピードレスリング～ブレット・ハート特集②

ON THE AIR 1/25～2/8
格闘技番組ガイド TV&RADIO

Pick Up 1 『角田信朗の格闘魂』
GAORA
1月26日（金）/25:00～25:30 ほか

毎日放送ラジオとのメディアミックス企画番組。ホスト役の“愛と涙と感動の浪花男”角田信朗が、毎回ゲストに格闘家を迎え、格闘魂について語り合うという番組である。今回のゲストは「気合いだあーッ！」でおなじみのアニマル浜口と、その娘で日本女子レスリング界のエース、浜口京子のいつも気合い丸だしの親子である。『夜もヒッパレ』などで芸達者ぶりを発揮している角田と、元祖・気合い男とその娘のトークバトルなのだから、おもしろいことは保証付きである。お互いの格闘魂をぶつけ合う、激しいトークになるに違いない。ところで、この番組には、本誌・サダハルンバ谷川編集長も出演したことがあり、これからは本誌の読者も格闘技ファンも見逃せない番組の一つになりそうである。

Pick Up 2 『ワンダフル』
TBS
2月5日（月）/23:50～24:50 ほか

ワンギャルと呼ばれるきれいなお姉さま達が多数出演しているこの番組で、昨年末からいきなり『格闘新世紀』なる格闘技コーナーがスタートした。基本的にこのコーナーは毎週月曜日に放送されており、K-1から『プライド』、女子格闘技そしてアメリカのプロレス団体WCWまで扱うという幅の広さに視聴者の反響も上々のようだ。2月5日放送分では遂に“グレイシーハンター”桜庭和志が登場！ 髙田道場での練習風景をワンギャル達が密着取材する。ところで、番組を見たという人なら驚いた人もたくさんいると思うが、なんとホスト役は本誌でも絶賛活躍中の“Show”大谷泰顕氏である。別の意味で話題になっている大谷氏の雄弁な語りっぷりを、みんなでじっくりとPPJしよう！ ヒャッ！

Pick Up 3 『K-1 RISING 2001～四国初上陸～』
日本テレビ
1月30日（火）/23:37～24:45

1月30日に愛媛県・松山市総合コミュニティーセンターで行われる、『K-1 RISING 2001』を即日放送。四国はK-1プロデューサー・石井和義館長の故郷でもあり、21世紀初のK-1は石井館長の凱旋興行となる。組まれたカードも見応えたっぷりのカードばかり。シリル・アビディの欠場は残念だが、マイク・ベルナルドVS天田ヒロミのボクシング対決や、黒澤浩樹が相手ならと現役復帰を果たす村上竜司の試合。そして、昨年からパンクラスを離れて『K-1 JAPAN』シリーズに参戦している柳澤龍志を角田信朗が迎え撃つなど、今から楽しみなカードがたくさんある。会場に行けない人は、ぜひともテレビ観戦しよう！ また、2月3日の13時30分からはこの大会の完全版も放送されるので、こちらも要チェック！

TV （右ページから続く）

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
2/5（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト(再)	16：00～17：00	1/26を参照。内容未定
	スポーツ・アイ-ESPN	新日本プロレスS.X.W	21：00～23：00	1.31ディファ有明大会を放送
	GAORA	週刊格闘JAM！	23：05～23：10	1/29を参照
	TBSテレビ	ワンダフル	23：50～24：50	⬅Pick Up ②
	日本テレビ	超K-1宣言	25：45～26：15	内容未定
	Jスカイスポーツ3	ワールドファイティング	26：45～27：45	2/4と同内容
2/6（火）	スカイ・A	パンクラスハイブリッドアワー	19：30～21：30	2/3と同内容
2/7（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	ワールドコンバットファイト(再)	16：00～17：00	1/26を参照。内容未定
	GAORA	全日本キックボクシング	20：00～22：00	1.4後楽園ホール大会を放送
	テレビ東京	Gパラ　コロシアム	23：55～24：35	ノア三沢光晴社長出演
2/8（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション	19：00～21：00 23：00～25：00	2001.1.19に後楽園ホールで開催された修斗公式戦を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	世界の格闘技 ワールドコンバットファイト	21：00～22：00 26：00～27：00	内容未定
	FIGHTING TV SAMURAI!	格闘ジャングル	22：00～23：00 25：00～26：00	1/25を参照
	日本テレビ	コロッセオ	26：25～26：55	1.28全日本プロレス東京ドーム大会を放送

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカイパーフェクTV！
☎0570-039-888 ☎03-5802-5550
（10：00～20：00）

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5280-1104／☎06-6374-0002
（月～金10：00～18：00）

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
（10：00～18：00 土日祝除く）

■WOWOW
☎0570-008-080
（9：00～20：00）

■スポーツ・アイ－ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
（月～金10：00～18：00）

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5351-4055
（16：00～21：00）

■J SKY SPORTS
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
（9：30～18：00）

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
（月～金10：00～18：00）

BOOK
話題の本&新刊情報

〈新刊紹介〉

『すてごろ懺悔　あばよ、青春』

真樹日佐夫著
フル・コム
本体価格 1,500円/発売中

マッキーの“すてごろ”三昧の人生を味わえ！

そのあまりに男らしすぎる風貌とは裏腹に、「マッキー」とファンの間で呼ばれ親しまれている真樹日佐夫先生が、自らの素手喧嘩(すてごろ)の体験の数々を一冊の本にまとめた、『すてごろ懺悔 あばよ、青春』を出版した。格闘技ファンなら必読ものの一冊だが、これは格闘技ファンのみならず全ての男どもが読まなければならない一冊であろう。“あばよ、青春”というサブタイトルのとおり、その青春時代をすてごろに捧げた男の生き様は半端ではない。ヤクザの用心棒であるボクサーや元力士との喧嘩。そして有名な、プロレスラーのバディー・オースチンKO事件などを赤裸々に描いている。中でも面白いのが、実の兄である梶原一騎と兄弟タッグを結成しての変則的なタッグマッチである。本来相手が二人で来る予定だったのに、一人で来たために梶原とタッグを組んでかわるがわる闘ったのである。こんなにこってりとした内容が入った本がつまらないわけがないのである。

PRESENT!

今回、このコーナーで紹介した『修斗2001 VOL.1』を抽選で本誌読者5名様にプレゼントするぞ。希望者はハガキに住所、氏名、年齢、職業、電話番号、今号の感想を明記した上、下記のあて先までご応募を。締め切りは2月8日(木)の消印有効。

◆あて先/〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F
SRS・DX編集部 BOOKS『修斗2001 VOL.1』係

〈おすすめの一冊〉

『佐山聡の掣圏道』

佐山聡著
ぴいぷる社
本体価格 1,500円/発売中

掣圏道の教典、遂に登場！押忍(敬礼)！

ボディガードをコンセプトとする市街地型実戦武道と銘打たれた掣圏道が、創始者である佐山聡の手によって一冊の本にまとめられた。内容は掣圏道の基礎的な動作はもちろん、護身術への応用編が写真付きで、詳しく解説されている。無論、技術論ばかりではない。佐山が掣圏道に行き着くまでの過程を振り返ったり、藤原敏男との特別対談が収録されていたりと技術論以外でも非常に楽しめる内容となっている。最近、世間はやたらと物騒な話題が多いが、この本を読んで護身術の一つや二つ身に付けておいても損はないだろう。

〈注目の一冊〉

『修斗2001 VOL.1』

メディアレブ
本体価格 1,800円/発売中
※通販あり。書店で売り切れの場合は、メディアレブに注文すれば、送料無料で配送

自然児、マッハを徹底解剖！

修斗のオフィシャルブック、『修斗2001 VOL.1』が発売された。特集では昨年の12.17修斗NKホール大会で、フランク・トリッグに劇的な逆転勝ちを収めた桜井“マッハ”速人に徹底的に迫っている。どういった内容かというと、マッハの全試合をマッハ自身が解説するというコーナーや、マッハの故郷、マッハを育んだ風景と人々などプライベートな部分まで紹介している。その他にも12.17NKホール大会の詳報や、選手名鑑も充実していたりと修斗ファンなら必読の一冊だ。

BOOK RANKING (1/1～1/14)

1. 『クマと闘ったヒト』
中島らも/
メディアファクトリー
本体価格 1,300円
2. 『すてごろ懺悔』
真樹日佐夫/フル・コム
本体価格 1,500円
3. 『佐山聡の掣圏道』
佐山聡/ぴいぷる社
本体価格 1,500円
4. 『船木誠勝リアル護身術』
船木誠勝/大泉書店
本体価格 1,200円
5. 『人間爆弾発言』
山本小鉄/勁文社
本体価格 1,619円

1位

『クマと闘ったヒト』
中島らも著/
メディアファクトリー
本体価格 1,300円

前回10位から一気に1位にまで登ってきたのが、中島らもとミスター・ヒトの対談で話題を呼んだ『クマと闘ったヒト』だ。ミスター・ヒトの語る、プロレスラー達のおかしな生活ぶりがとにかくおもしろい。また、ヒトがなんでも知っているかのような口振りで、中島らもの質問に答えるのも本全体にいい味付けをしている。

書泉ブックタワー

東京都千代田区神田佐久間町1-11-1
☎03-5296-0051(代)

▲プロレス・格闘技関連の本が充実している『書泉ブックタワー』では、本誌のバックナンバーも販売しているぞ！探している本があったら秋葉原の書泉へGO！

書泉ブックタワー
後藤　実副主任

「全体の数で見れば売れてますが、既刊も新刊も書籍は目立つものが見当たりません。ランキング外で好調なのは武術系です。ビデオでは桜庭和志の『ギミック』(学研)が絶好調で売れています」

※表示価格は全て税別価格

GOODS
最新&売れスジグッズをご紹介！

＜新作紹介＞ It's HOT!

『RICKSON GRACIE "SET UP"』
3,900円（税別）

ヒクソンブランドの上下セットをお手軽価格で！

今、イサミ尚武堂でよく売れていると評判の商品が、このヒクソンブランドのスウェット上下だ。通気性の良いポリエステル100％の生地で、白地に黒のラインがいかにも強そうな感じ!? 値段もお手頃だし、キミもこれを着て、海ごもりでも山ごもりでも行ってこ〜い！

〈おすすめグッズ①〉 Recommend

『修斗グローブ』
12,000円（税別）

試合でも使ってるオフィシャル修斗グローブ！

こちらはプロの公式試合でも使われている、Winning社製の公認修斗グローブ。手の甲の部分にある「SHOOTO SINCE 1985」の文字が光ってます。手首でヒモを縛る様になっていて、着用した際のフィット感もさすが、なかなかのモノなのだ。

〈おすすめグッズ②〉 Recommend

『ハンドグリップ』
1,800円（税別）

グリップの強さが調節可能な握力鍛錬器具！

強い肉体を作る基本は、やっぱり握力でしょ!? これは、グリップを握る圧力を1〜6段階まで調節ができるハンドグリップ。はじめは「1」からスタートして、ガンガン握って、だんだん力がついてきたら「6」に挑戦してね。

PRESENT!

今回、このコーナーで紹介した『RICKSON GRACIE "SET UP"』（Lサイズ／ホワイト）と『ハンドグリップ』を、『SRS・DX』読者各1名にプレゼントするぞ。希望者はハガキに住所、氏名、年齢、職業、電話番号、希望するグッズ名と今号の感想を明記した上、下記の宛先までご応募を。締め切りは、2月8日（木）の消印有効。

◆あて先/〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F SRS・DX編集部
『グッズプレゼント』係

イサミ尚武堂（株）
大貫勲店長

「まだまだ寒い日が続きますね、店長の大貫です。当店ではザバス社製サプリメントの販売をはじめました。栄養が不足しがちなアナタの身体にサプリメントはいかがですか？ 21世紀もイサミをよろしくお願いします」

イサミ尚武堂（株）
東京都千代田区三崎町2-18-5
京三会館2F
☎03-5214-6487
営業時間/11:00〜19:00
（毎週火曜、祝日休業）

Et cetra

バトラーツのアマ大会『グラップリング-B vol.12』出場選手募集！

バトラーツのジム［B-CLUB］では、2月18日（日）に開催するアマチュア大会『グラップリング-B vol.12』の、出場選手を募集している。ワンマッチ形式で争われるこのアマ大会に、ぜひ参加しよう！　全試合終了後には、スパーリング交流会＆セミナーも開催されるぞ。こちらの交流会のみ参加することもできるので、興味のある方は是非ど一ぞ！　また［B-CLUB］では、1月31日まで入会金100％OFFキャンペーン中だ。100％OFFってことは、もちろん無料！　この機会に入会して、身体と心を鍛えるのもよし、次のグラップリング-Bに備えるのもまたよし、なのだ！

＜グラップリング-B vol.12＞

◆日時/2月18日（日）　受付開始10:30

◆場所/埼玉・バトラーツジム［B-CLUB］（東武伊勢崎線越谷駅より徒歩30秒）

◆参加資格/18歳以上の健康なアマチュアの男女

◆階級/-60kg、-70kg、-80kg、80kg超級（男子）※女子は階級を設けず、応募者の中から体重の近い選手同士で試合をする

◆参加費/［B-CLUB］会員1,000円　一般3,000円

◆申込方法/電話にて連絡した後、下記の住所まで100円切手を1枚送付する。折り返し参加申込書を発送

◆あて先/〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43［B-CLUB］内　「グラップリング-B」運営事務局

◆電話申込締切/2月9日（金）

＜スパーリング交流会＆セミナー＞

◆参加費/グラップリング-B参加選手1,000円　交流会のみ参加3,000円

◆応募方法/バトラーツジム［B-CLUB］まで電話連絡

◆お問い合わせ/バトラーツジム［B-CLUB］☎0489-63-7515

またまた出場選手募集！第18回アマチュア・コンプリート・ファイティング

C.F.C.では、3月11日（日）にアマチュアのワンマッチ大会『第18回アマチュア・コンプリート・ファイティング』を開催する。この大会に出場する選手を現在募集中だ。この大会は、グラウンドでの打撃も認めるCFマイナークラスルールの下、全5階級で争われる。初心者同士の対戦では、スーパーセーフ面の着用もでき、より安全に闘えるぞ。

◆日時/3月11日（日）　10:00

◆場所/TIGER PLACE　神奈川県横浜市鶴見区尻手2-1-54（JR南武線尻手駅より徒歩8分）☎045-570-5511

◆階級/フェザー級（-60kg）、ライト級（-70kg）、ミドル級（-80kg）、クルーザー級（-90kg）、ヘビー級（90kg超）

◆ルール/ワンマッチ形式。上半身は裸で、ヘッドギア、マウスピース、オープンフィンガーグローブ、ファールカップ、スネあて、ヒザあてが着用義務となる。　※CFマイナークラスルール

◆参加費/3,000円（初参加の場合は4,000円）

◆申込方法/電話にて募集要項を取り寄せた上、現金書留にて下記のあて先まで申し込む

◆申込先/〒444-0835愛知県岡崎市城南町3-2-26 C.F.C.事務局

◆申込締切/3月3日（土）必着

◆お問い合わせ/C.F.C.事務局 ☎0564-55-9070（16:00まで）☎0120-00-4524（17:00以降）

アマチュアコンテンダーズ出場選手募集！

GCM COMMUNICATIONでは、3月18日（日）に開催するコンテンダーズのアマチュア大会、『CCC.ver.1.1』（class-C Contenders Cross-link）の出場選手を募集しているぞ。コンテンダーズとは、宇野薫をはじめとする慧舟會RJW勢を中心として、様々な団体から競技者達（CONTENDERS）が出場している、組み技系格闘技の大会。会場となるのは横浜市鶴見区に1月14日にオープンしたばかりのGCMの新道場、TIGER PLACEだ。アマチュアグラップラーのキミ、腕を試したいなら下記の要領でさっそく申し込もう！

◆日時/3月18日（日）　10:00

◆場所/TIGER PLACE　神奈川県横浜市鶴見区尻手2-1-54（JR南武線尻手駅より徒歩8分）☎045-570-5511

◆階級/フェザー級（-60kg）、ライト級（-65kg）、ウェルター級（-70kg）、ミドル級（-85kg）、ライトヘビー級（-85kg）、クルーザー級（-95kg）、ヘビー級（-95kg）

◆ルール/3分2R　※クラスCコンテンダーズルールに準ずる

◆参加費/3,000円

◆申込方法/電話・FAXまたはハガキで連絡した後、送付される書類に必要事項を記入した上、返送する

◆申込先/〒103-0021東京都中央区日本橋本石町3-3-11　山田ビル5F GCM CCC係

◆申込締切/2月28日（水）必着

◆お問い合わせ/GCM COMMUNICATION ☎03-5200-3511

ラウンドガールの衣装でファンを悩殺！K-1 Girls 2000イベント、大盛況のうちに終了

メディアファクトリーでは、1月13日にK-1 Girlsのビデオ「K-1 Girls 2000」（3,800円/税別）の発売記念イベント「悩殺！ SexyBodyにノックアウト!!」を開催し、大盛況のうちに終了した。当日は、K-1 Girls 2000から、はつみちかこチャン、加藤ゆかチャン、渋谷千春チャンの3人がラウンドガールの衣装で登場し、トークやプレゼント抽選会、握手会で盛り上がった。トークでは、ファンから「初体験は？」などというエロガッパ質問も飛び出したが、ガールズたちは巧みに受け答え、集まった多くのファンを全員悩殺した模様。ちなみに司会・進行役は本誌でもお馴染みの"Show"大谷泰顕が担当した。イベントに行けなかったキミは、ビデオを買ってお家で悩殺されよう！

▲右から、はつみちかこチャン、加藤ゆかチャン、渋谷千春チャン

極真、鏡開き行われる！

1月4日から6日までの3日間、恒例の埼玉県・三峰山冬合宿を終え、11日早朝6時半より、極真会館総本部道場の初稽古及び鏡開きが東京池袋にあるメトロポリタンホテルで開催された。この行事には、都内近郊の支部長及び主力メンバーも集まり、21世紀の極真空手が盛大にスタート。挨拶に立った松井章圭館長は、「新しい時代を迎え、我々も組織として時代の中で変わらなければいけないところは勇気を持って改革し、また変わってはいけない極真らしさを見つめ直していきたい」と抱負を語った。今年は4月の極真祭にワンマッチの試合や女子の世界大会、夏には世界ウェイト制も開催されることもあり、大きな飛躍の年となりそうだ。その中で、昨年全日本大会を欠場したエースの数見肇は「今年は積極的に多くの試合を積みたい」とアピールしていた。

高田馬場に格闘ショップがオープン今ならサプリメントをプレゼント中！

B'zスポーツファクトリーでは、東京・高田馬場に格闘技ショップ『格闘・夢空間 ロータスクラブ東京店』をオープンした。このショップではブルース・リーグッズやサプリメント、トレーニングセンター「サンプレイ」公認グッズ、Tシャツ等、あらゆる格闘技グッズを販売している。格闘技ファンにとってまさに「夢の空間」となっているぞ。さらに今ならお店に行って「『SRS・DX』を見た！」と言えば、オリジナルサプリメント「極強・躍動20g」をプレゼント中だ！　是非一度覗いてみよう！

◆営業時間/11:00～20:00

◆住所/東京都新宿区高田馬場4-10-15 助川ビル1F（JR高田馬場駅より徒歩1分）

◆お問い合わせ/格闘・夢空間 ロータスクラブ東京店 ☎03-5348-5350

「シェイプリーキック」インストラクター養成講座の受講生募集！

キックボクシングのJ-NETWORKでは、ムエタイとエアロビクスを融合させたオリジナルプログラム「シェイプリーキック」のインストラクター養成講座を開設した。現在、この講座の受講生を募集しているぞ。このシェイプリーキックはシェイプアップ効果が高く、女性にはもちろん、男性にも好評を博しているそう。お正月太りも気になるこの頃、インストラクターを目指してみるのも悪くないぞ！

◆料金/100,000円（全20時間）

◆講師/小山内映子（AFAA認定インストラクター）

◆お問い合わせ/J-NETWORK ☎03-3419-0536

※このプログラムはAFAA承認継続教育プログラムです

格闘技オフィシャルホームページ

K-1　http://www.k-1.co.jp/
UFO　http://www.ufojp.co.jp/
極真会館（松井派）　http://www.kyokushin.co.jp/
リングス　http://www.rings.co.jp/
アントニオ猪木　http://www.antonio-inoki.com/
大道塾　http://www.daidojuku.com/
パンクラス　http://www.so-net.ne.jp/pancrase/
UFC　http://www.seg.com/ufc/
格闘探偵団バトラーツ　http://www.ops.dti.ne.jp/~batbat/
シュートボクシング　http://www.shootboxing.org/
日本武道伝骨法會　http://www9.big.or.jp/~koppo/
修斗　http://www.alles.or.jp/~shooto/index.html
新日本キックボクシング協会　http://www1.neweb.ne.jp/wa/kick/
全日本キックボクシング連盟　http://www.aj-kick.co.jp/
J-NETWORK　http://WWW.kickboxing.co.jp/
PRIDE　http://www.jside.com/pride/
高田道場　http://www.takada-dojo.com/
http://www.takada-dojo.com/i/（iモード用）
聖圏道　http://www.seiken-do.com/

星座別 タロット占い

1/25 Thu. 〜 2/8 Thu.

宇月田麻裕
mahiro utsukita

プロフィール ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「ダ・マーヤー占星術」を中心にタロットカード、西洋占星術、四柱推命などオールマイティな占いを使う。現在、雑誌・映像などで活躍中。
URL http://www.happiness-f.com/

牡羊座 3/21〜4/20

全体運 好調だけど、感情のもつれによるトラブルに要注意。小さなことにこだわらず、おおらかな気持ちでいることがポイント。激情にかられたら、そのエネルギーを試合や仕事にぶつけて！ 好結果が得られるハズ。恋愛運は、ＶＤに備えて気になるあの人にさりげなくアプローチするとグッド。ＶＤに思いが通じ合って一緒に過ごせるかも。

勝負運 目がウィークポイント。瞬きの瞬間がキー。

健康運 眼精疲労など、目からくる病気に要注意。

金　運 お金の貸し借りはタブー。返ってきません。

ラッキーアイテム：リング
ラッキーカラー：シルバー

牡牛座 4/21〜5/21

全体運 研究心が強くなるとき。仕事、勉強、試合と、各カテゴリーにおいて、探究していくと成績アップできるハズ。また、海外の知人に電話やメールを送ってみよう。耳寄りな情報がゲットできる暗示。恋愛では、カップルは同棲話が出たりと進展しそうだけど、タイミング的に急接近はキケン。フリーは依存心が強い相手には要注意。

勝負運 北の方角に行くとグッドな戦略があり。

健康運 運動後に体を冷やさないよう要注意。風邪の原因に。

金　運 プレゼント運あり。予期せぬ贈り物が届くかも。

ラッキーアイテム：手袋
ラッキーカラー：イエロー

双子座 5/22〜6/21

全体運 体力アップ。ちょっとくらいムリしても、十分にこなせるとき。新記録にチャレンジしたり、記録更新を目指してみるとグッド。また、新しくサークル活動や道場に入門したりしてもＯＫ。恋愛は新たな出会いを期待するより、職場など、身近なところに目を向けて。カップルは旅行などは控えたほうがいいかも。旅先でトラブル発生の暗示。

勝負運 海外運があるので海外遠征はラッキー。

健康運 時間ギリギリの行動は不幸を招くことに。

金　運 旅行、チケットのキャンセルなど損失がありそう。

ラッキーアイテム：ホームページ
ラッキーカラー：パープル

蟹座 6/22〜7/23

全体運 多忙なとき。自分のことだけで手一杯なのに、何かと野暮用や頼まれごとが多くなりそう。とくに年輩の人の依頼は断れなくて、煩わしい思いをしそう。でも、近い将来あなたを引き立ててくれる人かもしれないので、手際よくこなしていくことが賢明。恋愛は、フリーはまずは友達から始めて。カップルは浮気心に要注意。

勝負運 年上の人を味方に付けていくとグッド。

健康運 暴飲暴食が胃を荒らすとき。コントロールを。

金　運 年上の人がキーポイント。ごちそうしてもらえそう。

ラッキーアイテム：携帯電話
ラッキーカラー：ライトピンク

獅子座 7/24〜8/23

全体運 １年の計画を立ててない人は、遅過ぎ！ １月中にしておかないと、他力本願的なただ流される運勢に傾きそう。そんなことになったら、あなたのパーソナリティは台無し。家族運がアップしているので、アドバイスをもらうとグッド。恋愛は、グループ交際から火がつきそう。仲間同士でカラオケ、スキーに繰り出してみては？

勝負運 友達の一言が大きな影響を。耳を傾けて。

健康運 右の大腿部に要注意。肉離れ、筋違いを。

金　運 気付かぬうちに大切なモノを捨てちゃいそう。

ラッキーアイテム：帽子
ラッキーカラー：ブラウン

乙女座 8/24〜9/23

全体運 注目度アップ。日頃はステージの上に立つことが苦手なあなたも、思い切ってスポットライトを浴びて、自分をアピールしてみるべき。勉強、仕事はもちろんのこと、ファッションでイケてるスタイルもＯＫ。認知される存在に。それに従って、恋愛運もアップ。でも、タイプじゃない人からも好かれ、困ることもありそう。

勝負運 東の方角に向かって行くとラッキー。

健康運 手首が弱くなっているとき。腱鞘炎に要注意。

金　運 薬局などで役立つサンプル品をもらえそう。

ラッキーアイテム：流行のファッション
ラッキーカラー：ベージュ

天秤座 9/24〜10/23

全体運 ボランティア活動など、社会に貢献することでラッキー到来。近頃のあなたは、人と人との関わり合いが少なくなっているみたい。人間関係を見直してみる必要が。また、芸術運がアップしているので、アートなことにチャレンジするとグッド。恋愛は、ＶＤに備えて、恋人や周囲の人達に親切にしておくと、好感度も期待もアップ。

勝負運 勝負欲がダウン。ちょっとブレイクタイム。

健康運 気だるいとき。スポーツでいい汗を流して。

金　運 芸術運があるので公募にチャレンジしてみるとグッド。

ラッキーアイテム：レンタルビデオ
ラッキーカラー：ペパーミントグリーン

蠍座 10/24〜11/22

全体運 忘れかけていた過去がラッキーに変わるとき。偶然、昔のクラスメートにバッタリ会ったりと、再会運もありそう。自分のほうから、懐かしい友達や久しぶりに会いたい人に連絡をしてみてもＯＫ。気分がリラックスできるのはもちろんのこと、耳寄りな情報をゲットできる暗示。恋愛も、そんな懐かしい再会から恋が芽生える期待あり。

勝負運 年上の人の言うことを実行するとグッド。

健康運 ボーッとして、モノに激突したりしそう。前方注意！

金　運 ごちそうしたりして予定外の出費がありそう。

ラッキーアイテム：DM（ダイレクトメール）
ラッキーカラー：オレンジ

射手座 11/23〜12/22

全体運 ２月初めに出会った人とは、長い付き合いになる暗示。親友になれる可能性もあるので要チェック。格闘技や仕事に対する熱い思いを伝えられたり、理解し合える関係に。恋愛は新しい出会いの期待あり。行動パターンを変えることがポイント。カップルは、デートスポットの開拓を。そうすることで、恋人を愛する気持ちが再燃。

勝負運 下半身を意識してトレーニングするとＯＫ。

健康運 ケガはすぐに処置を。化膿する恐れが。

金　運 不要品はネットオークションに出品してみて。

ラッキーアイテム：インターネット
ラッキーカラー：ネイビーブルー

山羊座 12/23〜1/20

全体運 今は、ひょいと流れに乗るだけでＯＫ。自然にやりたい方向にイケるハズ。ちょっと無謀だと思えることでも周囲のアシストのおかげもあり、目標達成できそう。ただし、約束を破るような行為をすると、運気は一気にダウンするので要注意。恋愛はまだイケるとき。ゲームをするかのように、駆け引きを上手く使うとグッド。

勝負運 インターバルの取り方が勝利へのポイント。

健康運 コケやすいとき。足に合った靴を履くこと。

金　運 ポケットからスルリとお財布が落下しそう。

ラッキーアイテム：アルカリイオン水
ラッキーカラー：オフホワイト

水瓶座 1/21〜2/19

全体運 良かれと思った言動が、裏目に出やすいとき。もともと個性的な発想が得意なあなただけど、それが、口先ばかりに見られたり、変わり者と見られたりして、マイナスポイントになりそう。みんなに合わせた言動をしていくことで、トラブルなくクリア。恋愛は運気アップ。ＶＤ直前、気持ちが高揚してきて、ラブラブムードに。

勝負運 左後ろが死角になる瞬間が。要注意。

健康運 居眠り運転など、交通事故に要注意。

金　運 人の相談に乗ることで見返りの期待あり。

ラッキーアイテム：ＣＤ
ラッキーカラー：ライトブルー

魚座 2/20〜3/20

全体運 フィードバックが大切な時期。環境、トレーニング方法など、何がロスしているかを、身近な人にチェックしてもらうとグッド。改善することで、ぐ〜んと能率アップ。恋愛は、インターネットでの出会いに期待あり。「出会いのＷｅｂ」、メール、チャットがキッカケに。カップルも、メール交換をこまめにしておくと愛はキープ。

勝負運 一瞬のスキが勝利を逃すことに。油断禁物。

健康運 性病に要注意。不特定多数のエッチは×。

金　運 バーゲン会場、電車などでスリに要注意。

ラッキーアイテム：ペット
ラッキーカラー：モノトーンカラー

一撃コラム 連載第39回

武蔵と違うところを見せられるか？ 今年のジャパンはまさに正念場だ！

21世紀のK—1は、石井館長の出身地である四国で、まずジャパン・シリーズからスタートを切る。ジャパンは今後、地方展開が多くなるだろうが、この一発目は今年のK—1を占う意味でも重要な大会と言えよう。

なにせ、ジャパン・シリーズは昨年の武蔵の決勝グランプリの1回戦敗退で、大きなダメージを受けてしまった。武蔵が負けてはっきり分かったことは、武蔵が一番背負っていたのは、K—1ジャパンだったということである。特に昨年は自信満々で臨んだだけに、ジャパン全体のイメージダウンにつながってしまったのは隠しきれない。

そんな背景で行われるジャパンの再スタート。武蔵ショックを、他のファイターがどう拭い去れるか、1・30四国大会の一番のテーマはそんなところにある。

武蔵をかばうわけではないが、武蔵はやはりファイターとして他のジャパン勢より抜きん出ている。その実力は、K—1のベスト8ファイターと比べても、なんら遜色のないものを持っていると、私は今でも思っている。

ところが、武蔵はまだ本番で、その実力を証明していない。だが、その証明していないことが問題ではなく、ファンやマスコミといった第三者が何を求め、何を期待しているかという点と、まったく違うところで武蔵が闘っていることが歯がゆく見えてしまうのだ。

せめて、自らが言うように勝てば何も問題はなかったのだが、残念なことにそれも武蔵は手にできなかった。正直、どういう復活をするのか分からないが、武蔵復活は、よほどのことをしない限り、ファンは納得しないだろう。

では、武蔵以外のジャパン勢は、どうやってジャパンに希望の光をともすか。それは、いかに「俺は武蔵とは違うぞ」というところを見せつけられるかということである。

現時点で、私はジャパンが世界の一流選手に勝つことまでは期待していない。そもそも格闘技を見るという行為では、勝ったとか負けたという結果以上のものをファンは見ている。そんな結果だけを知りたいなら、わざわざ試合会場に足を運ぶことはない。そういうことを、他のファイターはいかに認識しているかということだ。

今のファイターは、おそらくほとんどの者が「K—1」というシステムに絶対の信頼を持ち、K—1で勝つことこそがプロとしての一番の評価につながると考えているだろう。

たしかにそのとおりなのだが、真のエースとなる人間は、そのジャンルに対して、なんら信頼していない者が多い。ジャンルを信頼せず、自分の生き方を見せられる者のみが、逆にジャンルを引っ張っていく真のエースたりえるのである。

長嶋茂雄やアントニオ猪木がそうだが、K—1で言えば、K—1というシステム以上に自分の生き様を見せてジャンルを引っ張ってきたのが、アンディ・フグだった。私が興味があるのは、強い弱いに関係なく、誰がそういう感性を持ったファイターなのかということだ。

K—1というジャンルに信頼を寄せず、また強さの概念もK—1ルールという枠内に止まっていない感性を持ったファイター。そういうタイプこそ、K—1の真のエースになれるし、ジャパンの新しい期待の星となれるのだ。

こういうことを言うと、すぐに短絡的に〝要するに玉砕覚悟で魂を見せろ〟と言ってるのだとやる側には勘違いされるが、そういうことではない。まあ、そういうファイターは、いくら言っても一生気付かないタイプだと思うのだが……。

その中で、石井館長と同様、私も期待しているのが、富平辰文である。富平は当初、シリル・アビディとの一戦がメインで組まれた。これはアビディの負傷のため残念ながら実現できなかったが、本能の塊のようなファイトをするアビディに対して、富平がどんな闘いを見せるか？　2人とも完成していない分だけ、非常に楽しみな一戦だった。

つまり、そういうファイトを、石井館長は富平に賭けてみようと思ったのである。真のスターになる男は、与えられたチャンスを決して逃さない。アビディは昨年、そういうチャンスをものにして、K—1でのし上がってきた。その意味では、富平はチャンスをものにできる男か、そうではないか、真価を問われる一戦となる。たとえ相手が、どんなファイターでもだ。極真出身ということもあり、私は富平は何かやってくれそうな男だと思うのだが……。

もう一つ特に注目しているのが、ノブ・ハヤシ対グレート草津の一戦である。草津もまた、富平と同様、潜在能力を秘めた予測不可能な選手。ノブ・ハヤシとの一戦は、殻を破る大きなチャンスと言えよう。一方、ノブとしても昨年は頭打ちの一年だっただけに、そろそろ挽回しないと本当にヤバイ。

ジャパンのどのファイターにも言えることだが、去年とまったく同じ気持ちで闘っていたら、ファンの武蔵ショックを拭い去ることはできない。もし、そんな闘いをするなら、即刻ジャパンの主役の座は、魔裟斗や小比類巻といった中量級に譲るべきだろう。それくらいの自覚がないと、やる意味がない。

今年のK—1ジャパンのテーマは、そんなところにある。ただ漠然と強くなろうとするのではなく、もう一度プロとして観客と向き合ってほしい。そして、どういう生き様をファンにメッセージするか、徹底的に見つめ直してほしい。

K—1ジャパンは、〝日本人〟ということで、K—1本体に比べて感情移入しやすい場である。その感情移入というのは、決してレベルの問題ではない。しかし、私はいまだジャパンの選手に感情移入できない。そこが大きな問題であると思うのだ。ジャパンの選手よ、私たち見る側の感情を揺さぶってくれ！■

▶プロとしての潜在能力を秘めた富平。そろそろその才能を開花させてほしい

闘魂五木田塾？ なんだっけ、それ。

クンフー・マクダニエル

編酋長◎井上きびだんご

VOL.25

OLYMPIC AUDITORIUM

WRESTLING TIMES

SOUVENIR PROGRAM

FRI. AUG. 16TH 1974

50¢

WRESTLING'S NEW LIVING LEGEND ANTONIO INOKI!

ゴキータ vol.25

スギータ（上）

『マイ・スウィート・メモリーズ』

東京都北区・杉田八郎・49歳

「絶対ハイブリッド・レスリングするぞ！」

これは主人が生前私に残してくれた遺言です。私が未亡人になってはや8年が経ちます。

未亡人になって最初の一年は辛かった。街を歩けば見知らぬ人に「オイ！ 未亡人」などと言われたものです。辛くなった時は高速道路からお経を唱えたものです。

「南無阿弥陀仏」

生前、主人はいつも『SRS・DX』を読んでた。

「Showって面白えなあ」

主人の口癖だ。主人との出会いもプロレス会場でした。

私は闇市で知り合った友達（米兵、復員兵を含む）と来てました。隣に座っていたのが主人です。口紅をつけてました。

「僕は死にません、あなたが好きだから」

これが主人のプロポーズでした。最近は体が疼いて仕方がありません。

「火照るのよ、体が！ 火照ってるのよ体が」

地球の将来について、私たち一人一人がもっと考えるべきだと思います。

「あけましておめでとうございます!! ということで、大変難題を突きつけられたというか、まあ正月に親父が倒れまして、今、病院でつきそいながらこれを書いているわけで。人生いつどこで何が起きるかわからねエ、そんな中で自分を対応させていく。まあ非常に角田の気持ちが分かるというか。親父と病の闘いを『明日また生きろ!!』という思いで応援しています。ズバリ言ってこんなもん書いてる場合じゃねえんです!! そんな親父にイノキTシャツをくれぇぇぇー。俺は生まれ変って次の人生でも親父に会いたいんじゃー!!」（静岡県藤枝市・横田・オン・ザ・ムーン・32歳）

◇無念！ 猪木Tシャツはズバリ言って落選!! だが俺の独断で闘魂お守り（男の子色）を早急に送らせていただきます！ 待っててくれ！ 親父さん、苦しみの中から立ち上がれ!!

『プライド12』の緊急座談会でもあがっていたが、「場を理解するのがプロレスラー」だと。12・31『猪木ボンバイエ』でそれを理解し、実行したのは小川直也ではないか。出場選手が一様に「明るく楽しいプロレス」を見せてプロレスの「凄み」を見せたが、小川が安田戦で暴走、キラーぶりを出してプロレスの「怖さ」を見せつけたと思う。試合前の安田をにらむ目つきはホントに怖かった。TVを見てるこちらにも十分伝わっていたので、間近にいた安田は一体……（私はあの時点で勝負あったと思いました）」（京都府京田辺市・高木健治・21歳）

◇たしかに！ でもオーちゃんが一番レスラーらしいって、どーなってるんだよプロレス！ いーのかそれで！ だらしねえぞ、レスラーども！ 誰も「猪木イズム」を口にしちゃイヤ！

「押忍！ Showさん、俺は久しぶりに怒っている！ バカヤロー！！ 頭にきった！ 1・4新日本にバカヤロー！！ でも藤波さんが長州VS橋本戦最悪だ！ でも藤波さんが試合止めたのは悪くないっすよぉ～。長州さん、橋本さんの言い分もわかる！ だれもせめられないので俺の不満は頂点に達している！ そのぶん、健介VS川田が感動したけど…。せっかく、あせりながら1万円という大金の席を買ったのに…。金返せ！

俺は怒っている、怒っている、怒っている。新日本のバカヤロー！ 以上!! それと新日本が始まる前に全女の後楽園ホール大会を観戦したのですが、はっきり言ってこっちの試合のほうが例の試合より何倍もいいものでした！ あ!? 思い出した。オイ！ 納見のバカヤロー！ 俺が納見に「総合格闘技の大会に出てくれ～」と言ったんすよぉ～。そしたらあいつは「え～。私弱いから無理よぉ～」と言ってやがる！ バカヤロー！ 納見！ お前には猪木イズムはあるのか！ プロレスラーが弱気でどうする！ 山本小鉄さんが聞いたら怒るよぉ～。俺はお前にパンクラス、髙田道場、リングスの道場できたえて大谷晋二郎のように身体をつくり、そして全女にもどってくれよぉ～。U系の試合して全女のファンを驚かせろ！（入場はUWFのテーマで）。PS……アルバイトしてるところの正社員のキティラー美由紀（24）が会社をやめるのでヘコんでます…。美由紀に送る言葉『この道をゆけばどうなるものか。馬鹿になれ』です。叫びたいです」（東京都狛江市・爆苦連亡世・25歳）

◇納見になんで「猪木イズム」を期待するのだ!? 俺はオマエに怒っているぜ!! バカヤロー！

埼玉県八潮市・小川徹・15歳

埼玉県坂戸市・中川雅博・23歳

横浜市金沢区・山田次郎・32歳

アントニオ文朱、最近頭打ちのため無期限出場停止！

『すべてが中途半端な1・4』

横浜市旭区・安藤讓・38歳

90年代は失われた10年と呼ばれている。そしてプロレス界のリーディング・カンパニー、新日本プロレスに凄味が失われ、非常ベルが鳴り続けた10年でもあった。

UFCの衝撃とグレイシー柔術の台頭、打撃系格闘技とエンターテインメントを融合させたK—1の成功、ゲーム化した試合スタイルとアントニオ猪木との離反、そして小川直也の暴走、シュート活字の氾濫。

しかし、図体が大きくなった新日本は、興行会社として年間スケジュール（ドーム大会中心）をこなすことが最優先され、「プロレスとは何か？」という問題に顔をそむけ、「客が入ればそれでいい」と安直な道に進んでしまった。

2000年、『プライド』、K—1、そしてグレイシー柔術にフォーカスを当てた格闘技ブームが訪れる。そこでの新日本を中心とするプロレスの扱いはあくまで次点。

極真空手と共に、昭和の格闘二大幻想であったキング・オブ・スポーツ、新日本プロレスの看板は色褪せた。

眠れる巨像となった新日本は、2000年後半になり、アントニオ猪木の「馬鹿になれ」の叫び、凄まじい『プライド』、K—1の観客動員力によって眠りから目を覚まし始めた。

そして期待された1・4東京ドーム。

その舞台で繰り広げられたものは**すべてが中途半端**なものであった。実質上のメイン・長州VS橋本戦、新日本変革の象徴ともなるべき試合は、不可解な藤波社長の行動によってストップされた。まったく説得力のない言葉、**中途半端な試合内容**によって新日本は、格闘ロマンへの道を自ら閉ざしてしまった。残ったものは、今後のドーム大会への布石。メインイベントとなったIWGP争奪トーナメント決勝も全日本との交流戦の中での出来事のひとつに過ぎない。

だいたい、IWGPはいつから身内の中での争いに終始するようになったのか。当初の理念やロマンとは程遠いマイナーなものへとなってしまった。まったくもって**中途半端なトーナメント参加メンバー**。そして1・4東京ドーム大会を観戦し、**中途半端な不満**をあらわしたファンたちよ。暴動を起こすならなぜもっと怒りをあらわさない。かつての蔵前のように……。

これも新日本が求心力を失った為、起こった**中途半端な事象**。新世紀、格闘ロマンを追い、ファンの支持を得るのは『プライド』か、K—1か、新日本か、グレイシーか……。

怒りを感じながら、まだ諦めきれない私は新日本の逆転劇を信じたい。キング・オブ・スポーツの看板を背負った新日本を見たい。

新日本よ！　馬鹿になれ!!

ワンフー・マクダニエル

相模原チグモン3歳（4コマ）

悪童

超合筋

K. TAKEDA

東京都江戸川区・小杉勉・33歳

アレク

AOSDC

岩手県岩手郡・遠藤エンセン幸樹・16歳

ソギータ（下）

『修斗だ、修斗だ』

東京都北区・杉田八郎・49歳

先日、家内と一緒に修斗を見に行ってまいりました。イキナリ会場前でグラップルと胸に書いた若者にカツアゲされました。全部忘れました。

広島生まれの家内は大のカープファンであると同時に、大のルミナファン。身長・体重・ヘアスタイルすべてルミナの真似をしております。

デビロック・シートで眺める修斗はとても面白かったです。燃えろいい女、燃えろ祖父。ホストに狂う娘を止めるにはどうしたら良いのでしょうか。私は毎晩そのことばかり考えています。おかげで、新日の選手の名前もほとんど忘れてしまいました。上野の風俗店に勤める娘はバクチとホストでボロボロです。

メリークリスマス、わが娘。

お腹が一杯になるまで、アイスを食べたい、オリビアを聴きながらいつも考えています。

そろそろ、全日の試合の時間です。

さようなら、20世紀。

サンタが我が家にやってきた。

■作品募集

『ワンフー・マクダニエル』では、読者の皆様からのロマンチックな作品をお待ちしています。簡単なお便りは、『たつ万』の応募ハガキに書いてくれてもかまいません。。

あて先は、
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F
SRS・DX編集部
『ワンフー・マクダニエル』係

※なお、作品は一切返却しません

土井広之、世界の味は甘いか？しょっぱいか？

スティールにダウン奪って快勝 初の世界タイトル戴冠

▶鋭い左ストレートを突き刺す。この日の土井はミドルキック、パンチとも切れ味の良さが光り、スケール感を感じさせたものだ

	土井広之	スティール
モチベーション（闘志・気迫）	5	2
技術・戦略	8	2
KOスピリット	2	2
勝ちっぷり負けっぷり	5	0
全体的な印象・インパクト	5	0
合　計	25	6

▶これで念願の『世界』の肩書きを手に入れた。「打倒なんとか、というのはないけど、できるならタイ人とタイで闘ってみたい。負けない自信もある」。力強いチャンプの言葉だ

撮影◎中島ミノル

昨秋のK—1中量級大会は、立ち技系格闘技の各方面に、今だ深い波紋を広げている。「K—1に出たくないですか」と質問するのが、キック会場の勝者インタビューの定型句にさえなっている。

ただ、分裂錯綜するキック界の中で、本当に強い中量級は誰なのかと論争するなら、土井の名前を1番か2番には挙げたいと私は思っている。それだけ土井の技術、力量はハイレベルにある。ただし、本人はそういう場にこだわっていないと言うのだ。

「あまり興味ないですね。会長が出ろと言うのなら出ますけど。それより、シュートボクシングそのものを盛り上げたいですね」

シュートボクサーたちは、自分たちの格闘技にことのほか思い入れが深いという。土井もそうなのだろう。たしかに格闘技としてのSBは強い。パンチ、キックはもとより、投げもあれば、関節技も認められる。その許容範囲の広さに加え、競技としての奥行きもある。国際式ボクシングに近いウェイト・バランスだから拳固は鋭いし、それでいて蹴りも強いのだ。そのSBの世界チャンピオンになったということは、格闘技者としての土井はしかるべき評価をされてもいいと思うのだ。

だが、ファンの間にはそれだけの評価があるのかどうか、はっきり言って疑わしい。観客動員をみても分かる。同じ日に開催された魔裟斗と小比類巻の『ウルフレボリューション』は満員の盛況だった。一方、この後楽園ホールは、キャパシティの違いはあるにせよ、いささか寂しい入りだったのだ。

シュートボクシング

BE A CHAMP

1.12★後楽園ホール

『カニばさみ』まで見せたぞ！ これが主役の技というものだ

土井のコメント

「当然と言えば当然のベルトだけど、世界を名乗れるのはやはり嬉しい。スティールはレスリングをやっていたので、組み合いは避けた。相手のローも一発痛いのがあったけど、打ち勝ったのだからいいでしょう。とにかく勝てて生き残れたんだから。スティールから本当に効かせたダウンを奪ったのは初めてだから、そこは評価してほしい」

スティールのコメント

「（土井は）とてもいい選手。闘い方がスマートで、クリーンファイトで、それに強かった。もう100戦以上闘っているから、勝つ日もあれば負ける日もあるのは分かっている。相手が自分より重かったり、背の高いこともあるから、今日の結果も気にしない。次の試合？　来週に決まっている。今度は63キロ契約で闘う」

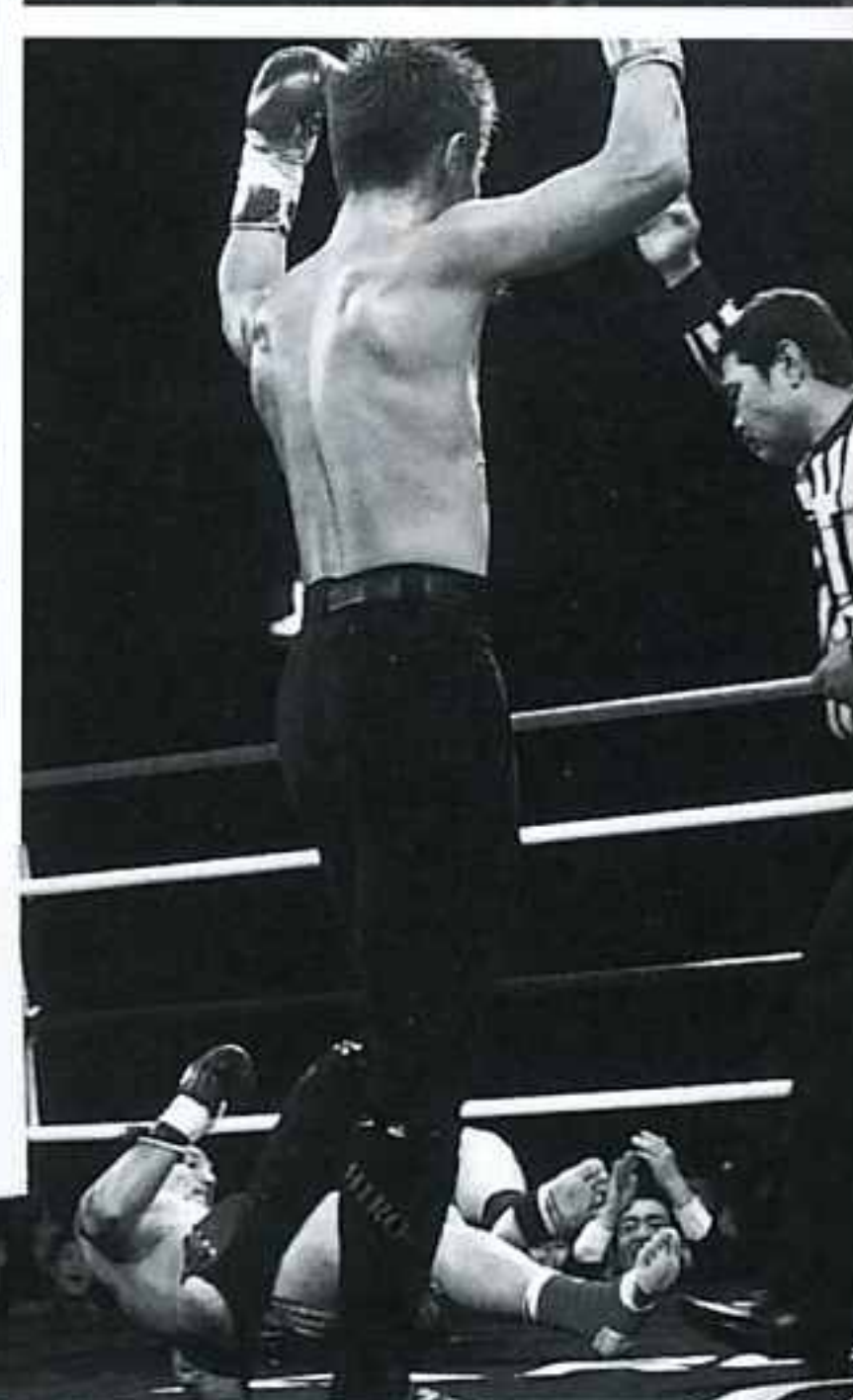
▲２Ｒにはカニばさみも試みた。「いい写真を提供したかったもので」。土井にはそんなサービス精神を見せる余裕すらあった

▲前田辰也はＷＫＡムエタイの世界王者アミテシュ・クリムと対戦。投げでシュートポイントを２度も奪い、大差の判定勝ちを収めた

▲打倒・村浜武洋を公言する若手ホープ・宍戸大樹は韓国拳法の使い手・任宗滾をヒザ連打、パンチで２度倒し、あっさり１ＲＫＯ勝ち

▶もう一人の韓国拳法からの刺客、金成起は、森谷吉博を後ろ回し蹴りで倒し、さらにパンチで2度のダウンを追加して、これも１Ｒで決着をつけた

▲スティールのローも強かった。２Ｒには相打ちで決めた左ローで土井を一瞬ぐらつかせるシーンもあった

▲やはり土井と言えばキラーロー。「10発以内で倒さなければダメ」と本人は不満そうだったが、スティールを着実に追いつめていった

▲３Ｒ、パンチからコンビネーションした左ローキックが炸裂。タフなスティールもたまらずダウンを喫した

★第7試合/WSBAスーパーシーガル級王座決定戦

○土井広之（3R判定3-0）ダニー・スティール●

〈シーザージム〉　〈DRAKA〉

※採点…30-25、30-26、30-27。ダニーは3Rに左ローキックでダウンを喫した

今後、強いＳＢをアピールしていくためには、土井がリーダーにふさわしい、もっと派手な活躍をしていくのが、必須の条件になる。そういう意味でも、この彼自身が望み続けた、世界チャンピオンシップの肩書きをかけたこの夜の闘いぶりには、注目していた。そして、土井が出してきた答えには、やはり疑問符を残しておきたい。

土井は期待通りに強かったか？強かった。得意のキラーローが冴えた。同じく強烈なローの使い手スティールに対し、はっきりと打ち勝った。３Ｒにはパンチからうまくコンビネーションした左ローで、ドラッカの世界王者からダウンも奪った。スティールが日本のリングで倒れたのは、村浜武洋戦以来のことになる。土井はその攻撃力の確かさを実証してみせた。

技術はどうだ？　土井はうまかった。相手のパワフルな攻めをほとんど空転させた。スティールがバックドロップの名手だけに、投げ技に自分からいくようなことはしなかったが、２Ｒには久方ぶりにカニばさみも試みて、観客を喜ばせた。つまり、魅せるファイターとしての土井の姿勢も高く買っていい。

土井がその力量を十分に発揮したということで、試合も楽しめた。だが、何かが物足りない。なんだか、まとまりすぎているように思えてならないのだ。

どんなにしっかりした枠組みでも、その中にすっかりはまってしまったら、その他のインスピレーションは湧いてこない。ときにはとっぱずれること。これもスターの大事な条件なのだ。

（宮崎）

SRS・DX Editor's Talk

編集部トーク 裏事情

猪木がボブチャンチンの強さを解明？

A 1月は新日本プロレスの契約更改時期なんで、去年の藤田和之のフリー宣言のようなことがあるんじゃないかと、ちょっと注目だね。

B まあ、橋本の『ZERO－ONE』の旗揚げはともかく、格闘技に関していえば、カシンと安田だけど、カシンはさっそく更改交渉が決裂したという情報が入ってきている。本人は「UFOに行くぞ」と言って、契約書を破ったなんて話もあるけど、『プライド』のリングに上がりたいのは間違いない。それに対して、新日本側がどういう説得をするかだね。

A まあ、新日本としても『プライド』に出てもいいという条件の契約で慰留に努めるんじゃないかな。カシンは新日本にとって大切な選手だからね。新日本はあくまでも「金銭的な問題」と言ってるらしいけど。

B 本人はやっぱり藤田みたいにすっきり外に出たいんじゃないかな。今は、小川、藤田、橋本と、みんな外に出たほうが注目を集めているからね。そういう意味では、メジャー団体と言えども、団体としての効力が失われつつある時代だから。まあ、1月20日に、ロスから猪木さんが帰ってくるんだけど、このページの締め切り段階では、猪木さんが帰ってくるまでなんとも言えないって感じだね。

A そういえば、Showが素晴らしいプチネタを持ってきてくれたんだけど、新日本との契約更改が危ぶまれていた一人に、明大ラグビー部から入門した大物新人・鈴木健三がいたんだって。その鈴木健三のことはよく知らなかったんだけど、小川に裏切られた坂口征二会長が、対小川用の秘密兵器として、スカウトしたらしいんだよ。で、坂口会長はその鈴木がまた小川のように新日本を離れて、『ZERO－ONE』入りでもするんじゃないかと心配して、1・4東京ドーム大会の時に3度も鈴木を呼び出して「大丈夫だろな、オマエ」って確認したらしいよ。

C 本当に微笑ましいプチネタですね（笑）。結局、鈴木健三選手は契約を無事に終えたそうですよ。安田選手は『ZERO－ONE』入りが濃厚のようですけど。

B そういえば、昨年猪木事務所に入って大活躍した藤田も、なんか契約問題で「フリー宣言」という話も出ているんだけど。

C 今年は『プライド』じゃなく、UFCに出るって話もありましたよね。また、最近は藤田選手や石澤選手がパンクラスで練習して親密になっているという話もありますし。

A まあ、まだ猪木事務所と契約していないのかもしれないけど、キナ臭い話は何もないよ。『プライド』に関しても藤田は猪木事務所を通じての契約になるから、これからだと思うけど。

B その藤田に関してだけど、面白い話があるんだよ。猪木さんがいきなり藤田を捕まえて「ボブチャンチンがなぜ強いか分かったぞ」という話をしてきたんだって。凄く興味あるだろう？ そうしたら猪木さん、「あいつが強いのは、チェルノブイリの放射能を微量に浴び続けているからだ」と言ったというんだ（笑）。

A ハハハハハ。じゃあ、ボブチャンチンはラドンか？（笑）。

B それで、猪木さんは藤田にもウクライナのチェルノブイリに行って「放射能を浴びて来い！」って命じたらしいよ（笑）。藤田は「まいりましたよ」と頭を抱えていた（笑）。

C さすが猪木さんだぁ。凄い発想ですよね（笑）。

A でも、UFCの身売り話など、今年も総合格闘技界は大きく変わりつつあるから、目が離せないよ。■

◎読者ハガキを読んでいて嬉しかったのは、前号の中カラーで特集した「本誌スタッフより格闘家の皆様へ、21世紀の大提言」が予想以上に反響が良かったことだ。あの企画は、格闘家ひとり一人に、スタッフが私的な思いを手紙形式で書いていったものだが、実はそれは読者の思いであり、その格闘家のテーマの核心をついているものである。21世紀の格闘技界はどうなるか、それは見る側の中にある。そして、その答えは現場のやる側より大きく進化しているのである。本当は当初、格闘家の人たちに「21世紀はどうなるのか？ 今年の格闘技界はどうなるか？」を聞こうと思ったが、それは幻想をなくすような気がしてやめることにした。それよりも、見る側の思いをぶつけていったほうが、はるかに面白い内容になるし、幻想も膨らむ。たぶん、現場の声を直接聞いてみると、かなりギャップを感じるものになるだろう。しかし、見る側の思いをやる側が知れば、1ミリずつでも時代は動く。そう考えることにしたのである。今回の特集のテーマである〝膠着〟もそう。

〝膠着〟という一見地味なテーマを特集することはかなり勇気がいる。しかし、これこそ、今の格闘技界の一番の問題点ならば、見過ごすわけにはいかない。たぶんやる側の関係者は、プロ格闘技イベントであったとしても、膠着なんて問題はまったく考えていないだろう。でもね、この特集を読んで膠着について解決できる人が、天下を獲れるんですよ。この、膠着の概念が頭に入ったら、見る側の試合の見方はガラリと変わるはず。さあ、その時どうするんですか、格闘家の皆さんは？ （キラー谷川）

SRS・DX

次号の発売日は**2月8日（木）**です。

発行元：株式会社フジテレビ出版／株式会社ローデス
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F ☎03-3295-4445
販売元：株式会社扶桑社
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8888
発行人：柳沢忠之 編集長：谷川貞治
DESIGNER：梅村あゆみ、小幡浩史、水町由美子、su・plex、岩村唯是、永吉速水

新春スペシャル 開運 対談 後編

遂に明かされる驚愕のヒクソン戦の真実とは！

二人の握手を見よ！
電撃和解に読者も大反響……！

ターザン山本 vs 髙田延彦

前号でお届けした奇跡の電撃和解対談の後編は、前編の最後に予告したとおり驚愕のヒクソン戦の真実からお送りする。世紀の一戦と言われたあの闘いで髙田に何が起こっていたのか？　初恋の人に会った時のようにポ～ッとなっていたターザンも思わず大興奮？　そして対談の最後には強烈なオチがついた……

司会◎谷川貞治
写真◎山口比佐夫

▲「殴るな、蹴るな、タックルするな、寝るな。とにかくリングの周りをグルグル回ってろ」という指示を出されて挑んだ1回目のヒクソン戦。たしかに“どうやって勝てんねん”状態である

山本　高田さんっ！　そのヒクソンとの一戦目で、彼にのまれてしまったというのは、どんな理由があったんですか？

高田　試合の直前にね、ブラジルからヒクソンと柔術で引き分けたヤツが来たんですよ。僕にアドバイスをするためにね。わざわざ隠密での来日だったんです。それで彼がその時、僕に出した指示は「殴るな、蹴るな、タックルするな、寝るな。とにかくリングの周りをグルグル回ってろ」と。これだけ。

山本　何もできないじゃない！

――殴るな、蹴るな、触るな、寝るな！

高田　これでどうやって勝てんねん。

――んあ～（笑）。

高田　その言葉がダメ押しでしたね。「あっ、彼がそういうことを言うならそうなんだ」っていうね。

山本　じゃあ、イメージトレーニングで負けたようなもんですねぇ。

高田　たぶんそれが全てじゃないですか。自分の中で彼の虚像を作ってしまったんですね、思いっきり。その時はヒクソンに対する日本人のイメージって一番大きかったですよね。

――一番大きかったですね。

高田　新鮮だったしね。

山本　で、2回目の時はある程度、精算できたんですか？

高田　精算できてますけど、今思うと1回目はヒドかった、2回目の技術はまだまだ。今は自分自身、いろんな部分が非常によく見えてきてるんですけど、2回目のヒクソン戦の時もメチャクチャ技術なかったなって思いますね。だから、裏を返せばまだ成長しているんだけども、もっともっと追いつかなければいけない、遅れてる部分ですか？　このルールでやる場合にはもっともっと技術的なことをね、気持ちだけじゃなくてスキルの部分も身につけなきゃいけないなっていうのを、やるたび考えさせられるよね。1回目なんてホントに何？　って感じでしたよ。

山本　ヒクソンは年齢的にも41くらいになってて、もう1回やるかやらないかという状態なわけですよね。高田さんから

「殴るな、蹴るな、タックルするな、寝るな。とにかくリングの周りをグルグル回ってろ」……どうやって勝てんねん

見て今どうですか？　現時点でのヒクソンは、どういう状況にあると思います？

高田　まあ、ヒクソンに対しては「早く勇気をもってサクの前に出てきなさい。あなたの宿命としてグレイシー一族の汚名をそそぐためにも、対桜庭戦は絶対に避けてはならない道のはず。桜庭戦を避けるいろんな言い訳はもう聞き飽きました。さあ勇気を持って、サムライならばサクの前へ一歩踏み出してきなさい。そしてサクを倒してグレイシーここにありを証明してみせてはいかがですか」というメッセージを送りたいよね。

山本　実現させたいねぇ。

高田　うん。体格的にも面白いよね。

山本　桜庭選手が台頭してきたというのは、『プライド』にとっても高田道場にとっても非常に重要なポイントだったんですけど、髙田さん個人として『プライド』との関わりは、今後21世紀の展開をどう考えてます？

高田　個人として、選手としての関わりは、もう一度『プライド』のリングで、『プライド』のルールで試合を組んでもらいたい。あのルールの中でやるのはそれで最後だなというふうに思ってます。勝っても負けても。

山本　ほお～。前回のボブチャンチンとの試合は、試合前からやたらテンションが高かったですよね。

高田　そうですか？

山本　練習期間とか、それまでの髙田さんのイメージと違ったというか、濃縮度や求心力が違った練習をされてましたよねぇ。あれは奮い立ったわけですか。

高田　その前の試合がホイス戦だったからね。あの試合でプロとしてつまんない試合をしてしまったっていうことからスタートしてるからね。その次は誰だ？　次はいつだ？　っていうチョイスだからね。そう考えた場合に、自分が凄い強い選手と渡り合えるような動きのできる自分の作り方をしなければいけないっていう感覚は強かったですね。またしょっぱい試合で、コロっと負けたっていうのでは、もう何もないんで。それだけは絶対に納得できないというかね。

山本　あのぉ～、これは聞きにくい質問なんですけど、仕事とは別に、人間が生きてる限りプライベートなことっていろいろありますよねぇ。まあ、今回奥さんの病気のことが出てきたんですけど、あれはやっぱりこう精神的にショックだったと思うんですけど、それはどんな形で自分に影響がありましたか？

高田　そうですね、基本的には自分がボブチャンチン戦に向けて作ってきたというか、作っている最中という……。

山本　奥さんの病気が具体的に分かったのは、いつ頃だったんですか？

高田　最初に分かったのは9月の半ばくらいですね。それがボブチャンチンとの対戦を発表する記者会見の日だったんですね。

山本　えぇっー！　それはまた凄い偶然ですねぇ。

高田　頭が混乱してましたね。でも記者は集まってるし、発表しないわけにはいかないからね。「やるっ！」って決めたことだから。なんとかモチベーションを上げていこうと工夫したよ。それがこう病状が検査する毎にだんだん悪い方向へ結果が出てきたんでね。

山本　それはもう、逃げ出したい気分だったでしょう。

高田　DSEには「試合やめていいですか」って言ったことがあるんですよ。その大きな試合に向けての重要性というの

も全部分かってるしね。プロとしてずっとやってきた習性というか、自分のカードが発表されてチケットが売られているとかっていうことも含めて、今こう逃げたりとか、やめたりっていうのができないってことは百も承知の中でね、やはり自分の中のジレンマというか、どうしてもこう100%試合に気持ちがいかなければいけないのに、当然そうはならない状況が続くこのジレンマっていうのがね。

山本 それは闘いですよねぇ。

高田 凄い闘いだったね。うん。相手も相手だし、試合日は逃げてくれないしね。もう切り替え、切り替えで。今日のこの時間からこの時間はスイッチはこれだと。この後は嫁のことだというふうに自分の中で意識をしてね、線引きをして、できるだけこう両方が入り乱れて考えるようなことがないように……それが一番シンドかったね。でも、嫁の苦しさを考えれば俺の試合なんて本当にちっぽけな事なんだなって、もの凄く感じたよね。

山本 いやあ、あの試合の背景にそんなドラマがあったというのは、初めて聞きましたよぉ。今思うと、Uインターとかヒクソン戦とか髙田さんは自分の気持ちをわりとマスコミとかに公表しないですよね。

高田 そうですね。

山本 そうするとぉ、誤解されたりとか、僕みたいに「A級戦犯」って言うヤツがバチバチくるでしょ？ それはどうなんですか？

高田 だからね、これは正直な話、見ないね。でも耳に入れてくる人がいるんだよね。

山本 酒飲んだりしてると、側にいた人たちが、パッとこういうふうに書いてましたとか言ってくるでしょ。

高田 時々いるね、そういう人。メールでも多いですしね。「マスコミはこう書いてます。でも頑張ってください」と。前回のホイス戦もそうですけど、良くないことは良くないことで自分で感じ取ってるわけだからね。

山本 分かってますよね。

高田 長年やってるんでね。そういう意見を無視するわけじゃないんです。自分で分かってる上にね、それに輪を掛けて「髙田は最低だ、大バカ野郎だ」っていうのをね、わざわざ読む必要はないと思っているんですよ。「A級戦犯だ。A級戦犯だ」って、分かってるから（笑）。

――ダハハハハハ。

山本 あ、あのぉ、髙田道場は99年は……。

高田 2000年！

山本 ああ、2000年はいろんなことがあって、好転しているというかぁ、いい年だったんじゃないですか？

高田 そうですね。いい年でしたね。

山本 まあ、プライベートでは奥さんのことがありましたけど。

高田 来年はそれも2人でプラスに変えていきますよ。

山本 でも、やっぱり髙田延彦個人として、プロレスラーとして21世紀も輝かないといけないという気持ちはあるでしょ？

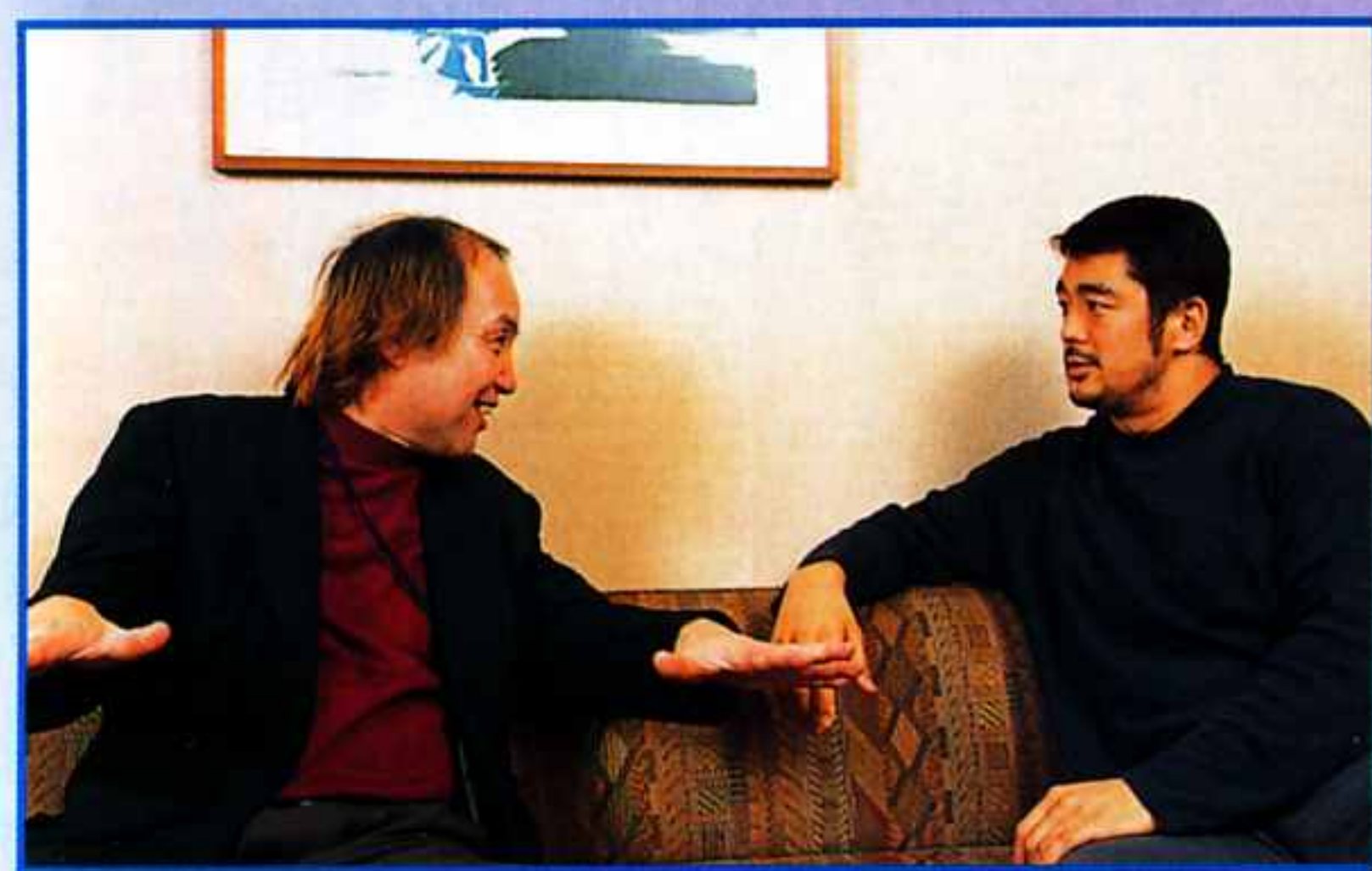
高田 まあ、僕はねぇ、今はおまけみたいなもんですから。もう来年39だから、おまけをいかに当たりくじに変えられるかなっていう楽しみがあるよね。1試合、1試合、一生懸命やりますけど、ただこの競争の厳しいリングの中に立たせてもらえるだけでもね、立っていこうという気持ちがまだあるだけでもホントに幸せだよね。

もう一度『プライド』のリングで『プライド』のルールで試合を組んでもらいたい

山本 『プライド』というのが新しい一つの土壌として出てきて、それを作ったのは髙田さん。それを成長させたのが桜庭選手だということで、2001年の『プライド』の将来性みたいなものはどう感じます？ 例えば新日本プロレスの方向性なんかと比較してみたり。

高田 プロレスは要するに今、禁断の実をどんどん食べ続けて、数年のうちに新日本が全日本を食べて、あともうノアと新日本が食い合うしかない状態になってきたよね。それをやるともう先が見えてくるんだよね。いかに身内の中で面白いものを作って回していくかっていうのがプロレスの醍醐味というか、それが生命線だったんですよ。それがやっぱり外に手を出し始めているのが一番大きなマイナスポイントです。それで、『プライド』の一番の強さっていうのは、まずリアルファイトですね。

山本 まあ、ある意味では道場にいた時の、道場破りとの対決みたいな、他流試合のイメージはありますよね。それにファンのニーズが高まってきてますよね。

高田 高まってる。それは何がきっかけかって言ったら、UFCとかグレイシーの出現とか、それに対してプロレス業界全体としての対応がなかったことが、今の『プライド』の繁栄じゃないですか。その『プライド』の繁栄する大きな材料として、一番のポイントは、プロレスはね、スターを作るのに数年かかるんですよ、少なくとも。ところが、『プライド』の場合は作る必要がない。要するに強い選手をポ～ンとリングに、決まったルールの中に放り込んでいい試合をしてもらえば、その日にスターが生まれるんですよ。そいつが負けたら、また強いヤツをその中にポンと放り込むというかね。だから、その放り込む選手の潜在的な人数っていうのも、あらゆるジャンル、打撃系でもいいし、レスリング系でも柔道系でもなんでもいいわけですよ。その潜在的にスターになる可能性がある、控えている選手がたくさんいるってことが『プライド』の最大の強みですよ。桜庭がいい例ですからね。

山本 スターを作るのは大変ですよねぇ。

高田 大変な作業ですよ。桜庭もね、プロレスでスターにもっていくなら、10年かかる。あの細い体で。それがポ～ンとバーリ・トゥードの中に入れたら大化けしたんだよね。そう考えるとますますプロレスより『プライド』のほうが先を越していくことが予感できるかなと。

山本 予備軍としても、プロレスに入って10年かかってスターになるよりも、『プライド』のほうが魅力があるから、

ターザン、嬉しさのあまりに出たポーズがピ、ピース……？

いろんなジャンルで下になる人は「よし『プライド』に行こう」と、こういうふうになりますよね。

高田 そうです。

山本 じゃあ、ますます『プライド』は大きくなるわけですね。

高田 凄い可能性を秘めてますね。ただ、これから数年は『プライド』にプロレスラーは不可欠でしょうね。

山本 高田さんは新日本プロレスでプロレスを学んできて、プロレスの面白さというのは、それとはべつに続いていくというか、良さを伝達するというか、継続させて守っていくとか、伝えていくことは可能なんでしょうか。厳しいですか、今は。

高田 う～ん、そうですねぇ。プロレスは素晴らしいし、僕は大好きですけど、プロレス明るくはないと思いますよ。凄く努力が必要になってくる。まぁ『プライド』にしたって立ち止まることなくどん欲に前へ進んで行くでしょうしね。

山本 ということはぁ、よりタフにならないといけないんですね。いろんな意味で、肉体的にも精神的にも対外的にも社会的にも。

高田 そうだと思いますよ。だから、状態が凄くよく見えますよ。両方ちょっと引いてみると、『プライド』も、プロレスも。

山本 じゃあ、この高田道場の将来性はどうですか？

高田 道場はどっちでもいけるから（笑）。『プライド』もプロレスも。

――どっちでもいける（笑）。社長になってますねぇ（笑）。

高田 こっちが良かったら「みんな、こっち行こうぜ～」っていう（笑）。

――す、すっかりキャプテンから社長になってる（笑）。

高田 もう、社長になってる（笑）。

山本 というのはぁ、身が軽いわけですよ。

高田 身が軽い。いつもね、敏感にアンテナ張り巡らしてますよ。

山本 ああ、じゃあ、なびきやすいわけですね。

高田 なびきやすいです。しなやかですよ、柳みたいに。桜庭の試合を見てくださいよ、しなやかじゃないですか。

メシは2杯までにしてくださいっ！ それからちゃんと「B級戦犯」にしといてよ！

山本 あれ、全然力抜けてますよねぇ。

高田 余計な力抜けてる。だからプロレスやってもうまいよ。

山本 いやぁ、高田さん、絶好調だねぇ。今日は本当に大発見ですよぉ。

高田 何が？

山本 高田さんの新しい魅力を今までなぜ気付かなかったのか……。

――ギャハハハハ。何年付き合っているんですか！（笑）。

高田 遅いよ。

山本 でも高田さんはいろんなことを経験して、これまでマイナスのこともあったと思うけど、今日の高田さんを見てると、そういうマイナスもすべてプラスに転化してるよぉ。凄いよぉ！ やっぱり人生っていうのは、いいことも悪いことも全部経験したほうがいいってことですねっ！

高田 いや、悪いことはね、誰でも経験したくない。ホントはね。でも、経験してしまった以上は、それを肥やしにしなきゃバカバカしいじゃないですか。学習して、それを栄養にしたいというか。それも今後のことに活かしたいというか。だから僕は団体をやらないんです。それも一つの教訓です。

山本 ほぉぉ～。最後に聞いておきたいんだけど、人に見られる立場というか、スターである人にとって一番重要なのは、強運だと思うんですけど、高田さんは自分を振り返ってみて、「俺は強運なんだ」っていう気持ちは？

高田 あるね！ 凄くありますね。

山本 強運だという？

高田 むちゃくちゃ感じるね！

山本 その言葉を聞きたかったねぇ。

高田 えらい強運だよね。

山本 いやぁ、実を言うと僕も凄い強運なんだよねぇ。

高田 え？（笑）。

山本 こうして一生会えないと思ってた高田さんと話ができたんだからねぇ。強運ですよぉぉぉ！ 高田さんっ！ これからは僕も高田道場に取材に行ってもいいんですかっ？

高田 いいよ。その代わり、メシは2杯までにしてくださいっ！ それから、ちゃんと「B級戦犯」にしといてよ！

山本 あちゃ～っ！ ■

高田道場新弟子募集中！

やる気のある方はどしどしご応募を！

応募資格

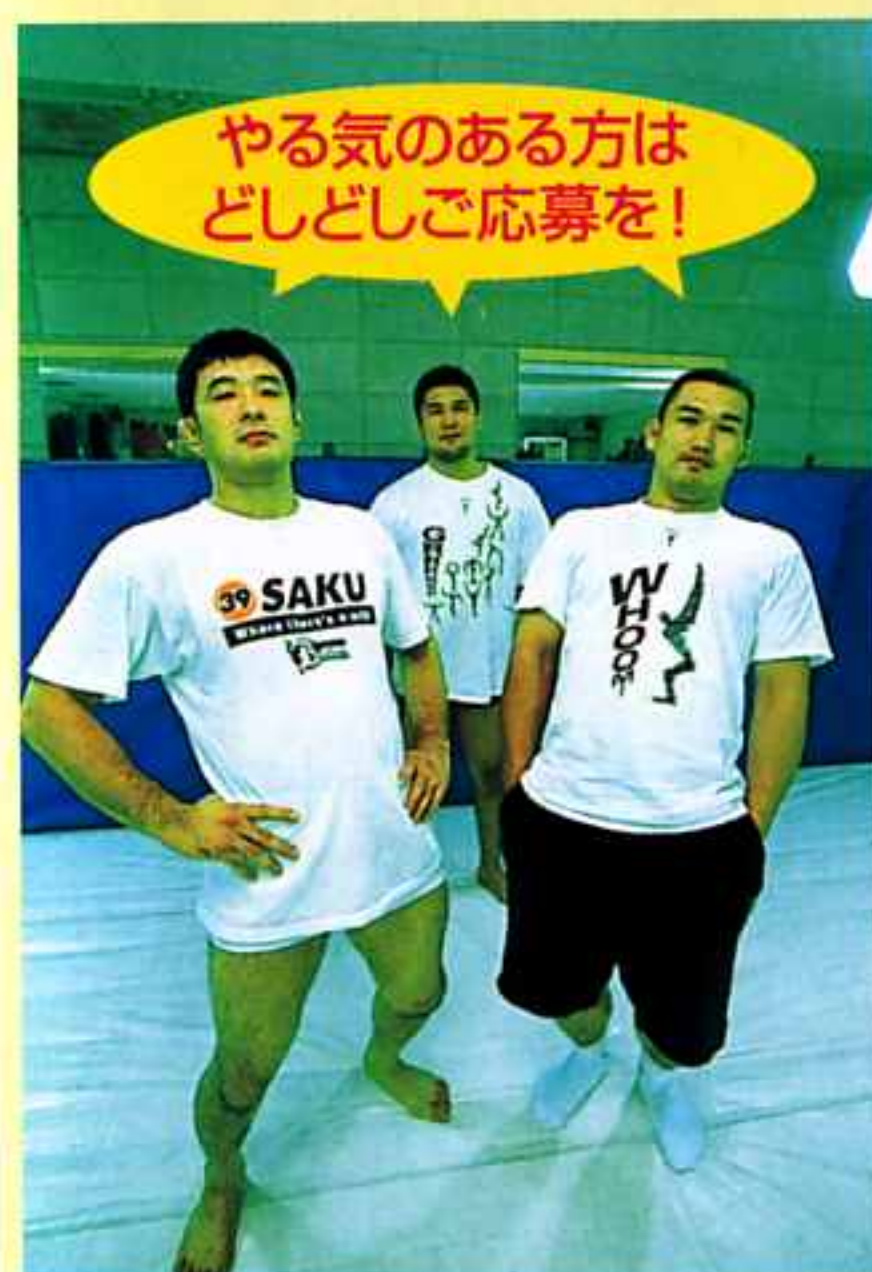
年齢18～23歳までの健康な男子
身長175センチ以上

応募方法

履歴書に身長、体重、スポーツ歴を明記し、他、必要事項を記入の上、上半身裸の全身写真及び上半身写真2枚を同封し、高田道場まで送ってください！ 書類審査の上、入門テスト受講者には日程を連絡します。

〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6
ワールドパレス武蔵小山 1F＆B1

応募締め切り

1月31日（水）必着

1・30K-1松山大会直前情報!

空手バカ正直一代！　富平辰文に刮目せよ!!

K—1ジャパン再生に異例のメイン抜擢！　試合になるとついついブチ切れる

K—1ジャパン勢よ、爆発してくれ！　ファンが望むのはこの一点だろう。
そして現在、もっとも爆発力のある男として急浮上してきたのが富平辰文である。
実績的にはまだまだルーキーではあるものの、
前に出続けるファイトスタイルでファンを魅了してきた。
この男が1月30日、K—1ジャパン松山大会でミルコ・クロコップとメインで対戦する。
もともとは別派閥の極真からやってきた
彼の意地と本音と覚悟を読み取ってほしい。押忍！

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

石井館長は富平に対して特別な期待を寄せている。デビュー戦でいきなりエース武蔵とぶつけ、K－1ワールドGPトーナメントにも抜擢。そして、今回まだ白星がないにもかかわらずメインに起用した

◀果たして、武蔵ショックを拭い去れるか？

――今回のK―1ジャパンではいきなりメインを任されることになった富平選手ですが、期待されてますよね（笑）。

富平 そうですかぁ。ハハ（笑）。

――そうでしょう。試合も面白いし。思い切りのいい生き方もしてるし。

富平 生き方ですか？（笑）。

――だって、富平選手の場合、元極真とはいえ、松井派とは別派閥の出身ですからね。なかなかできませんよ。

富平 う～ん、だから、やっぱり極真の大会で上位に入賞した人ってみんなそうだと思うんですけど、マスコミや周りの人に必ず聞かれるのが「K―1やらないの？」とか「武蔵に勝てるんでしょ？」とかっていう質問だと思うんですよ。

――無責任に（笑）。

富平 そう、無責任に（笑）。だけど、こっちにも立場があるじゃないですかぁ。

――簡単には答えにくいですよね。

富平 「K―1のほうが強いかもしれない」とかって言えないじゃないですか。で、その時は「競技が違うから勝てる勝てないの話じゃない」ってずっと言ってたんですよ。だけど、なんかそうやって答えている自分がだんだん嫌になってきちゃったんですよね。分かります？

――非常によく分かります（笑）。自分の中ではわだかまりがあったと。

富平 ありましたよね、ずっと。だって、「違う競技だよ」とか言ってても心の中では「でも、ピーター・アーツとやったらたぶん秒殺されるだろうな」っていうのは分かってるんですから。

――あなたは正直な人ですね（笑）。

富平 だって、分かるじゃないですか、格闘技をやってれば。だけど、そうやって思うこと自体も悔しいじゃないですか。

――凄い悔しいと思います。

富平 凄い悔しいんですよ！ やっぱり『空手バカ一代』を読んで〝最強〟っていうのに憧れて空手を始めたわけですから。

――「格闘技の中で一番強いのは空手だよ。その中でも一番強いのは極真だよ」っていう最強思想の世界ですからね。

富平 そうなんですよ。だから、考えていくうちに「K―1やりたいかな」って思い出したんですけど、当時とすれば「やっぱり今の立場では無理だよな」っていうのもあるんですよ。

――だけど踏ん切りましたよね。

富平 はい。その一番のきっかけは某有名な先輩と一緒にK―1を見に行って、その帰りに「お前はやらんの？」って言われたことなんですよ（笑）。

――また、その先輩も無責任ですね（笑）。

富平 そうなんですよぉ（笑）。「この人は何を言うんだろう？」と思ったら、「オレの全盛期にこれがあって、お前ぐらいの体格があったら絶対にやるな」って言うんですよ（笑）。

――ククク、焚付けるんだ（笑）。

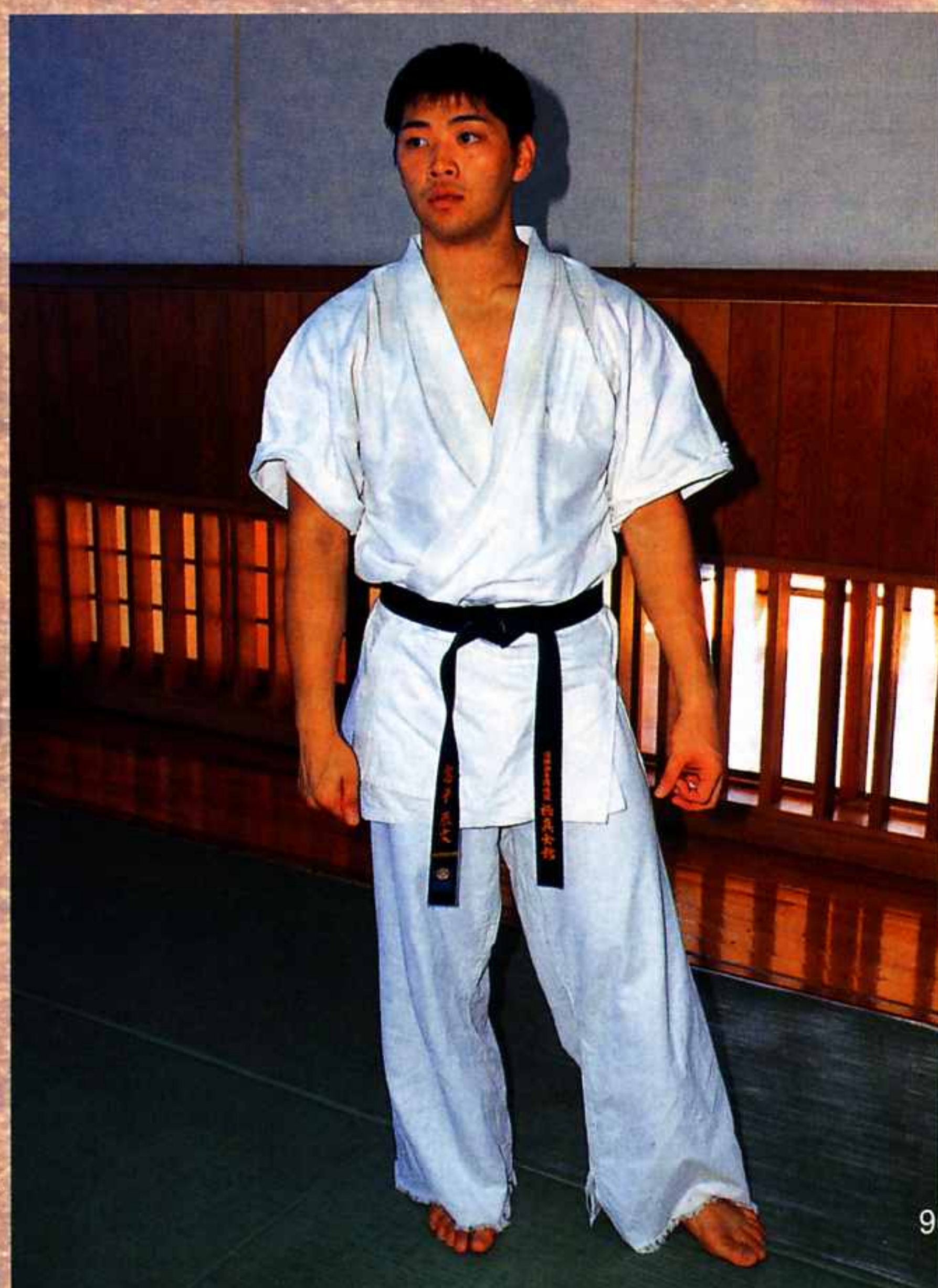
富平 それから結構本気で考えだしたんですよね（笑）。

――内側からも外側からも無責任な発言が続出して（笑）。だけど、それって凄く自然な感覚ですよね。

富平 やっぱり最初に極真に出会った時の気持ちは〝最強〟じゃないですか。だから、極真魂どうのこうのっていうよりも、僕はそっちのほうが大事なような気がするんですよ。

――嬉しいこと言ってくれますね（笑）。まさにそのとおりです！ 本音はやっぱりそこに尽きると思います。

富平 誰よりも強くなりたいっていうのが最初にあったもんですから（笑）。

極真魂どうのこうのより「最強」を目指すほうが大事だと思うんで

――ただ、そう思っても人間なかなか動けないじゃないですか。さっきもおっしゃったように立場もあるし。しかも、もともとK―1とつながりがある松井派じゃなくて、別派閥の極真から出るのって余計に葛藤があったんじゃないかって思うんですよね。

富平 結構ありましたね。で、「K―1なんか」っていう人も多かったんですよ。だから、凄い言い出しにくかったというのはありましたよね（笑）。

――ただ、そのままだったらどっかで自分にウソをついてる感じというか、出たほうがすっきりすると思うんですよね。

富平 そうなんですよ。すっきりするんですよ、絶対に。で、やりたいことをやったらいいと思うんですよね。

――そのとおりですよ。

富平 武道性、武道性とか強調されてたんですけど、僕の個人的な気持ちで言うと、武道性とか教育とか人間性を高めるとか、そういう言葉にごまかされてる感じがして。

――ワハハハ！ あなただけは〝空手バカ一代〟って感じですね（笑）。

富平 はぁ（笑）。やっぱり強くなりたいと思って始めるわけだし、僕まだ若いんで武道性とか教育とかは意識してないんで（笑）。

――若い人がそれを意識するのは逆に不自然ですよね（笑）。しかし、よく決意しましたよね。

富平 だけど、言うほど反対されたわけじゃなかったんですよ。

――みたいですね。聞くところによると、向こう側の極真もビッグハートで、そこまでやりたいんだったら、行って試してこいっていう流れだったみたいですね。

富平 ほとんどそうでしたね。まあ、一部の人からはいろいろ言われましたけど

▶富平の格闘技のベースは空手。しかも、極真だ

（笑）。だけど、緑師範とは今でも連絡を取ってますし、試合の度に電話してますからね。

――さすがは"小さな巨人"ですね（笑）。やっぱり最終的には分かると思うんですよね、試してみたい気持ちっていうのは。

富平　そうだと思うんですよ。

――だから、富平選手への期待感の源はその行動力にあるんですよ。プラス、試合内容が面白いと。打たれても打たれても前へ出るスタイルというか（笑）。

富平　いやぁ、ほんとはダメなんですけどね、そういうのは（笑）。K－1的に見たらいいんでしょうけど、スポーツ的に見たらダメなんですよね。結構、怒られてるんで（笑）。

――怒られますか（笑）。

富平　「お前はちょっとは下がれよ！」とか「お前は気合いが入りすぎ！」って言われますからね。ハハ（笑）。

――だけど、リングに上がるとどうしても（笑）。

富平　ダメなんですよ（笑）。

――例えば、ロイド・ヴァン・ダム戦なんかいい試合だったって言われるじゃないですか。

富平　あれは最悪の試合ですよ。内容は最悪ですよ、あれは。

――競技者として見ればそれは最悪でしようね。だけど、お客さんとして見れば抜群ですよ（笑）。だって、20キロも重いヴァン・ダムを相手に打ち合いを挑んで結果的にはKO負けですけど、一時はヴアン・ダムを追い込みましたからね。

富平　だけど、それは強い弱いと関係ない部分ですからねぇ。

――ハートの強さは確実に見えましたよね。そういう部分が富平選手に期待する部分なんでしょうね。

富平　そうスねぇ。でも、あんまりああいうのはダメかなって思ってるんですけどね、自分でも。

――ヴァン・ダム戦はダメ？（笑）

富平　恥ずかしいですね、どっちかというと。あれを良かったと言われると凄い恥ずかしいんですよぉ。言ってみれば竹ヤリ持った日本人が戦闘機に向かって突っついてるようなものと同じような感じで評価されてるんで、凄い恥ずかしいんですよね（笑）。

▲K－1デビュー戦では、"柳に風"タイプの武蔵に対して技術の差を見せつけられて判定負け

◀重戦車ロイド・ヴァン・ダムに対しても、気持ちは一歩も引かずに打ち合った富平。気持ちのいいファイターだ

なんだか、僕、試合になると冷静になれないんですよ（笑）

――当然、そこで富平選手が満足されるとこっちも「待ってくれ」っていう部分はあるんですよね。ただ、ハートの部分でああいうものを無くしてほしくないなと思うんですよ。

富平　それはたぶん変わらないと思うんですよ。なんだか、僕、冷静に試合ができないんで。

――できませんか（笑）。

富平　なんて言うか、モチベーションで闘うタイプなんで（笑）。なんて言うか、冷静に冷静に落ちついてって言うよりも「こいつブッ殺してやろう」って思わないと試合ができないんですよぉ。だから、試合中も一分一秒でも早く終わらしたいんですよね、倒して。

――それがいいんですよ（笑）。

富平　だけど、「それがダメだ」ってコーチには言われるんですよぉ。外人とスパーとかやっててもナメられた態度を取られると凄いムキになるんですよ、僕。

――スパー中でも（笑）。

富平　この間もジャビットと練習したんですけど、ジャビットってガチでやるんですよ、スパーを。で、やってたらなんか横綱相撲を取りたがるような、凄くこっちを見下したスパーをするんですよ。

――腹立ちますよね（笑）。

富平　それでアッタマに来て、ガチを仕掛けちゃったんですよ。そしたら、ジャビットも子供っぽいからマジギレし始めて「ユー・ワナ・ファイト？」とかって言いだして（笑）。

――喧嘩したいのか、と（笑）。

富平　で、2人とも喧嘩みたいなスパーになって、東京道場の壁を壊しそうになりましたね（笑）。コーチの人たちも止めようとして、ジャビットも何回か途中でやめようとするから僕は両肩をバンッて押したりとかして。そうするとジャビットもまたムキになって（笑）。

――いいですねぇ（笑）。

富平　いや、そういうのがダメなんですよねぇ。ハハ（笑）。

――ダメだ、ダメだと思っててもついついそうなっちゃうと（笑）。

富平　ダメなんですよねぇ。

――いいなぁ（笑）。一番カーッとなったことってなんですか。例えば、ヴァン・ダム戦とかで言うと。

富平　ヴァン・ダム戦は試合中っていうか、試合前ですよね。

――何があったんですか、いったい？

富平　一番腹立ったのが試合前日に記者会見があって、外人の記者かなんかがホーストに質問したんですよ。「2回戦の相手はヴァン・ダムですけどどうですか」って（笑）。

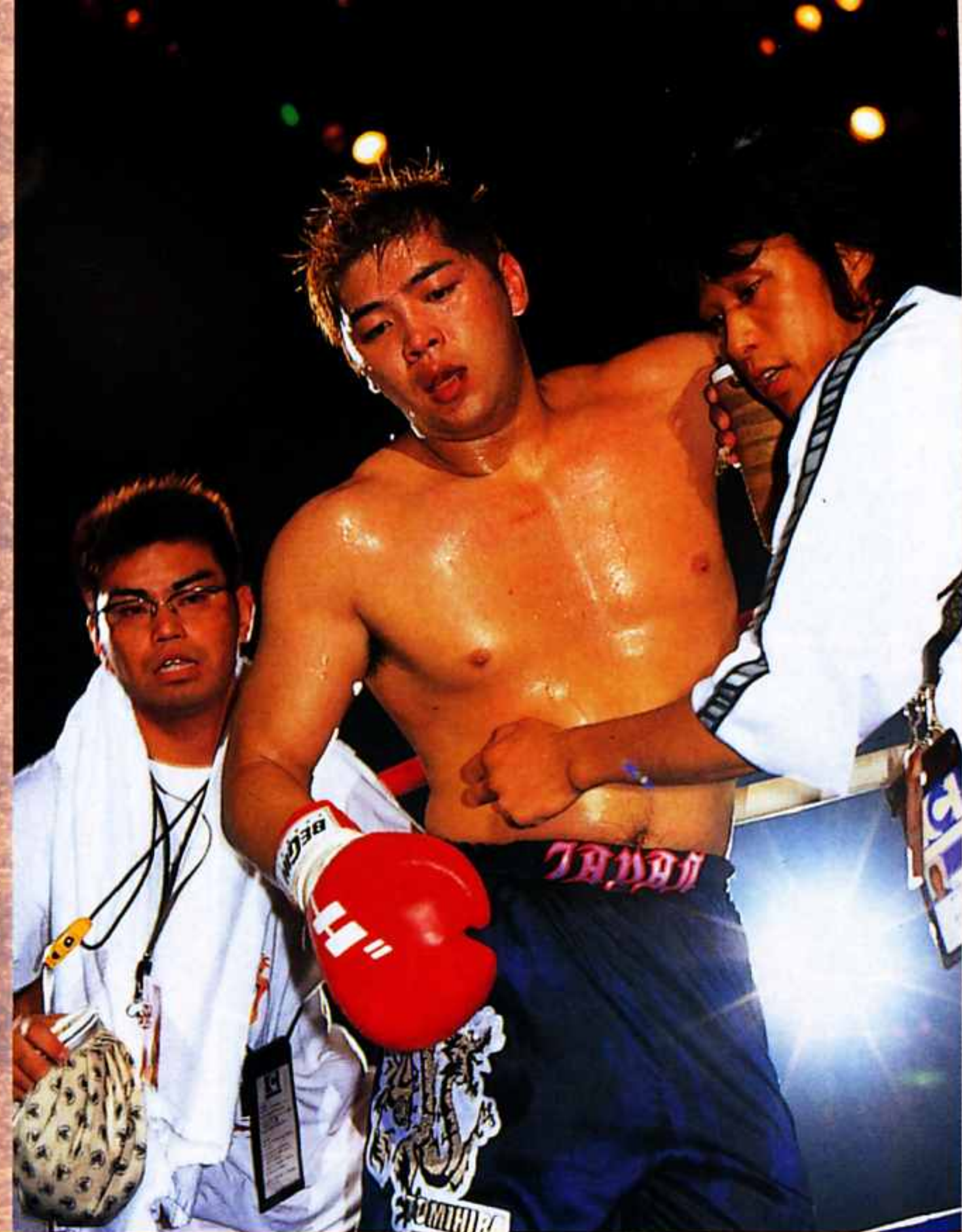
――1回戦が終わってもいないのに。外人記者にまでナメられちゃいましたね（笑）。

富平　もうね、周りに言わせるとその瞬間に僕の目の色が変わったらしいんですよ（笑）。で、アッタマ来てマイク取って言い返してやろうと思ったら、僕より早く石井館長がマイクを取って。だから、石井館長も頭に来たんでしょうね（笑）。

――富平選手としたら、自分のほうが先に言いたかったんじゃないんですか（笑）。

富平　言いたかったですね、あの時は（笑）。

――でも、結局その記者の予言どおりに

▶すでにＫＯ負けも経験。いったい、どういう成長を見せてくれるか？

なっちゃいましたけど（笑）。

富平　ワハハハ！　なっちゃいましたけどね（笑）。

――そういうのを含めて全部ハネ返してあげたいですよね。

富平　そうですね。結果を出さないとしようがないんで。

――ところで富平選手はどんなタイプになりたいですか。ホーストみたいなテクニシャンタイプなのか、バンナみたいなどう猛なタイプなのか。

富平　望むタイプはやっぱり圧倒的に強い、野獣みたいな選手ですよね。マイク・タイソンとか。Ｋ－１ファイターの中で言えば理想はアーツですよね。

――アーツの闘い方っていうのは富平さんの中ではどんなイメージなんですか。

富平　悪い時といい時のムラがあるんですけど、いい時はうまいし、強いし、集中力が切れないじゃないですか。常に倒しにいってるし。逆にホーストはもの凄くテクニシャンだと思うんですけど、結構勝ちに徹した闘いをするんで。あれはまた凄いですよ。

――凄いとは思います。

富平　選手の立場からしたら一番お手本にしたい選手なんですけど、でも、倒すことにこだわるとアーツですね。

――そっちを目指してほしいですよね。

富平　見せたいんですけどね、頑張っているんですけど（笑）。

――で、今回アビディがケガで欠場になってミルコ選手になりましたけど、彼にはどんなイメージを持ってますか。

富平　イメージは爆発力があるのと、スタミナがあんまりないことですかね。

――突破口ですね、それは（笑）。なんか、ミルコもハートで試合しますよね。カーッとなると喧嘩っぽくなりますからね、あの人も（笑）。

「生き方を見せる」って言い方は逃げてる感じなんで、勝ちにいきます

富平　だから、結構面白くなるとは思いますね。やってみたかった選手ですし。

――やっぱり突破口としてはさっき言ってたスタミナですか。

富平　それもありますけど、ある程度は打たれるのかなって（笑）。

――いやぁ、まぁ、打たれるんでしょうね（笑）。

富平　打たれますよね（笑）。あとサウスポーなんで右が当たりやすいと思うんですけどね。

――練習はどんなメニューでやってます？

富平　朝はウェイトですね。

――何キロぐらい挙げてるんですか。

富平　今は試合前なんで重いのは挙げてないですね。

――最高ではどのくらい挙げました？

富平　そうですね、ベンチプレスだと140キロぐらいですね。

――それって結構挙げてるほうなんじゃないんですか。

富平　いやぁ、ダメでしょう。で、昼がスパーリング中心の練習で夜はミット中心ですね。

――ジャビット選手とはその後も練習してるんですか。

富平　ジャビットとは1日しかやらなかったですね。次の日に「お前と思い切りやったから筋を傷めた」とかって言われて（笑）。

――お前とは練習にならない、と（笑）。で、試合に関して正直に言いますが、ミルコ選手が相手だとやっぱり苦戦するんじゃないかと思ってるんですよ。

富平　まあ、普通はそうですよね。だけど、勝負の世界なんでどんなに実力差があったり、試合前の評判が高くても、試合になったら勝つか負けるかはフィフティフィフティだと思うんですよ。これは僕のプラス思考なんですけど（笑）。番狂わせの試合って昔からいっぱいあったわけですから。アビディにしても、アーツとやるところは彼の勝利を予想した人って

▲Ｋ－１デビュー前には、松井章圭館長も表敬訪問し、筋を通している

たぶん一人もいないですよね。
――誰もいないと思いますよね（笑）。
富平　なんで、それですよね。あとはここで何を言ってもヘボイ試合をしたら何にもならないんで。
――じゃあ、ヘボイ試合っていうのはどんな試合だと思ってます？
富平　勝つ気が見えてこない試合っていうか。その選手からやる気が見えてこない試合っていうか。
――富平選手の闘い方っていうのは前に前に出て人々の共感を呼ぶような、気持ちのいい闘い方をするじゃないですか。そういう部分で期待してる部分っていうのが第一だと思うんですよね。
富平　そうですね。
――ただ、こんな言い方もホント申し訳ないと思いますけど、ミルコ戦はハートをまず見せてもらえればいいのかなって思ったりしちゃうんですよ。だって、はっきり言ってキックの試合を含めて今回でまだ6戦目ですからね。
富平　そうですね。だけど、僕自身はやっぱり勝ち負けにこだわりますね。やっぱり「勝ち負けにこだわらずに試合で何かを見せたい」とか言うほうが逃げられるんですよ。「生き方を見せてやる」とか言うほうが逃げられるんですよ、精神的に。それは嫌なんで第一に勝ちを目指したいんですよね。
――そう言ってもらえてホント嬉しいです（笑）。
富平　だから、今K―1全体にしてもジャパン全体にしてもそうですけど、フラストレーションがたまってると思うんですよ。そのフラストレーションを一気に吹き飛ばすような試合をしたいですね。
――あくまでも勝ち負けにこだわって。
富平　はい、それは絶対に。
――いやあいいですねぇ、試合に対する考え方もモチベーションもパーフェクトですね、しかも正直すぎるほど正直だし（笑）。ホント、結果が出ることを、勝つことを切望しますね、富平選手には。
富平　やっぱり今年は勝負の年だって思ってますから。それに強くなるってことは金になるんだなってK―1に来て気付きましたから。これは気付かないほうが良かったのかな（笑）。
――いや、気付いたほうがいいでしょ（笑）。
富平　気付いたほうが良かったですよね（笑）。やっぱり、勝負の年ですね。
――それに今、大チャンスが来てますよ。ジャパン勢最後の切り札って感じだし。武蔵さんがちょっと引いたような結果になってる現状は、富平選手にとれば一気にジャンプアップできる状況だし、その舞台も用意されたし。
富平　だから、虎視眈々と狙ってるんですけどね。それに去年の武蔵さんの負けに関してはショックだったんで凄い悔しいのと、結局何も変わらず終わっちゃいましたよね。やる前とやった後と。
――逆に後退したんじゃないかと思ったぐらいですね。
富平　一年があれで終わっちゃったんで、凄い悔しいのと、僕らはあの人に負けてるんで。で、あの人が強いことも僕は凄い認めてるんですよ。技術レベルは今まで見た選手の中ではピカイチだと思うんですよ。ヘタしたらほかのK―1選手よりも、センスは凄く高いレベルにあるって思うし。それでも勝てなかったじゃないですか。だから、そういうフラストレーションが僕自身にもたまってますから。
――爆発させてください（笑）。
富平　だから、ホント頑張ります！　ファンを失望させるような試合だけは絶対しないようにと思ってます。■

1・30 K-1 RISING 2001 ～四国初上陸～最終情報！

富平の相手はミルコに変更！ 黒澤vs村上の昭和対決も実現

前号で主要カードを発表した、1・30「K―1　RISING 2001 ～四国初上陸～」の全6試合のカードが正式に決定した。まず最初に、当初メインに予定されていた富平辰文vsシリル・アビディという注目の一戦は、アビディが1月12日の練習中に頭関節損傷によるドクターストップがかかり、対戦相手が急きょ変更。アビディより、さらに難敵と思われる99K―1GP準優勝者ミルコ・クロコップとなった。富平はミルコという強敵を相手に何を見せられるか？　また、黒澤浩樹vs村上竜司という昭和・空手バカ一代対決も石井館長の地元で実現。角田信朗（師範代改め師範）も、黒澤戦以来の復活を遂げ、チーム・ドラゴンの異色ファイター柳澤龍志と対戦することになった。どれも興味深い全6試合、果たして最も輝く男は誰だ？

試合	選手		選手
メインイベント◎第6試合	富平辰文〈フリー〉	VS	ミルコ・クロコップ〈クロアチア〉
第5試合	天田ヒロミ〈フリー〉	VS	マイク・ベルナルド〈南アフリカ〉
第4試合	黒澤浩樹〈黒澤道場〉	VS	村上竜司〈士道館〉
第5試合	ノブ・ハヤシ〈ドージョー・チャクリキ〉	VS	グレート草津〈チーム・アンディ〉
第2試合	中迫剛〈正道会館〉	VS	大石亨〈日進会館〉
第1試合	角田信朗〈正道会館〉	VS	柳澤龍志〈チーム・ドラゴン〉

笑顔はシリル・アビディ級！KOできる力も付いてきた！

▶「キック界を背負って立つ」という自覚が一番大きい魔裟斗。強敵モハメッド・オワリをTKOで下し、ますます期待がかかる

されど、魔裟斗よ、

エースとしての気付きはあるか？

	魔裟斗	オワリ
モチベーション（闘志・気迫）	8	6
技術・戦略	7	8
KOスピリット	8	7
勝ちっぷり負けっぷり	5	5
全体的な印象・インパクト	5	6
合　計	33	32

◀六本木のヴェルファーレに続き、「Zepp TOKYO」というオシャレな会場で第2弾の興行を打った魔裟斗のシルバーウルフ

▶やはり魔裟斗が登場するだけで、雰囲気がガラリと変わる。スターとしての華やかさは抜群だ

▼モハメッド・オワリはWPKL世界ムエタイ・ウェルター級王者で、かつてシュートボクシングのS－CUPで準優勝した選手。このクラスではまさに世界のトップだ

今のキック界の何がNOなのか？ そして何の革命なのか見せてほしい

キックの興行は、最近あまり見に行かなくなってしまったのだが、その理由は一にも二にも試合がつまらなくなっているからだ。今のキックの試合は、ほとんどが「膠着試合」である。いったい、ファイターは人前でプロとして何を見せようとしているのか、そんなことさえ疑いたくなる試合ばかりである。

ムエタイ信奉者の格闘技マスコミの一人である『格Ｋ』山田英司編集長でさえ、最近のキックの試合を見て「もう私はキックが嫌いになってきた」と言っていた。本当に、誰かなんとかしてほしい。

その中で、一番頼りになるのが魔裟斗と小比類巻の2人である。そもそも、この2人はそんないつまでたっても変わらないキック界の体質に嫌気がさし、いち早く脱藩したキック版の小川直也であり、藤田和之である。

そして、彼らは自ら理想のキックを始めた。それがシルバーウルフの大会であり、Ｋ―１Ｊ・ＭＡＸだった。

「もうデッカーやサリの時代じゃない。これからは僕の時代です」と宣言した魔裟斗。その意気込みは「自分がキックを背負って立つ！」という気概が伝わってくる。

では、魔裟斗はどうやって、キック界を背負おうとしているのか？　そのためには、強い相手をＫＯでブチのめすしかないというのが、魔裟斗の考え方だ。

実際『コロシアム２０００』でメルチョー・メノーをＫＯで破って以来、魔裟斗は大きく変わった。人気先行型と思われていたが、しっかりと倒す力を身に付け始めたのである。そして、Ｋ―１でムラ

Wolf Revolution Second Wave

1.12★Zepp Tokyo

▶かつて魔裟斗が全日本キック離脱問題で揺れていた時、その魔裟斗の対戦候補に挙がったのがオワリだった。魔裟斗はその時、逃げたと思われないためにもどうしても勝ちたかった

かつて〝魔裟斗潰し〟の候補に挙がったオワリは、噂どおりの凄玉だった

魔裟斗のコメント

「こんなに緊張したの久しぶりですよ。（最後、突然のタオル投入だったが？）早かったですね。1Rで一発良いローキックが入ったんですけど、もうちょっと我慢してくれたら。（オワリは）足が弱いって聞いてたんですけど、あんなにもろいとは。（ビデオで研究した？）うちの親が凄い研究するんですよ（笑）。1R2Rは強いけど、足蹴られるとすぐ弱くなっちゃうよって。（今後は？）次回からはウルフレボリューションも、キックだけの大会じゃなくなります。スケボーの台を置いたりとか、ファッションショー的なこととの融合とか。大会に出場するみんなにも、もっとプロとして魅せるっていう意識を持ってほしいんですよ」

▲1Rのゴングと同時にプレッシャーをかけていった魔裟斗だが、オワリの素早いコンビネーションに翻弄される。この男、本当に強い！

▶特に見事だったのが、オワリのこのボディブロー。しかも、すぐに顔面パンチの連打につなげていく

どうも全てがこの笑顔に消されてしまう！

▶オワリがスタミナのないことを知っていた魔裟斗は、あきらめずにローキックを返していった。失速したオワリに、ここでタオルが投げられる

◀とにかく魔裟斗の笑顔は抜群だ。全てがこの笑顔にかき消されてしまう

▶もしかしたら、魔裟斗が負けることも十分ありえた。それほどオワリの強さは伝わってきた

▶次回の『ウルフレボリューション』はスケボーなど、格闘技とは違う要素を入れて開催していくというが、果たして……

★第6試合/ダブルメインイベント第2試合（3分5R）

○魔裟斗（3R1分26秒、TKO勝ち）モハメッド・オワリ●
<シルバーウルフ> <モロッコ>
※セコンドのタオル投入

のである。そして、K—1でムラッド・サリを、今回の『ウルフレボリューション2』でモハメッド・オワリという強豪を倒し、あらためて〝頼もしいヤツ〟というインパクトを与えたのは見事だ。

魔裟斗の武器は、なんと言っても、あの〝人を幸せな気分にさせる〟笑顔にある。あの笑顔はまさにシリル・アビディの笑顔と双璧。その笑顔先行型に「倒さなければお客さんは来てくれない」という自覚は、まさにエースの必要条件が備わってきたと言えよう。

ただし、魔裟斗にも気が付いていないことがある。興行——特にキックのようなマイナーな興行では、笑顔とKOだけではファンは継続して会場に足を運ばない。興行とはそれほど難しい世界なのだ。

では、魔裟斗が気付いていない重要なこととは何か？　それは観客を〝鍛える〟という感性である。客が興行を継続して見に行く気分になるのは、いかに見る側として鍛えられる気分になるかということだ。

プロレスはそんなジャンルの典型だが、辰吉丈一郎の試合や立嶋篤史の試合をファンが継続的に見たいという気分になったのは、試合や生き様になんらかのメッセージ性があったからである。

KOでリングに集まってくるファンに対し、魔裟斗はどんなメッセージを伝え、ファンを鍛えるのか？　そういう感性がなければ、そのファンをその場限りで逃がしてしまうことになる。結局、ファンはキックを通して、魔裟斗という生き様を見に行っている。それに気付くかどうかだ。

（谷川）

小比類巻、〝ダイ式〟オージーに消化不良の判定負け

この試合は〝キック革命〟じゃないだろ？

新世紀の第1戦、『ウルフレボリューション』に登場した小比類巻だが、オーストラリアのドーソンに思わぬ判定負け。試合後の表情は、あまりにも精彩がなかった

◀微妙な判定ではあったが、ジャッジ2名はドーソンを支持。小比類巻も「駆け引きとキャリアの差」と敗北を認めた

	ドーソン	小比類巻
モチベーション（闘志・気迫）	6	7
技術・戦略	6	5
KOスピリット	5	6
勝ちっぷり負けっぷり	1	0
全体的な印象・インパクト	2	2
合　計	20	20

★第5試合/ダブルメインイベント第1試合（3分5R）

○ダニエル・ドーソン（5R判定2-0）小比類巻貴之●

<オーストラリア>　<チーム・ドラゴン>

※採点…50-47、49-49、49-48

小比類巻が対戦したダニエル・ドーソンは、実にタチの悪い相手だった。主にタイで試合をしているだけあって、実に試合運びがうまいのだ。

前蹴りで突き放すか、あるいは極端にくっつくかして小比類巻の間合いをことごとく潰してしまう。その〝技術・戦略〟はかなりのものだ。聞けば、あのジョン・ウェインにも勝っているらしい。

出だしこそ好調で、巧みなパンチのコンビネーションから蹴りにつなげる攻撃をヒットさせていた小比類巻だが、試合が進むにつれて泥沼にハマるように失速してしまった。ペースを奪うのに有効なはずの右ローは、圧倒的に数が少なかった。ヒザを傷めていたことも一因だろうが、それ以上に、ドーソンの攻撃の前にタイミングを逸してしまったことが大きい。

5RにはこれまでKOの山を築いてきた右ハイを2度放ったが、それも決め手にはならなかった。僅差ではあるが、負けは負けだ。

たまにはこんな試合もあるさ、と、そう言うこともできる。

「試合が終わって、まだまだ強くなれるなと感じました」

そんな小比類巻の言葉を信じて〝明日につながる敗戦〟と表現したって、べつに問題はないだろう。〝苦い敗北をバネに〟とか〝世界への手応えを掴んだ〟とか。そういう意味合いもあったとは思う。

では、観客にとってはどうだっただろう？　『ウルフレボリューション』を見に来る観客は、決して熱心なキックマニアではない。毎回、後楽園に足を運んで選手の成長を暖かく見守るような人たち

Wolf Second Wave Revolution

1.12★Zepp Tokyo

負けっぷり0点！強い弱いが問題じゃないんだよ

ドーソンのコメント

「相手は速い蹴りを出す選手なので、そこは警戒していた。そういうスキを与えないようにプレッシャーをかけていった。僕自身はもっといい試合をしたかったんで残念だけど、まだ若い、赤ん坊みたいなファイターだから、今後の可能性に期待してほしい。今後の目標は、あと2〜3年でルンピニーとラジャのベルトを取ること」

小比類巻のコメント

「2R終わった時点で勝てるかなと思ったんですけど。3Rからどんどん前に来られて。駆け引きもうまかったし、パワーもあったし。相手にペースを握られてしまって。前蹴りが特にうまかったです。自分では、試合が終わってまだまだ強くなれるなと感じました。今日は完敗ですけど、次、頑張ります」

アグレッシブに間合いを詰めてくるドーソンに、歯車が狂ってしまった小比類巻。パンチを受けて左の鼓膜が破れてしまい、セコンドの声が聞こえなくなってしまったという

▲頭を下げてパンチを打ち、そのまま組んでヒザ蹴り。試合後半は、この悪夢のようなパターンに苦しめられた。はっきり言って、ドーソンはどう転んでも観客を熱狂させるような試合展開になる相手ではなかった

▶小比類巻の攻撃を寸断させた前蹴り。タイを主戦場にしているだけあって、ドーソンは間合いの取り方がうまかった

▶ドーソンのハイキック。不格好だが、小比類巻の良さを潰すには十分だ

◀相変わらず、小比類巻の蹴りはシャープ。しかしこの日は、得意の右ローがほとんど出なかった。必殺の切れ味を持つ右ハイも不発。右ヒザを故障していたという情報もあるが、そういう言い訳は本人が一番嫌うだろう

ではない。でも、そういう〝浮動票〟に訴えることが『ウルフレボリューション』と、それに出場する若い同志たちがめざす〝キック革命〟の第一歩であるはずだ。

果たして、キックを初めて見る人が、この試合を面白いと感じただろうか？　答えはおそらくノーだ。べつに負けたのが悪いっていうんじゃない。0点だ、0点。負けっぷりが悪すぎた。

互いの良さを存分に出し合って、その上で力が及ばなかったのならいい。だがこの日の小比類巻は、自分の長所を消されまくって負けたのだ。たぶんドーソンは、誰とやってもこんな試合をするんだろう。〝こんな試合〟とはつまり、勝っても負けても観客にカタルシスを与えることのない、やる側本位の闘いのことだ。

この試合じゃあ、キック革命なんて起こらない。〝ルンピニースタジアムJrミドル級9位〟というドーソンの肩書きは、キック革命にとってなんの意味もない。既存のキックとは一線を画す価値観を見る側に提示してこそ、革命は起こるのだ。

その意味で、ドーソンという選手は最悪だったと思う。主催者側にすれば、できるだけ強い相手を用意したかったのだろうが、求めるべきは〝どう強いか〟なのだ。

小比類巻の姿勢にも、少しばかり疑問を感じた。「今日は完敗ですけど、次、頑張ります」と言うけど、フリーとして〝ヘタな試合をしたら次があるかどうか分からない〟という厳しさに身を浸していたからこそ、最近のキミは輝いていたんじゃないのかい？　（橋本）

キック界のエスパー伊東発見!!

大宮司のコメント

「ハートが強いな思ったんですけど、効くものはなかったですね。試合が終わった時は勝ったと思ったんですけど判定ではああなって（ドロー）。仕方ないかなと思ってますけど。前に出てくるんでやりづらいなとは思ったんですけど、倒しにいけなかった自分がありましたね。自分としてはテクニシャンタイプに徹して上を目指していきたいですね」

梅下のコメント

「私のほうがキックのキャリアが長いものなのですが、技術的には負けてましたね。はぁはぁ（笑）。試合としては確かにドローかと。はぁはぁ（笑）。赤足クワガタ同好会については秘密です。今後の課題と致しましてはパンチを打つ時にワキが開いてしまったから大宮司選手のアゴを捕らえることができなかったのでそこを練習していきたいです」

リングインしてきた大宮司を威嚇する梅下。どうだ、このりりしい姿！

梅下湧暉ホームページ

LAST FIGHT

RESULT

TANIYAMA JIM

驚愕の新事実発覚！

▲なぜだかドラえもんやコロ助に喧嘩を売ったりしている抜群のダイアリーなどが楽しめる、梅下自身のホームページを発見！　「梅下湧暉」で今すぐ検索だ！

▲試合は良くて引き分けかなと、思っていたんだけど、梅下本人はこのナイスなポーズ！

▲大宮司の技を受けても決してひるまない。この前のめりの姿勢が素晴らしいのだ

▲結局、結果は引き分け。あからさまにがっかりする梅下の顔がキュート

▲実はこんな素晴らしい技も見せている梅下。元全日本キックフェザー級1位の実績は伊達じゃない

梅下の試合はナマで見てほしい！

	梅下	大宮司
モチベーション（闘志・気迫）	10	5
技術・戦略	1	5
KOスピリット	10	5
勝ちっぷり負けっぷり	10	5
全体的な印象・インパクト	10	5
合　計	41	25

★第2試合（3分5R）

△大宮司進（5R判定1-0、ドロー）梅下湧暉△

〈正道会館〉　〈谷山ジム〉

※採点…50-50、50-48、50-50

やっぱり世界は広い！　キック界にこれほどの逸材がいるとは思わなかったぞ、おい、梅下湧暉！

その線の細気な顔立ちに、生っ白い肌質、元トップランカーとは思えない不器用な技の数々。まるでエスパー伊東を見るかのような、幸の薄さに包まれた闘いっぷりに、ボクの心は鷲掴みなのだ。

第一、この男、試合前には『赤足クワガタ同好会』から激励されたりしてるのである。何だろ、赤足クワガタって？　本人に聞いても「秘密です」とか言って答えてくれないし、謎は深まるばかり！　ああ～、興味が尽きねぇ！

もちろん試合も見事の一言。

褐色の肌した大宮司が美しい軌道を描くキック＆パンチを繰り出せば、梅下クワガタは明らかに変な打ち方でパンチを返していく、そしてキックを返していく。しかも、こういう不器用系選手特有の打たれ強さによって、前へ出ることだけは決してやめないから、そこがまた、たまらなく魅惑的。

圧巻は最終ラウンド開始直前、彼の口から放たれた意味不明な、たぶん雄叫び！　ほとんどの客は置き去りだ。空回りしてるのだけど、その高速回転の唸りの凄さに、彼の不幸な人生（に見える）がまざまざと浮き彫りになるのである。間違いなく間違った生き方（に見える）なのに、たぶん報われないと思うのに、本人の信念は揺るぎないこと間違いなしなのが切ない。

大好きだ！　哀愁と覚悟が一挙手一投足から立ち昇る、まさに男の人生ってヤツを見せつけてくれた、この赤足クワガタ！　最上級にホレたぞ　ゾッコン!!　（ブチ）

Wolf Revolution Second Wave
1.12★Zepp Tokyo

闘えよ、ドラゴン 柳澤龍志

▼4ラウンド開始直後、いきなり放った柳澤の蹴りが顔面をとらえ、園田は崩れるように倒れた

とりあえず、右ハイキックでKO勝利だが、相手の園田は小路晃の弟子でキックが専門じゃない選手。結果を出したとは言い切れないしょっぱさだ

▲いい写真だ。カメラマンの腕がとらえた絶品の一枚。ダレた試合がシャープに見える

パンクラス時代「プロレスラーの中でキックの試合をやらせたら俺が一番強い！」と頼もしくも豪語した柳澤。まさにその言葉どおり、本物のキックの試合ではちっとも実力が発揮できずに、勝手にキックの奥深さを身をもって示している彼。当然、この日もそれは絶好調だったわけだ。相手の園田に何度かいいパンチを入れながらも、追い込むスキルと気迫に欠けること甚だしい。凄いぞ、柳澤！

考えてみるとフリーになって早半年以上。その間にキックの練習はかなりできたはずなのに、それを試合に一切出さない姿勢にはただただ頭が下がるばかりだ。試合後も「バーリ・トゥードの試合だったら秒殺してますよ」とマスコミにもらしていたりと、もう完璧！

どこに行っても隣りの芝が青く見えるタイプというか、何があっても懲りないその後ろ向きなファイティングスピリットはある意味（悪い意味）貴重なので、もうそのまま行ってほしいと切に願うばかり。（ブチ）

	柳澤	園田
モチベーション（闘志・気迫）	1	1
技術・戦略	1	1
KOスピリット	1	1
勝ちっぷり負けっぷり	1	1
全体的な印象・インパクト	6	5
合　計	10	9

★第1試合（3分5R）
○柳澤龍志（4R3分00秒、TKO勝ち）園田隆●
〈チーム・ドラゴン〉　〈A³ジム〉
※右ハイキックでダウン→レフェリーストップ

クリンチ地獄に大野、無念の判定勝利……

▼判定勝利を手にしたものの大野の顔は暗い。チャドのクリンチ地獄にハマってすっきりした勝利を掴めない悔しさともどかしさが原因だろう

▶1ラウンドに大野のローキックを受けたチャドは2ラウンドから打ち合わずにクリンチばかりする戦法に。大野は突き放そうとするが、チャドのクリンチは執拗。結局、5ラウンドまでチャドの抱きつき戦法に大野は苦しめられた

★第4試合（3分5R）
○大野崇（5R判定3-0）チャド・ウォーカー●
〈正道会館〉　〈オーストラリア〉
※採点…50-49、50-46、50-46

期待のニューフェイス隼人！ またもやイイ男がデビュー!!

▶いい男揃いのウルフレボリューションが21世紀に自信を持って推すニューフェイスの隼人。どうだ、この可愛い顔。はっきり言ってオレ好み

◀試合のほうは2ラウンドに隼人のヒザ蹴りがイゴールの腹をブチ抜き、TKOに。ただし、イゴールはダウンしたわけでもなく、ダメージがあったようにも見えず、観客からはブーイングが。レフェリーの判断はリング上でしっかり提示するのが今後の問題点だろう

★第3試合（3分5R）
○隼人（1R2分41秒、TKO勝ち）イゴール●
〈PHOENIX〉　〈オクタゴンプロ〉
※パンチ連打でスタンディングダウン→レフェリーストップ

ガッカリ・・・・・・

ファンが見たかったのは植松の〝必殺のキメ技〟だ!

打撃の先生・ムエタイのランバー・ソムデートM16に、教わった打撃が出せなかったことを詫びる植松。でも、この日集まったファンは、関節技に執拗なまでにこだわる植松を見たかったのだ

	植松直哉	コルドソ
モチベーション（闘志・気迫）	5	5
技術・戦略	2	3
KOスピリット	3	3
勝ちっぷり負けっぷり	0	1
全体的な印象・インパクト	0	1
合　計	10	13

今号の座談会で初めて知ったのだが、谷川編集長が修斗で一番好きな選手は、ライト級王者のノゲーラなのだそうだ。理由は簡単、フロントチョークという必殺技を持ち、どんな相手でも確実にその技で仕留めるから。谷川編集長に限らず、必殺技を持った選手に憧れるファンは多い。逆に言えば、一流と呼ばれる選手はほとんどが代名詞的な必殺技を持っている。

柔道で言えば、古賀稔彦の背負い投げ、吉田秀彦の内股、ちょっと古いところで、畳の上のアーティスト・藤猪省三や昭和の三四郎・岡野功の背負い投げ。いずれもその切れ味は鋭く、対戦相手は必殺技と知りながらも、なすすべなく宙を舞い畳に叩きつけられた。

私が過去に書いた記事にも何度か出てきている、柏崎克彦氏（現国際武道大教）も必殺の寝技を武器に世界王者に輝いている。フランスで行われた国際大会では、柏崎が寝技で攻めている時に「待て」がかかると場内からブーイングが起こったという。オリンピックなどでよく見る、「早く立たせろ」という抗議ではなく、「もっと見たいのに、なぜ止めるんだ」というブーイングである。派手な動きこそないが、相手の動きに応じながら手を、足を、そして体を制し、その瞬間瞬間にもっとも合った寝技で確実に仕留める。その一連の動作は「芸術」とまで謳われた。

植松のめざすのは「寝技の職人」だと聞く。プロデビュー以来7勝1分けと素晴らしい戦績を収めており、桜井〝マッハ〟速人や佐藤ルミナに続く、スター候補である。この日メインとして登場したのも、

足関節、腕十字、腕がらみ 極めるチャンスはあったのに……

植松のコメント

「M16先生が打撃を教えてくれたんで、打撃を使って寝技にもっていきたかったんですけど。途中で相手がサウスポーからスイッチしてきたりしてちょっとパニックになってしまった。向こうがルールに不慣れで指とかグローブとか掴んできたんで頭にきて、意地でもアームロックを極めてやろうとムキになりすぎました。要所要所での詰めが甘くて、それで焦って、自分に対してイライラしちゃって。一本取んなきゃいけなかった……」

▲惜しかったのが、このアームロック。ここできっちり極めてほしかった……

▲この日の植松の攻撃は全てがどこか中途半端な印象だった。得意の足関節も極めきれず

「打撃から寝技のバリエーション」より まずは「確実に一本を取る寝技」を修得しろ！

◀いつものロングスパッツではなくM16の名入りキックパンツで登場した植松。「僕には組み技って イメージがあるんで、相手が迷うかなと思って」。開始早々にはM16仕込みの鋭い右ローでコルドソの左キックに応酬

◀十字固めも不十分。極めそうで極められない攻防が続き、観客のフラストレーションは溜まる一方。チャンスを確実にものにできなければ観客の支持は得られるはずがない

▶グラウンドでディフェンスするコルドソをパンチで攻めようとした植松だったが、ダメージはあまり与えられず。逆に蹴りを顔面に受けてしまうことも

「おもろなかったなぁ」 帰りがけに聞いた観客の一言がこの試合の全てだ

▲終了直後には両手を上げて勝ちをアピールしたコルドソ。身長は植松より2センチ小さい163センチ。敗れはしたが総合で30勝4敗の戦績どおり、かなりの実力者だった

▲3－0の判定で勝利した植松はこの表情。試合後のインタビューでも「やっちゃいました、すみません」と反省しきりだった

▲3Rには打撃を当てられ鼻血ブー。そして最後はこの"膠着状態"のままタイムアップ。6時10分～10時20分の長丁場ということもあったが、試合時間1分を残し、席を立ってしまうお客さんも。終了前に席を立たせてしまう不甲斐なさを植松は十分に認識すべきだろう

★第12試合/メインイベント（5分3R）
○植松直哉（3R判定3-0）メイク・コルドソ●
〈Kzファクトリー〉 〈チームライバル〉
※採点…29-28、29-28、29-28

自然の流れではある。しかし、その試合内容がメインにふさわしいものであったかと言うと「?」である。では、何がいけなかったのか。単純に一本取れなかったことがいけないのではない。一本を取ろうという姿勢も感じられた。しかし、メインを意識しすぎてか、どん欲さ、泥臭さが感じられなかったのは私だけだろうか。スマートに、格好良くキメてやろうという気持ちが強すぎたのか。

集まったファンは、メインの植松を見に来たのだ。植松の寝技を、関節の技術を見たくて会場に足を運んだのだ。とことん、執拗なまでにこだわった、グラウンドでの攻めを見せてほしかった。

たしかに、相手のコルドソは、「自分より小さくやりづらかった」かもしれない。総合格闘技30勝4敗という実績どおり、打撃も予想以上に巧かったし、寝技のテクニックもかなりのものだった。しかし、チャンスは何度もあったのだ。

「今まであまりにも調子良く来すぎたけど、足りないところがあるのは分かっていたんで」「寝技に持ち込みたいからとタックルで倒すんじゃなくて、打撃を使って寝技にもっていきたかった――」。たしかに攻撃のバリエーションを増やすことは大切。そのために打撃を習うことも必要かもしれない。しかし、この日の試合を見る限り、チャンスを確実にものにする技術の修得、必殺のキメ技に磨きをかけることのほうが先決ではないか。

試合時間1分を残し、席を立つお客さんがいた。次こそは、試合が終わっても勝利の余韻に浸れる試合を期待したい。（林）

SHOOTO TO THE TOP
1.19★後楽園ホール

修斗・2000年年間表彰
マッハが3年連続MVP＆三冠達成

今大会で、修斗の2000年・年間表彰の受賞者が発表された。MVPは桜井“マッハ”速人。これで3年連続の受賞で、今年はベストバウト、KO賞と合わせて三冠を達成した。休憩前にリングに登場したマッハは「三冠は素直に嬉しい。今年も頑張る、と言いたいところだけど、頑張るのは当たり前なんで……」と挨拶。また、敢闘賞と一本勝ち賞には、フロントチョークを武器にバク進、不動のライト級王者となったアレッシャンドリ・フランカ・ノゲーラ（修斗のブラジル放送にともない、現地での発音に近いリングネームに変更）が、最も成長した選手に贈られるMIS（モースト・インプルーブド・シューター）は三島☆ド根性ノ助がそれぞれ受賞した

年間表彰（プロ部門）

MVP	：桜井“マッハ”速人（GUTSMAN修斗道場）
敢闘賞（準MVP）	：アレッシャンドリ・フランカ・ノゲーラ（ブラジル/ファイトセンター）
MIS（モースト・インプルーブド・シューター）	：三島☆ド根性ノ助（格闘サークルコブラ会）
ルーキー・オブ・ザ・イヤー	：池本誠知（ライルーツコナン）
公式戦ベストバウト	：桜井“マッハ”速人VSフランク・トリッグ（12/17NKホール大会）
KO賞	：桜井“マッハ”速人
一本勝ち賞	：アレッシャンドリ・フランカ・ノゲーラ
功労賞	：エリック・パーソン（前ライトヘビー級王者） 北森代紀（前リングアナウンサー）

▲植松とともにライト級トップ集団を形成していたバレット・ヨシダだが、勝田哲夫によもやの判定負けを喫してしまった。得意のガードポジションから十字、三角絞めなどを狙うバレットだったが、勝田は徹底してこれを嫌い、パンチを落とす戦法。寝技の“攻防”ではなく、相手の良さを徹底的に潰した勝田の作戦勝ちだった。バレットが敗北し、植松もピリッとしなかった今大会。ライト級はノゲーラの一人勝ち状態がますます強まったことになる

◀〈第8試合〉11月の後楽園大会で五味隆典を苦しめるなど、評価が急上昇中のライアン・ボウ。この日はアメリカのトニー・デドロフと対戦し、サイドポジションから鮮やかな腕ひしぎ十字を極めて一本勝ちを収めた（1R2分21秒）

バックキックで一撃KO！郷野、会心の勝利に思わず涙

▶▲セミファイナルでは、郷野聡寛がパンクレイションのアイバン・サラベリーを迎え撃った。サラベリーはいかにもパワーがありそうなクセ者タイプだけに、苦戦も予想されたが……。郷野はジャストのタイミングでバックキックをレバーに突き刺し、見事KO勝利！

◀会心の勝利に感極まった郷野は、試合後、思わず号泣。このところ判定決着ばかりで、観客を満足させるファイトを見せていなかったが、今回は喝采を浴びた。マイクを向けられると、涙ながらに「修斗一本で、一人前の生活ができるようになりたい。僕がメインでも空席がないくらい見に来てください」と切実な訴えで客席を爆笑＆感動の渦に叩き込んでみせた

★第11試合/セミファイナル（5分3R）
○郷野聡寛（1R3分06秒、KO勝ち）アイバン・サラベリー●
〈TEAM GRABAKA〉 〈AMCパンクレイション〉
※右バックキック

新日本キック

The Rematch
HEAVEN or HELL

1.21★後楽園ホール

これぞ歴史的“飛び級”！

昨年5月の再戦となるタイトルマッチ。武田幸三は豪快に王者・チャラームダムを沈め、悲願のラジャダムナンスタジアム・ウェルター級のベルトを腰に巻いた。勝利が決まった瞬間、武田は客席に向かって力いっぱい咆吼！

ラジャダムナン・ウェルター級 タイトル奪取

武田幸三、大化け

	武田幸三	チャラームダム
モチベーション（闘志・気迫）	9	10
技術・戦略	10	1
KOスピリット	10	7
勝ちっぷり負けっぷり	10	3
全体的な印象・インパクト	10	7
合計	49	28

▲▶武田の右フック一発でマットに大の字となったチャラームダム。前回のようなしぶとさ、いやらしさが見られなかった。ムエタイ500年の歴史を背負い、武田を倒しにかかったのが逆にアダとなったか

▲普通、日本で闘うタイ人といえば余裕たっぷりのニヤニヤ笑いがおなじみだが……。この日のチャラームダムは、ほとんど青ざめた表情に見えた。プレッシャーは相当なものだったはず

“譲れぬもの”をかけた大一番、勝ったのは武田！

ムエタイ王者は、プレッシャーに絞め殺されたのか!?

★第10試合/ラジャダムナンスタジアム認定ウェルター級タイトルマッチ（3分5R）
○武田幸三（2R2分12秒、KO勝ち）チャラームダム・シットラットラガーン●
<挑戦者/治政館> <王者/タイ>
※右フック

本っ当に素晴らしい！　なんの文句もなし、である。ただ一つ悔いがあるとすれば、それはこんな意義深い試合の記事を、締め切りの都合で後半のページに持ってこざるをえなかったことぐらいだ。

フィニッシュブローの右フックが放たれたその瞬間から、取材ノートは真っ白。ひと文字たりとも書かれていない。興奮でそれどころじゃなかったのだ、正直な話。手が震えて、ペンなんて持ってられなかった。会場もパニック寸前の盛り上がりだ。たとえキックのファンじゃなくても、いや、格闘技をまったく知らない人にだって、きっとこの試合の凄さは伝わっただろう。

背負うもの、譲れぬものが大きければ大きいほど、ファイターの（そして見る側も）モチベーションは高くなる。その意味で、武田幸三VSチャラームダム・シットラットラガーンのリマッチは限りなく最高点に近かった。

2000年5月5日。武田はチャラームダムの持つラジャダムナンスタジアム・ウェルター級のタイトルに初挑戦を試みた。試合は終始、武田のペース。しかし、パンチよりも蹴りを、ダメージよりも芸術性を重視するムエタイ式の採点に泣き、ドローで王座奪取に失敗してしまう。

あれから8カ月。再び巡ってきたチャンスを、武田は「その後の人生を決める試合」と表現した。ムエタイの王座に挑戦する機会など、そう訪れるものではない。勝てば道は開ける。しかし負けてしまえば……。一度は屈辱を味わっているだけに、その言葉には異様

新日本キック

The Rematch

HEAVEN or HELL

1.21★後楽園ホール

デッドロックからデッドヒートへ

ムエタイに“膠着”を許さなかったことが最大の勝因だ!

▲ミドルキックをキャッチし、そこからローを放って転倒させる。前回の試合では“蹴りをキャッチ→右ストレート”という攻め方だったが、今回はパターンを変えていた

▲武田のローキックがチャンピオンの左足を襲撃する。プランどおりに試合を運ぶ冷静さは、とても挑戦者とは思えなかった

▲珍しくハイキックを見せた武田。その他、「生まれて初めて」の前蹴りやヒジ、首相撲からのヒザ蹴りなど、様々なバリエーションで王者を攻略していった

▲1R中盤に放たれたチャラームダムのヒジ打ち。ブロックのすき間を縫ってヒットし、武田を出血させた

▲ムエタイ戦士はミドルやヒザ蹴りなどでポイントを奪い、ゲーム的に勝つのが得意なのだが、チャラームダムは武田にパンチの打ち合いで勝負してしまった。となれば、武田の優位は動かない

な重みがあった。第三者が想像できないようなプレッシャーを、武田は感じていたに違いない。

その武田と同等かそれ以上の重圧を、王者であるチャラームダムも背負っていたはずだ。彼の表情、それに闘い方は、とても王者のそれには見えなかった。明らかに必死だった。

ムエタイの何が強いのかと言えば、それはうまく〝膠着〟を作り出せる点にある。鋭いミドルキックや前蹴りで突き放したり、あるいは逆に首相撲で密着したりして、敵に試合をさせないのだ。見ているほうにとってつまらなければつまらないほど、タイ人にとって有利な状況なのである。

だが、今回のチャラームダムは、武田を相手に打ち合いを挑むという愚を犯してしまった。様子見のはずの1Rからヒジ打ちで勝負をかけ、パンチ合戦にも応じてしまう。一打必倒の拳を持つ武田と真っ向勝負をするのは、無謀でしかないのにもかかわらず、だ。

おそらく、チャラームダムは武田という最強の侵略者を潰しにかかったんだろう。ムエタイ500年の歴史を代表して、そうしなければいけなかった。〝打倒ムエタイ〟を旗印に掲げる新日本キックは、2年連続でタイ興行を開催。昨年の同大会では、小笠原仁がラジャのJrミドル級タイトルを獲得するという快挙を達成している。

ムエタイの国際化と言えば聞こえはいいが、タイのファンからすれば、それは国技に対する侮辱に近い行為だ。実際、新日本キックの興行に協力したタイのプロモーターには、タイ国内で強い反発が

キックファンじゃなくても、格闘技ファンでさえなくても、文句なしに興奮したはずの試合

たとえ何十年たっても、僕たちはこの夜のことを忘れない――

武田のコメント

「（相手は）あんまり気合いが入ってないのかと思ってたら、やっぱりゴングが鳴ったら顔が変わって。『いい試合になるな』と思いましたね。ヒジはブロックしたつもりだったんですけど、その間に入って。でも焦りはなかったです。左のリードが良かったんで、それで右が当たったんだと思います。右にかけてました。手応えはありましたね。この間はパンチが浮いてたんで、かなり修正しました。（リング上で吠えたが？）もう、プレッシャーが凄かったんで。勝ったから良かったけど、負けたらどんなことを言われてたか。自分だけの闘いじゃなかったんで。先生が泣いてくれたのが、一番嬉しかったですね。先生を（感動させて）泣かすのが目標だったんで。あとはチャンスを逃さなかったのが勝因だったと思います。前の教訓を活かして、ここでいくしかないと。勝つ自信じゃなく『勝たなきゃいけない、負けられない』という気持ちが強かったです。真価が問われるのは次からでしょうね。もっと強いヤツがたくさんいますから。壊れたらおしまい。壊れるまでやります。（防衛戦も意識しないといけないが？）それ考えると、またシンドイですね（笑）。１週間だけ休みたいです。温泉でも行って、死ぬほど酒が飲みたい。とか言って明日の朝になったら走っちゃうのかもしれないけど（笑）。あとはとにかく先生（長江館長）に感謝してます。ホント、先生大好きです（笑）」

チャラームダムのコメント

「なんだかもう全然覚えてないです。相手は蹴りもパンチも重かったです。ヒジを使ったのは、タイミング的にも距離的にも入りそうだったから。もちろんヒジは狙っていました。要するに前回より武田が強くなってたっていう印象が残りました。どこがというのではなく、全体的な強さが前よりもずっと良くなっていました。（プレッシャーを感じたか？）そうです。首相撲に持っていこうとしたんですけど、その前にこういうことになってしまいました。１Rが終わった時点ではいけるんじゃないかなっていう自信はありましたけど。パンチをもらい始めてからは、あまりよく覚えてないです。（今までKOされたことは？）ないです。ダウンも初めてです」

▲割れんばかりの拍手と歓声の中、リングを後にする武田。これから何十年経とうが、観客はこの日、この会場にいたことを誇りに思えるはずだ

▶会場には、外国人として初めてムエタイ王者（ラジャダムナン・ライト級）となった藤原敏男の姿も

▲冬の時代と言われるキック界だが、新日本キックだけは別。後楽園ホールは超満員となり、関係者には大入り袋も配られた

▲ベルトを巻き、勝ち名乗りをあげる武田の傍らには、師匠である治政館・長江国政館長（左端）の姿が。武田は何度となく、長江館長への感謝の言葉を口にしていた

あったらしい。そんな状況で、ウエルター級のベルトまで海外に流出させるわけにはいかない。

チャラームダム自身、前回の試合がギリギリのドローだったこともあって、王者としての存在を示したかったはずだ。いなしたりかわしたりするのではなく、完膚無きまでに武田を倒し、ムエタイの優位性をアピールする必要があった。チャンピオンであるがゆえのプレッシャー。そのために打ち合いに出た。パンチで勝負し、そして無残にも叩きのめされた。

おそるべきは武田である。この試合のために前蹴りやヒザなど攻撃のバリエーションを増やし、しかもそれを冷静に使いこなしていた。破壊的な威力を持つローキックは、最初の数発で王者の左足をミミズ腫れにした。ガードを下げた超攻撃的な構えから繰り出されるパンチは、それ自体が殺意をはらんでいた。

トドメを刺したのは右の一発。ダウンカウントが進む中、ピクリとも動かないチャラームダムを確認した武田は、客席に向かって獣のような咆吼をあげた。

興奮。熱狂。感動。

この時、武田幸三というキックボクサーは生きながらにして歴史上の人物へと〝飛び級〟した。まさに大化け。リングの上には、これまでとは格段にスケールアップしたオーラを、さも当然のように身にまとった武田の姿があった。

この日、この会場にいられた喜び。何十年たっても、それを忘れることはない。この試合のレポートを担当できたことを、僕は誇りに思う。

（橋本）

新日本キック

The Rematch

HEAVEN or HELL

1.21★後楽園ホール

小野寺力よ、なめたらあかん!

	小野寺力	朴炳圭
モチベーション(闘志・気迫)	2	5
技術・戦略	2	3
KOスピリット	0	6
勝ちっぷり負けっぷり	4	8
全体的な印象・インパクト	2	2
合計	10	24

▲朴にとっては値千金、小野寺にとっては痛恨の左ハイキックがヒット。この一撃で、試合の全てが決まった

▲体を硬直させ、マットに投げ出された小野寺。レフェリーはカウントを途中で中止して、朴のKO勝ちを宣した

★第8試合/日・韓国際戦(3分5R)

○朴炳圭(2R2分38秒、KO勝ち)小野寺力●

<韓国> <藤本ジム>

※左ハイキック

小野寺力はいつもこうだ。強敵相手ならギチギチの緊張感があって、火の玉のように闘うのに、格下だとつい不覚の一打を浴びてしまう。そして今回は新年早々からの大ケガだ。朴炳圭は同僚の石井宏樹と熱戦を演じた韓国王者である。なるほどしぶとい。パンチもある。だが、小野寺とは所詮はモノが違う。そのことは闘う当人もよく分かっていたのだろう。小野寺はずっと軽くいなすような闘い方だ。打たれると、すかさず打ち返してくる朴を甘く見ていたのだろうか。ローで攻めると右パンチ。さらにミドル。朴のそんなカウンター攻撃の試みが再三あったのに、最後まで無警戒に見えた。しばしの打ち合いの後、小野寺は不用意に後退した。そこにスルリと朴の左ハイが伸びる。吹っ飛ばされた小野寺は、そのまま完全失神だ。あとで「何も憶えていない」と小野寺は徹底して落ち込んでいたが、こんな形の敗者には厳しいコメントしかあげられない。なめたらあかん!

(宮崎)

▲「記憶がないので、コメントのしようもない」。体も心も、小野寺の負った傷は深い

◀日本人に負けたことのない菊地剛介だが、後半戦になって失速。ランク5位の小川和宏に僅差の判定を失った(判定2－0)

▲現役のラジャダムナン・Jrフライ級王者ノッパディーレック・チューワッタナと対戦した深津は、本場のぶ厚い戦力に何もできないまま引き分けに終わった

◀12月、バンコクでラジャダムナンのタイトルを奪った小笠原仁。伊原信一会長はリング上で勝利を決めた直後の感動の『ラブシーン』を再現。観客席は拍手喝采だ

▶日本フェザー級王者の小出智は、真鍋英治が長身から振り落とすヒジに苦しみながらも、ミドルキックからのパンチ連打で2度のダウンを奪って快勝した(判定3－0)

▲日本ライト級王座の初防衛戦となる石井宏樹は力みもあったが、それでも中川タカシを圧倒。無難に3－0の判定で勝ってタイトルを守った

TV放送決定! この大会の模様は、1月28日(日)関西テレビで深夜0時55分より、60分枠で放送されます。解説はサダハルンバ谷川編集長。歴史に残る興奮と感動を見逃すな! 生観賞は当然のこと、標準で録画してツメを折るべし

空転するモチベーション　小林聡、世界王座防衛(しただけ)

「どんなこと書かれても構わない……」ロンキーに消化不良の判定勝ち

▲守り抜いたベルトを肩に勝者のポーズを取った小林だが、最後まで微笑みはなかった

撮影◎中島ミノル

★第5試合/WPKC世界ムエタイ・ライト級タイトルマッチ(3分5R)

○小林聡(5R判定3-0)アンドレ・ロンキー●

〈王者/藤原ジム〉　〈挑戦者/イタリア〉

※採点…50-48、50-49、50-49

▲最初はパンチの連打で攻め込んだ。一発一発に鋭さはあったが、ロンキーに粘られて大きなチャンスに発展させることはできなかった

	小林聡	ロンキー
モチベーション(闘志・気迫)	6	4
技術・戦略	6	4
KOスピリット	4	0
勝ちっぷり負けっぷり	4	0
全体的な印象・インパクト	0	0
合　計	20	8

「で、何を言ったらいいんでしょう?」。試合後の会見は、のっけから話が途切れた。「試合は……見てのとおり。みなさん好きなように書いてください。何を言っても言い訳になる」と小林は切り出したから、取材側は一様に口ごもった。沈黙にじれた小林自身が、こんな言葉で場をつないだのだ。

そこで、原稿を書く段になって私も考える。「で、何を書いたらいいんでしょう?」。

結果として実らなければ、闘った当人がやましい気持ちになったとしてもうなずける。だが、少なくとも私の目からは、小林は高いモチベーションを持ってリングに登っているように見えた。あるいはモチベーションという言い方で収めていいものだろうか。つまり、激しい責任感である。

新春早々のこの日、東京ドームでは新日本プロレスが開催されていた。隣のこの後楽園ホールでは、4つの全日本タイトルマッチを前座に従えて、イタリアから持ち帰った小林のWPKC世界王座の防衛戦がメインに組まれる豪華カードだった。21世紀全日本キックの扉を開く顔として、小林は指名されたことになる。

ところが、興行はもうひとつ盛り上がらない。みんなそれなりに激戦だった。闘志を露わにして闘った。それでもサスペンスは感じられない。結局は、すでに名前のある実力派の古株が、次々に順当勝ちしていったからだ。最後に登場する小林は、知らず知らずでもその肩に大きな責任を背負うはめになっていた。

だから、小林は立ち上がりから、

全日本キック
THE CHAMPIONSHIP
1.4★後楽園ホール

気迫は伝わってくる。うまさも感じる。だけど、何かが足らないんだな

小林のコメント

「みなさん、好きなように書いてください。何を言っても言い訳になるんで。相手がやりにくかったというより、自分が下手なだけ。まだ25流なんでしょう。リキみ？　べつに試合ごとに今日は勝ちにいこう、あるいは倒しにいこうというものもないんで。相手がタフだったわけでもないし。自分にパンチがなかっただけ」

▲ロンキーが突然見せた飛びヒザ蹴り。小林に一瞬、戸惑いの表情が浮かぶ

▲イタリア人を速い前蹴りが襲う。攻めも守りも数段上回る小林が、試合自体は無難に進めていった

▶この日予定されていたフェザー級王座決定戦は、大月晴明の負傷で遠藤慎介が不戦勝。遠藤は暫定王者に認定された

▲ローキックが飛ぶ。1階級上の世界チャンピオンでもある挑戦者は、それでもなかなかへこたれなかった

▲ロンキーの左フックが相打ちのカウンターで決まる。小林はすかさず反撃を見せて、それ以上のフォローアップを許さない

◀パンチの応酬から、小林のヒザ蹴りが忍び寄る。はっきり言ってこの日は凡戦だったが、小林の抜け目のなさはあちこちに見て取れた

KOを狙っていたんだろう。スモーキン戦法だ。スモーキンと言ったって、もちろん喫煙の意味じゃない。スモーキン・ロコモーティブ。シュッポシュッポと煙をはいて線路を疾駆する蒸気機関車になぞらえた、国際式の突進戦法である。あのモハメド・アリの永遠の好敵手ジョー・フレージャーの十八番だ。両手を交差するクロスアームも見えた。クラシックな攻撃的ディフェンスである。こちらはアリのアゴを叩き割ったケン・ノートンの持ち技だ。ちょっとおまけつきで言えば、小林はそんな偉大な世界ヘビー級王者になりかわって、イタリア人挑戦者をぶっ倒しにいったのだ。

だが、攻防はちっとも噛み合わない。相手のロンキーが徹底して『お仕事』なのである。左フック、右ストレート、ローキックと小林がきらめかす鋭い刃を辛くもすり抜けると、間合いを作ることに専念する。小林の闘志と責任感がカラカラと空転していく。

後半になってロンキーも打ち気になるがもう遅い。一度ねじ曲がった展開は、すでに整合不可能である。4Rにはヒジの応酬、5Rには左フックの相打ちと見せ場はあっても、火花を散らすまでには至らなかった。

野良犬と呼ばれることを、小林本人は決して喜んでいるわけではないと言う。ただ、かつての小林にはガツガツと勝利と栄光をむさぼる野生の輝きがあった。世界チャンピオンの小林でなく、そんな昔の小林がまた見たくなった。他人が描く絵空事というのは承知の上でだ。（宮崎）

SVG旋風が暴れまくる！

全日本キック4大タイトル戦をPPJ

金沢久幸が1年ぶりに再登頂

金沢にはいつも「もっとできるんじゃないか」と思わせられる。燃焼し切れていない、どこかそう見せるところがある。ことにこの1年、無冠になってからがそうだ。無責任な外野を黙らせるために、『結果』だけが必要なことは本人が十分に分かっているはずだ。だから、この日は出た。林亜欧が狙う危険なヒジをあっさりとかいくぐり、厳しいパンチ、キックを浴びせ続けた。1Rには右ストレート2発でダウンを奪い、その後も一方的だ。ところが、その金沢がだんだんと先細りになっていく。勇敢に応戦してくる林につき合って、どうしても詰めることができないのだ。最終Rも金沢はKOチャンスを取り逃がしてしまった。試合終了直後、もはや自力で立っているのも苦しいほど消耗した林を金沢は抱き寄せ、セコンドに介抱を促した。その人の良さが金沢の本性だろうが、再びリングの中で輝きたいのなら、『非情』に徹するべき。そう思うのは私だけだろうか。（宮崎）

▲1年ぶりに無冠を返上した金沢。持ち前の鋭さにかげりはないが、はっきり言ってこの日は倒して勝ってほしかった

▲右ストレートがボディを襲う。ヒジ、ヒザでしつこく迫る林に苦しみながら、金沢の正確な攻めが目立った

▶グシャリ！ 金沢の前蹴りがまさしくそんな音を立てて林の顔面を踏み潰した

▶1R、金沢の左フックから右ストレートの連打で林はダウンする。これがワンサイドマッチの始まりだ

★第3試合/全日本ライト級王座決定戦（3分5R）
○金沢久幸（5R判定3-0）林亜欧●
〈TEAM-1〉 〈SVG〉
※採点…50-44、50-46、50-45。林は1Rに右ストレートでダウンを喫した

	金沢久幸	林亜欧
モチベーション（闘志・気迫）	4	6
技術・戦略	6	4
KOスピリット	6	2
勝ちっぷり負けっぷり	4	4
全体的な印象・インパクト	3	3
合計	23	19

技巧の味わい。安川賢が快勝

★第1試合/全日本バンタム級王座決定戦（3分5R）
○安川賢（5R判定3-0）新開実●
〈SVG〉 〈青春塾〉
※採点…50-47、50-48、50-48

ここ数年間、新開が勝ったところを見たことがない。それでも王座決定戦に出場できた。その強運を新開は味方に引きつけることができなかった。実力差。毅然とした現実の前には、どうにもならないことだ。ひとつひとつの攻防を見ても、両者の差は明らかだ。安川のほうが攻撃の精度も、切れ味も、また思い切りも数段上回る。新開のそれはもうひとつ間延びしていた。

それも負け癖というか、自信を失っている証拠なのだろう。したがって、最初から最後まで安川が思惑どおりに闘うことになる。1Rからヒザをボディに突き立て、2Rには右ストレートで新開がぐらついたところにラッシュ。さらに右フック、ヒジを狙い打ち。後半戦も攻撃の手を休めない。効果的なミドルに右パンチが冴え、結局、新開に何もさせないままだった。それにしても安川は攻撃的だった。この姿勢が手際のいい技巧派から、もうひとつ上に脱皮するためのいいきっかけになるかもしれない。（宮崎）

▲新開も懸命に粘ったが、安川の実力が一枚上。どの局面でも、安川のほうが打ち勝った

	安川賢	新開実
モチベーション（闘志・気迫）	3	3
技術・戦略	6	2
KOスピリット	5	2
勝ちっぷり負けっぷり	2	2
全体的な印象・インパクト	4	2
合計	20	11

▲危なげなくバンタム級の王座を制した安川。軽量級の切り札として、安定感は抜群だ

◀積極果敢な安川の攻撃が試合を支配した。連敗街道が続く新開は最後まで攻め口が見つからなかった

全日本キック
THE CHAMPIONSHIP
1.4★後楽園ホール

新田明臣、傷だらけの防衛

はっきり言って、こういう結果にはしてもらいたくなかった。何せ実績が違うのだ。新田はすでに『世界』と何度も渡り合ったエースなのである。一方の挑戦者、清水はいわばルーキーに過ぎない。こういう顔合わせは『月とすっぽん』『太陽と冥王星』くらいの違いは見せてもらいたかった。もちろん試合はワンサイドである。新田の手数・足数は、清水の攻撃の倍以上もあった。清水もパンチで立ち向かうが、反撃の糸口を作りかけると、すぐにまた王者に跳ね返されていた。ただし、新田も清水の元気に歯止めをかけられない。こんな時は、困った時のロー頼みだった。3R以降、新田はローキックを乱打。たちまち清水を追い込んで、大差の判定勝ちを奪い取った。新田の体調は万全ではなかった。左ヒザ一帯にはベッタリとテーピングがしてあった。試合後には眼底骨折の不運も判明した。拙い闘いになった事情は分かる。だが、やはり主役に弁明は許されない。

（宮崎）

▲清水はパンチで健闘したが、キャリアの差は明らか。どうしても自分のペースを作れない

▲新田のデキはもうひとつ。ロー、ミドル、ハイととにかく先にキックを繰り出すことで、なんとか攻め勝った

▶試合前からの左ヒザの故障に加え、試合後には眼底骨折も判明。新田にとって苦しい試合になったのも仕方ない

	新田明臣	清水貴彦
モチベーション（闘志・気迫）	4	4
技術・戦略	6	2
KOスピリット	2	4
勝ちっぷり負けっぷり	0	0
全体的な印象・インパクト	2	2
合計	14	12

★第4試合/全日本ミドル級タイトルマッチ（3分5R）
○新田明臣（5R判定3-0）清水貴彦●
〈王者/SVG〉 〈挑戦者/超越塾〉
※採点…50-48、50-48、50-48

★第2試合/全日本ウェルター級王座決定戦（3分5R）
○内田康弘（5R1分15秒、KO勝ち）千葉友浩●
〈SVG〉 〈TEAM-1〉
※3ノックダウン。千葉は5Rに左ローキックで3度ダウンを喫した

中量級戦線には、内田康弘もいる！

私はこういう闘いが好きだ。いや、正確に言うなら、こういう闘いができる戦士が好きだ。それくらい見事に内田は千葉を蹴散らした。完璧だった。いつものように始めはゆっくり。それから徐々に本領を発揮していく。何とかきっかけのほしい千葉を、冷静な試合運びで一切封殺。切れ味鋭いヒジ、ヒザを警戒し、まったく前に出られなくなった千葉に、2Rからジワジワとローキックで攻め上げる。まったくもって不敵である。少なくともリングの中では、性格の悪さ丸出しだ。相手をいたぶる自分自身の能力に、あくまで恭順をしめすやり口である。そして、これが内田の強さである。思う存分、痛めつけた後は、仕上げも用意していた。5R、足を引きずる千葉に非情のローを集中。3度のダウンシーンが繰り返され、試合は終わった。内田の凄味にはただ敬服するしかない。盛んに最強を取りざたされるキック中量級だが、この男の名前はもちろん忘れてはならない。

（宮崎）

◀あざとく、しぶとく、鋭いローキック。内田の堅実な攻撃に千葉はほとんど持ち味を発揮できなかった

◀中量級にきら星が集う日本のキック界。この男、内田康弘が最後に控えているのを忘れてもらっては困る

▼5R、エンジンを全開した内田はローキックの嵐。耐えきれず千葉は3度倒れて、KOとなった

	内田康弘	千葉友浩
モチベーション（闘志・気迫）	4	2
技術・戦略	9	2
KOスピリット	4	2
勝ちっぷり負けっぷり	8	6
全体的な印象・インパクト	8	2
合計	33	14

【Show大谷泰顕提供】

ヒャッ!? Showの恥ずかしい合成写真&Showのエッセイ収録のマンガ本!

●Show秘蔵ポートレート

3名様

●『ブラック・エンジェルス』11巻(文庫本)

3名様

【本誌編集部提供】

超お宝! アントニオ猪木、21世紀最初のサイン入り!!(1/1の日付入り)

1名様

●12・31『イノキ・ボンバイエ』バックステージパス

ぞくぞくと喜びの声! チャンピオンの丸野店長はアントンお守りを手にした瞬間、ヘルニアに!

たっつぁん 読者プレゼント 万座ビーチ

ウルトラ・メガヒットのアントンお守り!

●アントニオ猪木"闘魂御守"

(カラー赤か紺)

10名様

【全日本キック提供】

清水隆宏会長自らがデザイン!

●REX JAPAN オリジナルTシャツ

(カラー白・黒/サイズM・L・XL)

▲FRONT

▲BACK

3名様

※全日本キック大会会場で発売中。この商品に関するお問い合わせは全日本キック☎03-3365-1171まで

【ドリームステージエンターテインメント提供】

残りわずかの『プライド12』&当日完売の『イノキ・ボンバイエ』パンフ!

●12・31『イノキ・ボンバイエ』大会パンフ

7名様

●12・23『プライド12』大会パンフ

7名様

【カプコン提供】

プレステ2初の超大作! 戦国サバイバルアクション!

●PS2対応ソフト『鬼武者』

3名様

※この商品に関するお問い合わせはカプコン・ユーザーサポートセンター☎06-6946-3099まで

アメリカで大人気のUFCゲームがようやく日本で発売開始!! 格闘技ファンなら全員やれ!

●PS&ドリキャス対応ソフト『アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップ』

各3名様

もはや1ページじゃ紹介しきれない

SRS・DX 格闘技グッズ通販情報

サク人形第2弾を企画中。サクマシンは今のうちに!!

祝・MVP

桜庭和志

■サクラバマシン・フィギュア
¥5,250（税込）
2000年5月1日
『プライドGP2000』
二回戦／対ホイス・グレイシー戦タイプ
ソフトビニール製・全長27cm／
桜庭Tシャツ（ver.1）&
着脱可能マスクつき
限定3900体！
©髙田道場

■アントンTシャツ
¥3,500（税込）
カラー/ホワイト
サイズ/XL・L・M・S
※Sサイズはキッズのしサイズです。
©Inoki International,Inc

アントニオ猪木

大人気!!

■ワンフーTシャツ（ver.1）
¥2,000（税込）
カラー/ホワイト
サイズ/L・M・S
©RHODES

アントニオ文朱

ご注文方法&そのほかのグッズはP118を参照してください。

【(株)バスコス提供】

祝！ 極真本部直轄・高知道場開設！

●極真マス
各1名様
●極真タオル

【イサミ提供】

最強の衝撃吸収スポンジ！
●ポロンSRスポンジ
2名様

※拳の上に置き、バンテージを巻いてご使用ください。ポロンSRを使うと反発がないため気持ちよく相手を叩くことができ、さらにファイターの拳を保護。トレーニング中の怪我を未然に防いでくれます（公式試合での使用は不可！）

【新日本プロレス提供】

●1・4『レスリング・ワールド2001』大会パンフ
3名様
5名様
●新日本2001カレンダー

■応募方法

ハガキには必ず応募券を貼ろう！

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、
① 郵便番号・住所・電話番号
② お名前
③ 年齢・ご職業
④ 希望プレゼント名
⑤ 今号で面白かった記事とその理由（複数可）
⑥ 今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
⑦ 本誌に対するご意見・ご感想

を書いて、ビシバシ応募してください！ なお、このハガキのご意見を無闇に『ワンフー・マクダニエル』で掲載させていただくことがあります。実名がマズイ人は、ペンネームも記載してください。

あて先…〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F
SRS・DX編集部『たっつぁん万座ビーチ㊴』係まで
締め切り…2月8日（木）
当日消印有効

モデル:早川光由（正道会館柔術改め、ストライプ柔術クラスのインストラクター）

柔術衣（ダブル） JJ-1000 日本製

●上衣／二重織晒刺子地（横刺）　収縮率／縦2%・横6%
●ズボン／葛城晒加工地　収縮率／縦6%・横0%　■サイズ／2～5号

JJ-1000 柔術衣　（単位:円）

サイズ（号）	JJ-1001（上衣）	JJ-50（ズボン）	JJ-1000（上下セット）
2～5	¥17,800	¥6,200	¥24,000

柔術衣 参考サイズ	サイズ	2	3	4	5
	身長（cm）	155	165	175	185

柔術衣（シングル） JJ-100 日本製

●上衣／一重織晒刺子地（横刺）　収縮率／縦2%・横6%
●ズボン／葛城晒加工地　収縮率／縦6%・横0%　■サイズ／2～5号

JJ-100 柔術衣　（単位:円）

サイズ（号）	JJ-101（上衣）	JJ-50（ズボン）	JJ-100（上下セット）
2～5	¥8,800	¥6,200	¥15,000

柔術衣 参考サイズ	サイズ	2	3	4	5
	身長（cm）	155	165	175	185

ブルー柔術衣 JJ-200BL　柔術衣 JJ-200 中国製

ブルー柔術衣 JJ-200BL
●上衣／一重織刺子（横刺）　収縮率／縦3%・横6%
●ズボン／葛城染加工地　収縮率／縦6%・横2%　■サイズ／4～7号

柔術衣 JJ-200
●上衣／一重織晒刺子地（横刺）　収縮率／縦3%・横6%
●ズボン／葛城晒加工地　収縮率／縦6%・横2%　■サイズ／4～7号

JJ-200／JJ-200BL 柔術衣　（単位:円）

サイズ（号）	JJ-201 / JJ-201BL（上衣）	JJ-202 / JJ-202BL（ズボン）	JJ-200 / JJ-200BL（上下セット）
4	¥6,860	¥2,940	¥ 9,800
5	¥7,280	¥3,120	¥10,400
6	¥7,560	¥3,240	¥10,800
7	¥7,980	¥3,420	¥11,400

柔術衣 参考サイズ	サイズ	4	5	6	7
	身長（cm）	165	170	175	180

［ブラジル製柔術衣］

送料各¥600

頭　柔術衣（上下セット）　色／白／ブルー

白	
S～L	¥22,000
LL	¥25,300

ブルー	
M～L	¥24,000
LL	¥26,000

収縮率:上衣／横5%　縦5%　ズボン:横5%　縦5%
サイズ:　S=身長158～165cm　M=身長166～175cm
L=身長176～184cm　LL=身長185～193cm
（白）●上衣／縦刺特殊厚織地・綿100%　●ズボン／葛城晒加工厚地
（ブルー）●上衣／縦刺特殊厚織地・綿100%　●ズボン／葛城染加工厚地

クルーガンズ柔術衣（上下白帯セット）　色／白・ブルー

（白）S～LL　¥25,000
（ブルー）S～LL　¥28,000
送料各¥600

収縮率:上衣／横8%　縦3%　ズボン:横5%　縦7%
サイズ: S=身長161～170cm　M=身長171～180cm
L=身長181～190cm　LL=身長191～200cm
（白）●上衣／横刺刺子織地　●ズボン／葛城晒加工地
（ブルー）●上衣／横刺刺子織地　●ズボン／葛城染加工地

虎 柔術衣（上下白帯付）　色／白・青

（白）S～L　¥24,000
（青）S～L　¥27,000　送料各¥600

収縮率:［白・青同じ］上衣／横5%　縦3%
ズボン／横3%　縦8%
サイズ:　S=身長160～167cm　M=身長168～177cm
L=身長178～185cm
（白）●上衣／横刺特殊厚織地　●ズボン／葛城晒加工厚地
（青）●上衣／横刺特殊厚織地　●ズボン／葛城染加工厚地

チェストプロテクター CKW-9

¥3,800
送料900円
サイズ：0～4号

●参考サイズ●

0	1	2	3	4
小学校低学年	小学校高学年	女性	男性	LL

マウスピース（ケース付き）US-120

¥1,200　送料600円

色:イエロー・レッド・ブラック・ブルー・クリアー

イサミショートスパッツ

送料各¥600

1分丈

デザイン・マーク・サイズ等のオリジナルスパッツ別途見積り致します。

3分丈

1分丈	IS-50 シングル	¥2,800
	IS-51 ダブル	¥4,500
	IS-52 ダブル（ロゴ入り）	¥4,800
3分丈	IS-60 シングル	¥4,200
	IS-61 ダブル	¥6,800
	IS-62 ダブル（ロゴ入り）	¥7,200

●サイズ（1分丈・3分丈）
M=70～85cm／L=85～95cm
LL=95～115cm
●カラー（1分丈・3分丈）
白・黒・白地に黒ライン入・黒地に白ライン入

ボクシングマン PM-1

¥26,000　送料各¥1,500
●サイズ(土台部分)／直径55x高さ60cm
●重量／18kg(水を入れた時:130kg)
●3段階調節可能(高さ160～195cm)

※写真と実際の商品は一部形態が異なります。

スタンドバッグ

KM-30　重さ：15kg
¥19,800
送料1,500円
水を入れた時の重さ：130kg

色／黒x赤　4段階調節可能（130cm～175cm）

WEIGHT WRIST&ANKLE

ウエイトリスト&アンクル SUN-4

手首、足首どちらにも使用できます。

5ポンド ¥2,000　送料¥700　左右1組
10ポンド ¥2,500　送料¥900　左右1組

HAND GRIP

ハンドグリップ SUN-3

¥1,800　送料600円
●1～6段階、負荷調節可能
最大負荷:30kg

WRIST TRAINER

リストトレーナー SUN-2

¥3,500
●1～6段階、負荷調節可能
最大負荷:30kg
送料¥600

WEIGHT GLOBE

ウエイトグローブ SUN-5

5ポンド ¥2,500　送料¥700　左右1組
10ポンド ¥3,000　送料¥900　左右1組

エクササイズマット SUN-1

¥2,500
送料¥600
タテ148cmxヨコ58cmx厚さ8mm
折りたたんだ時のサイズ：タテ36cmヨコ58cm

武道・トレーニング用品の総合メーカー
株式会社 イサミ SRS係
〒346-0015 埼玉県久喜市西528-2
TEL.0480-24-0711(代) FAX.0480-24-0713

注文受付時間	
平日	9:00～21:00
土・日・祝日	9:00～18:00

★総合カタログご希望の方は切手¥160分をご送付下さい。

イサミの商品は、通信販売の他、お近くの代理店でも、お求めいただけます。

●(株)建武堂（東京池袋）…TEL.03-3986-5255
●尚武堂産業（東京水道橋）…TEL.03-3815-0411
●神奈川八光堂（横浜市）TEL.045 261 6834
●赤心堂（大阪市難波・東大阪市）…TEL.06-6649-7111
●(株)公武堂（名古屋市）…TEL.052-241-2511
●林藤武道具（石川県金沢市）…TEL.0762-52-2220
●(有)東京武道具（札幌市）…TEL.011-241-6345
●(株)いさご武道具（仙台市）…TEL.022-262-2562
●(株)マルシン（京都市）…TEL.075-841-1523
●(株)三恵（長崎県諫早市）…TEL.0957-22-5210
●ケイ・ワールド(札幌市)…TEL.011-818-7885

ご注文方法

代引	TEL又はFAXにてご注文下さい。お支払いは商品到着時に配達員へお支払い下さい。商品代金＋送料＋代引手数料＋消費税
現金書留	TELにてお問い合わせの上、注文書と商品代金＋送料＋消費税をご送金下さい。
カード	TELにてご注文下さい。合計¥10,000よりご利用できます。合計¥20,000より2回払いも承ります。
分割	合計¥50,000よりご利用できます。詳細はTELにてお問い合わせ下さい。

セントラルファイナンス

ご注意

★沖縄県、北海道、及び離島の方は送料をお問い合わせ下さい。
★代引手数料　総額 ¥10,000未満→ ¥300
総額 ¥30,000未満→ ¥400
総額 ¥100,000未満→ ¥600
総額 ¥100,000以上→ ¥1,000
★表示の価格及び送料には消費税が含まれておりません。
★万一、不良品があった場合は送料当社負担にて交換します。お客様ご都合による返品は未使用に限り可。着品後、1週間以内に電話連絡の上ご返却下さい。その際の返送料はお客様負担となります。

ご使用いただけるカード　ディーシー　ビザ　マスター　ミリオン　ジェーシービー

SRS・DX格闘技グッズ通信販売

アントンお守り、大人気のため追加生産!!
神様より猪木を信じよ!!

☆アレクサンダー・カレリン〈RUSSIA〉
"カレリンズ・リフト"Tシャツ　¥4,000(税込)
白／サイズXL・L・M・S

"ハロー・シドニー!!"Tシャツ　¥4,000(税込)
生成・オレンジ／サイズXL・L・M・S
※オレンジはSサイズはございません。

☆アントニオ猪木〈猪木事務所〉
闘魂御守　¥1,000(税込)
赤・紺

☆佐竹雅昭〈怪獣王国〉
佐竹死刑Tシャツ　¥3,500(税込)
黒／サイズL・S

☆小川直也〈U.F.O.〉
オーチャンTシャツⒶ　¥3,500(税込)
黒／サイズL・M

オーチャンTシャツⒷ　¥3,500(税込)
ラグラン／サイズL・M・S

☆髙田延彦〈髙田道場〉
"アイ・アム・プロレスラー"Tシャツ
¥3,990(税込)
白／サイズL・M・S

☆アレクサンダー大塚〈格闘探偵団バトラーツ〉
AO/DC Tシャツ(Ver.2)　¥3,500(税込)
黒／サイズL・M・S

AO/DC Tシャツ　¥3,500(税込)
黒／サイズL・S
※ロゴ部分はどちらもラメです。

ご注文方法

①ご注文は電話受付のみです。
『SRS・DX』通販専用NAVIダイヤル
(0570) 007800 ※携帯電話からは掛かりません。
または、(03) 3295-4450
受付曜日・時間／月曜日〜土曜日・AM10:00〜PM6:00

②商品お渡し方法
代金引換でのお受け取りとなります。
商品代金のほかに送料約700円(ゆうパック)、代引手数料約250円(いずれも地域によって異なります)がかかります。
お届けはご注文をいただいてから、一週間前後で郵送いたします。
(ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください)

③ご注意
代金、送料の先払いはお受けできません。
サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。(期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます)
『SRS・DX』編集部では、ご注文を受け付けておりません。

サクラバマシン・フィギュア&アントンTシャツはP115に掲載!

男の人生を変える一冊。

キーワードは「無痛」「無傷」「安心」。
過去15万人の治療実績を誇る
上野クリニックの技術と安心が
一冊の本になりました。
あなたの下半身の悩みにしっかり、
まじめにお答えします。

第1章　日本人の3人に2人は包茎です。

●東京上野クリニックには、同様の性春の悩みを抱える男性から、年間3万件以上にものぼる相談電話が寄せられています。人気の秘密は年中無休、24時間体制で無料相談が受けられること。これなら周囲に気兼ねすることなく、いつでも、どこからでも好きな時に相談することが可能です。

第2章　包茎は百害あって一利なし。

●包茎の百害損した男たちのエピソードの数々
「包茎が原因で雑菌が溜まり性病をくり返した」(大阪市・29歳会社員Oさんのケース)
「包茎は早漏気味になりやすい」(浜松市・25歳会社員Kさんのケース)
●包茎治療の百利包茎治療で得した男たちのエピソードの数々
「ムスコが一皮むけたら人間も一皮むけた」(大阪市・36歳会社員Aさんのケース)
「いつでも「気持ちいい」セックスができる」(東京都・27歳会社員Fさんのケース)

第3章　最新の技術・無痛治療法。

●この不安を解消するために、東京上野クリニックが導入したのがバイオジェクター。これは麻酔薬をペニスの表面に噴霧して、その時のガスの圧力で皮の感覚を麻痺させます。
●そこで上野クリニックが採用したのが深部冷却法です。これは特殊な柔らかいジェルを半凍結するまで冷やし、それを直接ペニスに巻き付ける方法です。こうすることによって、皮膚の深部まで麻痺させることに成功しました。

第4章　ていねいな手作業「無傷」の仕上がり。

●上野クリニックは機械を用いず、すべて手作業で手術を行います。そして、超精密な手作業技術だからできる、自然な仕上がりを実現します。
●軽度の包茎の方にお勧めしているのが切らない手術法です。これは根元の部分で余った皮を集めて、特殊な組織接着剤で軽くくっつける方法です。

第5章　男の性を尊重した「安心」の提供。

●スタッフは全員男性。受付から治療にいたるまで一貫して熟練した男性スタッフがあたっています。
●包茎治療で通院した事実を秘密にしたいという誰もが抱く思いを、東京上野クリニックは尊重します。それゆえ、当院では知り合いの人たちだけではなく、来院された他の患者さんとも顔を合わせることのないよう、完全予約制にて診療時間を調整しています。

第6章　早めの対応が肝心な性病治療。

●時々、亀頭周囲や陰茎を注意深く観察してみてください。もしツブツブを発見したら、一人で悩まず、早期治療することをお勧めします。というのも、特殊な機械を使って正しい治療を施さないと、コンジロームは再び増殖を開始する厄介な病気だからです。

第7章　男女とも快感をアップする法。

●包皮のだぶつきは、年齢が30代に突入すると徐々に性感を妨げるようになり、ひいては精力の低下につながっていくのです。

第8章　男をさらに磨く改造計画。

●東京上野クリニックでは、この過敏な亀頭を人体無害のコラーゲンを使った独自の特殊な注入方法で、早漏をある程度抑えることができるようになりました。

(以上：目次より)

MEN'S BODY POWER UP
男の一生を決める男の手術
無痛・無傷・安心の
東京上野クリニック

「MEN'S BODY POWER UP」
定価648円（税別）
判型：A5判　ページ数：80頁

発行所／株式会社双葉社
〒162-8540 東京都新宿区東五軒町3番28号

この本についてのお問い合わせは

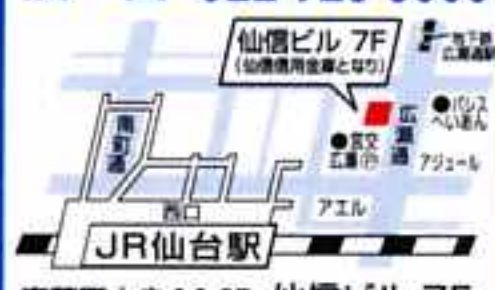
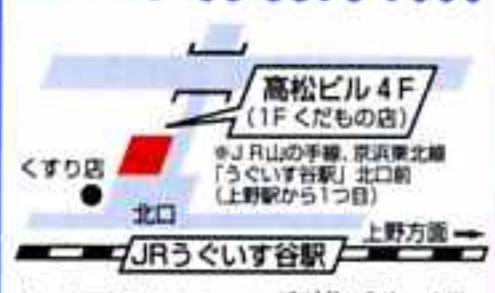
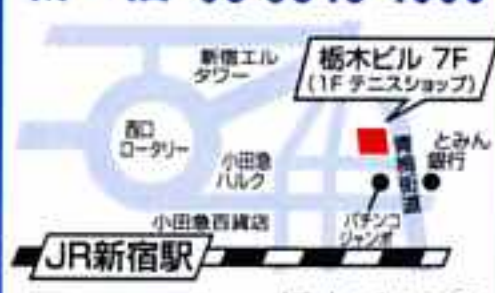
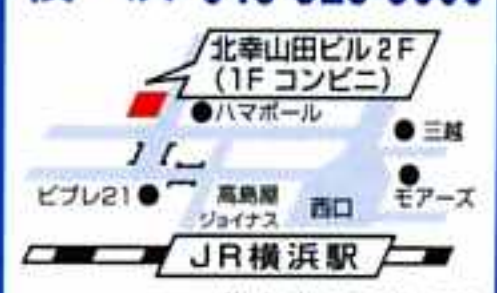
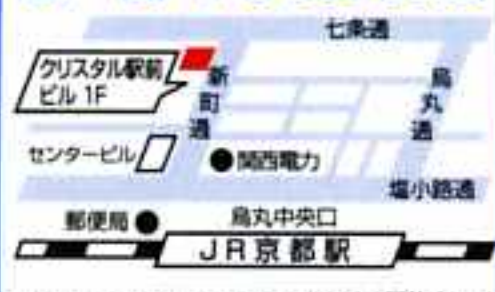
泌尿器科・形成外科・性病科
東京上野クリニック

TEL/03-5543-3700

24時間無料電話相談
0120-508-550
携帯・PHSからもご利用できます。

メンズ総合案内
テープ案内
資料請求
個別相談
0120-087-008
携帯・PHSからもご利用できます。

ご紹介できるクリニック一覧

クリニック	電話	所在地
札幌	011-252-6000	中央区北4条西2 アイビル 4F
仙台	022-723-3000	青葉区中央1-6-27 仙信ビル 7F
新潟	025-241-4000	新潟市花園1-4-6 リバティプラザ駅前 2F
大宮	048-642-1000	大宮市宮町2-11 ハシモトビル 7F
東京	03-3274-4000	中央区八重洲1-8-16 新槇町ビル14F
上野	03-3876-7000	台東区根岸1-8-18 高松ビル 4F
新宿	03-3343-4000	新宿区西新宿1-3-15 栃木ビル7F
横浜	045-323-5000	西区北幸2-10-50 北幸山田ビル 2F
千葉	043-221-8000	中央区富士見1-2-11 勝山ビル 6F
浜松	053-452-6000	浜松市鍛冶町140-3イズムハママツCビル 5F
名古屋	052-562-5000	中村区名駅3-26-21 新香取ビル 6F
京都	075-352-5000	下京区新町通七条下ル東塩小路町593 クリスタル駅前ビル1F
大阪北	06-6456-3000	北区梅田1-2 駅前第2ビル 2F
大阪南	06-6634-3000	中央区難波3-5-11 東亜ビル 8F
岡山	086-224-9000	岡山市本町6-36 第一セントラルビル 3F
福岡	092-415-6000	博多区博多駅東1-12-7 第13岡部ビル2F

メールで男の悩み相談もできるホームページです
http://www.ueno.co.jp
携帯アドレス
http://www.ueno-c.com

SRSDX 2・8 No.39

21世紀のテーマ『膠着・徹底研究!』
1・8『DEEP2001』村浜VSホイラー戦

平成12年4月25日第3種郵便物認可　平成13年2月8日発行　第3巻・3号・通算39号
編集人・谷川貞治　発行人・柳沢忠之　発行所・(株)フジテレビ出版／
(株)ローデス　〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　電話／03-3295-4445
発売所・(株)扶桑社　〒105 8070 東京都港区海岸1丁目15番1号

定価680円 本体648円

雑誌 21582-2/8　T1121582020688　Printed in Japan